本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全･快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**
◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと装備品や車両の破損につながるおそれがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車の性能を十分にお使い頂けるとともに、いろいろな装備を上手に使うことができます。
	安全のためにしてはならない行為。（イラスト内に表示されています）

- 参照して読んでいただきたいページなどを、➔マークで表示しています。
- 本書では、メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着した車両のことを「メーカーオプションナビゲーションシステム装着車」と示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検･整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書も合わせてお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 車両の仕様変更やソフトウェア更新により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次

■ 外観フロント.2
■ 外観リヤ.4
■ 車室内.6
■ 運転席まわり.8
■ インストルメントパネル.10

イラスト目次 P.2

■ 日産e-POWERの特徴.14
■ 安全にご利用いただくために.16
■ 日産e-POWERと上手に付き合うために.19

日産 e-POWERとは P.13

■ 運転する前に.22
■ シートベルト.26
■ エアバッグ.29
■ お子さまの安全のために.36
■ 盗難防止機能.44

安全なドライブのために P.21

■ 計器類.46
■ 警告灯・表示灯.51
■ アドバンスドドライブアシストディスプレイ.55
■ メーターの明るさの調節.84

メーターの見かた P.45

■ キー.86
■ ドアの施錠と解錠.91
■ シートの調節.97
■ ハンドルの調節.101
■ ミラーの調節.102
■ 窓ガラスの開閉.109
■ 燃料補給口の開閉.111
■ エアコンの操作.113
■ オーディオ★.119

各部の操作 P.85

■ 始動する.122
■ 運転する.126
■ ランプをつける、ワイパーを使う.135
■ 運転支援機能.148
■ カメラシステム.221

運転のしかた P.121

■ 室内照明.236
■ 収納装備.238
■ その他の室内装備.241

室内装備 P.235

■ まずはじめに.250
■ 緊急時の対処方法.254

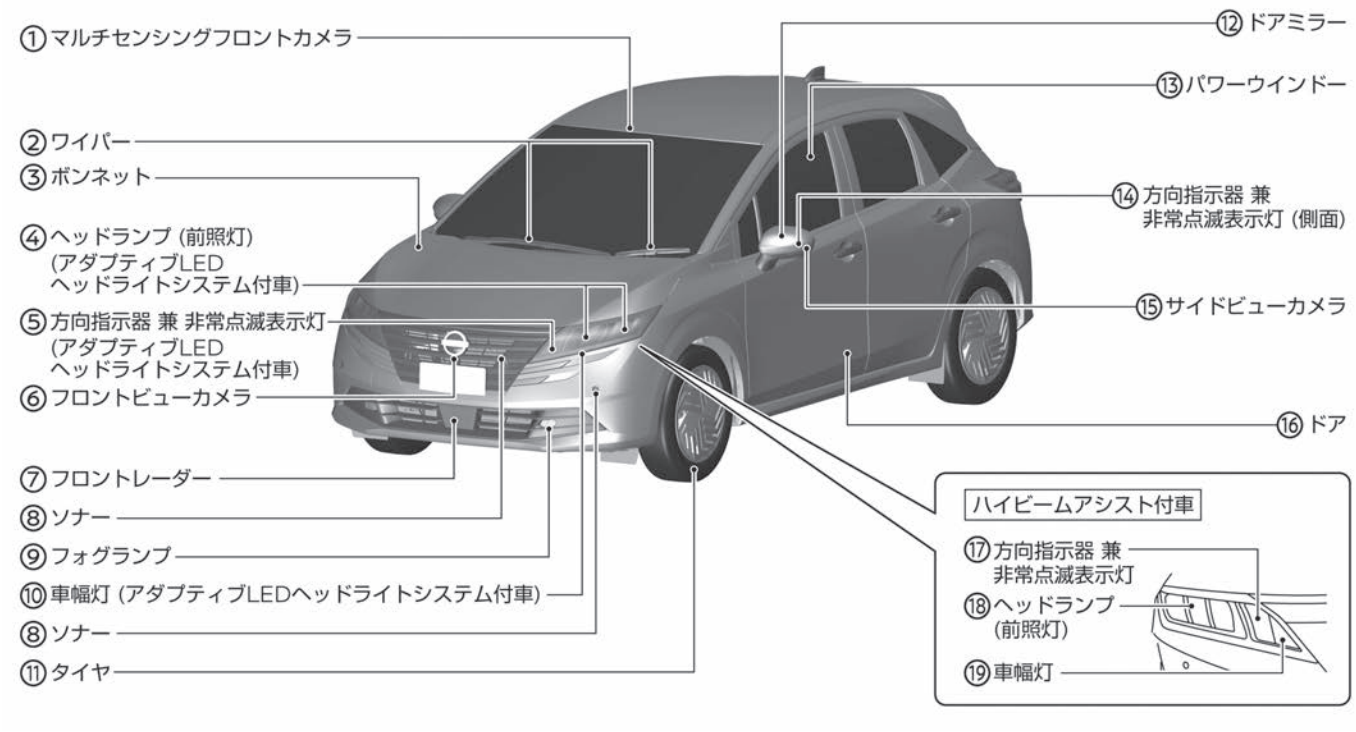
トラブルがおきたときは P.249

■ メンテナンスの前に.298
■ 工具・ジャッキ.299
■ 点検と整備.302
■ 清掃・お手入れ.312

メンテナンス P.297

索引 P.325

外観フロント

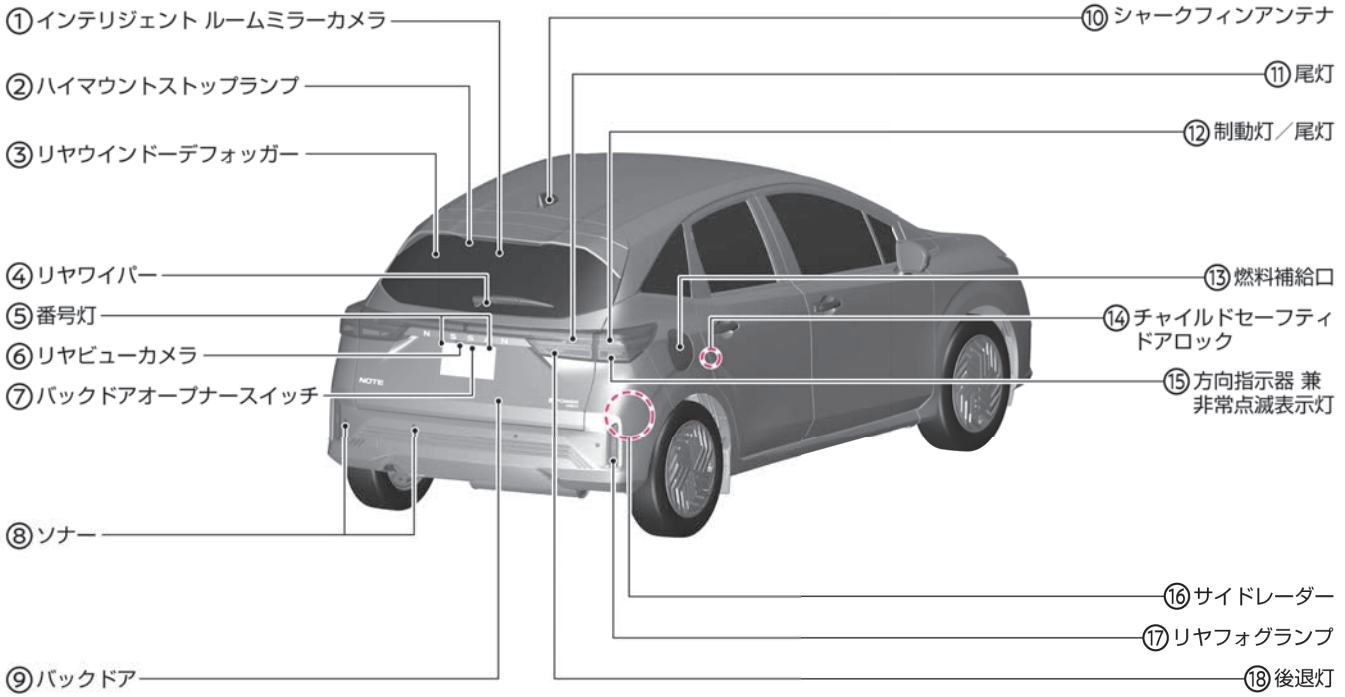

①マルチセンシングフロントカメラ
②ワイパー
③ボンネット
④ヘッドランプ (前照灯)
(アダプティブLED
ヘッドライトシステム付車)
⑤方向指示器 兼 非常点滅表示灯
(アダプティブLED
ヘッドライトシステム付車)
⑥フロントビューカメラ
⑦フロントレーダー
⑧ソナー
⑨フォグランプ
⑩車幅灯 (アダプティブLEDヘッドライトシステム付車)
⑧ソナー
⑪タイヤ
⑫ドアミラー
⑬パワーウインドー
⑭方向指示器 兼
非常点滅表示灯 (側面)
⑮サイドビューカメラ
⑯ドア
ハイビームアシスト付車
⑰方向指示器 兼
非常点滅表示灯
⑱ヘッドランプ
(前照灯)
⑲車幅灯

外観フロント

① マルチセンシングフロントカメラ（➔P.315）
② ワイパー（➔P.308）
③ ボンネット（➔P.303）
④ ヘッドランプ（前照灯）（アダプティブLEDヘッドライトシステム付車）（➔P.135、➔P.322）
⑤ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（アダプティブLEDヘッドライトシステム付車）（➔P.142、➔P.292）
⑥ フロントビューカメラ★（➔P.315）
⑦ フロントレーダー（➔P.314）
⑧ ソナー（➔P.81、➔P.316）
⑨ フォグランプ★（➔P.143、➔P.322）
⑩ 車幅灯（アダプティブLEDヘッドライトシステム付車）（➔P.135、➔P.322）
⑪ タイヤ（➔P.306）
⑫ ドアミラー（➔P.106）
⑬ パワーウインドー（➔P.109）
⑭ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）（➔P.142、➔P.322）
⑮ サイドビューカメラ★（➔P.315）
⑯ ドア（➔P.91）
⑰ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（ハイビームアシスト付車）（➔P.142、➔P.292）
⑱ ヘッドランプ（前照灯）（ハイビームアシスト付車）（➔P.135、➔P.292）
⑲ 車幅灯（ハイビームアシスト付車）（➔P.135、➔P.292）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

外観リヤ

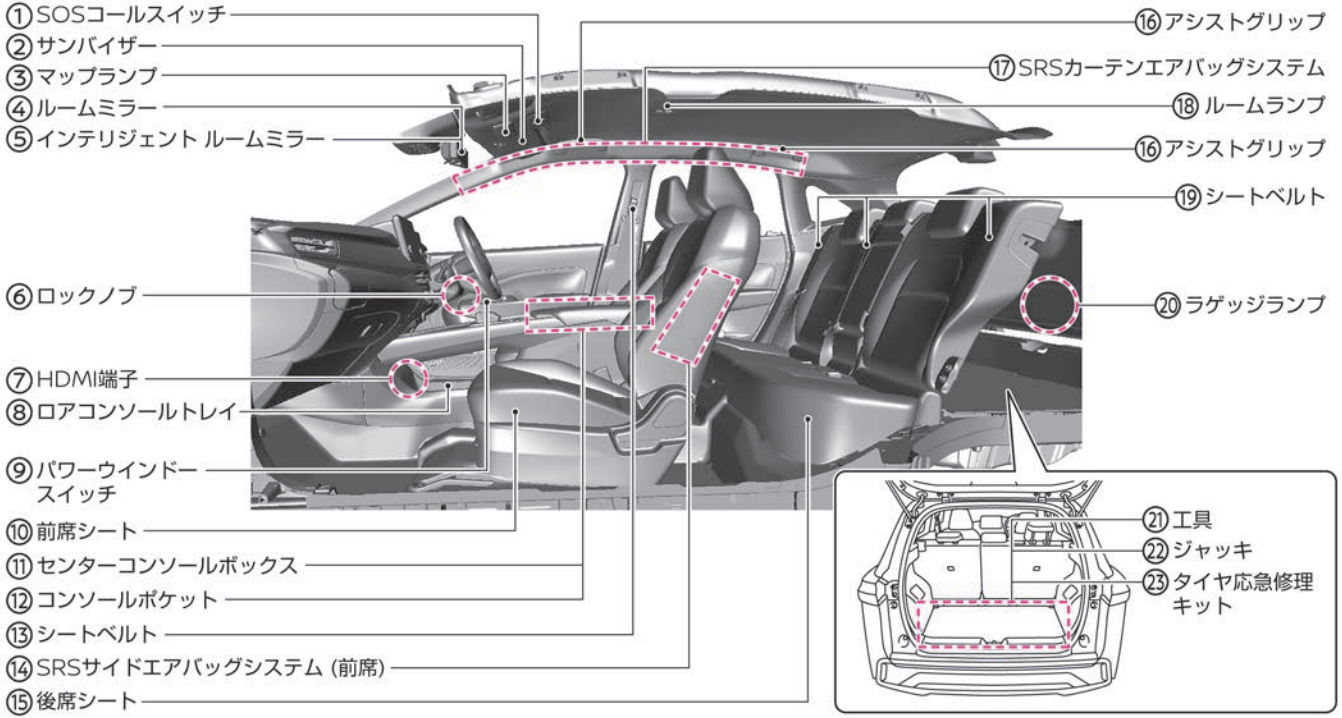

①インテリジェント ルームミラーカメラ
②ハイマウントストップランプ
③リヤウインドーデフォッガー
④リヤワイパー
⑤番号灯
⑥リヤビューカメラ
⑦バックドアオープナースイッチ
⑧ソナー
⑨バックドア
⑩シャークフィンアンテナ
⑪尾灯
⑫制動灯／尾灯
⑬燃料補給口
⑭チャイルドセーフティドアロック
⑮方向指示器 兼 非常点滅表示灯
⑯サイドレーダー
⑰リヤフォグランプ
⑱後退灯

外観リヤ

① インテリジェント ルームミラーカメラ★（P.318）
② ハイマウントストップランプ（P.322）
③ リヤウインドーデフォッガー（P.289）
④ リヤワイパー（P.145）
⑤ 番号灯（P.135、P.292）
⑥ リヤビューカメラ★（P.316）
⑦ バックドアオープナースイッチ（P.94）
⑧ ソナー（P.81、P.316）
⑨ バックドア（P.94）
⑩ シャークフィンアンテナ（P.312）
⑪ 尾灯（P.135、P.292）
⑫ 制動灯／尾灯（P.135、P.292、P.322）
⑬ 燃料補給口（P.111）
⑭ チャイルドセーフティドアロック（P.93）
⑮ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（P.142、P.292）
⑯ サイドレーダー★（P.314）
⑰ リヤフォグランプ★（P.143、P.322）
⑱ 後退灯（P.293）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

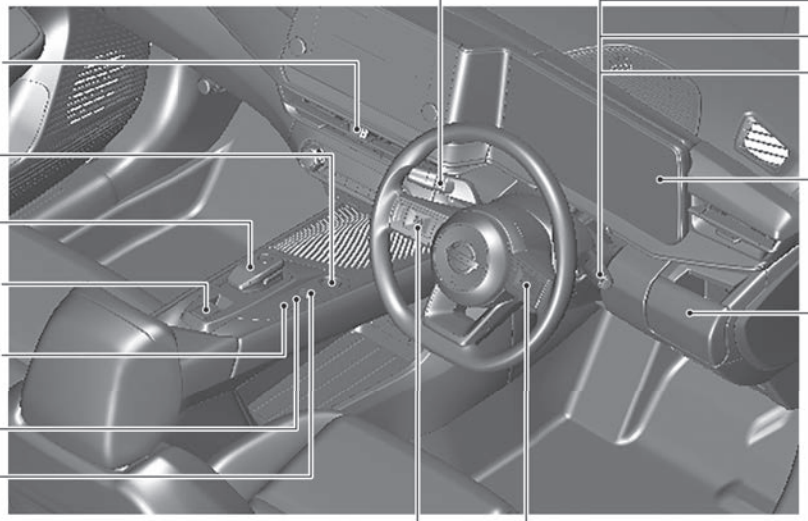
車室内


①SOSコールスイッチ
②サンバイザー
③マップランプ
④ルームミラー
⑤インテリジェント ルームミラー
⑥ロックノブ
⑦HDMI端子
⑧ロアコンソールトレイ
⑨パワーウインドースイッチ
⑩前席シート
⑪センターコンソールボックス
⑫コンソールポケット
⑬シートベルト
⑭SRSサイドエアバッグシステム (前席)
⑮後席シート
⑯アシストグリップ
⑰SRSカーテンエアバッグシステム
⑱ルームランプ
⑯アシストグリップ
⑲シートベルト
⑳ラゲッジランプ
㉑工具
㉒ジャッキ
㉓タイヤ応急修理キット

車室内

① SOSコールスイッチ★（P.241）
② サンバイザー（P.247）
③ マップランプ（P.236）
④ ルームミラー★（P.102）
⑤ インテリジェント ルームミラー★（P.102）
⑥ ロックノブ（P.93）
⑦ HDMI端子★（別冊※）
⑧ ロアコンソールトレイ（P.238）
⑨ パワーウインドースイッチ（P.109）
⑩ 前席シート（P.97）
⑪ センターコンソールボックス（P.238）
⑫ コンソールポケット（P.239）
⑬ シートベルト（P.26）
⑭ SRSサイドエアバッグシステム（前席）（P.32）
⑮ 後席シート（P.98）
⑯ アシストグリップ（P.248）
⑰ SRSカーテンエアバッグシステム（P.33）
⑱ ルームランプ（P.236）
⑲ シートベルト（P.26）
⑳ ラゲッジランプ（P.236）
㉑ 工具★（P.299）
㉒ ジャッキ★（P.299）
㉓ タイヤ応急修理キット（P.254）
※ ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

運転席まわり



①ワイパー・ウォッシャースイッチ

②非常点滅表示灯スイッチ

③パワースイッチ

④セレクトレバー

⑤電動パーキングブレーキスイッチ

⑥オートブレーキホールドスイッチ

⑦EVモードスイッチ

⑧ドライブモードセレクター

⑨ステアリングスイッチ (左)
－アドバンスドドライブアシストディスプレイ
－オーディオ
－ナビゲーションシステム

⑩ライトスイッチ

⑪方向指示器スイッチ

⑫フォグランプスイッチ

⑬リヤフォグランプスイッチ

⑭メーター

⑮カップホルダー

⑯ステアリングスイッチ (右)
－プロパイロット
－ハンズフリーフォン
－ボイスアシスタント
－ナビゲーションシステム

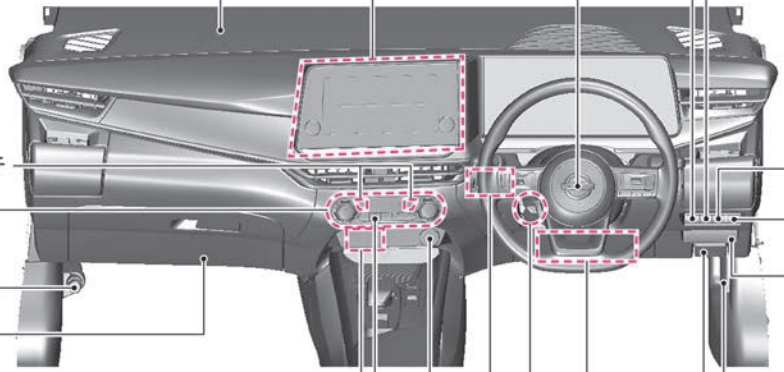
運転席まわり

① ワイパー・ウォッシャースイッチ（➔P.144）
② 非常点滅表示灯スイッチ
③ パワースイッチ（➔P.122）
④ セレクトレバー（➔P.126）
⑤ 電動パーキングブレーキスイッチ（➔P.127）
⑥ オートブレーキホールドスイッチ（➔P.129）
⑦ EVモードスイッチ（➔P.150、➔P.151）
⑧ ドライブモードセレクター（➔P.148）
⑨ ステアリングスイッチ（左）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイ（➔P.55）
- オーディオ★（➔P.119）
- ナビゲーションシステム★（別冊※）

⑩ ライトスイッチ（➔P.135）
⑪ 方向指示器スイッチ（➔P.142）
⑫ フォグランプスイッチ★（➔P.143）
⑬ リヤフォグランプスイッチ★（➔P.143）
⑭ メーター（➔P.46）
⑮ カップホルダー（➔P.239）
⑯ ステアリングスイッチ（右）
- プロパイロット★（➔P.161）
- ハンズフリーフォン（➔P.119、※）
- ボイスアシスタント（➔P.119、※）
- ナビゲーションシステム★（別冊※）

※ ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

インストルメントパネル



①ナビゲーションシステム
②助手席SRSエアバッグシステム
③ヒーターシートスイッチ
④オートエアコン
⑤発炎筒
⑥グローブボックス
⑦USB電源ポート
⑧リヤウインドーデフォッガースイッチ
⑨電源ソケット
⑩イルミネーションコントロールスイッチ
⑪トリップ切り替えスイッチ
⑫運転席SRSエアバッグシステム
⑬ステアリングヒータースイッチ
⑭セーフティ・シールドスイッチ
(プロパイロット無車)
－インテリジェント BSI
(後側方衝突防止支援システム)
－インテリジェント LI
(車線逸脱防止支援システム)
⑮ VDC OFFスイッチ
⑯ヘッドランプレベライザースイッチ
⑰ETCユニット
⑱ボンネットオープナー
⑲フューエルフィラーリッドオープナー
⑳SRSニーエアバッグシステム (運転席)
㉑ハンドル位置調節レバー

インストルメントパネル

① ナビゲーションシステム★（別冊※）
② 助手席SRSエアバッグシステム（➔P.30）
③ ヒーターシートスイッチ★（➔P.245）
④ オートエアコン（➔P.113）
⑤ 発炎筒（➔P.250）
⑥ グローブボックス（➔P.238）
⑦ USB電源ポート（➔P.246、別冊※）
⑧ リヤウインドーデフォッガースイッチ（➔P.289）
⑨ 電源ソケット（➔P.245）
⑩ イルミネーションコントロールスイッチ（➔P.84）
⑪ トリップ切り替えスイッチ（➔P.47）
⑫ 運転席SRSエアバッグシステム（➔P.30）
⑬ ステアリングヒータースイッチ★（➔P.245）
⑭ セーフティ・シールドスイッチ（プロパイロット無車）
- インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（➔P.197）
- インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（➔P.205）
⑮ VDC OFFスイッチ★（➔P.154）
⑯ ヘッドランプレベライザースイッチ★（➔P.143）
⑰ ETCユニット★（別冊※）
⑱ ボンネットオープナー（➔P.303）
⑲ フューエルフィラーリッドオープナー（➔P.111）
⑳ SRSニーエアバッグシステム（運転席）（➔P.34）
㉑ ハンドル位置調節レバー（➔P.101）
※ ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

MEMO

日産e-POWERとは

日産e-POWERの特徴

ノートe-POWERってどんな車？ P.14

安全にご利用いただくために

高電圧部品について P.16

ノートe-POWERの取り扱いに関する注意事項 P.17

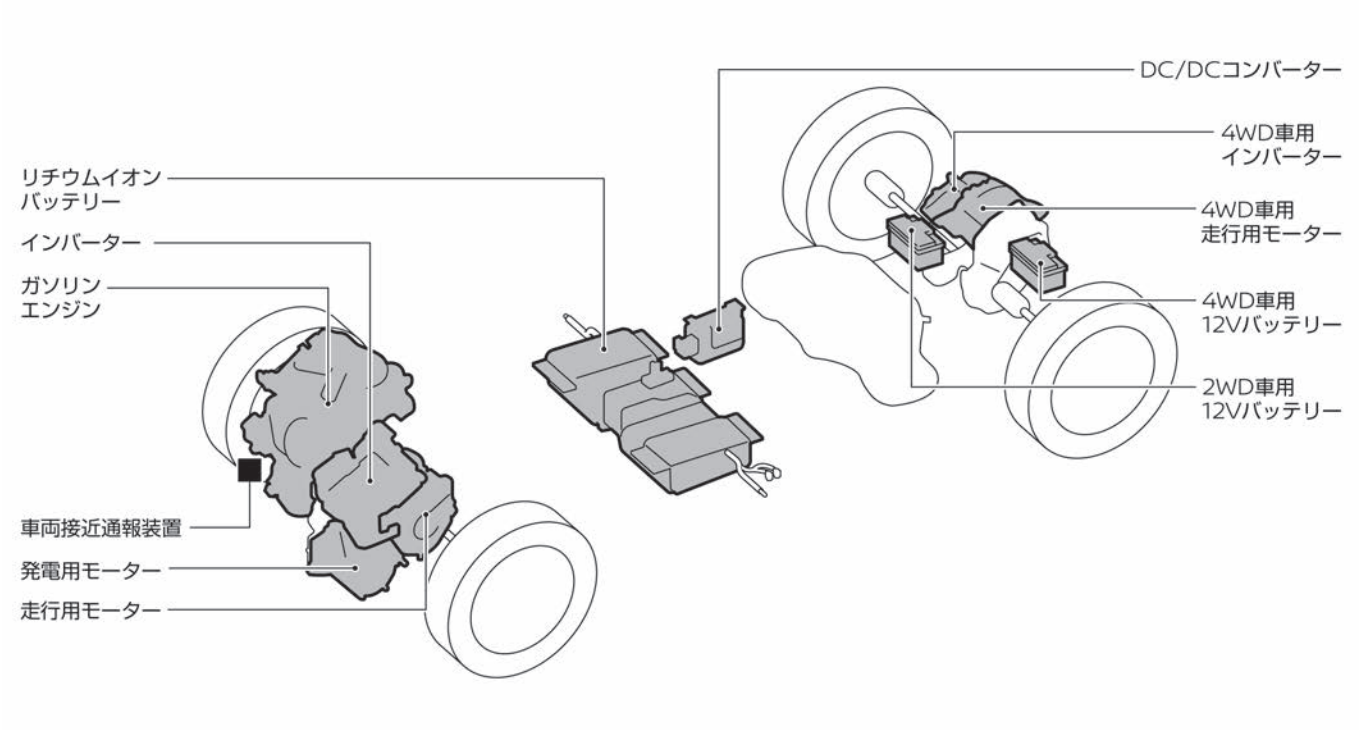
ノートe-POWERが事故にあったときの注意事項 P.17

日産e-POWERと上手に付き合うために

燃費を良くするためのポイント P.19

ノートe-POWERってどんな車？

ノートe-POWERはガソリンエンジンで発電用モーターを動かすことにより発電し、その電力をリチウムイオンバッテリーに蓄えたり直接走行用モーターに供給したりします。そしてそれらの電力で走行用モーターを駆動し走行する自動車です。



走行用モーター

リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力やエンジンと発電用モーターで発電された電力を使用して、エンジンの代わりにタイヤを動かす力を生み出します。

発電用モーター

ガソリンエンジンの力により発電します。

リチウムイオンバッテリー

発電用モーターで発電された電力や走行用モーターの回生電力を蓄え、走行時に走行用モーターに電力を供給します。

リチウムイオンバッテリーの残量が低下すると、エンジンが始動し自動的に充電を行うため、電気自動車のような外部からの充電は必要ありません。

ただし、車両を長時間放置すると少しずつ放電するため、少なくとも2～3か月に一度、約30分間は運転してください。（リチウムイオンバッテリーがダメージを受け、使用できなくなるおそれがあります。）

万一、リチウムイオンバッテリーがあがり、e-POWERシステムを始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。

回生ブレーキ

ガソリンエンジン車のエンジンブレーキの代わりに走行用モーターを使って減速することを回生ブレーキと呼びます。減速するときに発電するため、発電した電力でリチウムイオンバッテリーを充電することができ、エネルギーを無駄にせず燃費を良くすることができます。

知識

- 回生ブレーキは、長い下り坂でリチウムイオンバッテリーが満充電になった場合や低温時、滑りやすい路面ではブレーキの効きが弱くなることがあります。また、指定サイズ以外のタイヤを使用しているときやタイヤの状態によっては、回生ブレーキが正常に作動しなくなることがあります。

車両接近通報装置

本車両は走行時の音がとても静かで通行人が車両の接近に気づきにくいため、警報装置がついています。交差点などの徐行中に警報音が鳴ります。

➔車両接近通報装置 (P.156)

エンジンが作動するとき

e-POWERシステムでは下記のようなときにエンジンが作動する場合があります。

- リチウムイオンバッテリーの残量が少ないとき（発電のため）
- アクセルペダルを強く踏み込んだとき（発電のため）
- ブレーキペダルを踏み込んだとき（ブレーキブースター用負圧生成のため）
- 長い下り坂を走行しているとき（減速度を生成するため）
- 暖房をONにしたとき（熱源となるエンジン水温を上げるため）
- エンジンが冷えているとき（暖機のため）
- e-POWERシステムが始動している状態でボンネットを開けたとき（整備時の事故を防止するため）
- チャージモード中（発電のため）
  ➔チャージモードの使いかた (P.150)
- フロントガラスのデフロスタースイッチをONにしたとき

e-POWERシステム特有の音や振動

e-POWERシステム始動後は、次のような特有の音や振動が発生する場合がありますが異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- エンジンの始動・停止による音や振動
- アクセルペダルから足を離したときやブレーキを踏んだときの作動音やモーター音
- 急加速時のエンジン音
- コンソール下部付近、前席下からのファン作動音
- 歩行者に車両の接近を知らせるための音
  ➔車両接近通報装置 (P.156)

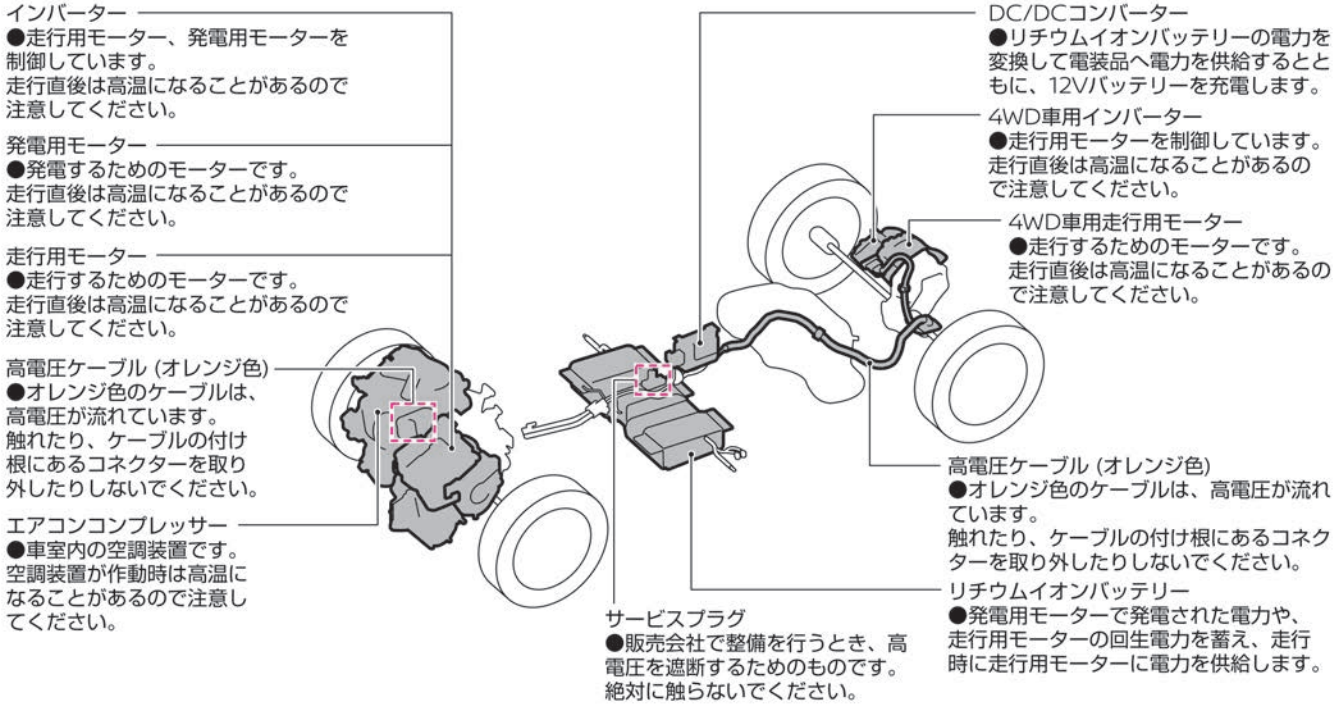
知識

- 従来のガソリンエンジン車と比較して、アイドリング時のエンジン回転数は高めに設定されています。これはアイドリング中でもリチウムイオンバッテリーを充電するためで、異常ではありません。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

高電圧部品について

e-POWERシステムには以下の高電圧部品が使われています。主な高電圧部品にはラベルが貼り付けてあるので、ラベルの記載事項に従ってください。



ノートe-POWERの取り扱いに関する注意事項

⚠ 警告

e-POWERシステムを適切に取り扱うため、次のことを必ずお守りください。

- **高電圧部位には触れない。**

  約400Vの直流高電圧が使用されているため、高電圧ケーブルやコネクター、高電圧部品（走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなど）には触れないでください。感電すると生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。車両のエンジンルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

- **リチウムイオンバッテリーに水をかけない。**

  車室内、ラゲッジルームにふたのないバケツや水槽など、水がこぼれるおそれがあるものは置かないでください。リチウムイオンバッテリーに水がかかると故障の原因になります。

⚠ 注意

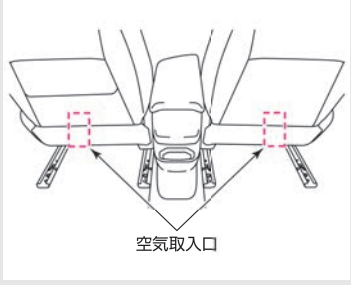
- **高温に注意する。**

  走行直後はエンジンルーム内が高温になっている可能性があります。エンジンルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

- **冷却用空気取入口をふさがない。**

  前席シート下にリチウムイオンバッテリーを冷却するための空気取入口があります。

  性能低下や車両故障につながるため、荷物や衣類などで空気取入口をふさがないでください。また、液体や砂など、異物が入らないように注意してください。万一、リチウムイオンバッテリー周辺に多量の液体をこぼしてしまった場合は、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。



- **前席シート下には重量物を載せない。**

  前席シート下にはリチウムイオンバッテリーが配置されているため、重量物を載せたり踏みつけたりして強い負荷をかけないよう注意してください。

ノートe-POWERが事故にあったときの注意事項

⚠ 警告

事故が発生したときは、次のことを必ずお守りください。

- **高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れない。**

  高電圧部品および高電圧ケーブルの位置は、➔高電圧部品について (P.16)を確認してください。

- **リチウムイオンバッテリーから液漏れが見られる場合は、すみやかに日産販売会社に連絡する。**

  火災が発生するおそれがあります。

- **車室内や車外に液体が漏れているときは絶対に触れない。**

  万一、リチウムイオンバッテリーから漏れた液体が皮膚や衣服に付着したときは、水道水などのきれいな水で洗い流し、すみやかに医師の診察を受けてください。

- **走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷がないか点検する。**

  床下に損傷が見られる場合は、絶対に触れずすみやかに日産販売会社にご連絡ください。

- **リチウムイオンバッテリーや高電圧部品から火災が発生したときは、できるだけ早く車両から離れる。**

  火災を消火するときは、必ず電気火災用の消火器（ABC、BCまたはCタイプ）を使用してください。消火栓などから大量の放水が可能な場合のみ、水での消火も可能です。不適切な消火作業は危険なため、絶対に行わないでください。

⚠ 警告

- **事故などで車両が損傷し、安全であることを確認できない場合は、車両から離れて日産販売会社に連絡する。**

  日産販売会社に連絡するときは、（ガソリンエンジン車ではなく）e-POWERシステムである旨をご連絡ください。

- **板金・塗装による修理が必要な場合は、必ず日産販売会社に連絡する。**

  車体が大きく破損・変形しているとき、破損の状態によっては漏電や感電のおそれがあります。高電圧部位（リチウムイオンバッテリーなど）およびこれらを接続する配線（オレンジ色）には絶対に触らないでください。

- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**

  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- けん引が必要なときは、2WD車は前輪または4輪を、4WD車は4輪を持ち上げてけん引してください。けん引時に前輪が接地していると、走行用モーターが発電し、車両を破損するおそれがあります。

  けん引について (P.251)

知識

- 衝突時やe-POWERシステムに異常があると、高電圧システムがOFFになり走行可能表示灯 が消灯する場合があります。これはケガや事故につながる危険を最小限に抑えるもので、異常ではありません。

燃費を良くするためのポイント

燃費は、道路状況、天候や気温、乗員数などに大きく左右されます。

次のようなことに気をつけ電力の消費を抑えると、燃費が良くなります。

お出かけ前に

電力の消費が少ないルートを選択する。

- 上り坂の走行は電力の消費が多くなります。上り坂の少ないルートを選択すると電力の消費を抑えられます。

不要な荷物は積んだままにしない。

- 荷物を減らし、車両重量を軽くすることで、電力の消費を抑えられます。

適切なタイヤ空気圧にする。

- タイヤ空気圧が低下していると、より多くの電力を消費します。
  ➔タイヤの点検項目 (P.306)

📖 知識

- 燃費が大幅に悪化する場合は、次のようなことが原因として考えられます。
  - 走行するルートの地形に上り坂が多い
  - 高速道路など、高速で走行を続けている
  - 頻繁に急発進、急加速、急ブレーキをしている

運転するときは

■ なめらかに発進、加速する。

- 急発進、急加速をすると、より多くの電力を消費し、燃費が悪くなります。
- パワーメーター（➔P.56）で電力の消費状況を確認しながら加速することで、電力の消費を抑えた加速ができます。

■ 車間距離に余裕を持ち、必要以上の減速を極力避ける。

- 必要以上の減速を避けることで、再加速するための電力の消費を抑制できます。

■ 高速道路などで速度を出しすぎない。

- 速度の出しすぎは、電力を無駄に消費します。

■ エアコンの設定温度を控えめにし、必要がなければこまめにOFFにする。

- エアコンによる余分な電力の消費を抑えられます。
- 暖房使用時、設定温度を24℃以下に下げると燃費が良くなります。
- ECOモードの方がNORMALモード、SPORTモードより、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。

■ 寒いときは、エアコンの代わりにヒーターシート★やステアリングヒーター★を使用する。

- エアコンを使わずにヒーターシートやステアリングヒーターを活用することで、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。
  ➔ヒーターシート★ (P.245)
  ➔ステアリングヒーター★ (P.244)

■ デフロスターは必要以上に使用しない。

- 窓のくもりが取れたら、他の吹き出し口に切り替えることで、エンジン作動頻度を抑えられ燃費が良くなります。

■ ECOモード、SPORTモードで走行する。

- ECOモードやSPORTモードを使用しているときは、アクセルペダルを緩めたときの回生ブレーキによる減速力が強くなり、減速時のエネルギーをより多く回収できます。
- ECOモードがもっとも燃費重視のモードとなります。
  ECOモード←SPORTモード←NORMALモードの順に燃費が良くなります。
  ➔e-Pedal Step (P.148)

MEMO

安全なドライブのために

運転する前に

運転前の準備 P.22
運転するときに注意すること P.22
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 P.24

シートベルト

シートベルトについて P.26
3点式シートベルト P.26
シートベルトの注意事項 P.27

エアバッグ

SRSエアバッグ P.29
SRSエアバッグシステム（前席） P.30
SRSサイドエアバッグシステム（前席） P.32
SRSカーテンエアバッグシステム P.33
SRSニーエアバッグシステム（運転席） P.34

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること P.36
チャイルドシート P.37

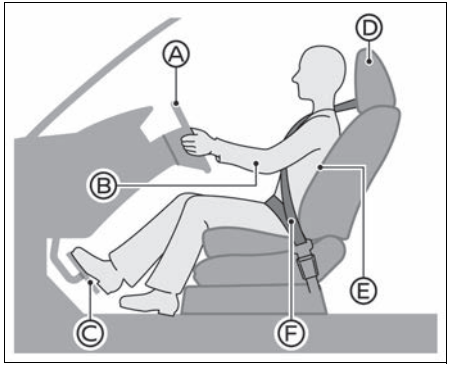
盗難防止機能

イモビライザー（盗難防止装置） P.44

運転前の準備

正しい運転姿勢をとれるよう、ハンドル（➔P.101）、シート（➔P.97）、ミラー（➔P.102）を調節し、シートベルトを着用してください。

正しい運転姿勢について



Ⓐ　メーター類が見やすいこと。
Ⓑ　ハンドルはひじが伸び切らず、少し曲がっている状態であること。
Ⓒ　ペダル類が十分踏み込めること。
Ⓓ　耳の位置がヘッドレストの中心の高さになること。
Ⓔ　背中が背もたれから離れないように深く腰掛けること。
Ⓕ　シートベルトを正しく着用すること。

⚠ 警告

- **ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**

  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドルやシートを調節したあとは、確実に固定されていることを確認する。**

  固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**

  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルトの着用

●必ず走行前にシートベルトを正しく着用してください。
➔シートベルト (P.26)

●小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご使用ください。
➔チャイルドシート (P.37)

ミラーの調節

●シートおよびハンドルの調節が完了したら、ミラーを調節します。確実に後方確認ができる位置に、ドアミラーおよびルームミラー★を調節してください。
➔ドアミラー (P.106)
➔ルームミラー★ (P.102)

インテリジェント ルームミラー付車

インテリジェント ルームミラー付車は、インテリジェント ルームミラーがOFFの状態（ルームミラーモード）で、確実に後方確認ができる位置に調節してください。
➔インテリジェント ルームミラー★ (P.102)

運転するときに注意すること

⚠ 警告

排気ガスには十分注意する

- **排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと一酸化炭素中毒になり、重大な健康障害におよぶか、死亡につながるおそれがあります。**
- **次の状況では、e-POWERシステムを長時間作動したままにしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりするおそれがあります。
  - 雪が積もった場所に駐停車するとき
  - 降雪時に駐停車するとき
  - 車庫や屋内、壁などに囲まれた換気が悪い場所に駐停車するとき
  - 仮眠や長時間の駐車をするとき
  - 排気管が腐食または損傷しているおそれがあるとき
  - 他車の排気口が近くにあるとき
- **走行する前に、バックドアが確実に閉まっていることを確認する。**

  走行中に排気ガスが侵入するおそれがあります。

⚠ 警告

- **車室内に排気ガスが侵入したと感じたときは、窓を開けて十分に換気をする。**
- **排気管に穴や亀裂がある場合や排気音に異常があるときは、日産販売会社で点検を受ける。**

  排気ガスが車室内に侵入するおそれがあり危険です。

車室内に人やペットを残さない

- **お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意を

- **診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。12Vバッテリーがあがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。**

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- **ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。**

  引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- **操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れない。また、床やシートのすき間に落としたままにしない。**

  荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- **排気音が大きくなったときは、日産販売会社で点検を受ける。**

  排気管が腐食したり路面干渉などで損傷したりしているおそれがあります。また、排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車室内に侵入し、火災につながるおそれがあります。

- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**

  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

e-POWERシステムを作動したまま仮眠をしない

- 万一、シフトポジションが**P**以外だと、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。 また、無意識にセレクトレバーを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- **ウインドーにアクセサリーを取り付けない。**

  視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをしたりして火災を起こすおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

- **市販の不適合品のマフラー取り付けや、日産純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。**

  正常な性能を発揮できないだけでなく、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **電装品などを取り付けるときは、必ず日産販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

アドバイス

改造しない

- 12Vバッテリーの端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

- 日産自動車が国土交通省に届け出をした部品以外を装着すると、違法改造になることがあります。

無線送信機の取り付けについて

- お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず日産販売会社にご相談ください。お客さまのご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）を日産販売会社にてご提供します。

心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

⚠ 警告

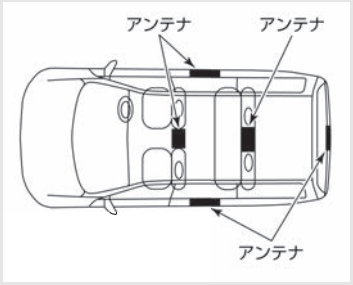
心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、次のことにご注意ください。

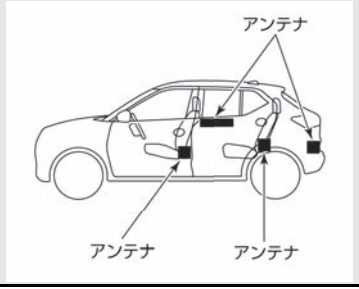
インテリジェントキーについて

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

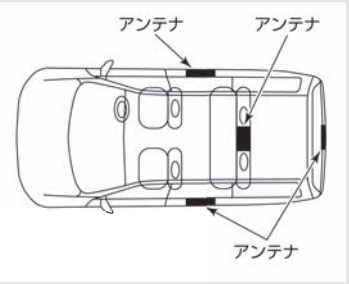
ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、e-POWERシステム始動時などに発生するキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

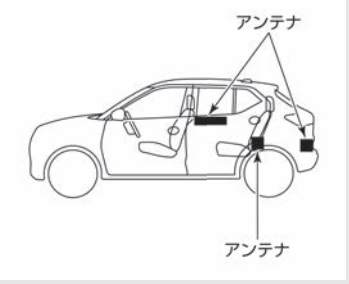
4WD車





2WD車





- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

⚠ 警告

SOSコール★について

- **SOSコールは無線通信機能を利用しているため、心臓ペースメーカーやその他医療用電気機器を使用する場合は、当該の各医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響について必ず確認する。**

  SOSコールの電波が医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

  ➔先進事故自動通報システム★ (P.241)

シートベルトについて

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

走行するときは、必ずシートベルトを正しく着用してください。

ELR（緊急固定）付シートベルトについて

●身体の動きに合わせて伸縮し、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトがロックし身体を固定します。

プリテンショナーシートベルトについて

●正面衝突などで車両前方から強い衝撃を受けたときに、装着したシートベルトを瞬時に巻き取り、乗員の拘束性能を高めます。

●衝撃の強さなどによっては、SRSエアバッグシステム（前席）と同時に作動する場合と、プリテンショナーのみ作動する場合があります。

➔ SRSエアバッグ (P.29)

●運転席および助手席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。車両前方から強い衝撃を受けたとき、肩からシートベルトを巻き上げると同時に腰側からも巻き上げ、乗員の拘束性能を高めます。



⚠ 警告

● **メーター内のSRSエアバッグ警告灯 が点灯しているときは走行しない。**

パワースイッチをONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

⚠ 注意

● **廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社に相談する。**

アドバイス

● プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。

● プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

3点式シートベルト

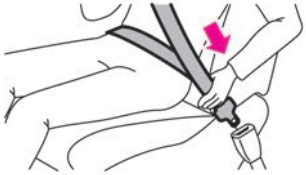
⚠ 注意

● **プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理しない。また、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。**

誤って作動したり、正常に作動しなくなったりするおそれがあります。

シートベルトの着用のしかた

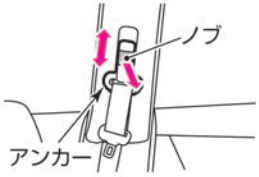
1. 正しい姿勢でシートに座り、タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。
ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。



2. ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。



3. アンカー位置の高さを調節します。（前席シートのみ）
ノブを引きながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。



4. 外すときは、バックルのボタン（赤色部）を押し、タングを持ってゆっくり戻します。



⚠ 警告

- **ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。**
  万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **後席中央席のシートベルトを使用するときは、バックルに「CENTER」と表示されているものを使用する。**
  シートベルトが正しく着用できず、万一のときに重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから緩め、再度ゆっくり引き出してください。

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

- **走行する前に全員がシートベルトを着用する。**
  着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- **シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。**
  シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
  - 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
  - ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
  - 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。
  - 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身が拘束できないことがあります。
  - クリップなどで故意にベルトにたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果が発揮できないことがあります。
- **シートの背もたれを倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。

シートベルト

⚠ 警告

- **バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。**

  シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

- **妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。**

  ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

  ➔チャイルドシート (P.37)

- **事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、日産販売会社に点検を依頼する。**

一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

⚠ 注意

- **シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。**

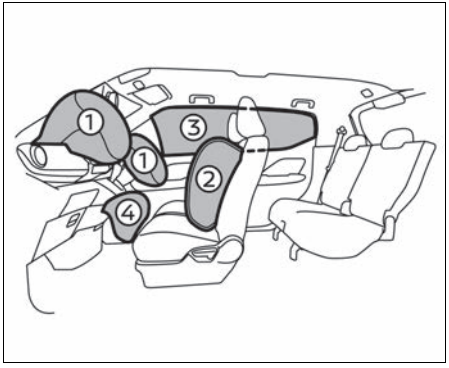
  ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮できないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

SRSエアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、乗員への衝撃を緩和します。

シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRSエアバッグの種類



① SRSエアバッグシステム（前席）
② SRSサイドエアバッグシステム（前席）
③ SRSカーテンエアバッグシステム
④ SRSニーエアバッグシステム（運転席）★

アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度ふくらむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

知識

- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。
- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

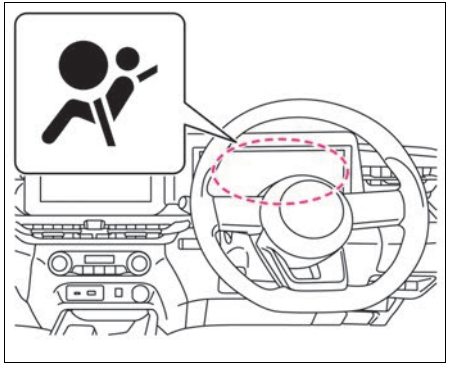
SRSエアバッグの作動

SRSエアバッグは、パワースイッチがONのときに作動可能です。

パワースイッチをONにしたあと、約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯 が点灯し、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。

SRSエアバッグは、正面衝突や側面衝突で衝撃を受けたときに作動します。ただし、衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならないときは、作動しないことがあります。

SRSエアバッグが作動するような衝撃を感知すると、非常点滅表示灯が自動的に点滅します。非常点滅表示灯スイッチを押すと消灯しますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。また、衝撃の大きさによっては、点滅しないことがあります。



知識

- 助手席SRSエアバッグ、助手席側のSRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

SRSエアバッグの注意事項

警告

- **SRSエアバッグ警告灯が次の状態のときは走行しない。**
  - パワースイッチをONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

— SRSエアバッグ警告灯が点灯し続けるとき

SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

- **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**

  SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

  ➔チャイルドシート (P.37)



- **必ず次のことを守る。**

  SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなったりし、重大な傷害につながるおそれがあります。

  — SRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついているとき、およびひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
  SRSエアバッグ（前席）の格納場所は（➔P.30）をお読みください。
  SRSサイドエアバッグ（前席）の格納場所は（➔P.32）をお読みください。
  SRSカーテンエアバッグの格納場所は（➔P.33）をお読みください。
  SRSニーエアバッグ（運転席）の格納場所は（➔P.34）をお読みください。

  — SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。

  — 電気テスターを使用したSRSエアバッグの回路診断、または回路を変更しないでください。

  — エアロパーツなどの取り付けや、サスペンションを改造したりするときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

- **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグに触らない。**

  高温になるため、やけどをするおそれがあります。

- **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**

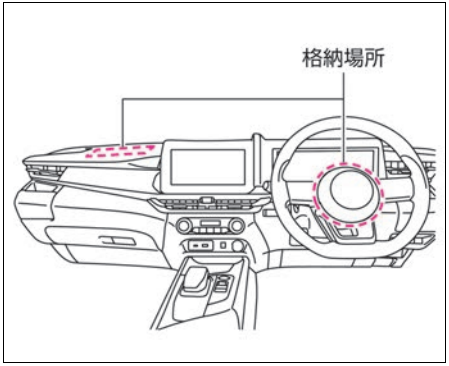
  皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

SRSエアバッグシステム（前席）

車両前方から強い衝撃を受けたときに、SRSエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。
助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。



SRSエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき

アドバイス

- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。

知識

- 運転席、助手席SRSエアバッグはふくらんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。
- エアバッグが作動したときは、自動で先進事故自動通報システム（P.241）が作動します。

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

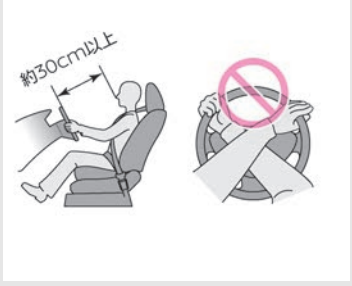
- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

SRSエアバッグシステム（前席）の注意事項

警告

- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**

  ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



- **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼ったりしない。**

  SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告



- **フロントガラスにアクセサリーなどを付けない。**

  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

- **SRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**

  SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

  SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。

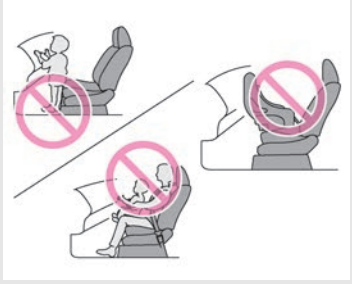
- **チャイルドシートは後席シートに取り付ける。**

  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。

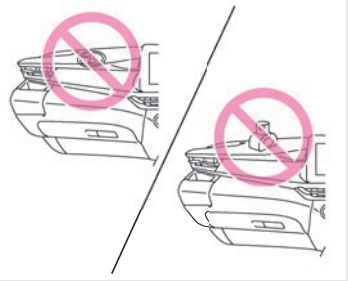
- **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置いたりしない。**

  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。



SRSサイドエアバッグシステム（前席）

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSサイドエアバッグは、運転席、助手席ともにシート背もたれの側面（外側）に格納されています。



SRSサイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

知識

- エアバッグが作動したときは、自動で先進事故自動通報システム（P.241）が作動します。

SRSサイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSサイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRSサイドエアバッグシステム（前席）の注意事項

警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**

  ドアにもたれるなど、前席シートの背もたれ側面（外側）に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **前席シートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。**
- **シートカバーは、前席シート背もたれ側面を覆わないものを使用する。**

  SRSサイドエアバッグが正しく作動しないおそれがあります。日産純正シートカバーをおすすめします。

注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

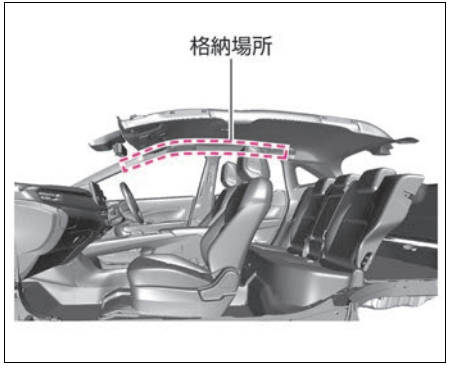
  SRSサイドエアバッグが誤作動するおそれがあります。

SRSカーテンエアバッグシステム

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSカーテンエアバッグは、運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。



SRSカーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

知識

- エアバッグが作動したときは、自動で先進事故自動通報システム（P.241）が作動します。

SRSカーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSカーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRSカーテンエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。**

  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けない。**

  SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

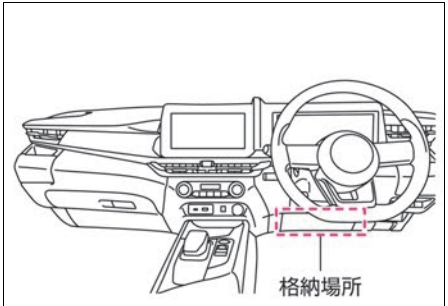
  SRSカーテンエアバッグが誤作動するおそれがあります。

SRSニーエアバッグシステム（運転席）

車両前方から強い衝撃を受けたときに、SRSニーエアバッグが瞬時にふくらみ、運転者の下肢部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSニーエアバッグは、ハンドル下のインストルメントパネル部に格納されています。



SRSニーエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき

知識

- エアバッグが作動したときは、自動で先進事故自動通報システム（P.241）が作動します。

SRSニーエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRSニーエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

SRSニーエアバッグシステム（運転席）の注意事項

- **SRSニーエアバッグの格納部に近づかない。**
  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **SRSニーエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼らない。また、アクセサリーなどを取り付けない。**
  SRSニーエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときに注意すること

⚠ 警告

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

お子さまにもシートベルトを着用する

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

  ➔シートベルトの着用のしかた (P.26)

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

  ➔チャイルドシート (P.37)

チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- **チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。



- **チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲッジルーム（荷室）などに収納する。**

  車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- **お子さまを助手席に乗せるのは避ける。**

  お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになったりするおそれがあります。

  また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドーなどは大人が操作する

- **ドアやウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させない。**

  開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **チャイルドセーフティドアロック（➔P.93）やパワーウインドーロックスイッチ（➔P.109）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。**

窓から手や顔を出さない

- **お子さまが腕や顔を出さないように注意する。**

  急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- **車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろす。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

- **お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

チャイルドシート

お子さまの年齢や体格にあわせたチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

⚠ 警告

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。



① エアバッグ警告ラベル

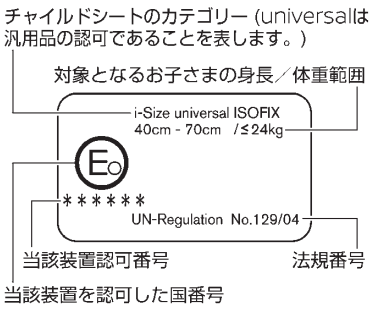
チャイルドシートについて

- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格にあわせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車はUN R44またはR129の基準に適合したi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置を標準装備しています。

📖 知識

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44またはR129はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44またはR129の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。





チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることができます。i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けることができます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使用してチャイルドシートを固定します。

➔シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた (P.42)

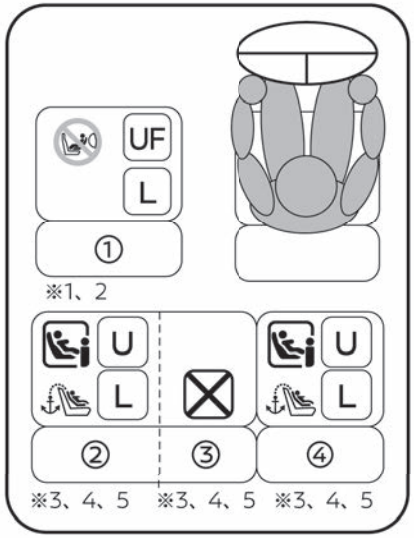
■ i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシート

後席シートに付属しているi-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置で固定します。

➔i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた (P.42)

使用できるチャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。



マーク	説明
U	車両シートベルト固定式汎用型チャイルドシートに適している
UF	車両シートベルト固定式の前向きに取り付ける汎用型チャイルドシートに適している
	i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートに適している
	後向きチャイルドシート取り付け禁止
	ISOFIXチャイルドシート上部取付金具（トップテザーアンカレッジ）を装備している座席
L	添付リストに記載されたチャイルドシートに適している
	チャイルドシートの取り付けに適していない

※1：チャイルドシートを装着する際は、背もたれを最も前傾させたロック位置から11ノッチ後傾したロック位置に調整してください。

※2：チャイルドシートを装着する際は、座席のスライドを最も後方に調整してください。

※3：チャイルドシートを装着する際は、前席のスライドを最後端位置から130mm（13ノッチ）車両前方へスライドさせてください。

※4：チャイルドシートを装着する際は、前席の背もたれを最も前傾させたロック位置から6ノッチ後傾したロック位置に調整してください。

※5：チャイルドシートを装着する際は、背もたれを起こし最初にロックする位置に調整してください。

●チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は一番上に調整してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

幼児拘束装置メーカーに関する詳細情報

座席位置	助手席	後席		
	①	②	③	④
汎用ベルト式に適する着席位置（○/X）	○ （前向きのみ）	○	X	○
i-Size着席位置（○/X）	X	○	X	○
横向き固定具に適する着席位置（L1/L2）	-	-	-	-
適する最大の後ろ向き固定具（R1/R2X/R2/R3）	-	R3	-	R3
適する最大の前向き固定具（F2X/F2/F3）	-	F3	-	F3
適する最大のブースタ固定具（B2/B3）	-	B3	-	B3

●ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にUN R44またはR129の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

■ 推奨チャイルドシート

日産自動車が推奨するチャイルドシートです。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

年齢 (目安)	体重 (目安)	身長 (目安)	推奨チャイルドシート	座席位置			
				①	②	③	④
0-18か月	<13kg	<100cm	日産i-Sizeチャイルドシート (後向き)	X	○	X	○
9か月-4歳	9-18kg	76-100cm	日産i-Sizeチャイルドシート (前向き、後向き)	X	○	X	○
4-6歳	15-25kg	100-125cm	日産ジュニアシートevo (前向き)	○(ベルト取付のみ)	○	X	○
6-12歳	22-36kg	125-150cm	日産ジュニアシートevo (前向き)	○(ベルト取付のみ)	○	X	○

●チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は一番上に調整してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

1. ヘッドレストを外し（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置きます。
➔ヘッドレストの調節のしかた (P.98)
シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。



2. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。



⚠ 警告

- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**
確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。

i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートの取り付けかた

1. i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIXロアアンカレッジは、後席シート左右背もたれのマーク下側にあります。
ヘッドレストを外して（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってロアアンカレッジに固定します。
➔ヘッドレストの調節のしかた (P.98)



2. テザーアンカレッジは、後席シート背もたれ裏側にあります。
テザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。



⚠ 警告

- **i-SizeおよびISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、後席シートのヘッドレストを取り外す。（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）**
- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**

  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- **チャイルドシートを取り付けるときは、アンカレッジ部周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。**

  チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

知識

- i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIX対応取付装置は、ロアアンカレッジとテザーアンカレッジの2種類があります。

  ロアアンカレッジは後席シート左右背もたれのマーク下側にあり、テザーアンカレッジは背もたれ裏側にあります。
- シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。

イモビライザー（盗難防止装置）

イモビライザー（盗難防止装置）について

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外での始動を禁止するシステムです。

📖 知識

- インテリジェントキーに登録された信号は、キーごとに異なります。

メーターの見かた

計器類

各部名称 P.46
メーター P.47

警告灯・表示灯

警告灯の表示位置 P.51
表示灯の表示位置 P.52
表示灯がついたときは P.53

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

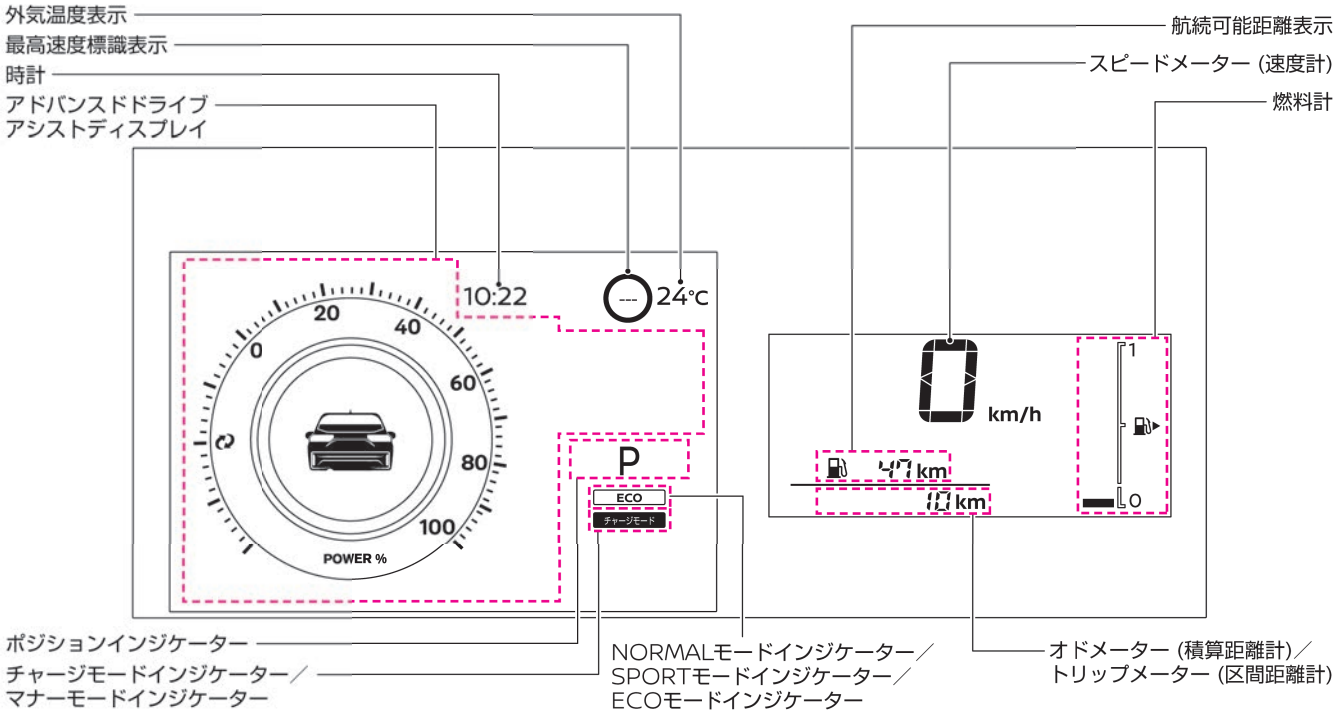
アドバンスドドライブアシストディスプレイとは P.55
車両情報画面 P.56
各種設定画面 P.65
走行支援機能画面 P.78
その他の表示機能 P.81

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール P.84

各部名称

パワースイッチをONにすると、計器類が表示されます。



メーター

メーターには、スピードメーター（速度計）、ポジションインジケーターなどがあります。
パワースイッチをONにすると表示します。

スピードメーター（速度計）

走行速度を表示します。

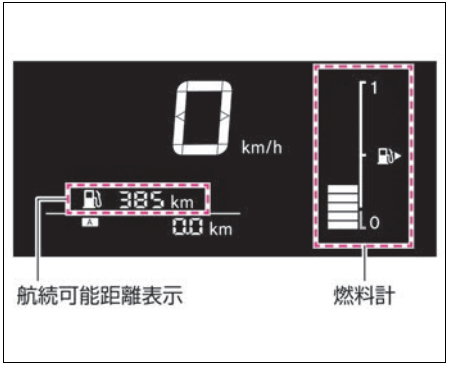
燃料計／航続可能距離表示

燃料計

- 燃料の残量を表示します。
- 燃料タンクの容量は約36ℓです。

航続可能距離表示

- 現在の燃料残量と平均燃費から、走行可能な距離を表示します。
- 燃料残量警告（➔P.273）が表示された後も燃料を補給しないと「---」と表示します。

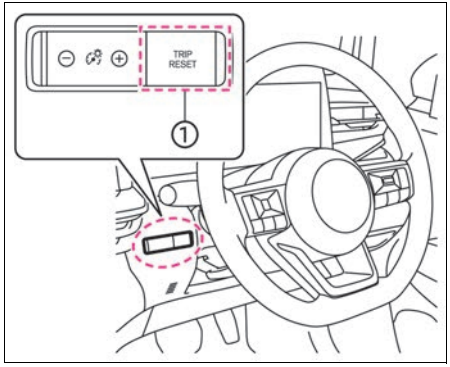


知識

- ⛽▸の矢印は燃料補給口が車両右側にあることを示しています。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示されない場合があります。燃料が少なくなってきたら、早めの給油を心がけてください。
- 10ℓ以下の給油では、航続可能距離が更新されないことがあります。

オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

- トリップ切り替えスイッチ①を押すごとに、オドメーター⇒トリップメーターA⇒トリップメーターB⇒オドメーターの順に切り替わります。

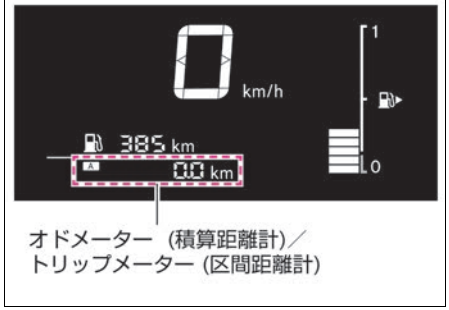


オドメーター（積算距離計）

- 総走行距離をkmで表示します。

トリップメーター（区間距離計）

- リセットしてからの走行距離をkmで表示します。AとBでそれぞれ使い分けることができます。
- リセットするときは0にしたいほうを表示させ、トリップ切り替えスイッチ①を1秒以上押します。

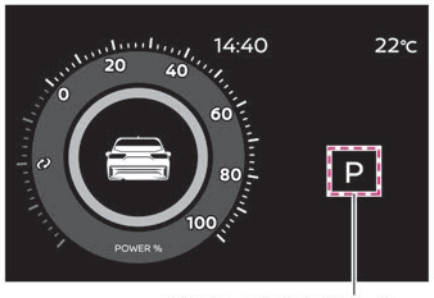


知識

- 12Vバッテリーを外したときは、トリップメーターのAとBの記憶が消去され0に戻ります。

ポジションインジケーター

- シフトポジションを表示します。



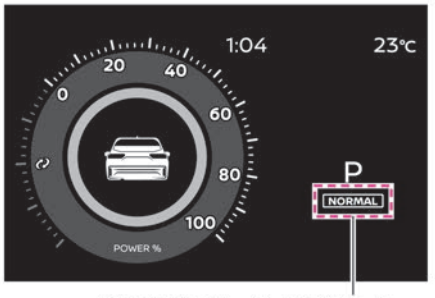
ポジションインジケーター

アドバイス

- セレクトレバーを中央の位置以外で保持し続けないでください。ポジションがずれたまま走行を続けると、故障の原因となります。なお、適正な位置からずれていると、ポジションインジケーターが点滅します。

NORMALモードインジケーター

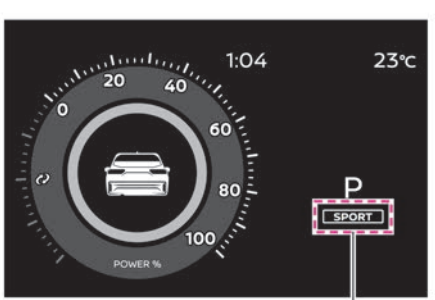
- ドライブモードをNORMALモードにすると点灯します。
  e-Pedal Step (P.148)



NORMALモードインジケーター

SPORTモードインジケーター

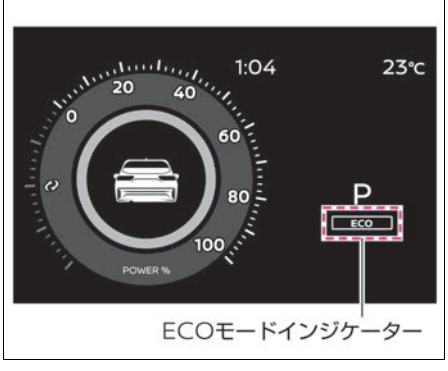
- ドライブモードをSPORTモードにすると点灯します。
  e-Pedal Step (P.148)



SPORTモードインジケーター

ECOモードインジケーター

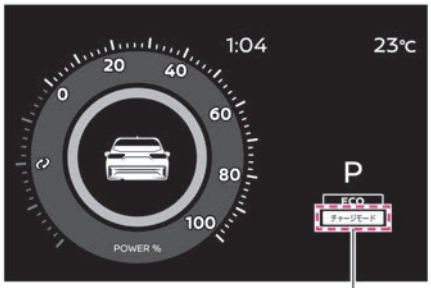
- ドライブモードをECOモードにすると点灯します。
  e-Pedal Step (P.148)



ECOモードインジケーター

チャージモードインジケーター

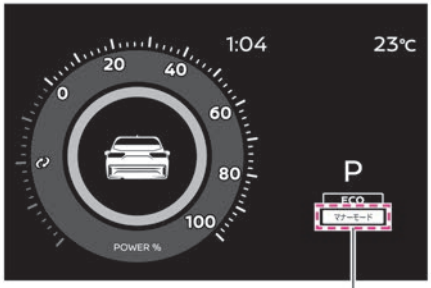
- EVモードスイッチで、チャージモードをONにすると点灯します。
  チャージモード (P.150)



チャージモードインジケーター

マナーモードインジケーター

●EVモードスイッチで、マナーモードをONにすると点灯します。
➔マナーモード (P.151)



マナーモードインジケーター

時計

●時刻を表示します。（➔P.46）

●メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの時計と連動しており、時刻は自動的に調整されます。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「時計」⇒「時計設定」を選択すると、時刻の調整が行えます。

設定の詳細については、時計をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)

➔時計 (P.70)

知識

- メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車の時計は、12Vバッテリーを外すと記憶が消去されます。12Vバッテリーを接続後、正しい時刻に調整してください。

  メーカーオプションナビゲーションシステム装着車の時計は、12Vバッテリーを接続後しばらく走行すると、自動的に調整されます。
- 時刻の表示は、12時間表示または24時間表示を選択できます。

外気温度表示

●外気温を表示します。（➔P.46）

知識

- 外気温センサー取付部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。

最高速度標識表示

●フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより最高速度標識を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

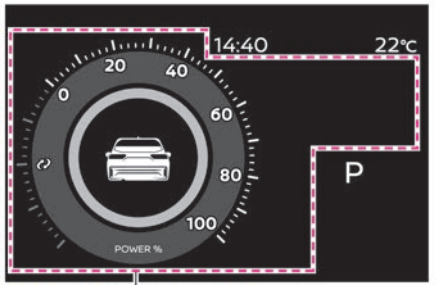
●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「速度標識表示」を選択すると、機能のON・OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、画面の切り替えかた（➔P.55）、（➔P.65）をお読みください。



アドバンスドドライブアシストディスプレイ

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。
- パワーメーター
- エコグループ
- エネルギーモニター
- ナビゲーション情報 ★
- オーディオ情報 ★
- 走行支援グループ
- 警告
- 設定
- 走行支援機能画面
- その他の表示機能

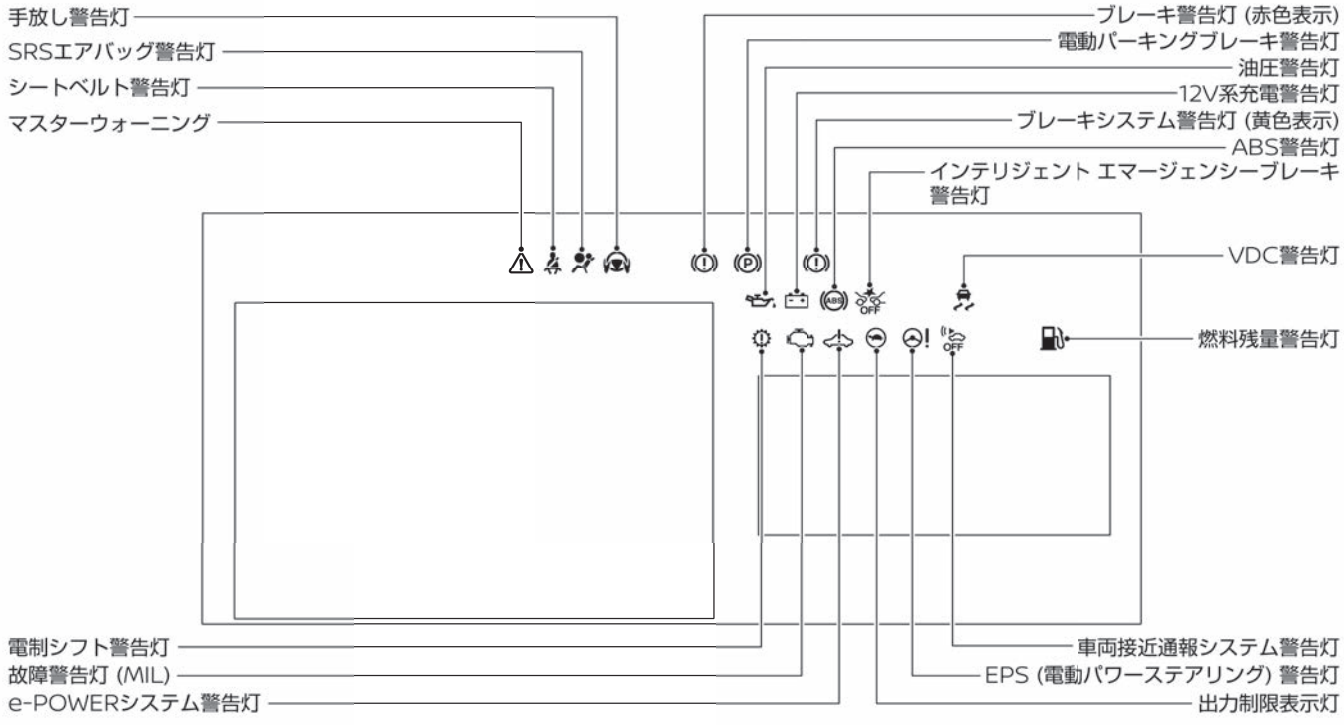


アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイについては、（➔P.55）をお読みください。

警告灯の表示位置

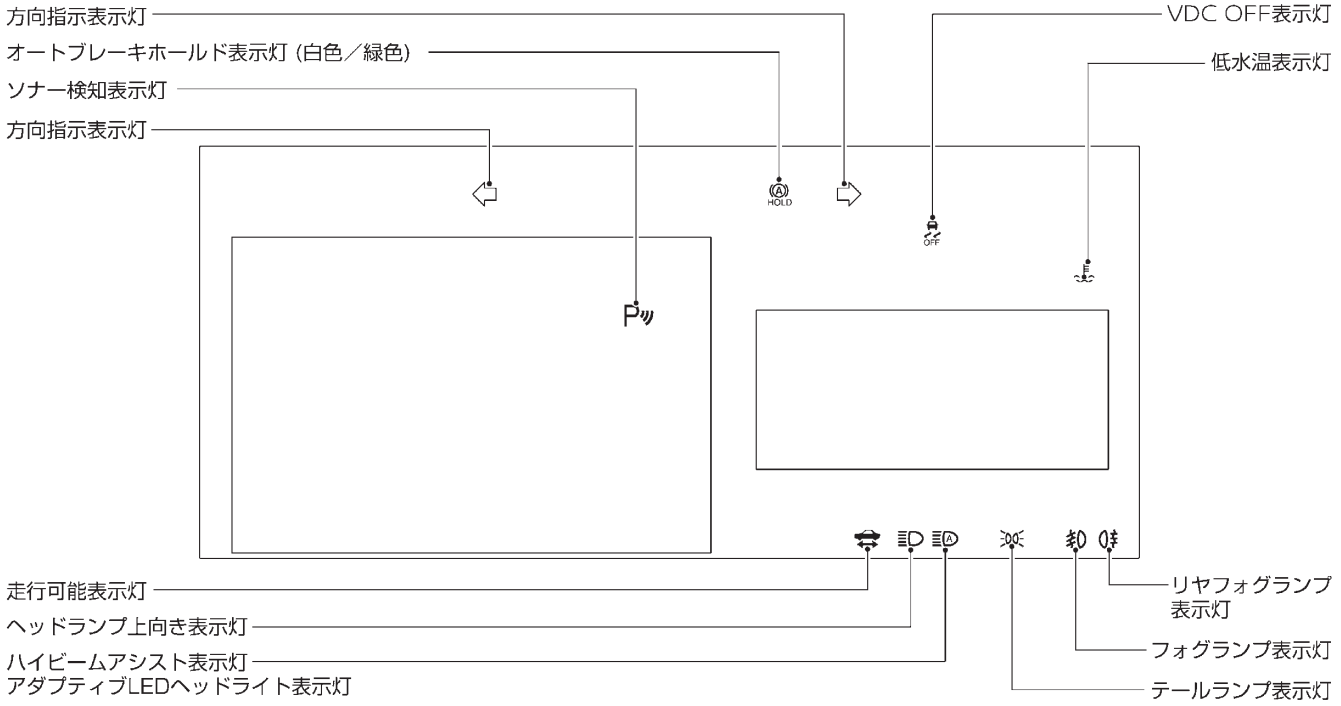
次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに、該当の警告灯のみ点灯または点滅します。



各警告灯については、（➔P.264）をお読みください。

表示灯の表示位置

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに、該当の表示灯のみ点灯または点滅します。



表示灯がついたときは

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯している理由は、次の説明をお読みください。メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	方向指示表示灯	● 非常点滅表示灯スイッチを押すと左右同時に点滅します。 ● パワースイッチがONのとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。	● 点滅が速くなった場合は、日産販売会社で点検を受けてください。 ➔方向指示器の使いかた (P.142) ➔外装ランプが点灯しないときは (P.292)
	ヘッドランプ上向き表示灯	● ヘッドランプのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。	➔ハイビーム（上向き）への切り替えかた (P.141)
	テールランプ表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	➔ライトスイッチの使いかた (P.135)
	フォグランプ表示灯★	● フォグランプを点灯させると点灯します。	➔フォグランプの使いかた (P.143)
	リヤフォグランプ表示灯★	● リヤフォグランプを点灯させると点灯します。	➔リヤフォグランプの使いかた (P.144)
	ハイビームアシスト表示灯★	● ハイビームアシストをONにすると点灯します。	➔ハイビームアシスト★ (P.137)
	アダプティブLEDヘッドライト表示灯★	● アダプティブLEDヘッドライトシステムをONにすると点灯します。	➔アダプティブLEDヘッドライトシステム★ (P.139)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯・表示灯

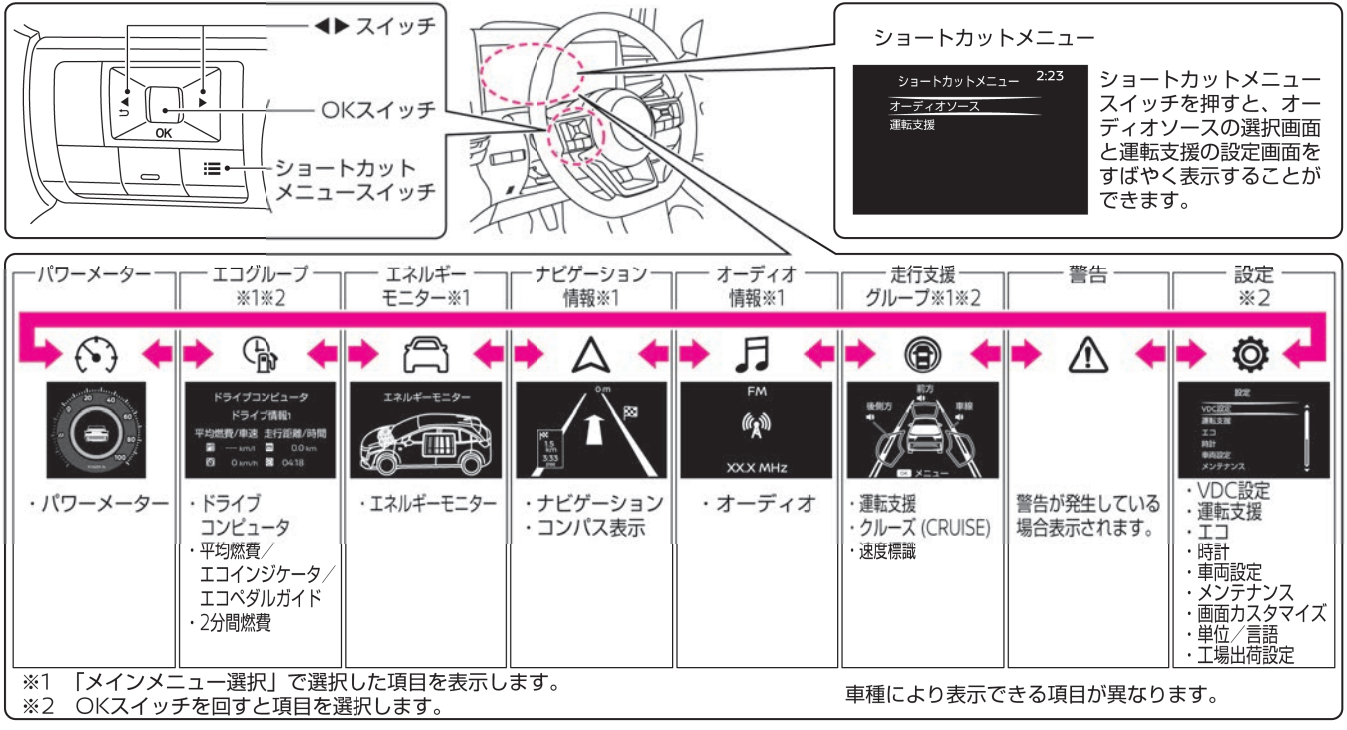
表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	VDC OFF表示灯	● パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● パワースイッチがONのとき、VDCをOFFにしていると点灯します。	➔VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.153)
	オートブレーキホールド表示灯（白色）	● オートブレーキホールドが待機状態のとき白色に点灯します。	➔オートブレーキホールド (P.129)
	オートブレーキホールド表示灯（緑色）	● オートブレーキホールドが作動しているとき緑色に点灯します。	➔オートブレーキホールド (P.129)
	低水温表示灯	● パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● エンジン冷却水の温度が低いと点灯します。 ● エンジン冷却水温が低いときは、低水温表示灯が消灯せずに点灯し続けますが、エンジンの暖機により、しばらくすると規定の水温以上に達して、消灯します。	アドバイス ● しばらく走行したあとも点灯し続けるときは、水温センサーの異常が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
	走行可能表示灯	● 走行できる状態になると点灯します。（走行中も点灯し続けます。） ● e-POWERシステム始動時、走行可能な状態になるまで点滅します。	● 点滅しているときは、点灯状態になるまで、ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押し続けてください。
	ソナー検知表示灯★	● ソナーにより障害物を検知したときに点滅します。	● 車両が障害物に近づくと、ソナー検知表示灯の色が緑→黄（オレンジ）→赤の順に切り替わります。 ● 障害物をよけてください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

アドバンスドドライブアシストディスプレイとは

アドバンスドドライブアシストディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。パワースイッチがONのとき、ハンドル左側にある◀▶スイッチを押すと、パワーメーター、エコグループ、エネルギーモニター、ナビゲーション情報△★、オーディオ情報♫★、走行支援グループ、警告⚠、設定⚙の順で表示項目が切り替わります。

画面の切り替えかた



車両情報画面

様々な車両情報を表示したり、各種設定をしたりすることができます。

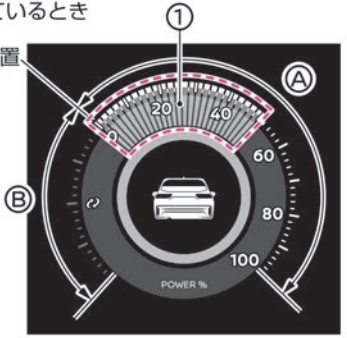
パワーメーター

パワースイッチがONのとき、ステアリングスイッチの◀▶スイッチで、パワーメーター を選択します。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.55）をお読みください。

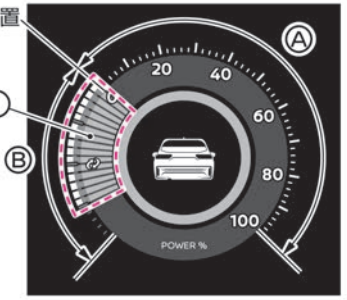
走行中の出力（加速力）と回生量（電力の回収量）を表示します。

- 一定の速度で走行しているときや加速しているときは、ゲージ①が中立位置より右側Ⓐに表示されます。
- 急加速など、より多くの電力を消費しているときほど、ゲージ①が右側Ⓐに増えていきます。
- 電力を回収しているときは、ゲージ①が中立位置から左側Ⓑに増えます。ゲージ①が左側Ⓑに増えると、多くの電力を回収していることを表します。

加速しているとき



電力を回収しているとき



📖 知識

- ブレーキランプが点灯しているときは、パワーメーター内のブレーキランプも点灯します。

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「画面カスタマイズ」⇒「パワーメーター車両表示」を選択すると、パワーメーター内の車両表示の表示・非表示を切り替えることができます。

  設定の詳細については、画面カスタマイズをお読みください。

  ➔画面の切り替えかた (P.55)

  ➔画面カスタマイズ (P.73)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

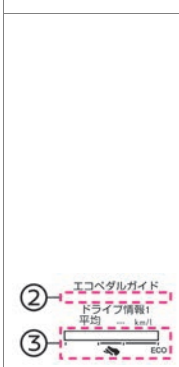
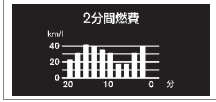
エコグループ

パワースイッチがONのとき、ステアリングスイッチの◀▶スイッチで、エコグループ を選択し、OKスイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.55）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「画面カスタマイズ」⇒「メインメニュー選択」で選択していると表示します。

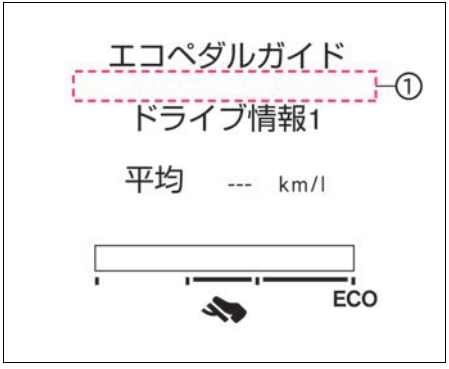
画面表示	項目	概要	詳細説明
	ドライブコンピュータ	● ドライブコンピューターを表示します。ステアリングスイッチのOKスイッチを押すとドライブ情報1、ドライブ情報2、給油後ドライブ情報の順で画面が切り替わります。 ドライブ情報1、ドライブ情報2をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチのOKスイッチを長押しします。その後「リセット」メニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチのOKスイッチを押します。リセット画面が表示されるので、「はい」を選択し、再度ステアリングスイッチのOKスイッチを押すとリセットされます。画面の切り替えかたについては（➔P.55）をお読みください。 また、ドライブ情報2は、30分以上パワースイッチをOFFにした場合リセットされます。 給油後ドライブ情報は、給油するたびにリセットされます。	知識 ● ドライブコンピュータの項目 — 平均燃費 — 平均車速 — 走行距離 — 走行時間

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

画面表示	項目	概要	詳細説明
	平均燃費／エコインジケータ／エコペダルガイド	● ドライブモードがECOモードのときに表示します。 ● ①リセットしてからの平均燃費を表示します。ステアリングスイッチのOKスイッチを押すとドライブ情報1、ドライブ情報2、給油後ドライブ情報の順で画面が切り替わります。 ドライブ情報1、ドライブ情報2の平均燃費をリセットするときは、リセットしたい画面を表示中にステアリングスイッチのOKスイッチを長押しします。リセット画面が表示されるので、「はい」を選択し、再度ステアリングスイッチのOKスイッチを押すとリセットされます。画面の切り替えかたについては（➔P.55）をお読みください。 また、ドライブ情報2は、30分以上パワースイッチをOFFにした場合リセットされます。 給油後ドライブ情報は、給油するたびにリセットされます。 ● ②アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「エコ」⇒「エコ情報設定」⇒「エコインジケータ」の設定をONにしているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータが3段階で点灯します。 ● ③走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を表示します。	知識 ● 平均燃費は、12Vバッテリー交換後やリセット後は、「---」と表示します。 ● 平均燃費は約30秒ごとに更新されます。 ● 詳細については、➔P.59をお読みください。
			
	2分間燃費	● 2分ごとの平均燃費を、最大20分前まで棒グラフで表示します。	-

■ エコインジケータ

- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダル操作に応じてエコインジケータ①が3段階で点灯します。
- エコドライブをするほど、点灯範囲が大きくなります。



知識

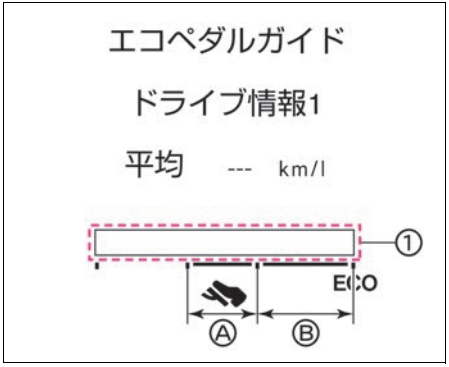
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで、「設定 ⚙ 」⇒「エコ」⇒「エコ情報設定」⇒「エコインジケータ」を選択すると、エコインジケータのON・OFFを切り替えられます。

  エコ (P.69)

- シフトポジションがRのときは、点灯しません。

■ エコペダルガイド

- アドバンスドドライブアシストディスプレイでエコペダルガイドを表示して走行しているとき、アクセルペダルの踏み加減を①に表示します。
- アクセルペダルの踏み加減をエコ運転領域Ⓐに入るように調整することで、燃費向上につながります。
  アクセルペダルの踏み加減をⒷの範囲内に調整することでさらなる燃費向上につながります。



知識

- シフトポジションがRのときは、表示しません。

エネルギーモニター

パワースイッチがONのとき、ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで、エネルギーモニター を選択します。ステアリングスイッチの使いかたは（P.55）をお読みください。

- エンジン、リチウムイオンバッテリーおよびタイヤ間のエネルギーの流れを表示します。
- 画面は実際の表示とは異なる場合があります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「画面カスタマイズ」⇒「メインメニュー選択」で選択していると表示します。

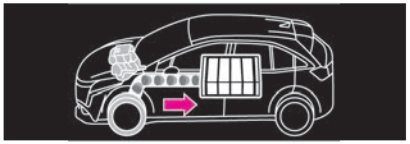
知識

- エンジンからの矢印は、エンジンで発電したエネルギーが流れている状態を示すものです。
- e-POWERシステムでは、発電しなくてもエンジンが作動することがあります。発電していないときは矢印は表示されません。
- ブレーキランプが点灯しているときは、エネルギーモニター内のブレーキランプも点灯します。

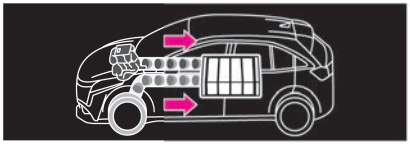
エネルギーモニター (2WD車)



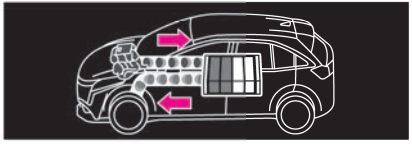
・リチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギーを使って走行している状態



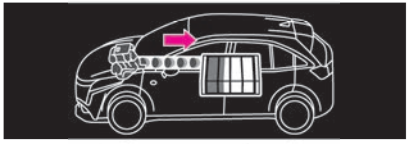
・回生ブレーキを使ってリチウムイオンバッテリーを充電している状態



・エンジンと回生ブレーキ、両方のエネルギーで充電している状態



・エンジンで発電したエネルギーで、走行と充電の両方をしている状態
・エンジンで発電したエネルギーとリチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギー、両方を使って走行している状態
・エンジンで発電したエネルギーを使って走行している状態



・エンジンで発電したエネルギーで、リチウムイオンバッテリーを充電している状態



・エネルギーの流れがない状態

エンジン表示色



灰色：エンジン停止状態
・エンジンが停止しているときは、灰色で表示します。
橙色：エンジン回転状態
・エンジンが回転しているときは、橙色で表示します。

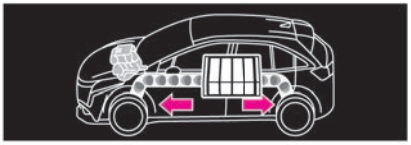
バッテリー表示色



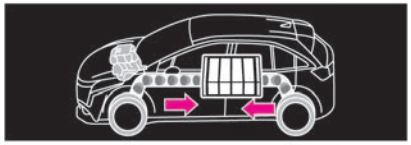
青色：バッテリー残量が通常状態
・バッテリー残量を表示します。
黄色：バッテリー残量が低下状態
・バッテリー残量が低下すると、青色から黄色に表示色が変わります。(バッテリー残量が少ないときは、通常よりも駆動出力が低下することがあります。)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

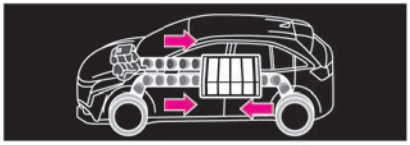
エネルギーモニター (4WD車)



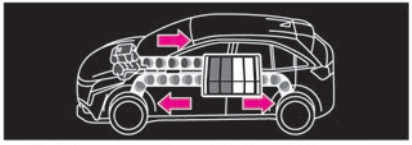
・リチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギーを使って走行している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません



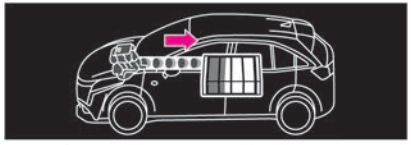
・回生ブレーキを使ってリチウムイオンバッテリーを充電している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません



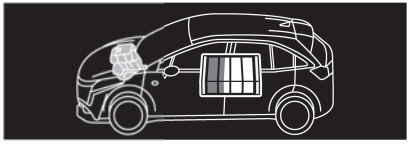
・エンジンと回生ブレーキ、両方のエネルギーで充電している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません



・エンジンで発電したエネルギーで、走行と充電の両方をしている状態
・エンジンで発電したエネルギーとリチウムイオンバッテリーに蓄えられたエネルギー、両方を使って走行している状態
・エンジンで発電したエネルギーを使って走行している状態
・2WD状態のときは、リア側のエネルギーの流れは表示されません



・エンジンで発電したエネルギーで、リチウムイオンバッテリーを充電している状態



・エネルギーの流れがない状態

エンジン表示色



灰色：エンジン停止状態
・エンジンが停止しているときは、灰色で表示します。
橙色：エンジン回転状態
・エンジンが回転しているときは、橙色で表示します。

バッテリー表示色

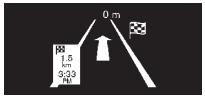


青色：バッテリー残量が通常状態
・バッテリー残量を表示します。
黄色：バッテリー残量が低下状態
・バッテリー残量が低下すると、青色から黄色に表示色が変わります。(バッテリー残量が少ないときは、通常よりも駆動出力が低下することがあります。)

ナビゲーション情報★

パワースイッチがONのとき、ステアリングスイッチの◀▶スイッチで、ナビゲーション情報 △ を選択します。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.55）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「画面カスタマイズ」⇒「メインメニュー選択」で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ナビゲーション	● メーカーオプションのナビゲーションシステムで目的地を設定していると、ナビゲーションシステムと連動し、次の右左折点までの距離などを表示します。 ● 目的地を設定していないときは、表示されません。	● メーカーオプションのナビゲーションシステムの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
	コンパス表示	● コンパス（車両の進行方位）を表示します。	-

オーディオ情報★

パワースイッチがONのとき、ステアリングスイッチの◀▶スイッチで、オーディオ情報 ♫ を選択します。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.55）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「画面カスタマイズ」⇒「メインメニュー選択」で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	オーディオ	● 現在使用中のオーディオ情報を表示します。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチのOKスイッチを押すと、オーディオの種類を切り替えることができます。	● オーディオの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

走行支援グループ

パワースイッチがONのとき、ステアリングスイッチの◀▶スイッチで、走行支援グループを選択し、OKスイッチを回すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.55）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「画面カスタマイズ」⇒「メインメニュー選択」で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	運転支援	● 走行支援システムのON・OFF状態を表示します。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチのOKスイッチを押すと、走行支援システムのメニュー画面を表示し、各システムのON・OFFを設定できます。詳しくは運転支援（➔P.65）の中の該当項目をお読みください。	● 詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。 — ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）(P.205) — ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.182) — ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.197)
	クルーズ（CRUISE）★	● プロパイロットの作動状態を表示します。 ● ステアリングスイッチのプロパイロットスイッチを押すと、運転支援画面を表示してから数秒後にクルーズ画面に切り替わります。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチのOKスイッチを押すと、プロパイロットのメニュー画面を表示し、ハンドル支援のON・OFFを設定できます。詳しくは運転支援（➔P.65）の中の該当項目をお読みください。	● プロパイロットについては、（➔P.160）をお読みください。 知識 ● ブレーキランプが点灯しているときは、メーター内のブレーキランプも点灯します。
	速度標識	● 最高速度標識／はみ出し通行禁止標識の検知状態を表示します。	● 最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知については、（➔P.216）をお読みください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告

警告について

- 異常を検知するとマスターウォーニングが点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告を表示します。
  警告を一時的に消すときは、OKスイッチを押します。
- 警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

確認のしかた

異常を検知している場合、パワースイッチがONのときにステアリングスイッチの◀▶スイッチで警告 ⚠ を選択すると、異常を検知している警告が確認できます。

警告メッセージの表示画面については、（➔P.270）をお読みください。

ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.55）をお読みください。

各種設定画面

運転支援システムのON・OFF設定をはじめ、時計の調整やアラームの設定などができます。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.55）をお読みください。

設定（各種設定画面）

各種設定画面では、次の機能の設定ができます。

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、OK スイッチを回して選択します。OK スイッチを押して決定することができます。

➔設定例1（画面カスタマイズ） (P.76)

➔設定例2（オイル/オイルフィルター） (P.76)

■ VDC設定★

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、OK スイッチを回して選択します。OK スイッチを押して決定することができます。

項目	機能
システム	● VDC機能のON・OFFを設定します。 ➔VDCの停止のしかた (P.154)

■ 運転支援

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、OK スイッチを回して選択します。OK スイッチを押して決定することができます。

項目1	項目2	機能
ハンドル支援★		● ハンドル支援のON・OFFを設定します。 ➔プロパイロット★ (P.160)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
側方支援	車線逸脱警報	● LDW（車線逸脱警報）のON・OFFを設定します。 ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.205)
	車線逸脱防止支援★	● インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFを設定します。 ➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.205)
後側方支援★	後側方車両検知警報	● BSW（後側方車両検知警報）のON・OFFを設定します。 ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.197)
	後側方衝突防止支援	● インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援）のON・OFFを設定します。 ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.197)
エマージェンシーブレーキ		● インテリジェント エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）のON・OFFを設定します。 ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.182) ➔踏み間違い衝突防止アシスト (P.188) ➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.209)
速度標識表示		● 最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知のON・OFFを設定します。 ➔標識検知機能 (P.216)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
ルート減速支援★		● プロパイロットのルート減速支援機能のON・OFFを設定します。 ➔ ルート減速支援機能★について (P.166)
制限速度支援★	OFF	● 標識検知機能で検出した速度をプロパイロットの設定車速に反映させる機能のON（手動/自動）・OFFを設定します。 ➔ 制限速度支援機能★について (P.165)
	手動	
	自動	
制限速度支援設定★	--km/h	● 標識検知機能で検出した速度を、プロパイロットの設定車速に反映させるときのオフセット速度を選択します。 — -10km/h～+10km/hまでの範囲内で速度を設定できます。 ➔ 制限速度支援機能★について (P.165)
標識検知支援		● 進入禁止標識検知/一時停止標識検知のON・OFFを設定します。 ➔ 標識検知機能 (P.216)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
駐車支援	移動物検知★	● 移動物 検知のON・OFFを設定します。 ➔移動物 検知機能について (P.226)
	ソナー自動表示	● 障害物に近づいたときの、割り込み表示のON・OFFを設定します。 ➔ソナー機能 (P.81)
	前方ソナー	● フロントソナーのON・OFFを設定します。 ➔ソナー機能 (P.81)
	後方ソナー★	● リアソナーのON・OFFを設定します。 ➔ソナー機能 (P.81)
	ソナー検知距離	● センサー検知距離を遠、中、近から選択します。障害物までの最長距離が110%（遠）、100%（中）、90%（近）で変更できます。中を選択したときの障害物までの最長距離は、（➔P.227）をご参照ください。 ➔ソナー機能 (P.81)
	ソナー音量	● ボリューム（警報音（ブザー））の大きさを、大、中、小から選択します。 ➔ソナー機能 (P.81)
後退時車両検知警報★		● RCTA（後退時車両検知警報）のON・OFFを設定します。 ➔RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.212)
ふらつき警報		● インテリジェント DA（ふらつき警報）のON・OFFを設定します。 ➔インテリジェント DA（ふらつき警報） (P.215)

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
走行時間	---分／---分	● 設定した時間まで連続走行したことをお知らせします。 OKスイッチを回すと分が切り替わり、OKスイッチを押すと決定します。 — 最大360分まで設定できます。 — 設定時間は30分単位で切り替わります。 （◀ スイッチを押すと設定前の画面に戻ります。）
	リセット	「はい」を選択すると、走行した時間をリセットできます。
凍結注意		● 外気温が3℃以下になったときに表示する凍結注意表示のON・OFFを設定します。
シャシー制御	トレースコントロール	● インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）機能のON・OFFを設定します。 ➔インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について (P.155)

■ エコ

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、OKスイッチを回して選択します。OKスイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
エコモード設定	クルーズコントロール★	● ECOモード使用時に燃費を優先する機能のON・OFFを設定します。 ➔エコモード設定 (P.149)
	空調	

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
エコ情報設定	エコインジケータ	● エコインジケータのON・OFFを設定します。OFFにすると、エコインジケータが表示されなくなります。 ➔ エコインジケータ (P.59)
	エコドライブレポート	● エコドライブレポートのON・OFFを設定します。OFFにすると、エコドライブレポートが表示されなくなります。 ➔ エコドライブレポートについて (P.82)
燃費履歴リセット	リセット	● 燃費履歴画面を表示します。 ● リセットするときは、この画面を表示中にステアリングスイッチのOKスイッチを押します。リセット画面が表示されるので、「はい」を選択し、再度ステアリングスイッチのOKスイッチを押すとリセットされます。 2分間燃費（➔ P.58）

■ 時計

ステアリングスイッチの◀▶スイッチで設定 ⚙ を選び、OKスイッチを回して選択します。OKスイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
表示★		● 時計表示のON・OFFを設定します。
時計設定モード★	自動	● GPSからの情報を使って自動で時刻を設定します。
	手動	● 「時計設定」から手動で時刻を設定します。
時間表示		● OKスイッチを押すと12時間表示、24時間表示を切り替えます。

項目1	項目2	機能
時計設定		時計を調整します。 ① OKスイッチを押すと「時」調整画面に切り替わります。 ② OKスイッチを回して「時」を調整します。 ③ OKスイッチを押すと「分」調整画面に切り替わります。 ④ OKスイッチを回して「分」を調整します。 ⑤ OKスイッチを押すと時刻が設定されます。 （◀スイッチを押すと前の調整画面に戻ります。）

■ 車両設定

ステアリングスイッチの◀▶スイッチで設定 ⚙ を選び、OKスイッチを回して選択します。OKスイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目1	項目2	機能
ライト/照明	ウエルカムヘッドライト	● ウェルカムライト機能のON・OFFを設定します。 ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）（➔P.142）
	オートライト感度調整	● インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の点灯タイミングを、より早い、早い、標準、遅いから選択します。 AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた（➔P.136）
ロック	keyエントリー	● ドアハンドルのスイッチでの施錠・解錠機能のON・OFFを設定します。 ➔ドアハンドルのスイッチでの施錠・解錠のしかた (P.91)
	降車時オートロック	● 降車時オートロック機能のON・OFFを設定します。 降車時オートロック機能（➔P.87）
	接近時アンロック	● 接近時アンロック機能のON・OFFを設定します。 接近時アンロック機能（➔P.87）

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	機能
ワイパー	車速連動	● 車速連動機能のON・OFFを設定します。 ➔フロントワイパーの使いかた (P.144)
	リバース連動	● リバース連動機能のON・OFFを設定します。 ➔リヤワイパーの使いかた (P.145)
	ドリップ拭き取り	● ドリップ拭き取りのON・OFFを設定します。 ➔ウォッシャーの使いかた (P.146)
後席リマインダー		● 後席リマインダーのON・OFFを設定します。 ➔後席リマインダー (P.95)
ドアミラー	自動開閉OFF	● ドアロック連動格納機能がOFFになります。 ➔ドアロック連動格納機能について (P.108)
	パワーON連動	● ドアロック連動格納機能がONになります。パワースイッチをONにしたときにドアミラーが開く設定になります。 ➔ドアロック連動格納機能について (P.108)
	ドアアンロック連動	● ドアロック連動格納機能がONになります。リモコンまたは、ドアハンドルのスイッチで解錠すると、ドアミラーが開く設定になります。また、パワースイッチをONにしたときもドアミラーが開きます。 ➔ドアロック連動格納機能について (P.108)

■ メンテナンス

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、OK スイッチを回して選択します。OK スイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目	機能
オイル/オイルフィルター タイヤ ユーザー	● ［メンテナンス］では、次回メンテナンスを行うまでの距離を設定できます。設定値を超えるとメンテナンスする距離がきたことを表示で知らせます。（定期交換部品等の交換距離については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。） — OK スイッチを回すと距離が切り替わり、OK スイッチを押すと決定します。（ ◀ スイッチを押すと設定前の画面に戻ります。） — 500km～30,000kmまでの範囲内で距離を設定できます。 — 設定距離は500km単位で切り替わります。 — リセットを選択して OK スイッチを押すとリセット画面が表示されます。「はい」を選択し、再度 OK スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。 ● 機能を停止することができます。 — 停止する場合は、距離表示を「---」に合わせ OK スイッチを押し決定します。

■ 画面カスタマイズ

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、OK スイッチを回して選択します。OK スイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目1	項目2	項目3	機能
メインメニュー選択			● 車両情報画面で表示させたい項目を選択することができます。 ➔車両情報画面 (P.56)
ナビゲーション設定★	自動割込み設定		● 走行中、次の右左折点に接近したとき、メーター 内にポップアップでお知らせする機能のON・OFF を設定します。
クルーズ画面切替★			● クルーズ画面切替のON・OFFを設定します。 ONにすると、プロパイロットのシステムをONにしたとき、画面がクルーズ画面に切り替わります。 ➔プロパイロット★ (P.160)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバンスドドライブアシストディスプレイ

項目1	項目2	項目3	機能
パワーメーター車両表示			● パワーメーター画面での車両表示の表示・非表示を設定します。
メーター演出	アニメーション		● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。 OFFにすると、e-POWERシステム始動時のアニメーションがOFFになります。
	サウンド		● ディスプレイ演出のON・OFFを設定します。 OFFにすると、e-POWERシステム始動時および停止時のサウンドがOFFになります。
オペレーションガイダンス	ライトモードガイダンス		● ライトスイッチを回したとき、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
	ワイパー	フロント	● ワイパースイッチを動かしてフロントワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。
		リア	● ワイパースイッチを回してリヤワイパーを作動させたときに、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能のON・OFFを設定します。

■ 単位/言語

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、OK スイッチを回して選択します。OK スイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

項目	機能
距離／燃費	● 距離と燃費の表示単位を km, km/lまたは km, l/100km に切り替えます。
温度	● 温度の単位を ℃ または ℉ に切り替えます。
言語	● 表示言語を、日本語またはEnglishに切り替えます。

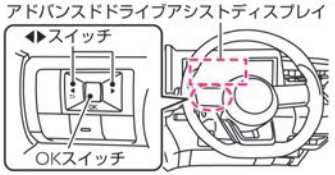
■ 工場出荷設定

ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチで設定 ⚙ を選び、OK スイッチを回して選択します。OK スイッチを押して決定することができます。走行中は操作できません。

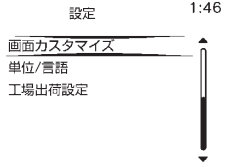
機能
工場出荷時の設定にリセットすることができます。 ● 「はい」を選択すると、各種設定が初期化されます。

設定例1（画面カスタマイズ）

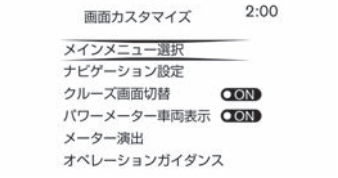
1. ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチを数回押し、［設定 ⚙ ］画面を表示して OK スイッチを押します。



2. ステアリングスイッチの OK スイッチを回して、［画面カスタマイズ］を選択し、OK スイッチを押して決定します。



3. ステアリングスイッチの OK スイッチを回して、［メインメニュー選択］を選択し、OK スイッチを押して決定します。

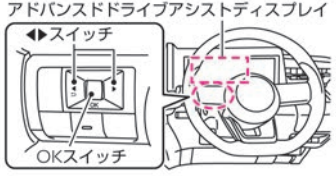


4. 表示させたい項目を、ステアリングスイッチの OK スイッチを回して選択し、OK スイッチを押して選択すると表示できるようになります。



設定例2（オイル/オイルフィルター）

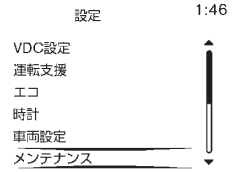
1. ステアリングスイッチの ◀▶ スイッチを数回押し、［設定 ⚙ ］画面を表示して OK スイッチを押します。



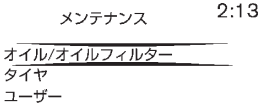
知識

- 手順4でリセットを選択してステアリングスイッチの OK スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。（"---km /---km" の左側の表示）

2. ステアリングスイッチの OK スイッチを回して、［メンテナンス］を選択し、OK スイッチを押して決定します。

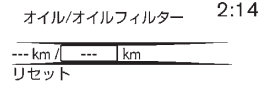


3. ステアリングスイッチの OK スイッチを回して、［オイル/オイルフィルター］を選択し、OK スイッチを押して決定します。



4. ［オイル/オイルフィルター］画面でステアリングスイッチの OK スイッチを押して、次回メンテナンスを行う距離の設定画面に進みます。（"---km/---km" の右側の表示）

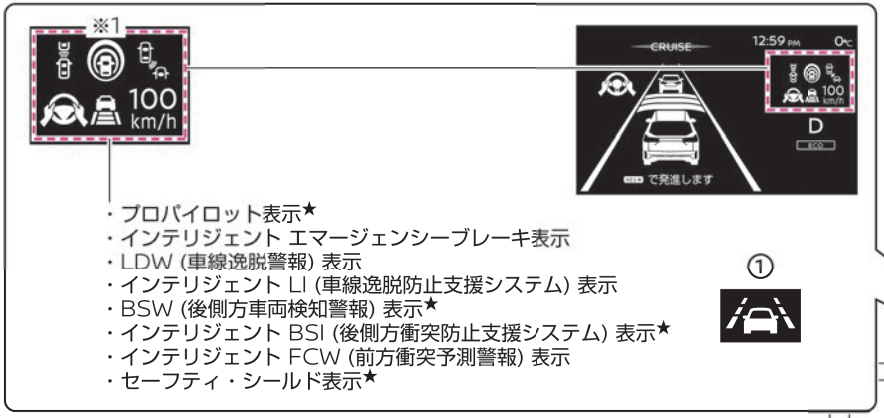
※"---km/---km" の左側は、設定以降走行した距離を表示します。

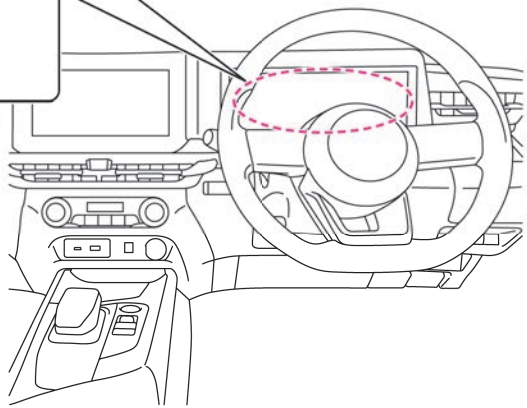


5. 次回メンテナンスを行う距離を設定できます。（手順4 “---km/---km” 右側の表示）
ステアリングスイッチのOKスイッチを回して、距離を切り替え、OKスイッチを押して決定します。
設定距離は500km単位で切り替わります。
※機能を停止する場合は、距離表示を「---」にあわせOKスイッチを押して決定します。



走行支援機能画面



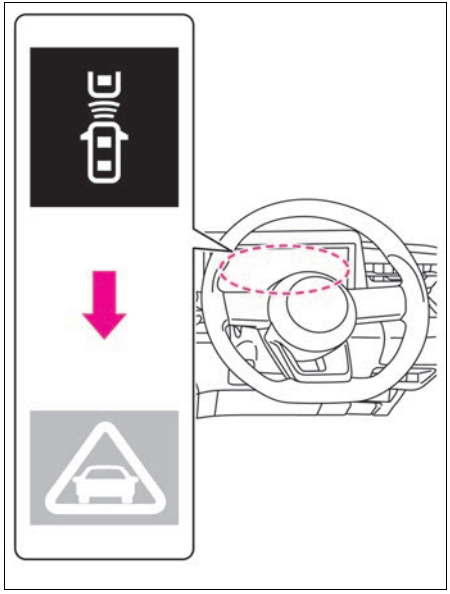


※1 LDW (車線逸脱警報)、インテリジェント LI (車線逸脱防止支援システム) 作動時は ① が表示されます。

インテリジェント エマージェンシーブレーキ表示

- 衝突するおそれがあると判断すると、警報音（ブザー）とともにメーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示（接近警報表示）がオレンジ色に点滅します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音（ブザー）とともに軽いブレーキがかかります。
- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。

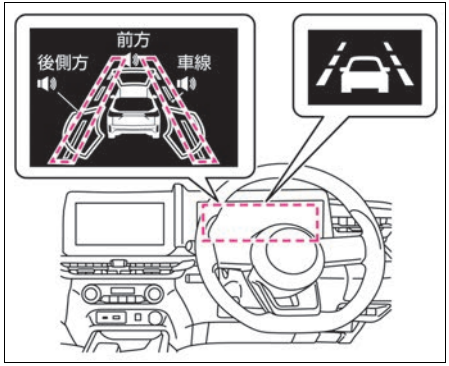
インテリジェント エマージェンシーブレーキについては、（P.182）をお読みください。



LDW（車線逸脱警報）表示

- 車両が右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、オレンジ色に点滅します。

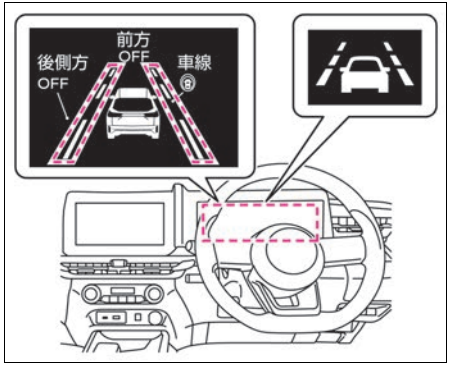
LDW（車線逸脱警報）については、（P.205）をお読みください。



インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示

- 車両が右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、オレンジ色に点滅します。
- インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）に異常があると、オレンジ色に点灯します。

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）については、（P.206）をお読みください。



アドバイス

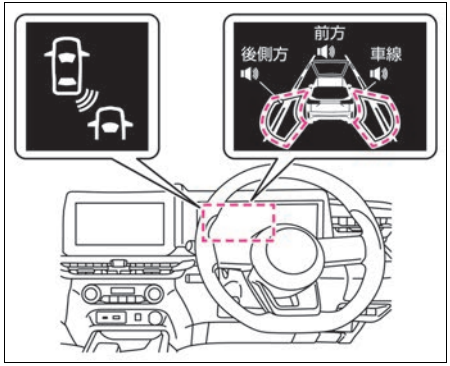
- 表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

  e-POWERシステム再始動後もオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

BSW（後側方車両検知警報）表示★

●隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると点滅します。

BSW（後側方車両検知警報）については、（➔P.197）をお読みください。

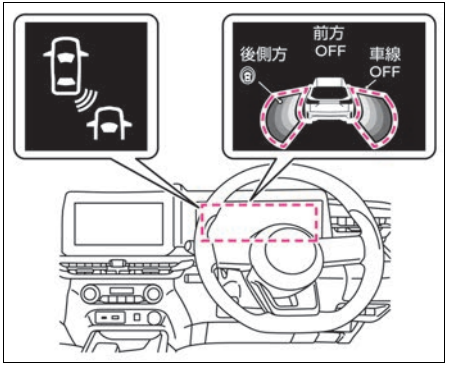


インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示★

●隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると点滅します。

●インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）に異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイのインジケーターがオレンジ色に点灯します。

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）については、（➔P.197）をお読みください。

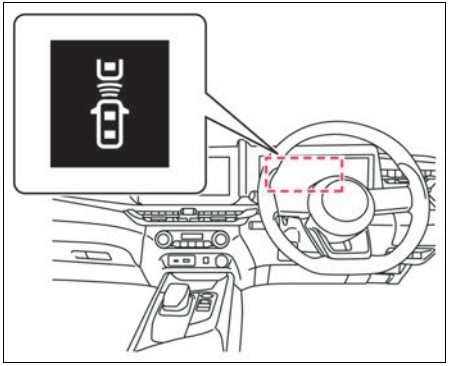


インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）表示

●自車の回避操作が必要と判断すると、オレンジ色に点滅するとともに警報音（ブザー）を鳴らして、運転者に注意を促します。

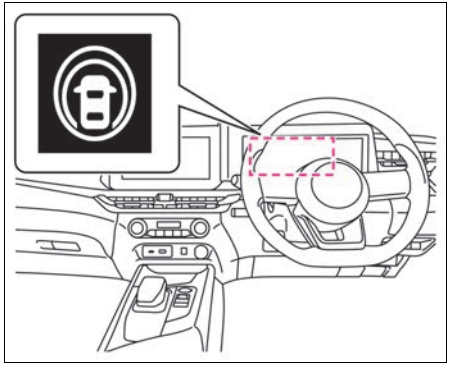
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）については、（➔P.209）をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ



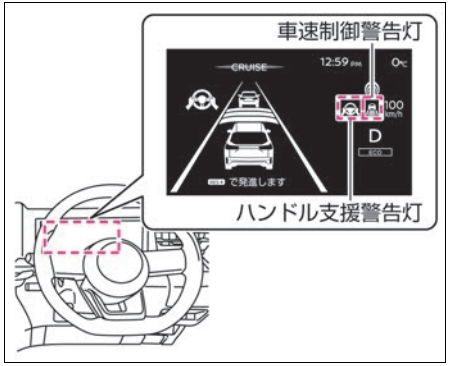
セーフティ・シールド表示★

- アドバンスドドライブアシストディスプレイでインテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）またはインテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）をONにしているとき、セーフティ・シールドスイッチを押すと表示します。
- システムがONになると白色で表示します。
  インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）については（P.197）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）については（P.205）をお読みください。



プロパイロット表示★

- プロパイロットスイッチをONにすると表示します。
- プロパイロットの作動状態を表示します。
- プロパイロットに異常があると、ハンドル支援警告灯および車速制御警告灯がオレンジ色に点灯します。
  プロパイロットについては、（P.160）をお読みください。



アドバイス

- 警告灯がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
  e-POWERシステム再始動後もオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

その他の表示機能

車両と障害物との距離感を、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示することができます。

ソナー機能

- 車両が障害物に近づくと、メーター内ディスプレイのソナー表示色が緑→黄→

赤の順に切り替わり、警報音（ブザー）が鳴ります。

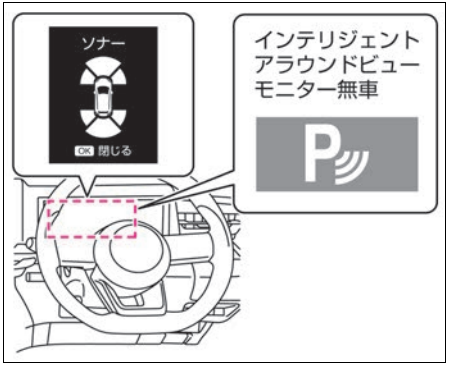
●インテリジェント アラウンドビューモニター無車は、同時にメーターのソナー検知表示灯も緑→黄→赤の順に点滅します。

表示色	警報音（ブザー）
緑	ピッ、ピッ、ピッ・・・
黄	ピピピピピ・・・
赤	ピー

●次の場合にソナー機能が作動します。
- シフトポジションを**R**にしたとき
- シフトポジションが**D**または**B**で障害物を検知したとき（約10km/h以下）
- ソナー表示中にステアリングスイッチの**OK**スイッチ、◀▶スイッチを押す、または**OK**スイッチを回すと一時的に警報音（ブザー）を停止できます。

●ただし次の場合は、一時停止が解除されます。
- シフトポジションを**N**、**P**にしたとき
- 約12km/h以上で走行したとき

●ソナーについては、（➔P.316）をお読みください。



知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「駐車支援」を選択すると、ソナー機能の各種設定が行えます。

  設定の詳細については、運転支援をお読みください。

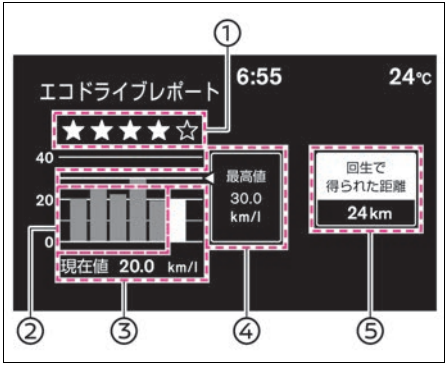
  ➔画面の切り替えかた（P.55）

  ➔運転支援（P.65）
- ソナー表示の見かたについては、（➔P.227）をお読みください。
- ソナーが障害物を検知すると、ソナー画面が割り込み表示します。割り込み表示はOFFにすることができます。

  ➔運転支援（P.65）

エコドライブレポートについて

パワースイッチをOFFにするとエコドライブレポート画面を表示します。
今回の評価などの結果表示は、約10分以上走行したときに表示します。



① **今回の評価**
エコドライブするほど★が増えます。

② **履歴**
過去5回分の平均燃費を表示します。

③ **現在値**
今回の平均燃費を表示します。

④ **最高値**
過去のベスト燃費を表示します。

⑤ **回生電力量**
今回の走行で回生した電力量を距離換算で表示します。

知識

- 走行したルートのほとんどが下り坂だった場合、回生量が大きく、回生で得られた距離⑤が走行した距離以上になることがあります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「エコ」⇒「エコ情報設定」⇒「エコドライブレポート」を選択すると、「エコドライブレポート」の表示・非表示を切り替えることができます。

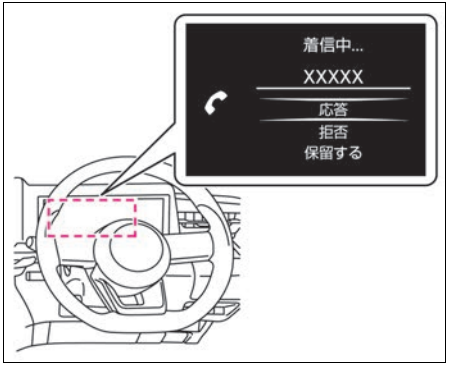
  設定の詳細については、エコをお読みください。

  ➔画面の切り替えかた (P.55)

  ➔エコ (P.69)

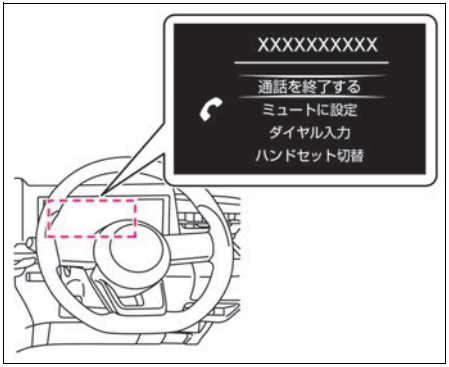
着信表示★

●携帯電話をハンズフリー接続しているときに、着信すると表示します。
ハンズフリーフォンについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



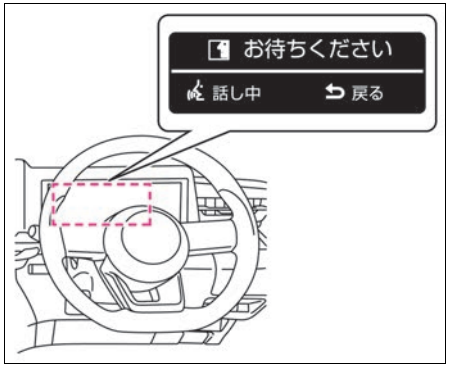
通話表示★

●携帯電話をハンズフリー接続しているときに、通話すると表示します。
ハンズフリーフォンについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



音声操作表示★

●メーカーオプションのナビゲーションシステムで音声操作を行うと、アドバンスドドライブアシストディスプレイに音声操作表示をします。
音声操作については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



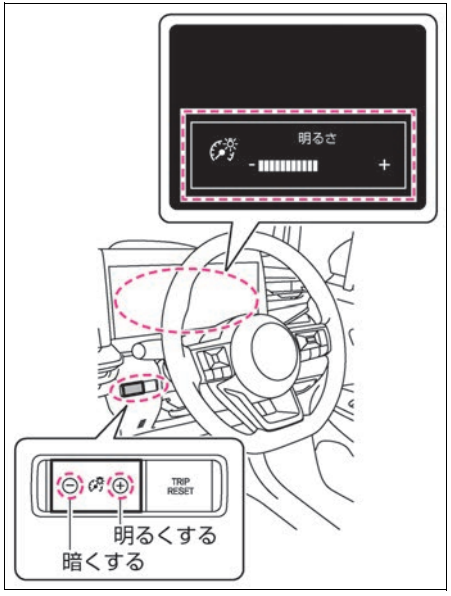
メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール

メーターの明るさの調節のしかた

パワースイッチがONのとき、メーター照明の明るさを調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示されます。



知識

- 明るさのレベルが最大または最小に達すると、音が鳴ります。
- 12Vバッテリーを外すと調節した記憶は消去されます。

キー

インテリジェントキー P.86
インテリジェントキーに関する注意事項 P.88

ドアの施錠と解錠

ドア P.91
バックドア P.94
後席リマインダー P.95

シートの調節

前席シート P.97
後席シート P.98

ハンドルの調節

ハンドル P.101

ミラーの調節

ルームミラー★ P.102
インテリジェント ルームミラー★ P.102
ドアミラー P.106

窓ガラスの開閉

パワーウインドー P.109

燃料補給口の開閉

燃料補給口 P.111

エアコンの操作

オートエアコン P.113
吹き出し口 P.116
エアコンを使うときに注意すること P.117

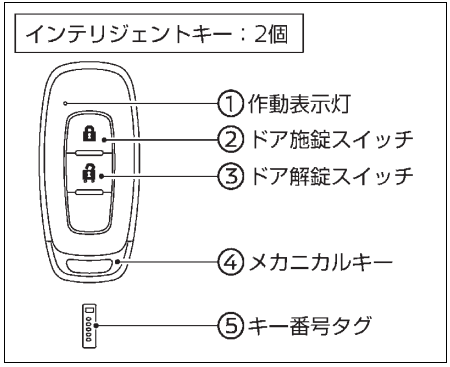
オーディオ★

オーディオの使いかた P.119
ステアリングスイッチ P.119

インテリジェントキー

キーを携帯するだけでe-POWERシステムの始動操作ができます。また、キーを携帯するだけでドアの施錠・解錠ができます。
ドアの施錠・解錠のしかたは（➔P.91）、始動操作は（➔P.122）をお読みください。

各部名称と機能



① **作動表示灯**
②または③のスイッチを押すと点滅します。

② **ドア施錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが施錠されます。

③ **ドア解錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが解錠されます。

④ **内蔵キー（メカニカルキー）**
キーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどにドアの施錠・解錠ができます。
➔内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた (P.259)

⑤ **キー番号タグ**
キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

知識

- キーは2個ついています。
- キーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。
- 作動表示灯が点滅しない場合は、電池の消耗が考えられます。電池が切れた場合は、新しい電池と交換してください。
  ➔インテリジェントキーの電池交換 (P.309)
- キーの電池が切れても、ドアの施錠・解錠やe-POWERシステムの始動を行うことができます。
  ➔ドアが開かないときは (P.259)
  ➔インテリジェントキーで始動できないときは (P.260)

インテリジェントキーに関する機能について

■ アンサーバック機能

- ドアの施錠・解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）
  アンサーバック機能のブザーを停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「ウエルカムヘッドライト」を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）の設定を変更することができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔画面の切り替えかた (P.55)
  ➔車両設定 (P.71)

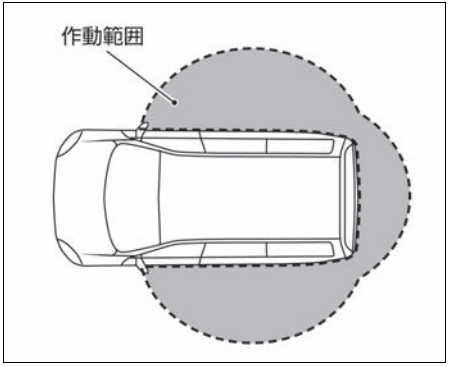
■ キー連動室内照明システム

- ドアを解錠すると、室内照明（ラゲッジランプを除く）が約20秒間点灯します。
  詳しくは、室内灯（➔P.236）をお読みください。

■ オートロック機能

●解錠スイッチを押してから約30秒以内にいずれかのドアを開けなかったときは、盗難防止のため全ドアが施錠されます。（施錠されるまでの間に、再度解錠スイッチを押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）

■ 接近時アンロック機能

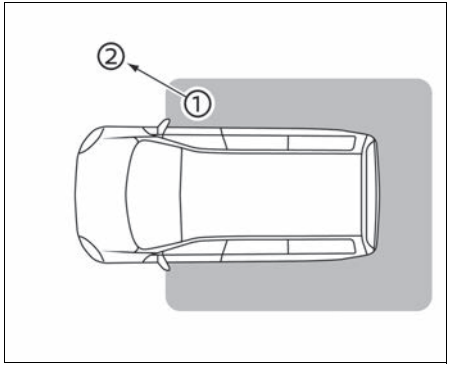


●インテリジェントキーを携帯して車に近づくと自動で車両が解錠されます。作動範囲はドアミラーから車両後方にかけて車両から約1mの範囲です。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、接近時アンロック機能のON・OFFを切り替えることができます。（工場出荷時はOFFに設定されています。）
「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ロック」⇒「接近時アンロック」
設定の詳細については、車両設定（➔P.71）をお読みください。

●次の場合は作動しません。
— キーを車室内に置き忘れているとき
— 一定時間、キーを車両周辺に置いたままのとき（ドアを解錠後、再度ドアを施錠すると、接近時アンロック機能が再度作動可能になります）
— 施錠してから8日間経過したとき
— 車室内のドアロックスイッチで施錠したとき

■ 降車時オートロック機能



●パワースイッチをOFFにしたあと、ドア開閉をしてからインテリジェントキーを携帯して車から離れると自動で車両が施錠されます。車両から約2mを境界とし①の範囲から②の範囲へ移動すると作動します。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで次の操作をすると、降車時オートロック機能のON・OFFを切り替えることができます。（工場出荷時はOFFに設定されています。）
「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ロック」⇒「降車時オートロック」
設定の詳細については、車両設定（➔P.71）をお読みください。

●次の場合は作動しません。
— キーを車室内に置き忘れているとき
— いずれかのドアが開いているとき
— 一定時間、キーを車両周辺に置いたままのとき（ドアを開閉すると、降車時オートロック機能が再度作動可能になります）
— 走行可能表示灯が点灯しているとき
— キーのスイッチで解錠したとき
— ドア開閉時にインテリジェントキーが車両から2m以内にないとき

■ スリープモード

ドアハンドルのスイッチでの施錠・解錠、およびe-POWERシステムの始動を一時的に停止するモードです。

●ドア施錠スイッチを押したままドア解錠スイッチを2回押します。
一定時間、キーの作動表示灯が点灯します。作動表示灯が点灯中にドア施錠スイッチを押すと、作動表示灯が2回点滅しスリープモードになります。

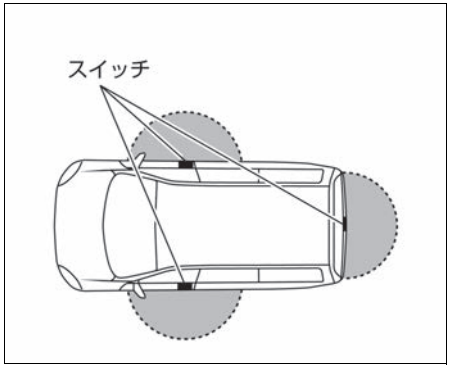
●スリープモードを解除するときは、キーのいずれかのスイッチを押してください。

ドアの施錠・解錠の作動範囲

作動範囲は各ドアハンドルのスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は各ドアハンドルのスイッチを中心に球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。

キーが作動範囲内にある場合は、キーを携帯している人以外でもドアハンドルのスイッチを押して施錠・解錠できます。

- ドアハンドルのスイッチを押してドアを施錠したあとは、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- ドアハンドルを引いてからドアハンドルのスイッチを押すと、ドアは解錠されますが開きません。
- 車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ずパワースイッチをOFFにして施錠してください。



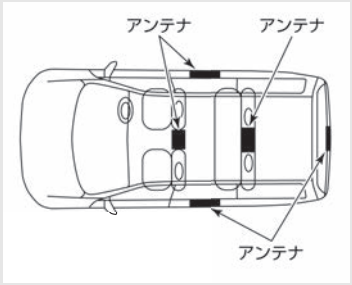
インテリジェントキーに関する注意事項

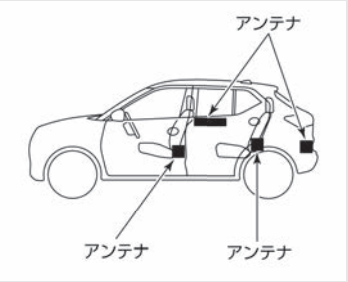
⚠ 警告

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

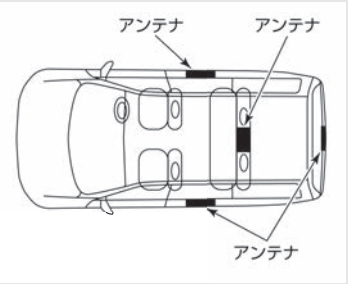
  ドアおよびバックドア開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、e-POWERシステム始動時などにキーの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

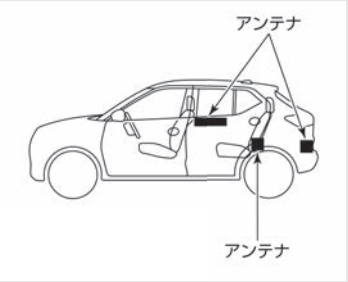
  4WD車





2WD車





⚠ 警告

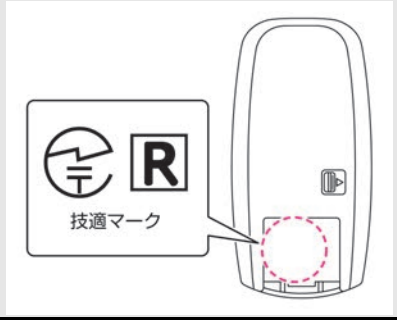
- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

- **航空機内ではキーのスイッチを押さない。**

  万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

- **キーの認証技適マークはキーの裏面で確認できます。**



アドバイス

- キーは運転者が必ず携帯してください。
- キーは、必ず内蔵キー（メカニカルキー）を内蔵した状態で携帯してください。
- キーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるときの衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。
- インストルメントパネル上面、ドアポケット付近、グローブボックス内、フロア上では、キーが正しく作動しなかったり、車外から施錠ができ、キーを車室内に封じ込めたりするおそれがあります。
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。
- キーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、ドアハンドルのスイッチやキーのスイッチが正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき
  - 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
  - キーが金属製の物に接したり、覆われたりしているとき
  - 近くで電波式のリモコンスイッチを操作しているとき
  - キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
  - 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
  - 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）
- キーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  - 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
  - 日本国内のみで使用する
- キーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

  インテリジェントキーの電池交換 (P.309)
- キーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- キーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  - 長時間高温になる場所に置かない

アドバイス

— 分解しない

— 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない

— 水にぬらさない

— 超音波洗浄器などにかけない

— 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけない

— テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない

● 降車時オートロック機能で車両を施錠した場合、施錠されたことをアンサーバック機能（➔P.86）で確認してください。アンサーバック機能が作動しない場合、正しく施錠できていません。

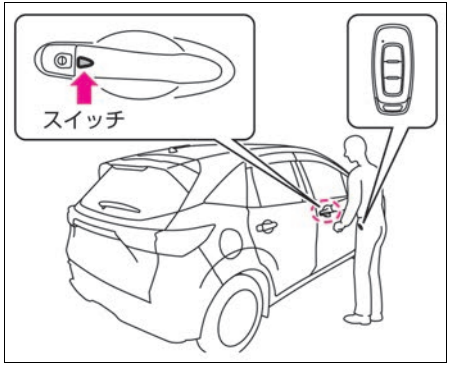
ドア

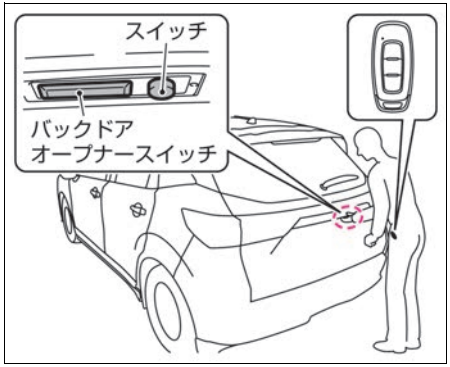
ドアハンドルのスイッチやインテリジェントキーのスイッチで施錠・解錠します。施錠したあとは、必ず施錠されていることを確認してください。

ドアハンドルのスイッチでの施錠・解錠のしかた

- インテリジェントキーを携帯し、運転席、助手席ドアまたはバックドアにあるスイッチを押すと全ドアが施錠・解錠します。
- インテリジェントキーが各スイッチから周囲80cm以内にあるときに作動します。
- 施錠・解錠したときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅





アドバイス

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 急にドアハンドルを操作すると、ドアハンドルが引かれるため、施錠できないことがあります。

知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ロック」⇒「keyエントリー」を選択すると、ドアハンドルのスイッチでの施錠・解錠機能のON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、車両設定をお読みください。

  ➔ 画面の切り替えかた (P.55)

  ➔ 車両設定 (P.71)
- 次のような場合は、作動しません。
  - e-POWERシステムが作動しているとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - インテリジェントキーが施錠・解錠の作動範囲内にないとき
  - インテリジェントキーの電池が切れているとき
- パワースイッチがONのとき（走行可能表示灯 🚗 が消灯時）にドアハンドルのスイッチを押して施錠すると、ドアが施錠されパワースイッチはOFF（ACC状態）になります。

知識

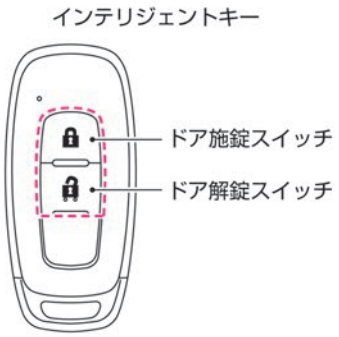
オートロック機能

- 盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。ドアハンドルのスイッチを押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

インテリジェントキーのスイッチでの施錠・解錠のしかた

- 全ドアを施錠するときは、ドア施錠スイッチ を押します。
- 全ドアを解錠するときは、ドア解錠スイッチ を押します。
- 作動範囲は、車両から約1mです。
- 施錠・解錠をしたときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅



知識

- キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。日産販売会社にご相談ください。

  インテリジェントキーの電池交換 (P.309)

- キーの電池が切れ、施錠・解錠ができないときは、内蔵キー（メカニカルキー）で施錠・解錠ができます。

  内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた (P.259)

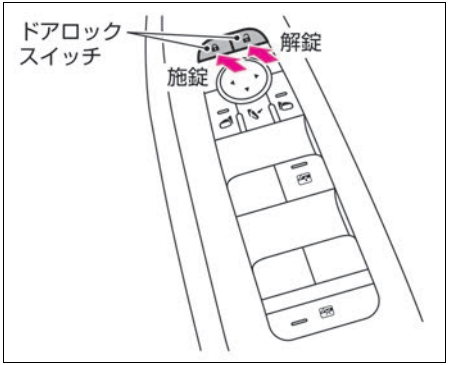
- 次のような場合は、キーのスイッチを押しても作動しません。
  - e-POWERシステムが作動しているとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき（解錠のみできます）
  - 車から離れすぎているとき
  - キーの電池が切れているとき
- パワースイッチがON（走行可能表示灯 が消灯時）のときにドア施錠スイッチ を押すと、ドアが施錠されパワースイッチはOFF（ACC状態）になります。

オートロック機能

- 盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。ドア解錠スイッチを押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

- 施錠するときは、施錠側 のドアロックスイッチを押します。
- 解錠するときは、解錠側 のドアロックスイッチを押します。

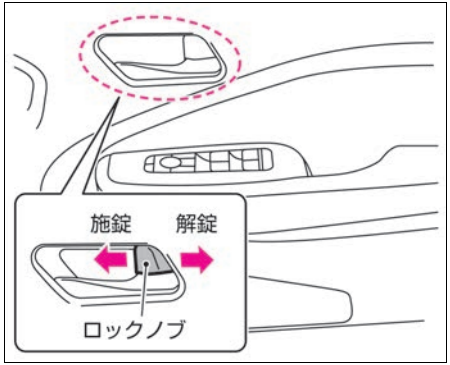


知識

- ドアロックスイッチを押すと、全ドアが施錠または解錠します。
- ドアが開いているときは、ドアロックスイッチでの施錠はできません。

ロックノブでの施錠・解錠のしかた

- 施錠するときは、施錠するドアのロックノブを施錠側に押し込みます。
- 解錠するときは、解錠するドアのロックノブを解錠側に引きます。



知識

- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが同時に解錠します。

インテリジェントキーを使用しない施錠のしかた

運転席ドア

- ロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。

助手席・後席ドア

- ロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。

チャイルドセーフティドアロック

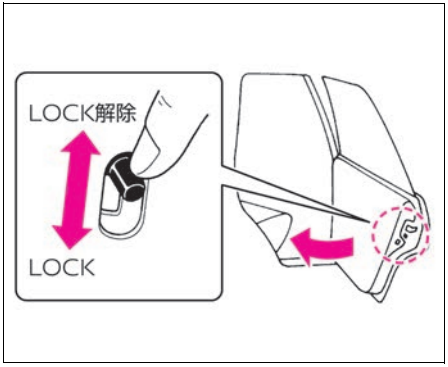
後席シートに乗せたお子さまなどが、誤って後席のドアを開けないようにロックできます。

ロックするには

- 後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。

ドアを開けるには

- 解錠しているとき、車外からドアハンドルを引きます。



知識

- 車室内から開けるときは、ドアロックノブが解錠していることを確認し、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **ドアの開閉はお子さまにはさせない。**
  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- **走行する前にドアを確実に閉める。**
  走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ずe-POWERシステムを止め施錠してください。**

知識

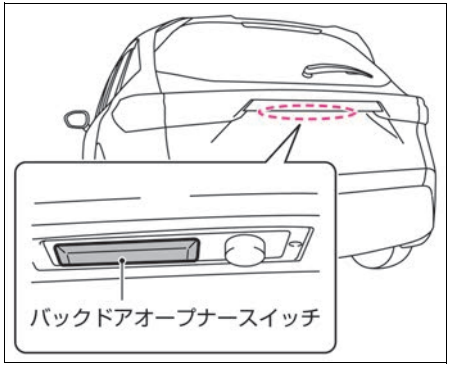
インテリジェントキー封じ込み防止機能

- インテリジェントキーを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。ドアを閉めたときや施錠しようとしたときに、キーが車室内に残っているとブザーでお知らせたり、全ドアを自動的に解錠したりします。

バックドア

バックドアの開けかた

- 解錠されているときは、バックドアオープナースイッチを押し、バックドアを持ち上げます。
- 施錠されているときは、インテリジェントキーを携帯してバックドアオープナースイッチを押し、バックドアを持ち上げます。（全ドアも同時に解錠します。）

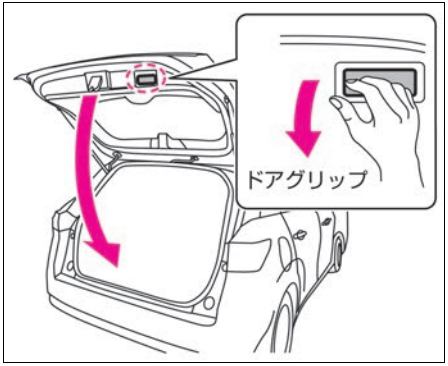


アドバイス

- バックドアオープナースイッチを押したまま、インテリジェントキーのスイッチでドアを施錠・解錠しないでください。故障の原因になります。
- 手を添えないと全開にならない場合は、ガスステーの保持力が低下しているおそれがあります。お近くの日産販売会社にて、早めに点検を受けてください。

バックドアの閉めかた

- ドアグリップを持ってバックドアを降ろし、確実にロックするまで押し付けます。



アドバイス

- バックドアを閉めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやバックドアのロックが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。



バックドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **バックドアの開閉はお子さまにはさせない。**

  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **バックドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**

  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。

- **走行する前にバックドアを確実に閉める。**

  走行中に突然バックドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しない。**

  急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **走行前にバックドアが確実に閉まっていることを確認する。**

  バックドアを開けたまま走行すると、車室内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **バックドアや車体側に手を触れたままバックドアを閉めない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。

- **バックドアを開けるときは、必ず全開にする。**

  途中で止めると突然閉まるおそれがあります。

- **バックドアを閉めるときは、バックドアのふちやその周辺に手をかけない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。手で閉める際は、必ず外から押して閉めてください。

- **バックドアを開ける前に、バックドアに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除く。**

  重量物が付いたままバックドアを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。

- **風が強いときにバックドアを開ける場合は特に注意する。**

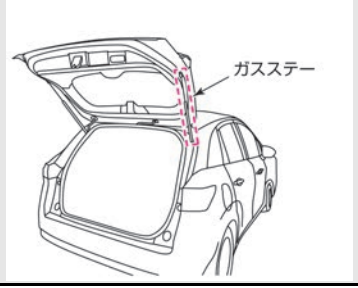
  風にあおられ、急に閉まることがあります。

- **バックドアを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。**

バックドアガスステーについて

- **バックドアのガスステーは、バックドアの重量を支えるために取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。**
  - ― ガスステーに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない
  - ― ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をロッド部に付着させない
- **ガスステーを持って、バックドアを閉めたり、ぶら下がったりしない。**

  手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。



後席リマインダー

後席リマインダーは、人や荷物を後席に置き去りにしないように、運転者が降車する前にお知らせする機能です。

後席リマインダーについて

●走行前に後席ドアを開閉すると、システムがONになりアドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されます。
➔後席リマインダー作動開始表示 (P.284)

●後席ドアを開閉してから10分以内に車両を発進させると、走行後にシフトポジションを**P**に切り替えたとき、ブザーとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイにメッセージが表示されます。
➔後席リマインダー表示 (P.284)

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「後席リマインダー」を選択すると、後席リマインダーのON・OFFを切り替えることができます。（工場出荷時はOFFに設定されています。）
設定の詳細については、車両設定（➔P.71）をお読みください。

📖 知識

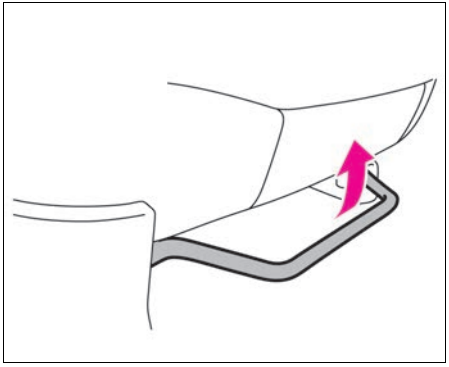
- 後席リマインダーは、後席ドアの開閉状況に応じ、後席に人や荷物を置き去りにする可能性がある場合にお知らせする機能なので、後席に人や荷物を乗せていなくても作動する場合があります。
- 次の例のような状況では、後席リマインダーが作動しません。
  - ― 前席ドアのみを開閉し、車内で後席に荷物などを置いた場合
  - ― 走行後、シフトポジションを**P**に切り替えたあと、後席に人や荷物を乗せた場合
  - ― 後席ドアの開閉後に車両が走行しなかった場合

前席シート

シートの調節のしかた

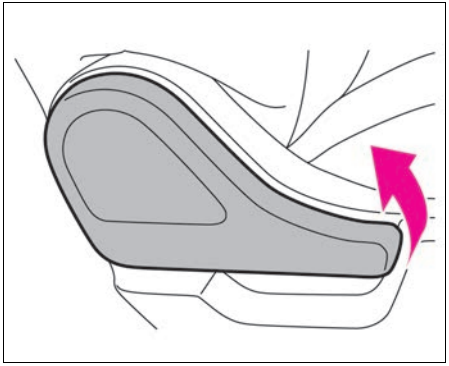
■ 前後位置の調節（スライド）

●レバーを引いたまま、調節したい方向にシートを動かします。



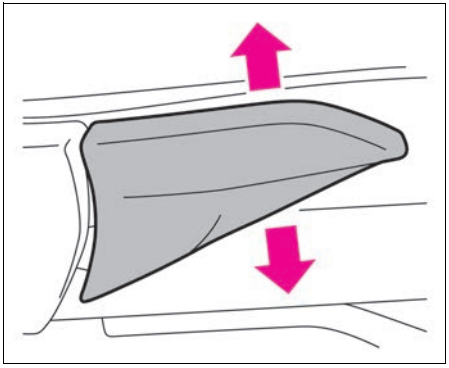
■ 背もたれの角度調節（リクライニング）

●レバーを引いたまま、調節したい方向に背もたれを動かします。



■ 上下位置の調節（リフター（運転席））

●レバーを繰り返し操作して調節します。



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションなどを使用すると、シートベルトリマインダーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

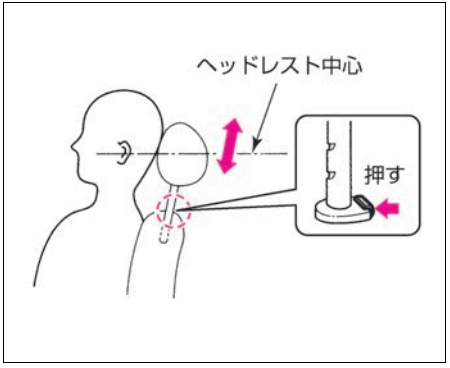
  シートベルトリマインダー
  （P.266）

ヘッドレストの調節のしかた

ヘッドレストの中心が、耳の高さになる位置に調節します。

●高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。

●低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。



警告

- **ヘッドレストを外したまま走行しない。**

  万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

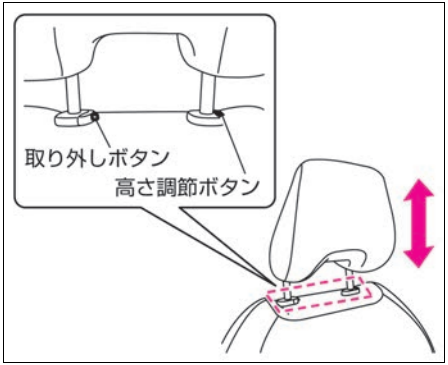
- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

●取り外すときは、ヘッドレストを最上段まで引き上げたあと、高さ調節ボタンを押しながらさらに引き上げます。取り外しボタンが飛び出るので、取り外しボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

●取り付けるときは、ヘッドレストを取り付け穴に合わせ、止まるところまで確実に押し下げます。



注意

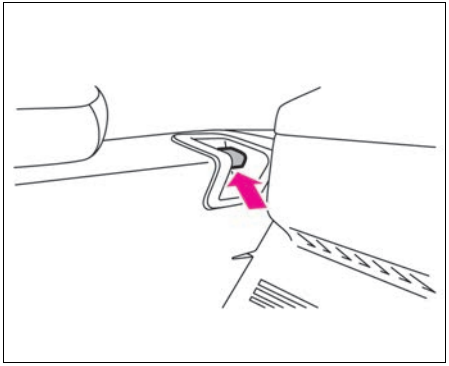
- **取り外しボタンが飛び出た状態の位置で使用しない。**

後席シート

シートの調節のしかた

■ 背もたれの角度調節（リクライニング）

●レバーを押したまま、調節したい方向に背もたれを動かします。



■ 背もたれの倒し方

●レバーを押しながら、背もたれを前方に倒します。

⚠ 警告

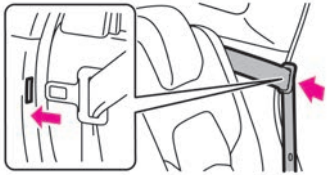
- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

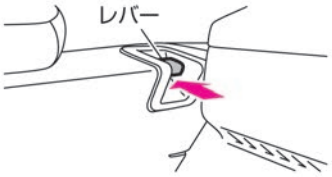
- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

シートの折りたたみかた

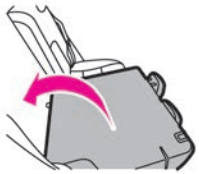
1. 後席左右のシートベルトは、後席シート脇のシートベルト差し込み用の穴にシートベルトのタングを差し込んで固定します。



2. 折りたたみたい方のレバーを押しながら、背もたれを前に倒します。



3. 元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押し付けてロックします。



⚠ 警告

- **シートは必ず固定する位置で使用する。**

⚠ 注意

- **シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。**
  シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。
- **背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻す。**
  急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれで挟み込んでいないことを確認する。**
  挟み込まれていると、シートベルトが正しく着用できません。

アドバイス

- 物や飲物などを置いたままシートを折りたたむと、物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。シートを倒すと きは十分に注意してください。

アドバイス

- ラゲッジルーム（荷室）に荷物を積むときは、シートベルトに傷をつけないように注意してください。
- 前席シートに当たりシートが折りたためないときは、ヘッドレストを格納するか、前席シートの前後位置を調節してください。
- 背もたれを元に戻したとき、レバーの赤い部分が見える場合は、シートが正しくロックされていません。

ヘッドレストの使いかた

⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。
- **後席中央席のヘッドレストは、ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認する。**

  格納状態では機能が十分に発揮できません。

●ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。

— 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。

— 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。

アドバイス

- 後席シートのヘッドレストは、格納状態では機能が十分に発揮できません。ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してください。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

●取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

●取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

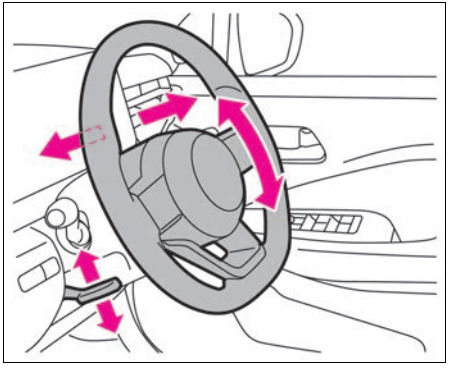
ハンドルの調節

ハンドル

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドル位置を調節してください。

ハンドル位置の調節のしかた

- ハンドル左下のレバーを押し下げ、ハンドルを前後・上下に動かします。
- 適切な位置で止め、レバーを引き上げて固定します。



⚠ 警告

- **ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。**

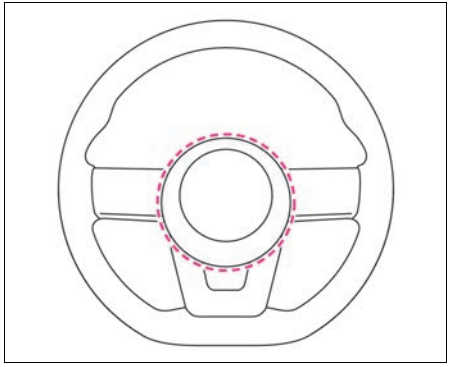
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**

  ハンドル位置が固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ホーンの鳴らしかた

ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ルームミラー★

ルームミラーは、後方が十分確認できるように、正しい運転姿勢で座ってから調節してください。

ルームミラーの調節のしかた

- ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。
- 夜間など後続車のヘッドランプがまぶしいときは、防眩切り替えレバーを手前に引くと反射が弱くなります。
- 昼間など通常走行時は、防眩切り替えレバーを元の位置に戻してお使いください。



⚠ 警告

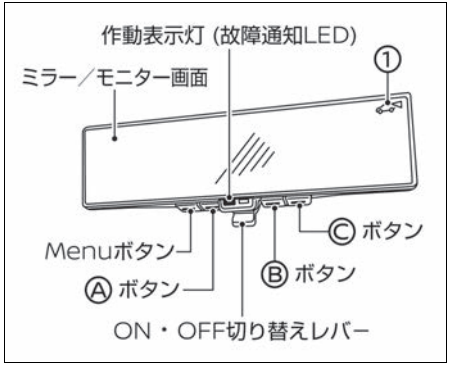
- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行う。**

走行中にミラーを調節したり、不必要に防眩へ切り替えたりしていると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

インテリジェント ルームミラー★

乗員、ヘッドレスト、積載物などでさえぎられがちなルームミラーの後方視界をクリアに保ちます。車室内の状況に関わらず、車両後方にあるカメラの画像をルームミラーに映し出します。ON・OFF切り替えレバーでミラー状態とモニター表示状態を切り替えることができます。

インテリジェント ルームミラーの使いかた



📖 知識

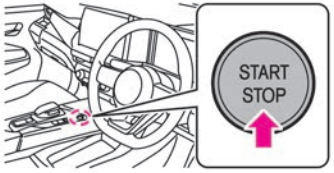
ルームミラーモード

- ミラーとして使用します。

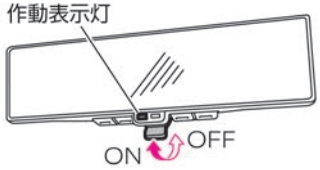
インテリジェント ルームミラーモード

- モニターとして使用します。
  （インテリジェント ルームミラーモードのときは作動表示灯が点灯し、①が表示されます。）

1. パワースイッチをONにします。



2. インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを手前に引きます。
   （作動表示灯が点灯）



3. インテリジェント ルームミラーモードに切り替わり、モニターに車両後方の画像が表示されます。
   インテリジェント ルームミラーのON・OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、モニター画面がOFFになり、ルームミラーモードとして使用できます。

知識

- 周囲の明るさにより見づらかったり、まぶしく感じたときはインテリジェント ルームミラーモードをOFFにし、ルームミラーモードでご使用ください。
- メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、パワースイッチがONのときにⒶボタンを押すか、シフトポジションを**R**にすると、インテリジェント アラウンドビューモニター画面が表示されます。

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）★ (P.221)

インテリジェント ルームミラーの画像調節

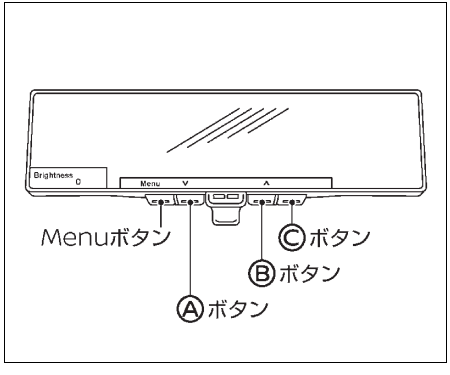
インテリジェント ルームミラーモードで、インテリジェント アラウンドビューモニター画面★を表示していないときにモニター画像の各種調節ができます。

Menuボタンを押すと調節できる項目が表示されます。Ⓐ・Ⓑボタンで選択し、Ⓒボタンで調節する項目を決定します。

■ Brightness（明るさ）

モニター画像の明るさを調節します。
（周囲の明るさにより、画面の明るさが調節できなくなる場合があります。）

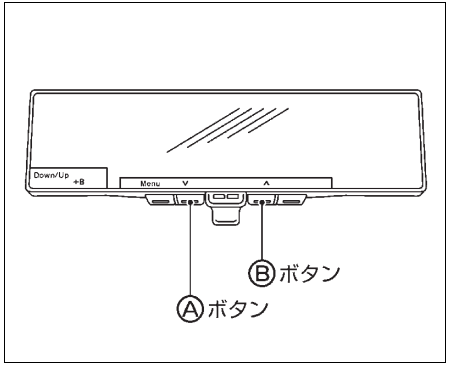
- Ⓐボタンを押すと、画面が暗くなります。
- Ⓑボタンを押すと、画面が明るくなります。
- 調節幅：-8（暗い）～+8（明るい）



■ Down/Up（下／上）

モニター画像の上下位置を調節します。

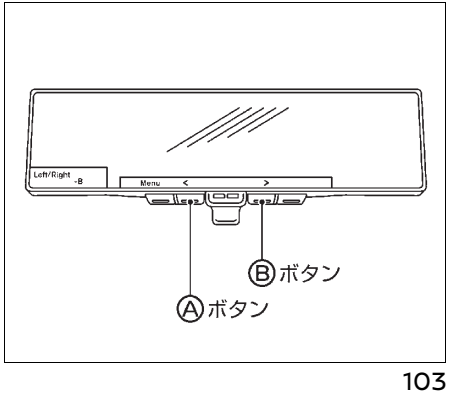
- Ⓐボタンを押すと、画像が下に移動します。
- Ⓑボタンを押すと、画像が上に移動します。
- 調節幅：-8（下方向）～+8（上方向）



■ Left/Right（左／右）

モニター画像の左右位置を調節します。

- Ⓐボタンを押すと、画像が左に移動します。
- Ⓑボタンを押すと、画像が右に移動します。
- 調節幅：-8（左）～+8（右）

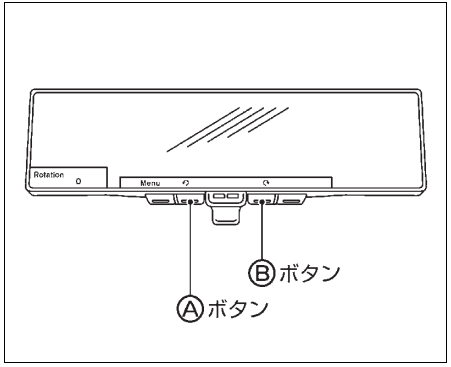


ミラーの調節

■ Rotation（回転）

モニター画像位置の回転調節をします。

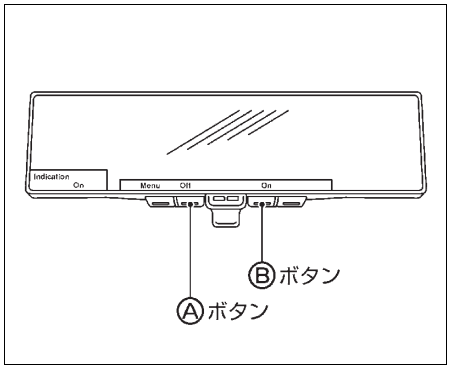
- Ⓐボタンを押すと、画像が左に回転します。
- Ⓑボタンを押すと、画像が右に回転します。
- 調節幅：-8（左回り）～+8（右回り）



■ Indication（インジケーター）

モニター文字表示の表示・非表示を設定します。

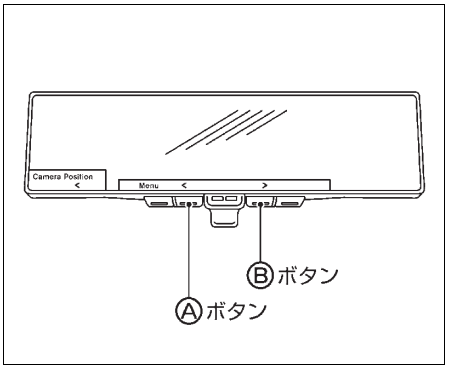
- Ⓐボタンを押すと、モニター文字表示が非表示になります。
- Ⓑボタンを押すと、モニター文字表示が表示されます。



■ Camera Position（カメラ表示位置）★

インテリジェント アラウンドビューモニター画面の表示位置を切り替えます。

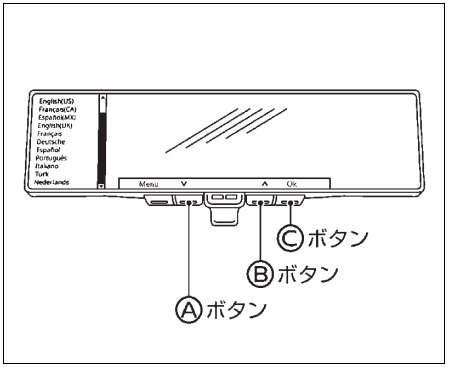
- Ⓐボタンを押すと、インテリジェント アラウンドビューモニター画面がミラーの左側表示になります。
- Ⓑボタンを押すと、インテリジェント アラウンドビューモニター画面がミラーの右側表示になります。



■ Language（言語）

表示させる言語を切り替えます。

- Ⓐ・Ⓑボタンで選択し、Ⓒボタンで決定します。



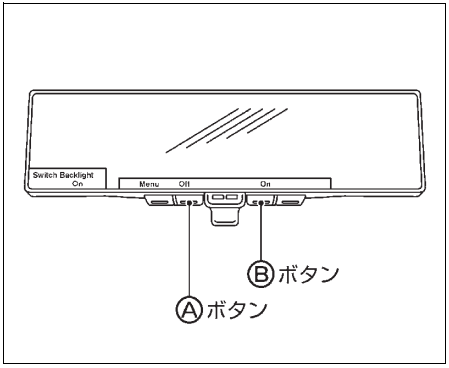
■ Switch Backlight（スイッチ照明）

スイッチの照明のON・OFFを設定します。

ミラーの調節

●Ⓐボタンを押すと、スイッチの照明がOFFになります。

●Ⓑボタンを押すと、スイッチの照明がONになります。



■ License（ライセンス）

ライセンス情報が表示されます。

インテリジェント ルームミラー使用時の注意事項

⚠ 警告

- **走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。**

ルームミラーモード（ミラー状態）にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、インテリジェント ルームミラーモード（モニター表示状態）にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。

- **インテリジェント ルームミラーモードのときに作動表示灯が消灯したら、すみやかにルームミラーモードに切り替える。**

  再度インテリジェント ルームミラーモードにしても点灯しない場合、システムの異常が考えられます。日産販売会社にご相談ください。

- **あらかじめ死角範囲を確認する。**

  インテリジェント ルームミラーには死角があります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。

- **ミラー本体やカメラ、配線を分解したり改造したりしない。**

  異臭がする、煙が出るなどした場合は、ただちに使用を中止し日産販売会社にご相談ください。

- **走行中に操作しない。**

  走行中に操作を行うと、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ミラー本体、カメラ、配線類にはタバコなどの火気を近づけない。**

  破損や車両火災の原因となります。

⚠ 注意

- **モニターを凝視しない。**
  - 前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 同乗者が凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。
- **太陽や後方車両のヘッドランプなどの強い光源がカメラに入ると、インテリジェント ルームミラーのモニターに光のスジが入ったり、明るい光源がモニター上に広がったりする場合があります。その際には、必要に応じてルームミラーモードに戻してご使用ください。**

アドバイス

- 走行可能表示灯 ⇄ が消灯時にインテリジェント ルームミラーを長時間使用すると12Vバッテリーがあがるおそれがあります。
- 無線機のアンテナをインテリジェント ルームミラー近くに取り付けないでください。無線機の電波により、インテリジェント ルームミラーの映像に乱れが出ることがあります。
- ボタンを強く押しすぎたり、レバーを強く操作したりすると故障の原因となります。また、ミラー本体が落下するおそれがあります。
- ミラーを上下20度、左右30度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。

アドバイス

- ミラー本体に強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 車両後方についているカメラやカメラカバーに無理な力をかけないでください。カメラが外れたり、故障するおそれがあります。
- 外部光による影響でモニターが見えにくいときは、ルームミラーモード（ミラー状態）にして使用してください。
- LED光源を使用した照明の一部が映った場合、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 外部環境の乱反射により、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 素早い動きにはモニター表示が追従できない場合がありますが、故障ではありません。
- ルームミラーとは後方の見えかたが異なります。インテリジェント ルームミラーの機能を過信せず、直接後方を確認するなど、責任のある運転を心がけてください。
- モニターの明るさを明るく調節し過ぎると、運転中に目が疲れることがあります。明るさを適切に調節してください。
- 雨天時はリヤワイパーを併用してください。リヤワイパーを併用してもカメラ映像が不鮮明の場合、リヤワイパーゴムの劣化を確認してください。
- リヤワイパー使用中は、カメラ前をリヤワイパーが通過した際に、画面がちらつくように見える場合がありますが、故障ではありません。
- カメラ映像が不鮮明な場合は、インテリジェント ルームミラーカメラ前面のバックドアガラスを清掃してください。清掃してもカメラ映像が不鮮明な場合は、ガラス面に油膜が付いているおそれがあります。油膜取りを使用して清掃してください。

  ➔外観リヤ (P.4)

  ➔インテリジェント ルームミラー★のお手入れ (P.318)
- バックドアガラスがくもった場合は、リヤウインドーデフォッガーを使用し、バックドアガラスのくもりを取ってください。くもりが完全に取れるまでルームミラーモードで使用してください。

  ➔リヤガラスのくもりの取りかた (P.289)
- インテリジェント ルームミラーのモニターが熱を帯び、高温になることがありますが、故障ではありません。
- 遠いものや暗いときは色が認識しにくいことがありますが、故障ではありません。
- インテリジェント ルームミラーのお手入れについては（➔P.318）をお読みください。
- 体調などによりインテリジェント ルームミラーモードの映像に焦点が合うまでに時間を要する場合があります。
- インテリジェント ルームミラーの前方をふさがないでください。モニターの明るさ調整やカメラ映像の切り替えができないことがあります。
- インテリジェント ルームミラーモードのとき、インテリジェント ルームミラーが高温になると明るさが低下したり、映像が表示されない場合があります。
- インテリジェント ルームミラーモードのとき、インテリジェント ルームミラーが低温になるとカメラ映像が遅れることがあります。

ドアミラー

パワースイッチがONまたはOFFでACC状態のときに操作できます。ACC状態については、オートACC機能（➔P.124）をお読みください。

ドアミラーの注意事項

⚠ 警告

- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**

ミラーの調節

⚠ 警告

走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ミラーが動いているときは手を触れない。**

  手を挟む、またはミラーが故障するおそれがあります。
- **ミラーを格納したまま走行しない。**

  後方確認ができないため危険です。

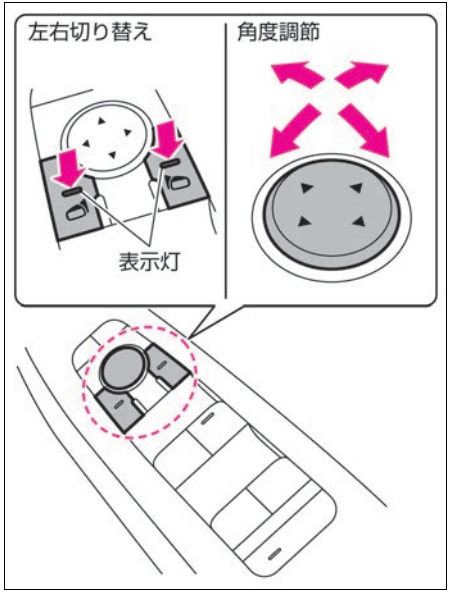
アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。
- 凍結したままミラーを作動させないでください。

  寒冷時にドアミラーが正常に作動しない場合は、ドアミラー内部が凍結している可能性があるため、そのまま作動を繰り返すと故障の原因となります。

ドアミラーの角度調節のしかた

- 調節したいミラー側の左右切り替えスイッチを押します。（スイッチの表示灯が点灯）
- 角度調節スイッチを前後左右に押して、鏡面角度を調節します。



ドアミラーの格納のしかた

- スイッチを押すと、左右のミラーが格納します。
- スイッチをもう一度押すと、元の位置に戻ります。



アドバイス

- 手動でミラーを開閉しないでください。手動で開閉すると、走行中にミラーが規定位置より前方または後方に倒れ、後方確認ができなくなるおそれがあります。手動で開閉してしまったときは、走行前にスイッチで開閉操作を行ってください。

知識

- スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉するとパワースイッチをONにしたとき、格納スイッチの位置によりミラーが動き出すことがあります。

ドアロック連動格納機能について

ドアの施錠に連動させ、ミラーを格納することができます。

- リモコンまたは、ドアハンドルのスイッチで施錠すると、左右のミラーが格納されます。
- パワースイッチをONにすると、左右のミラーが開きます。
  （アドバンスドドライブアシストディスプレイで、リモコンまたはドアハンドルのスイッチで解錠すると、左右のミラーが開く設定に変更できます。）

アドバイス

- ドアミラーが正常に作動しない寒冷時は、ドアロック連動格納機能をOFFにしてください。

  寒冷時にドアミラーが正常に作動しない場合は、ドアミラー内部が凍結している可能性があるため、そのまま作動を繰り返すと故障の原因となります。

知識

- ドアミラー格納スイッチを押してミラーを格納したときは、ドアロック連動格納機能は作動しません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ドアミラー」を選択すると、ドアロック連動格納機能の設定を変更することができます。

設定の詳細については、車両設定をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)

➔車両設定 (P.71)

ドアミラーヒーター★の使いかた

- 走行可能表示灯 が点灯しているとき、リヤウインドーデフォッガースイッチ（➔P.289）を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し、霜やくもりが取れます。

窓ガラスの開閉

パワーウインドー

パワースイッチがONのとき操作できます。

パワーウインドーの注意事項

⚠ 警告

- **乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**
  - ― 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながったりするおそれがあります。
  - ― 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - ― お子さまにはパワーウインドーを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、パワーウインドーロックスイッチを押し込んでください。
  - ― 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。
  - ― 車から離れるときはパワースイッチをOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **指などを挟まれないように注意する。**
  窓ガラスには挟み込み防止機構がありますが、窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

パワーウインドーの開けかた、閉めかた

運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。助手席のスイッチおよび後席のスイッチでは自席の窓ガラスの開閉ができます。

- スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。
- スイッチを軽く引き上げると、引き上げている間だけ閉まります。

自動開閉するには

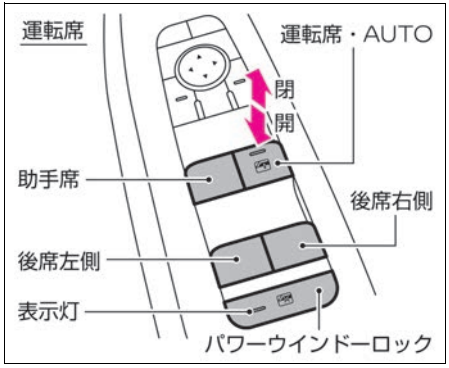
運転席の窓ガラスはワンタッチで自動開閉できます。

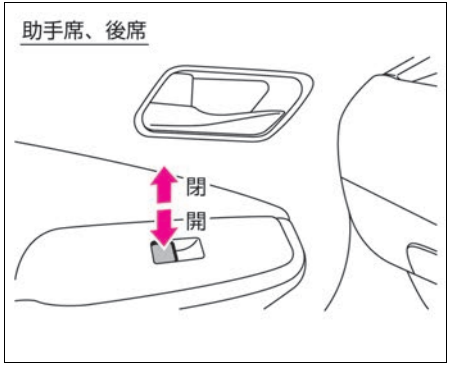
- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引き上げます。

開閉操作をロックするには

お子さまが誤って窓ガラスを開閉することを防止できます。

- パワーウインドーロックスイッチを押すと、運転席以外の窓ガラスの開閉ができなくなります。（スイッチの表示灯が点灯）
- スイッチをもう一度押すとロックが解除されます。（スイッチの表示灯が消灯）





アドバイス

キーOFF後作動機構

- 運転席の窓ガラスは、パワースイッチをOFFにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、その約45秒間に運転席ドアまたは助手席ドアを開けると、窓ガラスの開閉はできなくなります。

挟み込み防止機構

- 窓ガラスを閉めているとき、車体と窓ガラスの間に異物が挟まると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し開きます。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると挟み込み防止機構が作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを閉めることができないときは、次の手順で挟み込み防止機構を解除して、窓ガラスを閉めてください。

① 挟み込み防止機構が作動するまでスイッチを引き上げます。
② ①の手順を2回繰り返します。
③ スイッチを引き続けて窓ガラスを閉めます。

⚠ 警告

- **窓ガラスを閉める前に乗員の手や顔などが窓から出ていないことを確認する。**

  挟み込み防止機構を解除すると、自動開作動と挟み込み防止機構が作動しません。確認せずに窓ガラスを閉めると重大な傷害につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機構の解除は次の場合に終了し、通常の作動に戻ります。
  - ― 一定時間（約10秒）経過する
  - ― 窓ガラスを全閉する

正常に作動しないとき

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。

窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないときは、次の操作を行い初期設定してください。

① パワースイッチをONにします。
② 運転席のスイッチを引き続けて運転席窓ガラスを全閉にしたあと、スイッチから手を離します。※1
③ 運転席のスイッチを5秒以上引き続けます。※2
④ 運転席のスイッチを押し続けて運転席窓ガラスを全開にしたあと、スイッチから手を離します。
⑤ 運転席のスイッチを5秒以上押し続けます。※2
⑥ 運転席窓ガラスが全閉するまで、運転席のスイッチを引き続けます。
⑦ 運転席窓ガラスを自動開閉させて、正常に作動することを確認します。

※1：全閉になる前に窓ガラスが停止した場合は、スイッチから手を離し、再度スイッチを引き続けて全閉にしてください。

※2：約5秒以上スイッチを引き続ける、または押し続けると再度運転席窓ガラスが動きます。

- 初期設定にしても正常に作動しない場合は早めに日産販売会社で点検を受けてください。

燃料補給口の開閉

燃料補給口

燃料補給口は運転席側の車両後方にあります。

燃料の補給

●燃料タンクの容量は約36 ℓ です。

エンジン型式	指定燃料
HR12DE	無鉛レギュラーガソリン

アドバイス

- 指定以外の燃料は補給しないでください。

知識

- 燃料が少なくなるとアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されます。

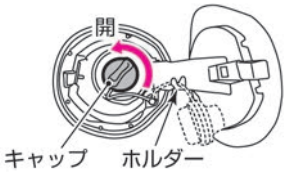
  警告メッセージ（➔P.273）

燃料補給のしかた

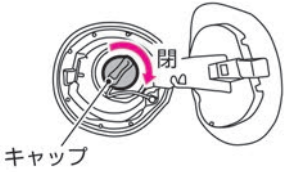
1. 運転席右下にあるオープナーを引きリッドを開けます。



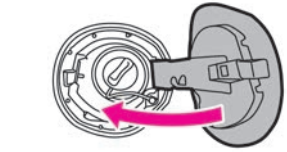
2. キャップを左にゆっくり回して開けます。
   補給時、キャップのひもはリッド裏側のホルダーに引っ掛けます。



3. 閉めるときは、キャップを“カチッ”と、音がするまで右に回して閉めます。



4. リッドを閉めます。



⚠ 警告

- **キャップは確実に閉める。**

  閉まっていないと走行中に燃料が漏れ、火災につながるおそれがあります。

- **日産純正品以外のキャップは使用しない。**

燃料補給時の注意事項

⚠ 警告

- **燃料補給時は、次のことを必ず守る。**
  - — e-POWERシステムを停止する
  - — 車のドアや窓を閉める
  - — タバコなどの火気を近づけない
  - — 気化した燃料を吸わない
- **補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去する。**

  放電による火花でやけどをしたり、燃料に引火したりするおそれがあります。
- **補給作業はひとりで行う。**

  作業中に車室内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。
- **キャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外す。**

  急に開けると、燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- **給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。**

  給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。

燃料補給口の開閉

⚠ 警告

- **給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしない。**

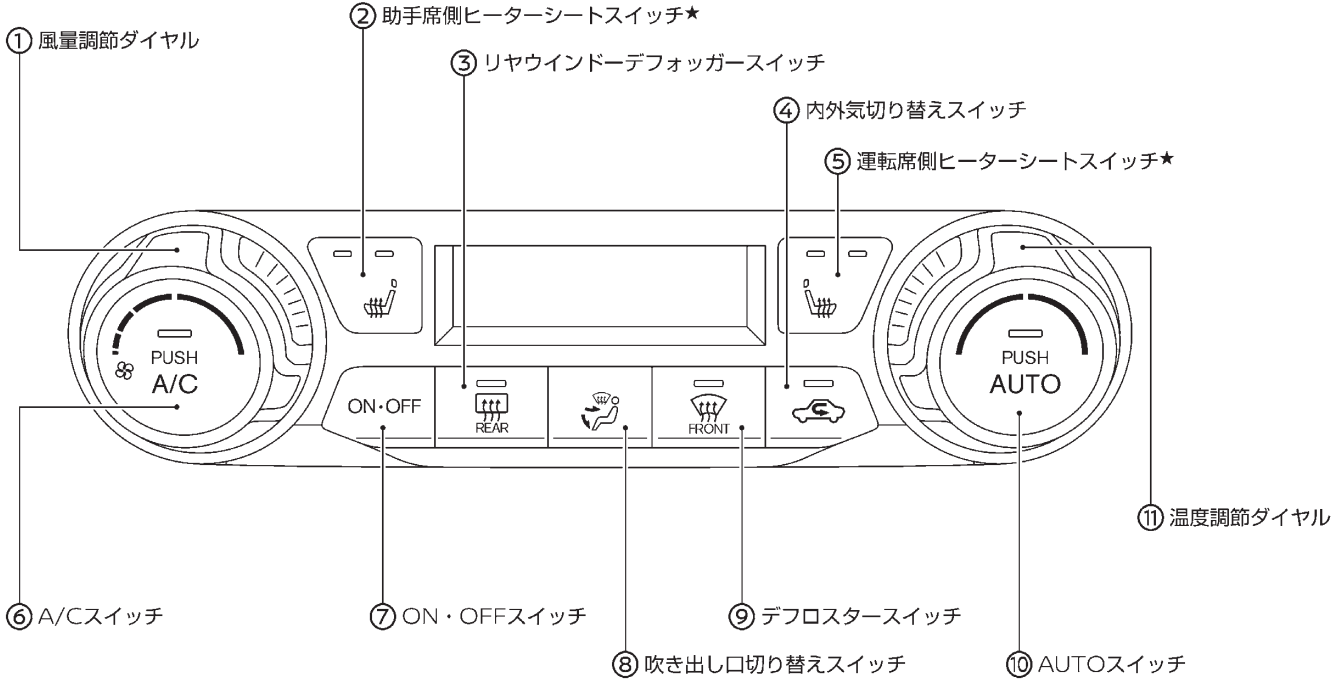
  継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る。**

エアコンの操作

オートエアコン

吹き出し温度、吹き出し口、風量を自動で制御し、設定した温度に保ちます。また、内気循環／外気導入を自動制御モードに設定することで自動制御に切り替えます。

各スイッチの名称と機能



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エアコンの操作

① **風量調節ダイヤル**
ダイヤルを回して風量を切り替えます。

② **助手席ヒーターシートスイッチ★（P.245）**
スイッチを押すごとに、Hi→Lo→OFF→Hiの順に切り替わります。

③ **リヤウインドーデフォッガースイッチ（P.289）**
バックドアガラスのくもりが取れます。また、ドアミラーヒーター付車はドアミラーに内蔵されたヒーターが作動して、霜やくもりが取れます。

④ **内外気切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに、内気循環、外気導入が切り替わります。（内気循環のとき、スイッチの表示灯が点灯します。）

⑤ **運転席ヒーターシートスイッチ★（P.245）**
スイッチを押すごとに、Hi→Lo→OFF→Hiの順に切り替わります。

⑥ **A/Cスイッチ**
冷房・除湿機能のON・OFFを切り替えます。

⑦ **ON・OFFスイッチ**
オートエアコンのON・OFFを切り替えます。

⑧ **吹き出し口切り替えスイッチ（P.116）**
吹き出し口を切り替えます。

⑨ **デフロスタースイッチ（P.289）**
フロントガラスのくもりが取れます。

⑩ **AUTOスイッチ**
自動制御に切り替えます。吹き出し温度、吹き出し口、風量の切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。

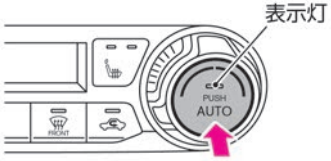
⑪ **温度調節ダイヤル**
ダイヤルを回して設定温度を切り替えます。（Lo 18.0℃～Hi 32.0℃）

知識

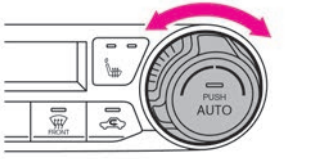
- 温度調節ダイヤルを回して設定温度をHiに切り替えると、エンジンを制御して車室内が早く温まるように暖房を優先するモードに切り替わります。

オートでの使いかた

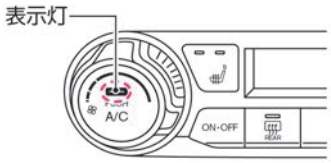
1. AUTOスイッチを押します。
（スイッチの表示灯が点灯）



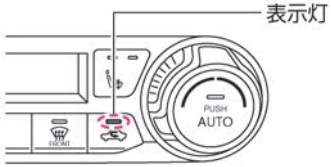
2. 温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。
右回し： 設定温度を上げる
左回し： 設定温度を下げる



3. A/Cスイッチの表示灯が消灯しているときは、A/Cスイッチを押します。
（スイッチの表示灯が点灯）
A/Cスイッチ点灯時：冷房・除湿機能ON



4. 内外気切り替えスイッチを約2秒間押し続けます。
スイッチの表示灯が点滅すると、自動制御モードに切り替わります。



知識

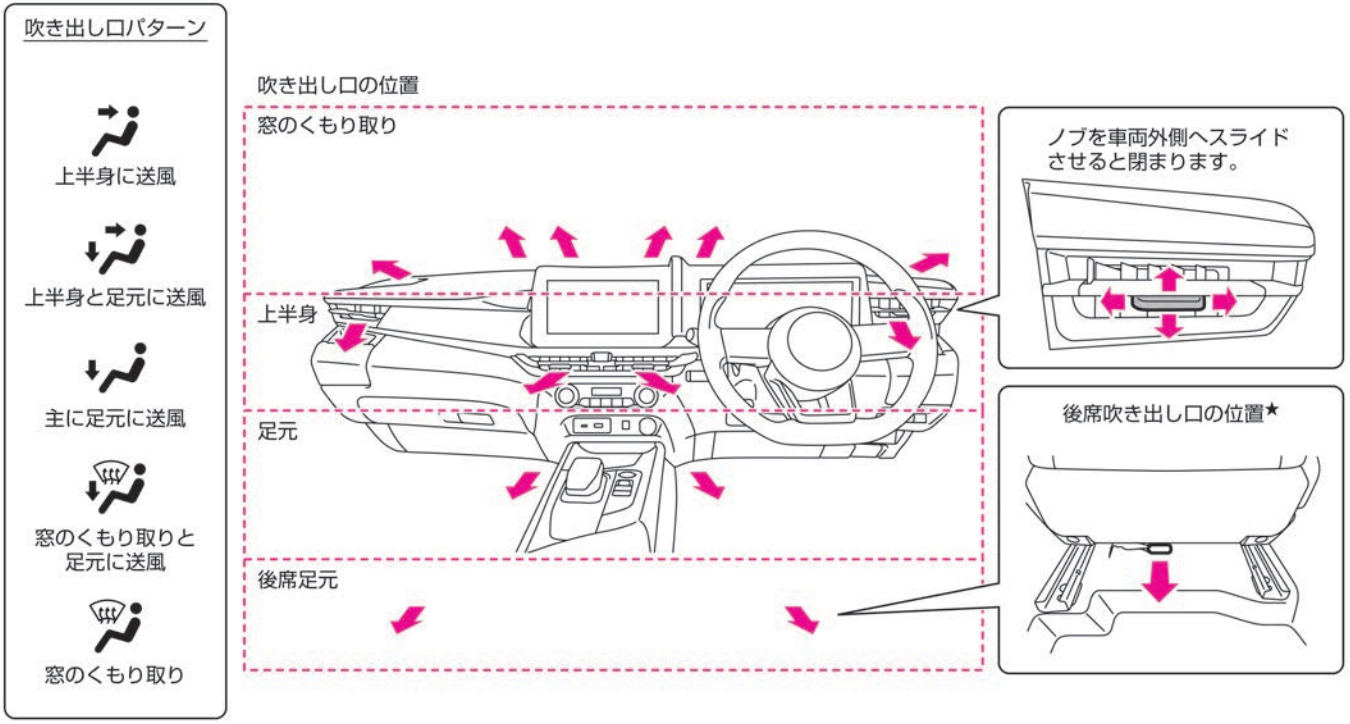
- オートで使用中に風量の調整または吹き出し口の切り替えを行うとAUTOスイッチの表示灯は消灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。

  また、内気循環／外気導入が自動制御モード中に内外気切り替えスイッチを押すと、マニュアルモードに切り替わります。（スイッチの表示灯が点灯の場合は内気循環、消灯の場合は外気導入の状態になります。）

- パワースイッチをOFFにし、再度パワースイッチをONにすると、エアコンの条件によっては、内気循環／外気導入が自動制御モードになる場合があります。

吹き出し口

吹き出し口切り替えスイッチまたはデフロスタースイッチを押すごとに吹き出し口が切り替わります。



エアコンを使うときに注意すること

エアコンに関する注意事項

⚠ 注意

- **A/C スイッチOFF時に内気循環で長時間使用しない**

  窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険なため、一時的にご使用ください。

- **吹き出し風を長時間連続して身体に当てない。**

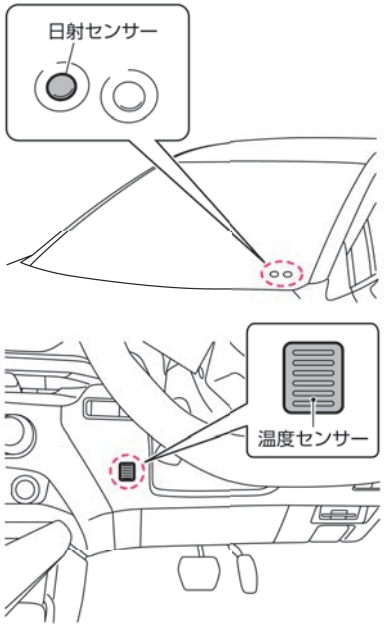
  特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間当たらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

- **デフロスタースイッチをONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。**

  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

- オートエアコンの自動温度調節は、日射センサーと温度センサーで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。



- ほこり、花粉、粉じんなどを集じんするためのクリーンフィルターを装着しています。集じん性能を維持するため、クリーンフィルターは定期的に交換してください。

交換時期：1年ごとまたは12,000km走行ごと

- クリーンフィルターが交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、日産販売会社にご相談ください。
- 外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効きが悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。
- エアコン装置のオイル循環を切らさないために、ときどきA/CスイッチをONにしてください。なお、外気温が0℃近くまで下がるとエアコン装置が作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。
- エアコンガスは必ず指定のものをご使用ください。エアコンガスの詳細については、ボンネットの裏にあるエアコンラベルをご確認ください。
- エアコンの修理、メンテナンスは日産販売会社にご相談ください。

知識

- 冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。

📖 知識

- 外気温が0℃近くまで下がると、A/Cスイッチが点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。
- エアコンがONのとき、またはOFFにした直後に、“カチカチ”、“シュー”、“コツン” などの音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。
- エアコンの運転中または運転後などに車両の下に水が垂れることがあります。
- 外気温が低いときは、外気温に応じてフロントデフロスターからの風量が多くなります。

エアコンのにおいについて

- エアコン装置は、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じることがあります。
- エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

オーディオの使いかた

安全運転のために

●運転中は車外の音が聞こえる程度の音量でお聞きください。

⚠ 警告

- **走行中のオーディオ操作は、絶対にしない。**
  前方不注意となるおそれがあります。
- **音量を大きくしない。**
  大きすぎると車外の状況がわからないため、思わぬ事故の原因となります。

ラジオの受信について

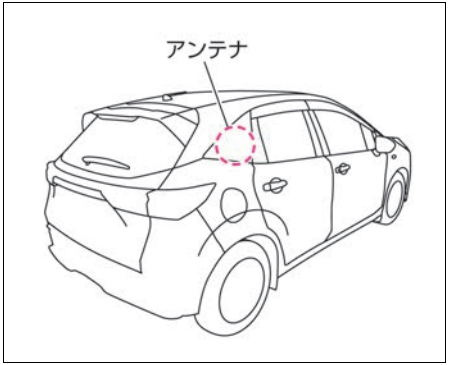
●ラジオの受信は、車両の移動に伴う電波の変動、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することができない場合があります。

知識

- オーディオを聞いているとき、車室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。

ガラスアンテナについて

●アンテナ線は、リヤサイドガラスの内側にあります。



アドバイス

- リヤサイドガラスにミラータイプのフィルムや金属物（市販のアンテナなど）を貼り付けないでください。受信感度が低下し、ノイズ（雑音）などが入るおそれがあります。
- リヤサイドガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布でアンテナ線にそって軽くふいてください。
- アンテナ線は、手荷物などで傷つけないようにしてください。

ステアリングスイッチ

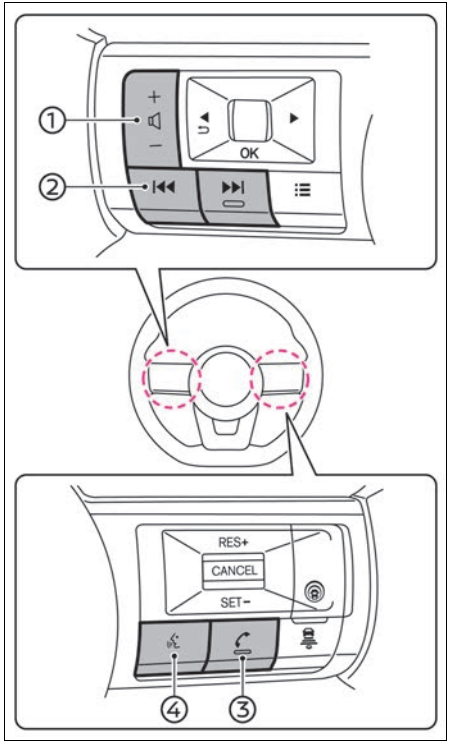
メーカーオプションナビゲーションシステム、または日産オリジナルナビゲーションシステムを操作することができます。

① **音量スイッチ（＋／－）**
音量を調節できます。
＋：音量を上げる
－：音量を下げる
押したままにすると連続して音量の増減ができます。

② **選曲／選局スイッチ**
曲や放送局などの切り替えができます。

③ **通話開始／終了スイッチ**
着信中に押すと電話を受けます。通話中に押すと電話を切ります。

④ **音声操作スイッチ**
音声操作画面に切り替えます。



知識

- 取り扱いについては、ナビゲーションシステム取扱説明書（別冊）も合わせてお読みください。
- 日産純正品以外のナビゲーションシステムでは作動の保証はいたしません。

始動する

パワースイッチ P.122
オートACC機能 P.124

運転する

セレクトレバー P.126
電動パーキングブレーキ P.127
オートブレーキホールド P.129
発進・走行 P.131
停車・駐車 P.133

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ P.135
ヘッドランプレベライザースイッチ★ P.143
フォグランプスイッチ★ P.143
ワイパー・ウォッシャースイッチ P.144

運転支援機能

e-Pedal Step P.148
チャージモード P.150
マナーモード P.151
エマージェンシーストップシグナル P.152
4WD（4輪駆動）車の扱いかた★ P.152
ABS（アンチロックブレーキシステム） P.153
VDC（ビークルダイナミクスコントロール） P.153
シャシー制御 P.155
ヒルスタートアシスト P.156
車両接近通報装置 P.156
走行支援システム P.158
プロパイロット★ P.160
インテリジェント エマージェンシーブレーキ P.182
踏み間違い衝突防止アシスト P.188
BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ P.197
LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） P.205
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） P.209
RCTA（後退時車両検知警報）★ P.212
インテリジェント DA（ふらつき警報） P.215
標識検知機能 P.216

カメラシステム

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）★ P.221
インテリジェント アラウンドビューモニター★に関する注意事項 P.229

パワースイッチ

⚠ 警告

- **e-POWERシステムを始動する前にペダルの位置を確認する。**

  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。

- **換気の悪い場所では、e-POWERシステムを長時間作動したままにしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **e-POWERシステムを始動するときは、必ず運転席に座る。**

  運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

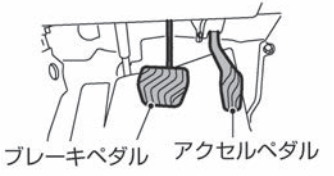
⚠ 注意

- **e-POWERシステムを始動したあとは、e-Pedal StepのON･OFF状態を確認してから走行する。**

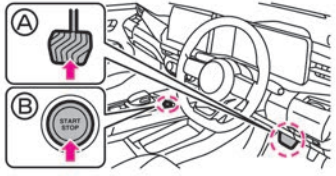
  e-Pedal StepがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なるため、走行前に確認してください。

e-POWERシステムの始動のしかた

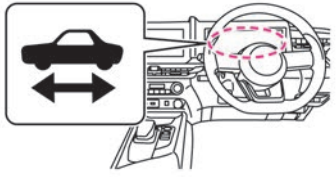
1. アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.22）がとれるようにハンドル、シート、ミラーを調節します。



2. ブレーキペダルⒶをしっかりと踏み込みながら、パワースイッチⒷを1回押します。



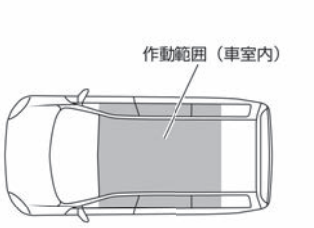
3. メーター内の走行可能表示灯 が点灯し、走行できるようになります。



知識

- 車両状態によってはパワースイッチを押したあと、走行可能表示灯 が点滅から点灯に変わるまでにエンジンが作動することがあります。
- リチウムイオンバッテリーの残量が低下している状態ではパワースイッチを押したあと、走行可能表示灯 が点滅から点灯に変わるまでに数分かかることがあります。その間は、エネルギーモニターは表示されません。
- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ” と音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- システム始動前のペダル操作などにより、ブレーキペダルが硬くなっている場合があります。この場合、ペダルを軽く踏んだ状態ではペダル踏み込み操作が検知されず、走行可能表示灯 が点灯しませんので、ブレーキペダルを通常よりも強く踏み込んでください。
- インテリジェントキーが作動範囲（車室内）にあるときに、e-POWERシステムを始動することができます。

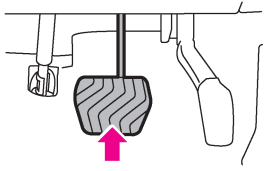
知識



- e-POWERシステムが始動できない場合には、一旦パワースイッチをOFFにして、5秒以上待ってから再始動してください。

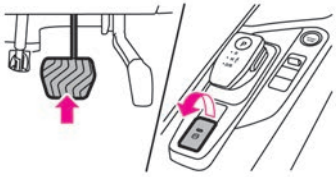
e-POWERシステムの停止のしかた

1. ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。



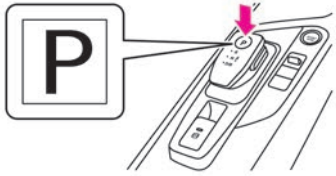
2. ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。

電動パーキングブレーキのかけかた (P.127)



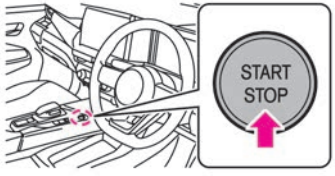
3. セレクトレバーにあるⓅスイッチを押し、シフトポジションを**P**に切り替えます。

セレクトレバーの操作 (P.126)



4. パワースイッチを押します。

走行可能表示灯 が消灯していることを確認したら、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。



パワースイッチでのモードの切り替えかた

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、次のようにモードが切り替わります。

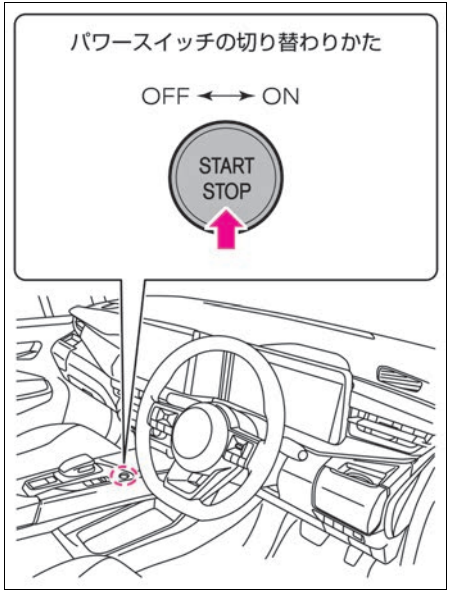
モード	働き
OFF	● ドアミラーなどが使える位置（ACC状態のとき） ● e-POWERシステムを停止する位置
ON	● すべての電装品が使える位置

●インテリジェントキーを携帯しているときに、次の作動をします。

— ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードが切り替わります。

— ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押すと、e-POWERシステムが始動します。

— e-POWERシステムが始動中にパワースイッチを押すと、e-POWERシステムが停止します。



アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品はe-POWERシステムを始動した状態でご使用ください。やむをえず使用するときは、長時間使用したり、同時に複数の電装品を使用しないでください。
- 次の条件がそろった状態で約10分経過すると自動的にパワースイッチがOFFになります。
  - ― パワースイッチがONのとき
  - ― 停車しているとき

知識

- パワースイッチがOFFの位置でも、ACC状態のときはドアミラーなどの電装品を使うことができます。
  ACC状態については、オートACC機能（P.124）をお読みください。

e-POWERシステムの非常停止のしかた

緊急時など、走行中に強制的にe-POWERシステムを停止させるときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- パワースイッチをすばやく3回押す。
- パワースイッチを2秒以上押し続ける。

警告

- **非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。**
  非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

オートACC機能

パワースイッチがOFFのときでも、特定の条件で、ナビゲーションシステム★、ドアミラーなどの電装品が使える状態（ACC状態）に自動で切り替わる機能です。e-POWERシステムの停止後や、パワースイッチをONにする前でも、ナビゲーションシステム★、ドアミラーなどが使用できます。

オートACC機能について

- 次の場合、自動でACC状態に切り替わります。
  - ― リモコン（インテリジェントキー）機能でドアを解錠したとき
  - ― パワースイッチをOFFにしたとき

ACC状態を停止するには

- 次の場合、ACC状態が完全に停止します。
  - ― メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、ACC状態のまま約11分間経過したとき
  - ― メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、ACC状態のままナビゲーションの操作を行わずに約11分間経過したとき
  - ― e-POWERシステム停止後、リモコン（インテリジェントキー）機能で施錠してから約1分間経過したとき

メーカーオプションナビゲーションシステム装着車

- ナビゲーションシステムは、e-POWERシステム停止後も作動し続けます。
- パワースイッチOFF後、約10分間でナビゲーションシステムの画面が消灯し、作動が停止します。
- 画面が消灯しても約1分以内に ⏻ を押すと再度ナビゲーションシステムを約10分間使用することができます。

●運転席ドアを開くとナビゲーションシステムの画面が消灯し、作動が停止します。画面が消灯しても約1分以内に ⏻ を押すと再度ナビゲーションシステムを使用することができます。

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、電装品（ナビゲーションシステム★や電源ソケットなど）はe-POWERシステムを始動した状態でご使用ください。

知識

- ディーラーオプションナビゲーションシステムを取り付けた場合は、パワースイッチをOFFにするとナビゲーションシステムもOFFになります。
- メーカーオプションナビゲーションシステムの操作によりACC状態は最大で30分まで延長することができます。延長された場合はドアミラーなどの電装品も使用することができます。（メーカーオプションナビゲーションシステム以外の電装品では、ACC状態を延長することができません。）

セレクトレバー

メーター内の走行可能表示灯 が点灯しているとき、すべてのシフトポジションに切り替えることができます。

セレクトレバーを操作したあとは、目的のシフトポジションに切り替わっていることを必ず確認してください。

⚠ 警告

- **セレクトレバーの操作は必ず走行可能表示灯 が点灯したことを確認してから行う。**

  走行可能表示灯が点灯する前にセレクトレバーを操作すると、目的のシフトポジションに切り替わらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

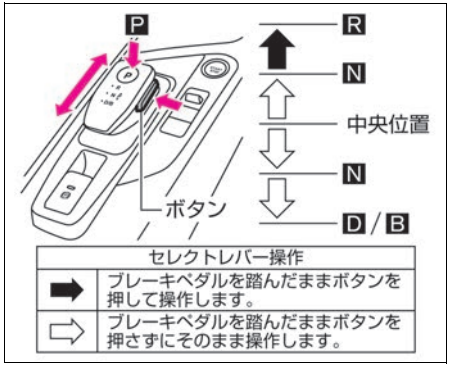
⚠ 注意

- **セレクトレバーには物を掛けない。**

  車両が突然発進するなど、事故の原因になるおそれがあります。

セレクトレバーの操作

P	セレクトレバーにあるⓅスイッチを押します。
R	ブレーキペダルを踏みながら、ボタンを押して車両前方へ2段階スライドさせます。
N	Pのときは、ブレーキペダルを踏みながら車両前方、または車両後方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。 D・Bのときは、ブレーキペダルを踏みながら車両前方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。 Rのときは、ブレーキペダルを踏みながら車両後方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。
D	ブレーキペダルを踏みながら、車両後方に2段階スライドさせます。
B	Dのときに車両後方に2段階スライドさせるとBに切り替わります。もう一度2段階スライドさせるとDに戻ります。



アドバイス

- セレクトレバーを中央の位置以外で保持し続けないでください。故障の原因になります。

知識

- セレクトレバーは、操作後に手を離すと中央に戻ります。
- セレクトレバーが中央に無いときは、Ⓟスイッチを押してもPに切り替えられません。
- シフトポジションをRに切り替えるとブザーが鳴ります。
- 次の操作は無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにシフトポジションはNに切り替わります。
  - ― 前進中にシフトポジションをRに切り替える
  - ― 後退中にシフトポジションをDに切り替える
- この車両にはオートP機能（P.127）がありますが、電制シフトが故障した場合は、シフトポジションがP以外でパワースイッチをOFFにしようとしても、ブザーが鳴り、パワースイッチをOFFに切り替えられません。

  パワースイッチをOFFにできないときは、次の操作を行ってください。
  - ― ①停車してパーキングブレーキをかけます。

知識

— ②ブレーキペダルを踏み込みながらパワースイッチを押して、パワースイッチをONに切り替えます。

— ③セレクトレバーにあるⓅスイッチを押してPに切り替えます。

— ④パワースイッチを押して、OFFに切り替えます。

- パワースイッチがONでも走行可能表示灯 が点灯していないときは、D・B・Rには切り替えられません。
- 以下の条件が重なったとき、シフトポジションが自動でPに切り替わる場合があります。
  - — SPORTモードまたはECOモードで停車しているとき
  - — 運転席シートベルトを外したとき
  - — 運転席ドアを開けたとき

各シフトポジションの機能

シフトポジション	働き
P	駐車およびe-POWERシステムを始動するとき
R	後退するとき
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行するとき
B	下り坂などで、強い回生ブレーキが必要なとき

知識

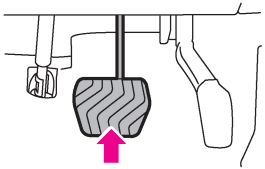
- シフトポジションをPに切り替えずにパワースイッチをOFFにすると、自動的にシフトポジションがPに切り替わります。（オートP機能）
- シフトポジションがBのときは減速力を強くするため、Dのときよりエンジン作動頻度が多くなります。また、エンジン回転数が高くなる場合があります。

電動パーキングブレーキ

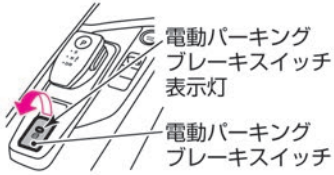
停車中や駐車時に使用するブレーキです。
パーキングブレーキをかけると、後輪が固定されます。電動パーキングブレーキスイッチで操作します。

電動パーキングブレーキのかけかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



2. 電動パーキングブレーキスイッチを引き上げます。
スイッチを引き上げると、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯が点灯し、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯 Ⓟ が、約2秒後に点灯します。

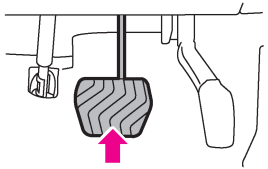


知識

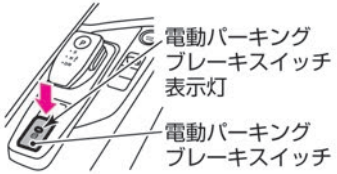
- オートブレーキホールドが作動しているときにシフトポジションをPにすると、パーキングブレーキがかかります。
  その他、オートブレーキホールドについては（P.129）をお読みください。

電動パーキングブレーキの解除のしかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



2. 電動パーキングブレーキスイッチを押し下げます。
スイッチを押し下げると、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯が消灯し、電動パーキングブレーキが解除されるとメーター内の電動パーキングブレーキ警告灯 (Ⓟ) が消灯します。



知識

- 電動パーキングブレーキは、パワースイッチがONのときのみ解除できます。

自動解除のしかた

電動パーキングブレーキスイッチを操作しなくても、パーキングブレーキを解除することができます。

渋滞や上り坂での発進に便利です。

- 電動パーキングブレーキがかかっている状態でシフトポジションを**D**または**R**にし、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキ警告灯 (Ⓟ) が消灯します。
- パーキングブレーキの自動解除は、以下の条件を満たしている必要があります。
  - 運転席ドアが閉まっている
  - e-POWERシステムが始動している
  - シフトポジションが**P**、**N**以外のとき

電動パーキングブレーキに関する注意事項

⚠ 警告

- **車両を離れるときは、電動パーキングブレーキをかけたあと、シフトポジションを**P**に切り替える。**
- **非常時以外は、電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。**
ブレーキに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。
- **電動パーキングブレーキをかけたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。**
システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。作動しなくなった場合は、約1分間経過してから再度操作してください。

アドバイス

- 寒冷時に駐車するときは、電動パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを**P**に入れ、電動パーキングブレーキを解除したまま車輪の前後に適切な輪留めをしてください。寒冷時に電動パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが凍結し、解除できなくなるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキが12Vバッテリーあがりや故障などで解除できなくなったときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

知識

- 電動パーキングブレーキをかけたり解除したりすると、車両の後方部から作動音（ウィーン、ググ）が聞こえることがありますが、これは異常ではありません。
- 走行中、非常事態で電動パーキングブレーキをかける必要が生じたときは、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げ続けてください。ブザーが鳴り、電動パーキングブレーキがかかります。スイッチから手を離すと、電動パーキングブレーキは解除されます。

知識

- パワースイッチがOFFまたはACC状態のときに、電動パーキングブレーキスイッチを引くと、電動パーキングブレーキスイッチの表示灯がしばらく点灯状態になることがあります。

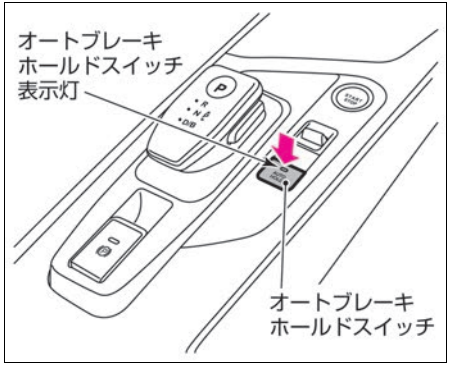
  ACC状態については、オートACC機能（P.124）をお読みください。

オートブレーキホールド

オートブレーキホールド機能は、信号待ちなどで停車中にブレーキ力を保持する機能です。

オートブレーキホールド機能について

●オートブレーキホールド機能は、運転者のブレーキ操作によって停車した際に、ブレーキ力を保持する機能です。
ブレーキ力が保持されているときにアクセルペダルを踏むと、ブレーキが解除され、発進することができます。



オートブレーキホールド機能の作動について

オートブレーキホールド機能をONにする

●パワースイッチをONにし、オートブレーキホールドスイッチを押すと、オートブレーキホールドスイッチのスイッチ表示灯が点灯します。

●オートブレーキホールド機能は、次の条件が満たされたときのみ、メーター内のオートブレーキホールド表示灯（白色）が点灯し、待機状態になります。（P.54）

- 運転席シートベルトを着用している
- 電動パーキングブレーキが解除されている
- シフトポジションがP以外にある

オートブレーキホールド機能をOFFにする

オートブレーキホールド機能がONのとき、オートブレーキホールドスイッチを押すと、スイッチの表示灯が消灯しオートブレーキホールド機能がOFFになります。

ブレーキ力が保持されている状態で、オートブレーキホールドをOFFにするときは、ブレーキペダルを踏みながらオートブレーキホールドスイッチを押します。

知識

- オートブレーキホールド機能のON・OFF設定は、再度設定を変更するまで、パワースイッチをOFFにしても、その設定が維持されます。

オートブレーキホールド機能の使いかた

■ ブレーキ力を保持させる

オートブレーキホールド機能が待機状態（メーター内のオートブレーキホールド表示灯 (A) HOLD が白色に点灯）のとき、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させると、オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されます。

ブレーキ力が保持されているときは、メーター内のオートブレーキホールド表示灯 (A) HOLD が緑色に点灯します。（P.54）

■ 発進する

シフトポジションがPまたはN以外にあり、ブレーキ力が保持されている状態でアクセルペダルを踏むと、保持されているブレーキ力が解除されて発進します。

ブレーキ力の保持が解除されると、メーター内のオートブレーキホールド表示灯 が白色に点灯し、待機状態に戻ります。

知識

- 坂道では、オートブレーキホールドが作動開始するまでブレーキペダルを強く踏み込む必要があります。

オートブレーキホールド機能使用時の注意事項

警告

- **急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。**

  オートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。

  急な坂道などでオートブレーキホールド機能を作動させたとき、運転者にブレーキペダルを踏むよう警告メッセージが表示されることがあります。

- **オートブレーキホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。**

  ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、警告メッセージが表示されることがあります。

  警告メッセージ（P.272）

- **次の場合はオートブレーキホールド機能をOFFにする。**
  - 洗車機を使用するとき
  - 車両にけん引されるとき
  - 車両のけん引時
  - 過積載のとき
- **次の場合はシフトポジションをPにしてパーキングブレーキが確実にかかっているか確認する。**

  車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。
  - 駐車するとき
  - 人が乗降するとき
  - 荷物の積み下ろしをするとき
- **VDC警告灯 （P.267）、ブレーキシステム警告灯（黄色表示） （P.266）、電動パーキングブレーキ警告灯 （P.265）、またはマスターウォーニング （P.269）が点灯し、「シャシー制御表示」の警告メッセージ（P.273）が表示されたときは、オートブレーキホールド機能は作動しません。**
- **オートブレーキホールド機能をOFFにする際は、ブレーキペダルを踏みながらオートブレーキホールドスイッチを押す。**

  急な坂道では、オートブレーキホールド機能での停止状態からアクセルペダルを踏んでもオートブレーキホールド機能が解除できない場合があります。
- **ブレーキペダルから足を離す前に、オートブレーキホールド表示灯 （緑色）が点灯していることを確認する。**

注意

- **オートブレーキホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、オートブレーキホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**

  ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **車両が停止してもブレーキ保持が開始されないときは、オートブレーキホールド表示灯 （緑色）が点灯するまでブレーキペダルを踏み込む。**

  ブレーキペダルが十分な力で踏まれていない、もしくは、車両停止後にブレーキペダルを離すのが早すぎると、オートブレーキホールド表示灯（緑色）は点灯しません。

アドバイス

- 次の場合は、システムに異常が発生しているおそれがあります。ただちに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

— アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

— オートブレーキホールドスイッチを押してもスイッチの表示灯が点灯しないとき

知識

- オートブレーキホールド機能がONでブレーキ力が保持されているときに、次の状態になるとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ力が解除されます。
  - — オートブレーキホールド機能によるブレーキ力の保持が3分以上継続されたとき
  - — 運転席シートベルトを外したとき
  - — 運転席ドアを開けたとき
  - — パワースイッチをOFFにしたとき
  - — オートブレーキホールド機能に不具合が生じたとき
  - — シフトポジションを**P**にしたとき
  - — 電動パーキングブレーキスイッチを引き上げたとき

発進・走行

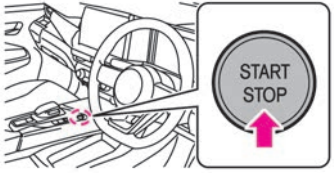
発進するときの注意事項

⚠ 警告

- **発進するときは、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。**
  急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- **停車中、シフトポジションが**P**、**N**以外に入っているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**
  クリープ現象により車が動き出し、事故につながるおそれがあります。

発進のしかた

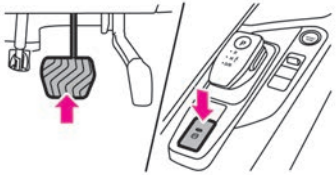
1. ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押して、e-POWERシステムを始動します。
   ➔ e-POWERシステムの始動のしかた (P.122)



2. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、セレクトレバーを車両後方に2段階スライドさせ、シフトポジションを**D**に切り替えます。
   ➔ セレクトレバーの操作 (P.126)



3. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキを解除します。
   ➔ 電動パーキングブレーキの解除のしかた (P.127)



4. ブレーキペダルを徐々に緩め、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。



アドバイス

- 段差などを通過するときは、ブレーキを踏んで速度を落とし、できるだけゆっくり走行してください。段差を乗り降りするときの衝撃で、駆動系の部品が故障するおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキをかけ、運転席ドアが開いた状態でアクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキが解除されず、電動パーキングブレーキが故障するおそれがあります。

知識

- 急な上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト（P.156）が作動します。
- 緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動しない場合がありますが、自動的に車両の後退を抑制する機能が働き、一定の車速以上では後退しないように制御します。

走行するときの注意事項

警告

- **走行中はシフトポジションをNに入れない。**

  回生ブレーキが作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **e-Pedal StepがOFFのときは、下り坂ではフットブレーキと回生ブレーキを併用する。**

  ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。坂の勾配に応じて回生ブレーキを併用してください。

  e-Pedal Step（P.148）

- **e-Pedal StepがOFFのときに、回生ブレーキの効きが弱くなった場合は、ブレーキペダルを踏んで減速する。**
- **e-Pedal StepをONにすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。**

走行のしかた

- シフトポジションをDに入れたまま走行します。
- アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
- 高速道路の入り口などで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
- 下り坂では、回生ブレーキを併用して走行します。シフトポジションはDよりB、ドライブモード（P.148）はNORMALよりSPORTモード、ECOモードのほうが、回生ブレーキの効きが強くなります。速度が出すぎるときは、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
- 回生ブレーキは、長い下り坂でリチウムイオンバッテリーが満充電になった場合や低温時、滑りやすい路面ではブレーキの効きが弱くなることがあります。

アドバイス

- 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。車両故障につながるおそれがあります。
- 上り坂でシフトポジションをDまたはBのまま故意に車両を後退させたり、下り坂でRのまま故意に車両を前進させたりしないでください。車両故障につながるおそれがあります。
- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- リチウムイオンバッテリーが満充電になった場合は、回生で発電した電力を、発電用モーターでエンジンを作動させることで消費させます。その際にエンジン音が大きくなる場合がありますが、異常ではありません。

知識

- 走行中にセレクトレバーにあるⓅスイッチを押した場合は、操作が無効となります。（ブザーが鳴り、操作前のシフトポジションが維持されます。）

停車・駐車

停車・駐車の注意事項

警告

- **駐車するときは、ガスライターなどに注意する。**

  操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押しこんだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- **停車中の空ぶかしはしない。**

  万一、シフトポジションがP、N以外に入っていると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。停車後に再発進するときは、シフトポジションの位置を目で確認してください。

- **換気の悪い場所では、e-POWERシステムを作動したままにしない。**

  排気ガスが車両周辺に滞留したり、車室内に侵入したりすることで、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。一酸化炭素を吸い込むと、意識が薄れて事故につながるおそれがあるほか、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

- **車から離れるときは、必ずシフトポジションをPにして、e-POWERシステムを停止する。**

  e-POWERシステムが作動したままで、シフトポジションがP、N以外だと、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

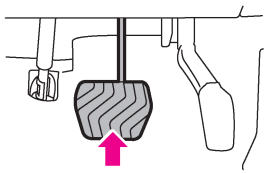
- **枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐停車しない。**

  排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。

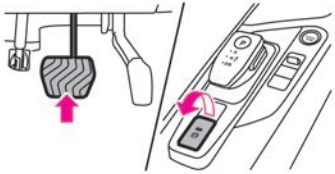
- **長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるため注意する。**

停車・駐車のしかた

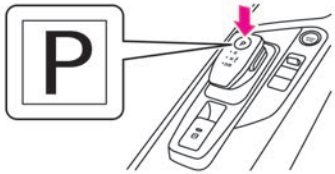
1. 停車するときは、シフトポジションはDまたはBのままで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。



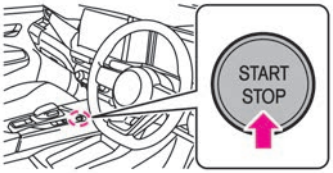
2. そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。



3. セレクトレバーにあるⓅスイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。



4. パワースイッチを1回押すと、e-POWERシステムが停止します。



アドバイス

- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形するおそれがあります。
- 駆動系の部品が故障するおそれがあるため、次のことを必ずお守りください。
  - ― 坂道で駐停車するときは、車両が完全に停止したら先に電動パーキングブレーキをかけ、その後シフトポジションを**P**に切り替える
  - ― シフトポジションを**P**に切り替えるときは、車両が完全に停止していることを必ず確認する

ライトスイッチ

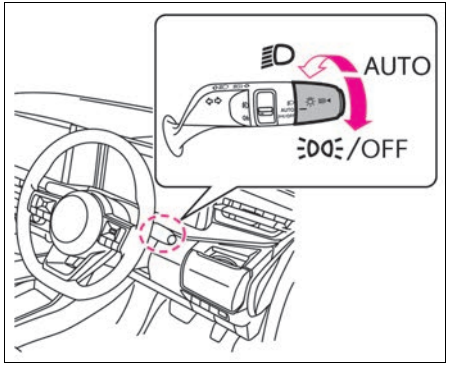
ライトスイッチの使いかた

●スイッチを回すと、次のように点灯、消灯します。

スイッチ位置	点灯するランプ
	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
AUTO	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯・消灯します。
/OFF（/OFFの位置に回しても手を離すと自動でAUTOの位置に戻ります。）	**ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯しているとき** 停車時に/OFFの位置に回して保持すると、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。 走行を開始すると周囲の明るさに応じて、ヘッドランプが自動点灯します。 **ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯しているとき** /OFF位置に回して保持すると、ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。 **車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているとき** 停車して、ヘッドランプ消灯時にシフトポジションがPのときまたはパーキングブレーキが作動しているとき/OFFの位置に回して保持すると、全ランプが消灯します。 走行を開始すると周囲の明るさに応じて、ランプが自動点灯します。

●車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているときはメーター内のテールランプ表示灯が点灯します。

●ライトスイッチを回すと、アドバンスドドライブアシストディスプレイにライトモードガイダンスが表示されます。



アドバイス

- 走行可能表示灯が消灯時に長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

知識

- 通常時はAUTOの位置で使用してください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定」⇒「画面カスタマイズ」⇒「オペレーションガイダンス」⇒「ライトモードガイダンス」を選択すると、ライトスイッチを回したときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

設定の詳細については、画面カスタマイズをお読みください。

画面の切り替えかた (P.55)

画面カスタマイズ (P.73)

バッテリーセーバー

- 走行可能表示灯 が点灯時にランプを点灯したままパワースイッチをOFFにすると、12Vバッテリーあがりを防止するためランプが消灯します。次回、次の操作を行うとランプが再点灯します。
  - ― パワースイッチをONにする
  - ― ライトスイッチを操作する（約5分後にランプは再度消灯します）

ヘッドランプ消し忘れ警報

- パワースイッチがON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合にブザーが鳴ります。
  - ― ライトスイッチが の位置にあるとき
  - ― ライトスイッチを /OFFの位置に回して、メーター内のテールランプ表示灯が点灯しているとき

オートレベライザー★

- ヘッドランプが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると、照射方向を調整するシステムです。

の使いかた

- ライトスイッチを の位置に合わせるとヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた

- パワースイッチがOFFのときは消灯します。
- パワースイッチがONのときは次のように作動します。

周囲が明るいとき

- 停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯します。

周囲が暗いとき

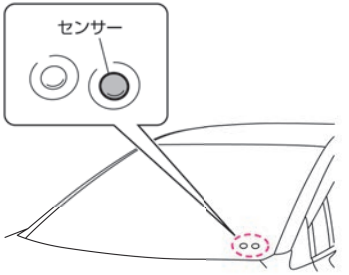
- 停車中、走行中ともにヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯します。

フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能

- 歩行者事故が多く発生している夕暮れ時や雨天でのワイパー使用時にもランプを自動点灯します。

アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。



知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「オートライト感度調整」を選択すると、インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）の感度調整ができます。

  設定の詳細については、車両設定をお読みください。

  画面の切り替えかた (P.55)

  車両設定 (P.71)

/OFFの使いかた

ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯しているとき（周囲が暗いとき、ワイパーが作動しているとき）

- 停車時に /OFFの位置に回して保持すると、車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。

● ≡D/OFFの位置に回してすぐに手を放した場合は、ヘッドランプを消灯できません。

●走行中にライトスイッチを≡D/OFFの位置に回して保持してもヘッドランプを消灯できません。

ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯しているとき（周囲が明るいとき、パワースイッチがOFFのとき）

● ≡D/OFFの位置に回して保持すると、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

● ≡D/OFFの位置に回してすぐに手を放した場合は、車幅灯、尾灯、番号灯を点灯できません。

車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているとき

●停車して、シフトポジションがPのとき、またはパーキングブレーキが作動しているとき、≡D/OFFの位置に回して保持すると、全ランプが消灯します。
≡D/OFFの位置に回してすぐに手を放した場合は、全ランプを消灯できません。

●走行を開始すると周囲の明るさ、ワイパー作動に応じて、ヘッドランプが自動点灯します。

知識

● 次の操作をすると、AUTO（自動点灯・消灯）に戻ります。
— シフトポジションがP以外であり、パーキングブレーキが作動していないとき、再度ライトスイッチを≡D/OFFの位置に回す
— 停車して、シフトポジションがPのとき、またはパーキングブレーキが作動している場合は、全ランプを消灯させた後、再度ライトスイッチを≡D/OFFの位置に回す
— ≡Dの位置にしてからAUTO（自動点灯・消灯）の位置にする

自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時）

自動点灯したヘッドランプは走行中に消灯できない仕様となっています。

ヘッドランプの消灯方法

●停車中、ライトスイッチを≡D/OFFの位置に回して保持すると、ヘッドランプが消灯します。

すべてのランプの消灯方法

●停車中にライトスイッチを≡D/OFFの位置に回して保持して、ヘッドランプを消灯させた後、シフトポジションをPにするか、パーキングブレーキをかけた状態で、再度ライトスイッチを≡D/OFFの位置に回して保持するとすべてのランプが消灯します。

知識

● 自動点灯したヘッドランプは走行中に消灯できない仕様となっています。

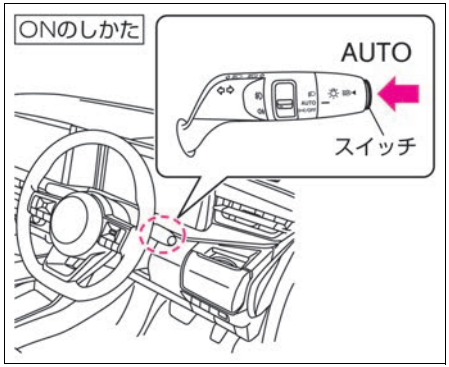
ハイビームアシスト★

先行車または対向車や周囲の明るさなどに応じ、ハイビーム（上向き）とロービーム（下向き）が切り替わります。

約25km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。

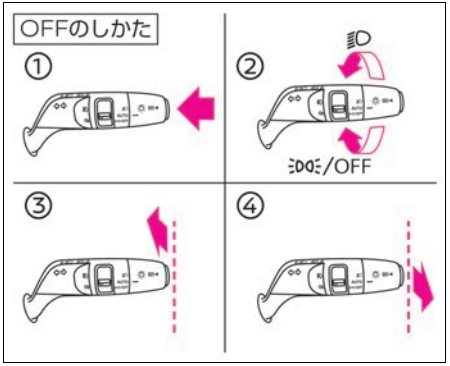
ハイビームアシストをONにする方法

●ライトスイッチがAUTOの位置でヘッドランプが点灯しているときにスイッチを押すと、ハイビームアシストがONになります。（メーター内のハイビームアシスト表示灯≡Aが点灯）



ハイビームアシストをOFFにする方法

次のいずれかの操作をすると、ハイビームアシストがOFFになります。



●ハイビームのとき
– スイッチを押す…①
– ライトスイッチをAUTOの位置以外にする…②
– ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）…③
– ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）…④
●ロービームのとき
– スイッチを押す…①
– ライトスイッチをAUTOの位置以外にする…②
– ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）…③

アドバイス

- ハイビームアシストが正しく作動しなかったり、作動中にメーターにハイビームアシスト表示灯 A が点灯しなかったりしたときは、ハイビームアシストが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。

  ハイビームアシスト表示灯（P.53）

知識

- ハイビームアシストがONでロービームのとき、ライトスイッチを車両後方に引くとパッシングになります。

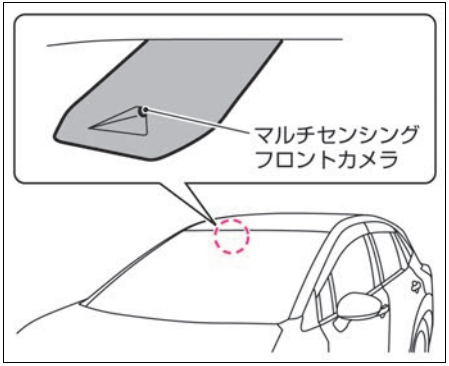
  （ハイビームアシストはONを維持）
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。
- 次のような原因で、上向きと下向きの切り替わるタイミングが変化することがあります。
  - 対向車または先行車のランプの明るさ
  - 対向車または先行車の向きや動き
  - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
  - 対向車または先行車が二輪車
  - 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
  - 乗車している人数や荷物の量
- 対向車または先行車を検知し、照射範囲を切り替えているときにも、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯することがあります。（ハイビームの一部が点灯しているため）

  ヘッドランプ上向き表示灯（P.53）

■ マルチセンシングフロントカメラについて

フロントガラス上部に周囲の状況を感知するためのカメラがあります。
ハイビームアシストを正しく作動させるため、次のことをお守りください。
●フロントガラスが汚れたら清掃してください。
●カメラの周辺にアクセサリーやステッカーなどを取り付けないでください。
●カメラのレンズには触れないでください。
●カメラおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。

マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.315)



ハイビームアシスト★の注意事項

⚠ 警告

- **システムを過信しない。**

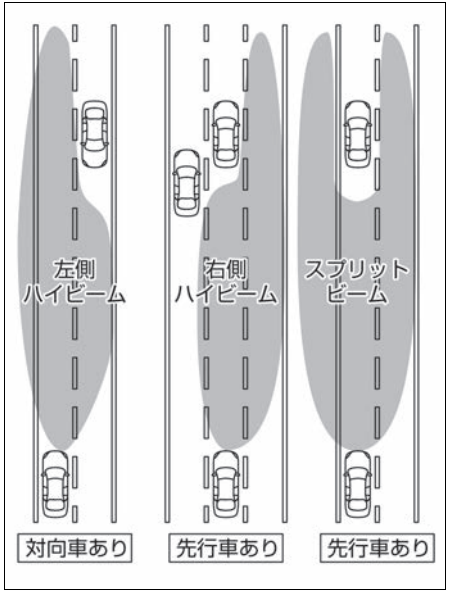
  常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。

- **次のようなときは、ハイビームアシストが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**
  - ― 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
  - ― 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
  - ― カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
  - ― カメラの向きがずれているとき
  - ― 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
  - ― 対向車または先行車が無灯火のとき
  - ― 対向車のヘッドランプが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき
  - ― 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき
  - ― 歩行者など光を発しないもののとき
  - ― 明るさの急激な変化が連続しているとき
  - ― 段差や起伏のある道路を走行しているとき
  - ― カーブが多い道路を走行しているとき
  - ― ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
  - ― トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
  - ― パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アダプティブLEDヘッドライトシステム★

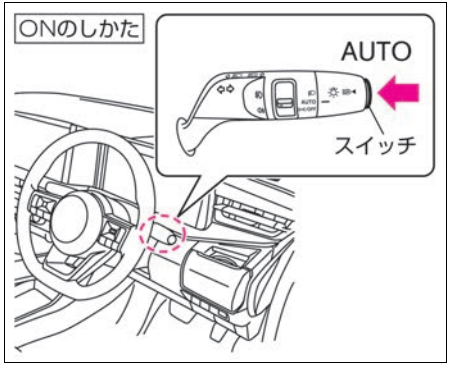
先行車や対向車に照射しないよう、自動的にハイビーム（上向き）の照射範囲を切り替えます。

約25km/h以上で走行中、ヘッドランプが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。



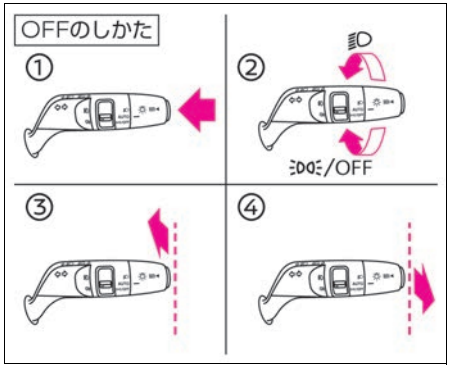
アダプティブLEDヘッドライトシステムをONにする方法

- ライトスイッチがAUTOの位置でヘッドランプが点灯しているときにスイッチを押すと、アダプティブLEDヘッドライトシステムがONになります。（メーター内のアダプティブLEDヘッドライト表示灯 AHB が点灯）



アダプティブLEDヘッドライトシステムをOFFにする方法

次のいずれかの操作をすると、アダプティブLEDヘッドライトシステムがOFFになります。



●アダプティブLEDヘッドライトシステムが制御中のとき

– スイッチを押す...①
– ライトスイッチをAUTOの位置以外にする...②
– ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）...③
– ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）...④

●アダプティブLEDヘッドライトシステムが制御していないとき

– スイッチを押す...①
– ライトスイッチをAUTOの位置以外にする...②
– ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）...③

⚠ 警告

- **システムを過信しない。**
  常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。
- **次のようなときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
  - 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
  - カメラの向きがずれているとき
  - 周囲にヘッドランプや尾灯に似た光源があるとき
  - 対向車または先行車が無灯火のとき
  - 対向車のヘッドランプが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき
  - 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき
  - 歩行者など光を発しないもののとき
  - 明るさの急激な変化が連続しているとき
  - 段差や起伏のある道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき
  - ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
  - トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
  - パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アドバイス

- アダプティブLEDヘッドライトシステムが正しく作動しなかったり、作動中にメーター内にアダプティブLEDヘッドライト表示灯が点灯しなかったりしたときは、アダプティブLEDヘッドライトシステムが故障しているおそれがあります。日産販売会社で点検を受けてください。

  アダプティブLEDヘッドライト表示灯（➔P.53）

知識

- アダプティブLEDヘッドライトシステムがONでロービームのとき、ライトスイッチを車両後方に引くとパッシングになります。

  （アダプティブLEDヘッドライトシステムはONを維持）

- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。
- 次のような原因で、照射範囲の切り替わるタイミングが変化することがあります。
  - ― 対向車または先行車のランプの明るさ
  - ― 対向車または先行車の向きや動き
  - ― 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
  - ― 対向車または先行車が二輪車
  - ― 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
  - ― 乗車している人数や荷物の量
- 対向車または先行車を検知し、照射範囲を切り替えているときにも、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯することがあります。（ハイビームの一部が点灯しているため）

  ヘッドランプ上向き表示灯（➔P.53）

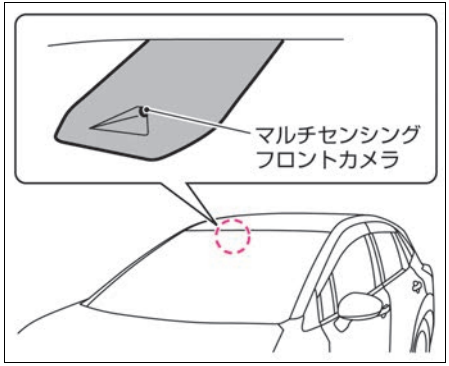
■ マルチセンシングフロントカメラについて

フロントガラス上部に周囲の状況を感知するためのカメラがあります。

アダプティブLEDヘッドライトシステムを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

- フロントガラスが汚れたら清掃してください。
- カメラの周辺にアクセサリーやステッカーなどを取り付けないでください。
- カメラのレンズには触れないでください。
- カメラおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。

➔マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.315)



知識

- フロントガラスが汚れていたり、マルチセンシングフロントカメラの前が障害物でふさがれていたり、カメラが前方を撮像できないとき、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「ヘッドランプ警告」の警告メッセージ（➔P.273）が表示されることがあります。

  カメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してください。

ハイビーム（上向き）への切り替えかた

ライトスイッチが の位置のとき

- ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両前方、または後方に動かします。

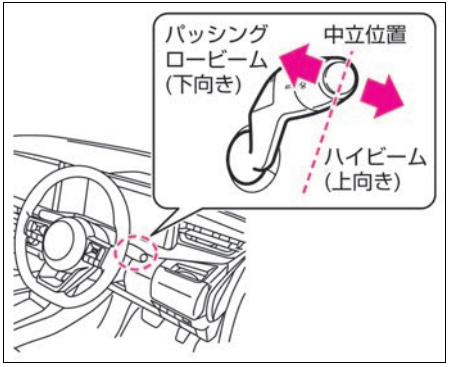
●パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。

ライトスイッチがAUTOの位置のとき

●ヘッドランプが点灯しているとき、ライトスイッチを車両前方に押すとハイビームに切り替わります。

●ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両前方、または後方に動かします。

●パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。



アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。

知識

- ハイビームに切り替えているときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。
- ハイビームアシストまたはアダプティブLEDヘッドライトシステムがONのとき、ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。
- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがありますが異常ではありません。
- ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

方向指示器の使いかた

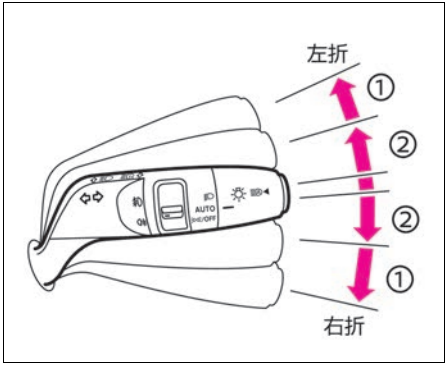
パワースイッチがONのとき使えます。

●右折または左折するときは、ライトスイッチを①の位置まで動かします。

●車線変更などのときは、ライトスイッチを②の位置まで動かし軽く押さえます。スイッチを押さえている間、方向指示器が点滅します。

コンフォートフラッシャー機能について

スイッチを②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。



アドバイス

- 方向指示器のランプとメーター内の方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、方向指示器のランプの電球切れなどのおそれがあります。電球を交換してください。

外装ランプが点灯しないときは (P.292)

その他の機能について

●夜間など周囲が暗い場所で車から降りるときに、以下の操作を行うと、ヘッドランプが周囲を照らします。

— パワースイッチがON以外のとき、ライトスイッチを車両後方に1回引くと、ヘッドランプが約30秒間点灯したあと、消灯します。

— 点灯中、ライトスイッチを車両後方に引くたびに点灯時間が約30秒間延長

され、最大約2分間まで延長することができます。

■ ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）

- ドアの施錠・解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- ドアが施錠された状態でインテリジェントキーを携帯して車両に近づいたり、離れたりしたときも車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
（ドアを解錠せず、複数回近づいたり離れたりした場合、誤作動防止のため点灯しない場合があります。）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ライト/照明」⇒「ウエルカムヘッドライト」を選択すると、ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）の設定を変更することができます。
設定の詳細については、車両設定をお読みください。
➔画面の切り替えかた (P.55)
➔車両設定 (P.71)

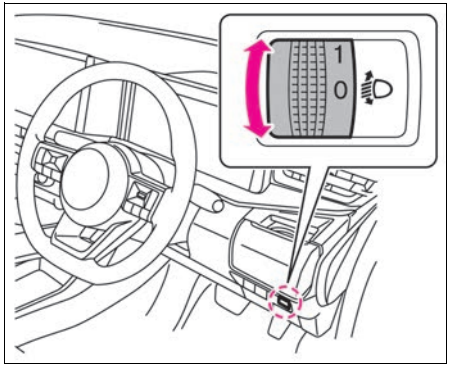
ヘッドランプレベライザースイッチ★

ヘッドランプの照らす方向（光軸）を調節します。乗員の人数や荷物の重さなどに応じ、調節してください。

ヘッドランプレベライザースイッチの使いかた

ヘッドランプが下向きのとき、ダイヤルを回して調節します。

- 通常は、ダイヤルが0の位置で使います。
- ダイヤルを大きな数字の方へ回すほど、照らす方向は下向きになります。



アドバイス

- 乗車人員や荷物量の違いにより、ヘッドランプが上側を照らすときや、アップダウンの多い山道などで、前を走行する車のミラーや対向車のフロントガラスを照らすようなときは、照らす向きを下側に調節してください。

知識

- アダプティブLEDヘッドライトシステム付車は、ヘッドランプが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると、自動的に照射方向を調整するオートレベライザー機能が付いています。

■ ダイヤル位置の目安

次の表を目安に、乗員の人数や荷物の量に応じてダイヤル位置を選択してください。

スイッチ位置	前席シート乗員数	後席シート乗員数	ラゲッジルームの積載重量
0	1	0	積載なし
1	2	0～2	積載なし
2	2	3	積載なし
2	2	3	満載
3	1	0	満載

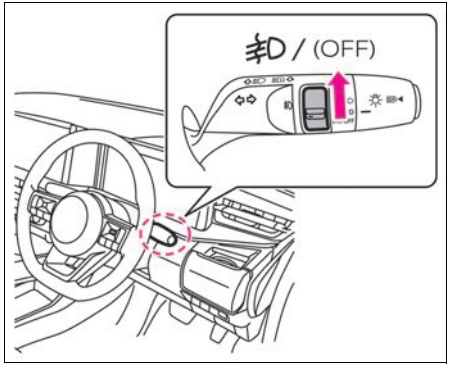
フォグランプスイッチ★

雨、霧、雪などで視界が悪いとき、ヘッドランプや尾灯の補助として使用します。

フォグランプの使いかた

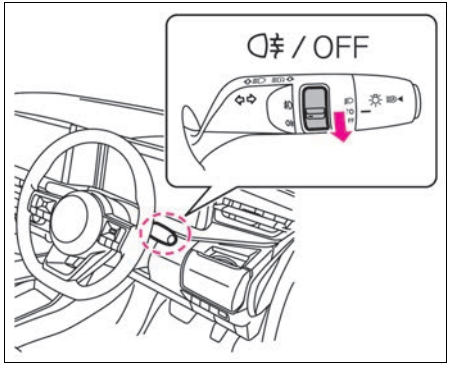
- ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
- スイッチを 🌫 の位置に合わせます。
（リヤフォグランプ付車は、スイッチから手を離すと自動的に中立位置に戻ります。）

●消灯するときは、スイッチを元の位置に戻します。（リヤフォグランプ付車は、再度操作します。）
●フォグランプが点灯しているときは、フォグランプ表示灯が点灯します。



リヤフォグランプの使いかた

●ヘッドランプまたはフォグランプ★が点灯しているときに使用できます。
●スイッチをの位置に合わせます。（スイッチから手を離すと自動的に中立位置に戻ります。）
●消灯するときは、スイッチを再度操作します。
●リヤフォグランプが点灯しているときは、リヤフォグランプ表示灯が点灯します。



⚠ 警告

● **晴天時は使用しない。**
後続車の視界を悪くするおそれがあります。

アドバイス

● 降雪時には雪が積もる場合があるため、こまめにリヤフォグランプの雪を取り除いてください。

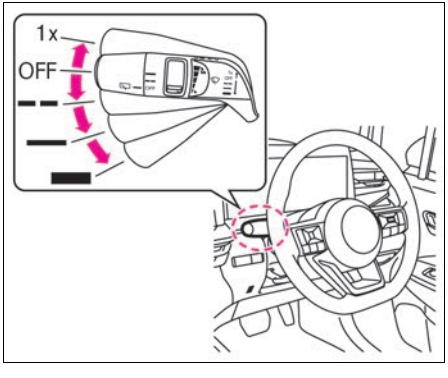
ワイパー・ウォッシャースイッチ

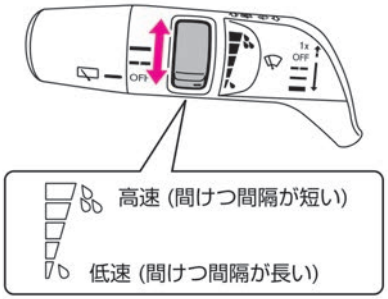
パワースイッチがONのとき使用できます。

フロントワイパーの使いかた

●スイッチを動かすと、次のように作動します。
●スイッチを操作するとメーターにスイッチ位置が表示されます。

スイッチ位置	作動
1x	スイッチを上げている間作動します。 手を離すとOFFに戻ります。
OFF	停止します。
--	間けつで作動します。 スイッチを回し、ワイパーの間けつ時間を調節します。
—	低速で連続して作動します。
▬	高速で連続して作動します。





知識

- 間けつ作動の間隔は、車速が速くなると短くなる車速感知式です。
- インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）は、ライトスイッチがAUTOの位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくランプが点灯します。

  ライトスイッチの使いかた
  （➔P.135）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「画面カスタマイズ」⇒「オペレーションガイダンス」⇒「ワイパー」⇒「フロント」を選択すると、ワイパースイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、画面カスタマイズをお読みください。

  ➔画面の切り替えかた (P.55)

  ➔画面カスタマイズ (P.73)
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ワイパー」⇒「車速連動」を選択すると、車速連動機能のON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、車両設定をお読みください。

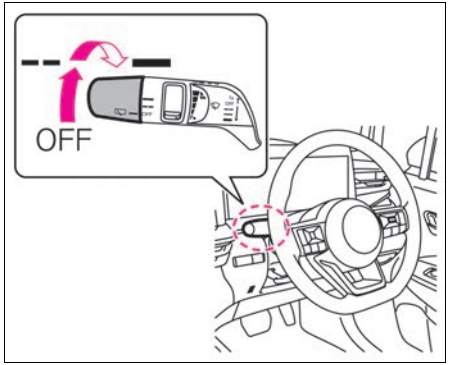
  ➔画面の切り替えかた (P.55)

  ➔車両設定 (P.71)

リヤワイパーの使いかた

- スイッチを回すと、次のように作動します。
- スイッチを操作するとメーターにスイッチ位置が表示されます。

スイッチ位置	作動
OFF	停止します。
--	間けつで作動します。
—	低速で連続して作動します。



知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「画面カスタマイズ」⇒「オペレーションガイダンス」⇒「ワイパー」⇒「リア」を選択すると、ワイパースイッチを動かしたときにメーターに表示する機能のON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、画面カスタマイズをお読みください。

  ➔画面の切り替えかた (P.55)

  ➔画面カスタマイズ (P.73)

リバース連動機能

- フロントワイパー作動中にシフトポジションをRに切り替えると、リヤワイパーが作動します。

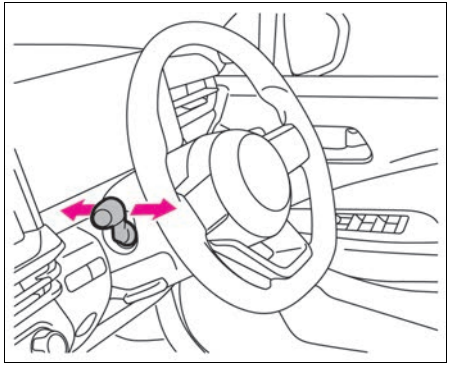
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ワイパー」⇒「リバース連動」を選択すると、リバース連動機能のON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、車両設定（➔P.71）をお読みください。

ウォッシャーの使いかた



フロントウォッシャー

- スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを引いている間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

リヤウォッシャー

- スイッチを車両前方に押すと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを押している間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

知識

- ウォッシャースイッチを操作したあと、ガラスに残ったウォッシャー液をふき取るため、約3秒後に一度ワイパーが作動します。（ドリップ拭き取り機能）
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「車両設定」⇒「ワイパー」⇒「ドリップ拭き取り」を選択すると、ドリップ拭き取り機能のON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、車両設定をお読みください。

  ➔画面の切り替えかた (P.55)

  ➔車両設定 (P.71)

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

⚠ 警告

- **寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。**

  寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチをOFFにし障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分間）待ってから、再度スイッチを操作してください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでワイパーゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障するおそれがあります。
- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーをご使用ください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、連続して30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。

アドバイス

- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

e-Pedal Step

e-POWERシステムは3つのドライブモードがあります。目的に応じて使い分けてください。

各モードの働き

■ SPORT

EVらしさと燃費を両立させたモード

- モーター特性を際立たせてアクセルペダル操作に瞬時に応じる高レスポンスを実現
- アクセルペダルOFF時の回生ブレーキを強めて、多くのエネルギーを回収
- アクセルペダル操作のみで楽に速度調整が可能

■ ECO

燃費重視のモード

- 無駄なエネルギー消費を抑えるための穏やかな加速性能
- アクセルペダルOFF時の回生ブレーキを強めて、多くのエネルギーを回収
- アクセルペダル操作のみで楽に速度調整が可能

■ NORMAL

ガソリンエンジン車とほぼ同等の走りを楽しめるモード

- モーター駆動特有のレスポンスよくスムースな加速
- ガソリンエンジン車に近い感覚でのアクセルペダルOFFでの減速

※普段の運転ではECOモード、軽快な加速とECOを両立したいときはSPORTモードをおすすめします。

アドバイス

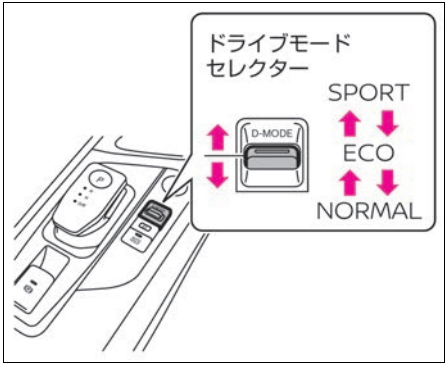
- SPORTモードおよびECOモードでは、アクセルペダルOFFによる減速でブレーキ力を保持して停車させ続ける機能はないため、停車時はブレーキペダルを必ず踏み込んでください。

知識

- SPORTモード、ECOモードのときは、回生ブレーキ（P.15）の効率を上げるため、走行中にアクセルペダルを離すとNORMALモードのときよりも、強めのエンジンブレーキをかけているように減速度合いが強くなります。
- SPORTモード、ECOモードのときは、ブレーキを踏まずに減速した場合でも減速度合いに応じて制動灯が点灯します。
- アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。

モードの切り替えかた

- パワースイッチがONのとき、ドライブモードセレクターを車両前方または後方に押してモードを切り替えます。
- NORMALモードのときはNORMALモードインジケーター＜NORMAL＞が点灯します。
  NORMALモードインジケーター (P.48)
- SPORTモードのときはSPORTモードインジケーター＜SPORT＞が点灯します。
  SPORTモードインジケーター (P.48)
- ECOモードのときはECOモードインジケーター＜ECO＞が点灯します。
  ECOモードインジケーター (P.48)



知識

- SPORTモード、ECOモード選択中にシステム異常が発生した場合、通常よりも減速度合いが弱くなります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

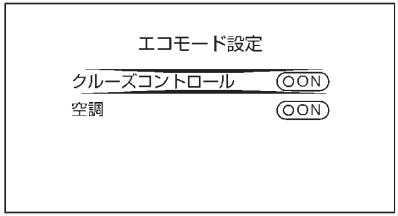
📖 知識

- モードの設定は、e-POWERシステムを始動するたびにECOモードに切り替わります。

エコモード設定

- エコモード設定は、インテリジェント クルーズコントロール★とエアコン機能を燃費重視の設定に切り替える機能です。ドライブモードがECOモードのときにカスタマイズが可能です。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「エコ」⇒「エコモード設定」を選択すると、ECOモード時の燃費重視機能のON・OFFを切り替えることができます。

画面の切り替えかた（➔P.55）
エコ（➔P.69）

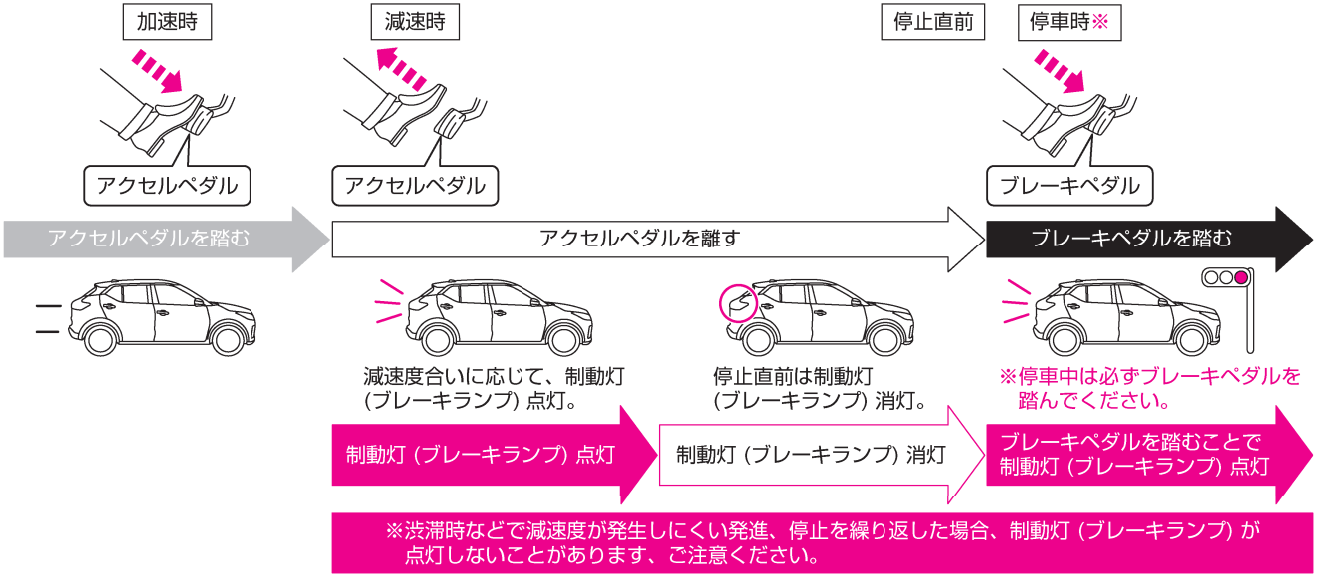


📖 知識

- エコモード設定で「クルーズコントロール」★をON（燃費優先）にすると、インテリジェント クルーズコントロール★の加速度をOFF時に比べて穏やかにすることで、燃費向上を図ります。
- エコモード設定で「空調」をON（燃費優先）にすると、OFF時に比べて冷房の効きを弱めることで、燃費向上を図ります。
- エコモード設定の設定は、パワースイッチをOFFにしても、再度設定変更をするまではその状態が維持されます。
- 次のような場合、エコモード設定で「空調」をON（燃費優先）にしていても、エアコン機能が優先となります。
  - エアコンの温度設定をLoにしたとき（18℃～Hiに設定すると燃費優先になります）
  - デフロスタースイッチ（➔P.113）をONにしたとき

SPORTモード、ECOモード時の制動灯（ブレーキランプ）について

アクセルペダルを離した際、発生する減速度合いに応じて制動灯（ブレーキランプ）を点灯させて、停止直前に消灯します。停車中はブレーキペダルを踏むことで、制動灯（ブレーキランプ）が点灯します。

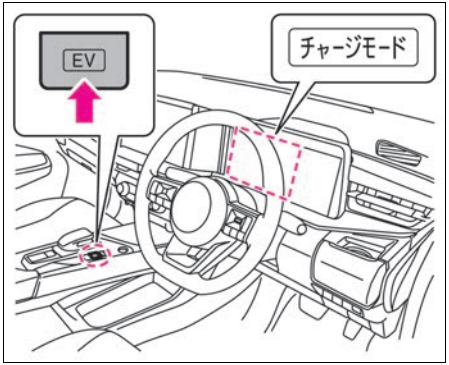


チャージモード

EVモードスイッチを押し続けると強制的にエンジンを始動し、リチウムイオンバッテリーの充電を行います。マナーモードによる走行距離を長くしたいとき、あらかじめリチウムイオンバッテリーを充電するモードです。

チャージモードの使いかた

- 走行可能表示灯 が点灯しているとき、EVモードスイッチを押し続けるたびにチャージモードのON・OFFが切り替わります。
- チャージモードは、ドライブモードがSPORTモード、ECOモードのときに使用できます。
- マナーモード中にEVモードスイッチを押し続けると、チャージモードに切り替わります。
- ONにするとメーター内にチャージモードインジケーターが点灯します。



アドバイス

- システムに異常が発生したときは、自動的にチャージモードが解除されます。

知識

- チャージモードを使用すると、エンジンで発電するため燃費が悪化します。
- チャージモードでは、リチウムイオンバッテリー残量が満充電近くまで充電されます。またチャージモード作動中でも、エンジンが始動しないこともあります。
- チャージモード中でも、急加速、上り坂など走行負荷が高いときは、充電ができない場合があります。
- システムの状態によっては、充電時間が長くなることがあります。
- 外気温が低いときは、充電時間が長くなることがあります。
- 駐停車中にチャージモードを使用しエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例違反により罰則の対象となるおそれがあります。アイドリングストップの詳しい条例については、関係する自治体に確認してください。

チャージモードを使用できない、または解除されるとき

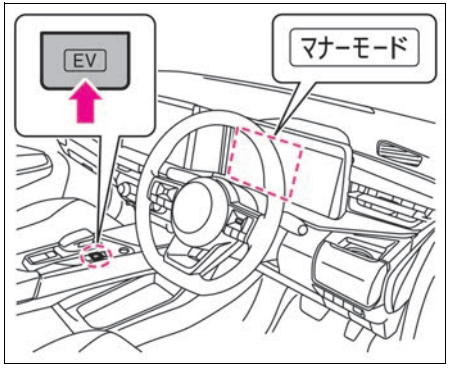
- チャージモード中でも、リチウムイオンバッテリーを保護するために一時的に発電を停止することがあります。
- シフトポジションがPのときにアクセルを操作すると、チャージモードを解除します。
- 外気温が低いときは、チャージモードを使用できないことがあります。
- 走行可能表示灯が点灯しているときにボンネットを開けると、チャージモードを使用できない、またはチャージモードを解除します。

マナーモード

EVモードスイッチを押すと、エンジンの始動を極力抑えて走行することができます。リチウムイオンバッテリーの電力だけで走行するので、早朝や深夜の住宅街など、静かに走行したいときに使用するモードです。

マナーモードの使いかた

- 走行可能表示灯が点灯しているとき、EVモードスイッチを押すたびにマナーモードのON・OFFが切り替わります。
- マナーモードは、ドライブモードがSPORTモード、ECOモードのときに使用できます。
- チャージモード中にEVモードスイッチを押すと、マナーモードに切り替わります。
- ONにするとメーター内にマナーモードインジケーターが点灯します。
- チャージモードをONにしてリチウムイオンバッテリー残量を増やしておくと、バッテリー電力だけで走行できる距離が長くなります。
- 外気温が低いときはエンジンが始動することがありますが、エンジンが始動する前にマナーモードをONにすると、エンジンの始動が抑えられてバッテリー電力だけの走行が可能です。



アドバイス

- システムに異常が発生したときは、自動的にマナーモードが解除されます。

知識

- ブレーキ操作を行うと、システムの判断により一時的にエンジンを始動します。なおマナーモードは解除されません。

マナーモードを使用できない、または解除されるとき

- 急加速や上り坂などでアクセルを強く踏み込んだ場合、エンジンを始動し、マナーモードが解除されます。
- 長い下り坂での回生ブレーキによりリチウムイオンバッテリー残量の上限まで充電されると、リチウムイオンバッテリー保護のためマナーモードが解除されます。
- シフトポジションがPのときにアクセルを操作すると、エンジンが始動しマナーモードが解除されます。
- リチウムイオンバッテリー残量が少ないときはマナーモードを使用できない、またはマナーモードが解除されます。
- システムが強制充電を必要と判断した場合、マナーモードを解除しエンジンを始動します。
- システムが暖機が必要と判断した場合、エンジンを始動し、マナーモードが解除されます。
- フロントガラスのデフロスタースイッチ（P.289）を押すと、暖機のためにエンジンが始動しマナーモードを使用できない、またはマナーモードが解除されます。
- 外気温が低いときは、マナーモードを使用できないことがあります。
- 走行可能表示灯が点灯しているときにボンネットを開けると、強制的にエンジンが始動しマナーモードを使用できない、またはマナーモードが解除されます。
- マナーモード作動中にドライブモードをNORMALモードに切り替えると、マナーモードは解除されます。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、急ブレーキを踏んだとき、後続車に追突される可能性を低減させるため、制動灯を点滅させて後方へ急ブレーキを知らせます。

エマージェンシーストップシグナルについて

- 60km/h以上の速度で走行中、急ブレーキを踏むと作動します。
- 次の場合は作動が停止します。
  - ― ブレーキペダルから足を離したとき
  - ― ブレーキペダルを踏んでいても急ブレーキではなくなったとき

知識

- メーター内のABS警告灯（P.265）が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しない場合があります。

4WD（4輪駆動）車の扱いかた★

4WD車は、滑りやすい路面などで優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。4WD車特有の取り扱いかたを十分理解し、正しい運転をしてください。

警告

- **4WD車は万能ではないため、走行するときは次のことを必ず守る。**
  - ― 渡河などの水中走行はしない
  - ― 砂地、ぬかるみなど、車輪が空転しやすいところでの連続走行はしない
  - ― 脱輪などにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させない

走行するとき

警告

- **急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはしない。**

  タイヤがスリップしたり、横滑りや尻振りなどをおこし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- オフロード（不整地）走行やラリー走行用ではありません。
- 運転操作は一般車と同様です。ハンドル、アクセルおよびブレーキペダルなどの操作は慎重に行い、安全運転を心がけてください。

知識

- 4WD車は、2WD車に対し、制動距離が短くなるわけではありません。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させるとともにハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABSについて

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- パワースイッチをONにしたときや、e-POWERシステムを始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停車させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

⚠ 警告

- **カーブの手前では十分に減速する。**

  ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。

- **でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分にとる。**

  ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を抑え、車間距離を十分にとって運転してください。

- **タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。**

  ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは、横滑りや駆動輪の空転を抑えて走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDCの機能について

- VDCのシステムには次の機能があります。
  - VDC機能：走行中の横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させる機能です。
  - トラクションコントロール機能（TCS）：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、走行用モーターの出力を抑えることにより、駆動力およびハンドルの操作性を向上させる機能です。
  - ブレーキLSD機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保する機能です。
  - ABS機能：ABS（➔P.153）

知識

- VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

VDCの作動について

●VDCの作動と警告灯

— VDCが作動しているときは、メーター内のVDC警告灯が点滅します。

— トラクションコントロール機能（TCS）のみが作動しているときもVDC警告灯が点滅します。VDC警告灯が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。

●次の場合、VDC警告灯が点灯することがあります。一度パワースイッチをOFFにし、再度e-POWERシステムを始動するとVDC警告灯は消灯します。

— 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき。

— 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき。

VDCに関する注意事項

警告

- **滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。**

この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。

- **次の場合、VDC警告灯が点灯し正常に作動しないことがあるため注意する。**

— サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき

— サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき

- **VDC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。**

VDCの停止のしかた

■ VDC OFFスイッチ無車

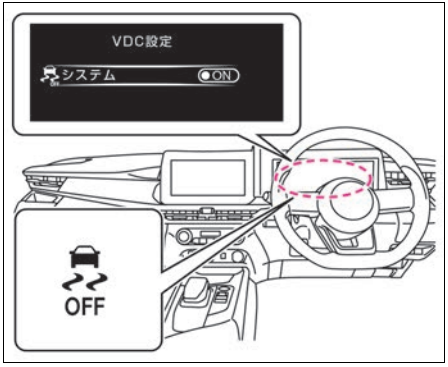
●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「VDC設定」⇒「システム」を選択すると、VDC機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、VDC設定をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)

➔VDC設定★ (P.65)

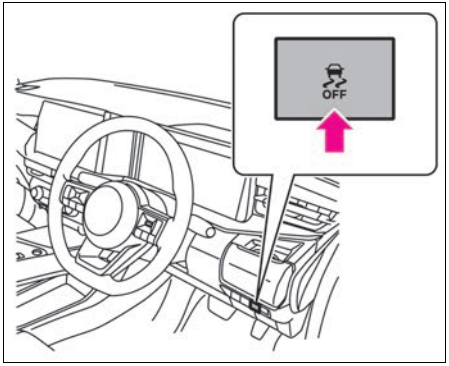
●VDC機能をOFFに切り替えると、VDCが停止し、VDC OFF表示灯が点灯します。

●再度、VDCを使用（ON）するときは、もう一度アドバンスドドライブアシストディスプレイでVDC機能をONに切り替えます。VDC OFF表示灯が消灯し、VDCがONになります。



■ VDC OFFスイッチ付車

VDCの作動を停止（OFF）するにはVDC OFFスイッチを長押し（約2秒）します。



●VDC OFFスイッチを長押し（約2秒）すると、VDCが停止し、VDC OFF表示灯 が点灯します。

●再度、VDCを使用（ON）するときは、もう一度VDC OFFスイッチを単押しします。VDC OFF表示灯 が消灯し、VDCがONになります。

アドバイス

- VDCが作動しているときは、ぬかるみや雪道から脱出するときに、スリップ状態を検知するため、アクセルペダルを踏み込んでもタイヤの回転数が上がらないことがあります。タイヤの回転数を上げたいときはVDCを停止してください。
- VDC機能をOFFにすると、VDCのすべての機能と次の機能が停止します。（ABSおよびブレーキLSD機能を除く）
  - インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）（P.155）
  - プロパイロット★（P.160）
  - インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.205）
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキ（P.182）
  - 踏み間違い衝突防止アシスト（P.188）
  - インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★（P.198）

知識

- パワースイッチをONにするたびに、VDCはONになります。
- VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- パワースイッチをONにしたときや、e-POWERシステム始動後最初の発進時に、エンジンルーム内から音が聞こえることがありますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

シャシー制御

シャシー制御には、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）があります。

インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）について

運転者のハンドル、アクセル、ブレーキ操作を検知し、それらの情報から各輪のブレーキを制御して、車両の挙動をなめらかにすると同時に、応答性を高めるなどして安定感のあるコーナリングを実現します。

⚠ 警告

- **インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）の機能を過信しない。**
  インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）は、すべての走行環境において効果があるわけではないため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。

アドバイス

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに「シャシー制御 システム故障 取扱説明書を見てください」と警告が表示されたときは、故障により機能が正しく作動しないことがあります。警告が表示されたときは、日産販売会社で点検を受けてください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

警告メッセージ（➔P.273）

知識

- インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）をOFFにしていても、急ハンドル時などには作動する場合があります。
- VDCをOFFにすると、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）もOFFになります。

  （VDCをOFFにしたときは、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）が完全に停止します。）
- システムが作動すると、ブレーキペダルに振動を感じたり、音が聞こえたりする場合がありますが、システムの作動音で異常ではありません。また、減速感を感じることがありますが、異常ではありません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「シャシー制御」⇒「トレースコントロール」を選択すると、インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）機能のON・OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔運転支援（P.65）

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、上り坂での発進を補助するシステムです。

ヒルスタートアシストについて

- 上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間に発生する車両の後退を防ぎます。
- シフトポジションがP、N以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。

⚠ 警告

- **ヒルスタートアシストの機能を過信しない。**

  凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転を心がけてください。

  緩やかな坂道ではヒルスタートアシストが作動せず後退する場合があります。その際はブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキをかけてください。
- **停車するときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ブレーキペダルを踏み続ける。**

  この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にシフトポジションをPに入れ、パーキングブレーキをかけてください。

アドバイス

- セレクトレバーを操作した直後は、ブレーキを踏んだ状態で約1秒待ってから発進してください。シフトポジションをPからDまたはNからDに操作した直後は、ヒルスタートアシストが作動しないことがあります。

知識

- メーター内のVDC警告灯 （➔P.267）が点灯したときは作動しません。
- ヒルスタートアシストが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

車両接近通報装置

車両接近通報装置は、低速走行中に車両が接近していることを音で歩行者に知らせるシステムです。

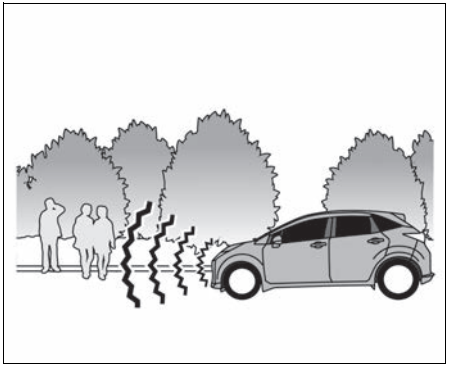
車両接近通報装置について

車両接近通報装置は、メーター内の走行可能表示灯 が点灯中にエンジンが停止していると、次の場合に作動します。

- 発進時、車速が30km/h以下のとき
- 減速時、車速が25km/h以下になったとき
- シフトポジションがRのとき

車両接近通報装置の故障について

- システムに異常があると、メーター内の車両接近通報システム警告灯が点灯します。
  車両接近通報システム警告灯
  （P.269）



⚠ 警告

- **車両接近通報装置の音が聞こえないときは、日産販売会社で点検する。**

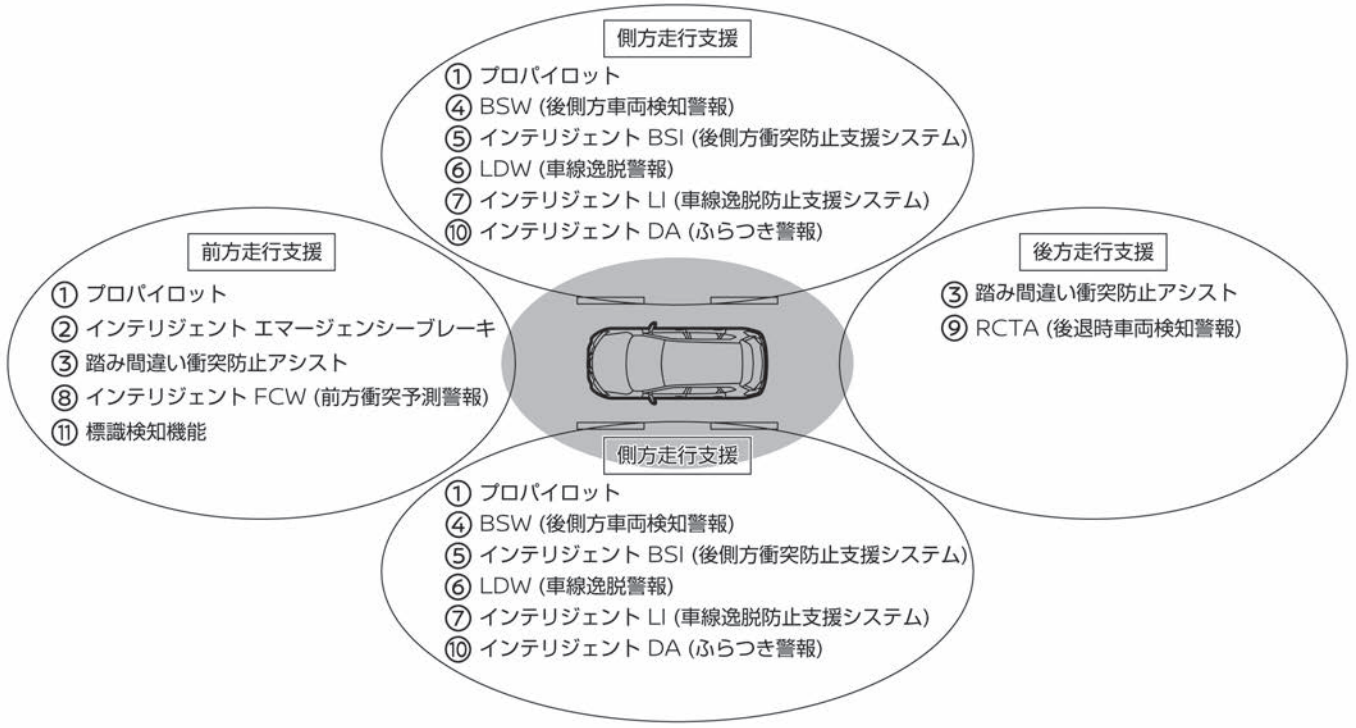
車両接近通報装置の音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか確認してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、シフトポジションをRにし、窓を開けて音が聞こえるか確認します。車両前方から音が聞こえないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- 次の条件がそろうとパワースイッチをOFFにし忘れることを防止するため、車両接近通報装置が作動します。
  - シフトポジションがPのとき
  - 走行可能表示灯 が点灯しているとき
  - 運転席シートベルトが非装着のとき
  - 運転席ドア、助手席ドアまたは後席ドアが開いているとき
- 車両接近通報装置の音を大きくしたい場合は、日産販売会社へご相談ください。音を小さくすることはできません。

走行支援システム

走行支援システムについて



運転支援機能

① **プロパイロット★**
走行中、前方車両との車間距離を制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを制御することで運転操作の負担を減らします。（➔P.160）

② **インテリジェント エマージェンシーブレーキ**
前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。（➔P.182）

③ **踏み間違い衝突防止アシスト**
進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者（前進時のみ）などがいる場所で、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えやブレーキ操作が遅れたとき、音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。（➔P.188）

④ **BSW（後側方車両検知警報）★**
車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合に警報によって運転者に注意を促します。（➔P.197）

⑤ **インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★**
隣車線に車両がいるときに運転者が車線変更を開始した場合、警報とともに車両をもとの車線内に戻す方向に力を発生し、隣接車両との接触を回避するよう支援します。（➔P.197）

⑥ **LDW（車線逸脱警報）**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。（➔P.205）

⑦ **インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。（➔P.205）

⑧ **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）**
前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。（➔P.209）

⑨ **RCTA（後退時車両検知警報）★**
後退時に、後方を横切ろうとする車両に衝突するおそれがあるとき、警報によって注意を促します。（➔P.212）

⑩ **インテリジェント DA（ふらつき警報）**
ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、音と表示により運転者に休憩を促します。（➔P.215）

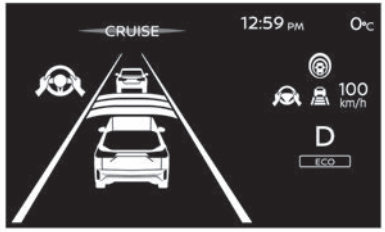
⑪ **標識検知機能**
走行中に検知した最高速度標識、はみ出し通行禁止標識、車両進入禁止標識および一時停止標識の情報をアドバンスドドライブアシストディスプレイに表示 し、運転者にお知らせする機能です。（➔P.216）

プロパイロット★

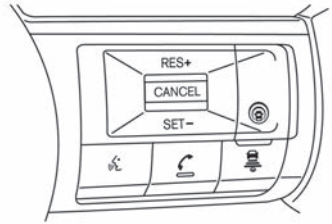
プロパイロットは、運転者が設定した車速を上限に先行車と車速に応じた車間距離を保ちながら、車線中央付近を走行するための運転操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ

プロパイロット表示



ステアリングスイッチ (プロパイロット)



⚠ 警告

- **高速道路や自動車専用道路で使用する。**

  プロパイロットは、高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。一般道での使用は思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。

- **プロパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がける。**

  自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、急なカーブを走行するとき、悪天候などでは、適切な減速や操舵制御が行えず先行車に接近したり、レーンマーカーに近づくことがあります。先行車との車間距離、自車の車線内の位置、周囲の状況に応じて自らアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。

  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。

- **手放し運転を行うことはできない。**

  運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

- **停止中の車両には反応しない。**

  料金所や渋滞の最後尾で停止中の車両に対しては減速しません。十分注意してください。

プロパイロットについて

- プロパイロットのシステムには次の機能があります。

インテリジェント クルーズコントロール

- 先行車を検出しているときは、運転者がセットした車速（約30km/h以上）を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。
- 先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。
- 先行車が発進したときは、ステアリングスイッチのキャンセルスイッチをRES+方向に押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態を解除し、再びインテリジェント クルーズコントロールによる追従走行を開始します。
- 先行車を検出していない場合は運転者がセットした車速で定速走行します。（約30km/h以下では前方に車両がいない場合使用できません。）

➔インテリジェント クルーズコントロールの作動 (P.163)

ハンドル支援

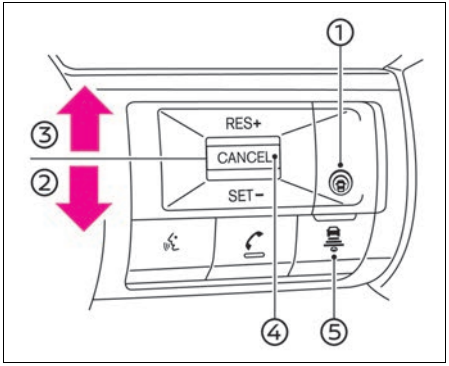
- 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。（約50km/h以下では前方に車両がいる場合に作動できます。）

➔ハンドル支援の作動 (P.173)

📖 知識

- アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができる定速制御機能については、➔定速制御機能について (P.180)をお読みください。

ステアリングスイッチ（プロパイロット）



① **プロパイロットスイッチ**
-プロパイロットのON・OFFができます。

② **SET−操作（下押し）**
-SET−方向に押したときの車速でプロパイロットを開始できます。
-設定速度を下げることができます。

③ **RES+操作（上押し）**
-プロパイロットを解除後、解除前の設定速度で再び開始することができます。
-設定速度を上げることができます。

④ **CANCELスイッチ**
-プロパイロットの解除ができます。

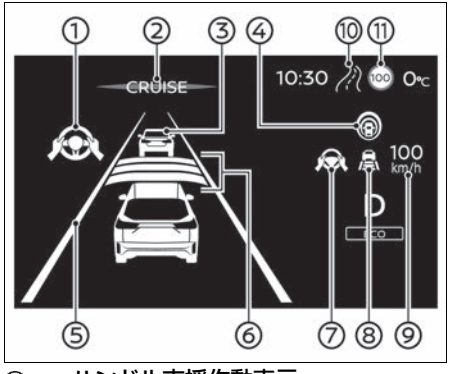
⑤ **車間設定スイッチ**
-車間設定を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。

知識

- プロパイロットをONにすると、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）も同時にONになります。

  詳しくは、➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.197)➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム） (P.205)をお読みください。

アドバンスドドライブアシストディスプレイ



① **ハンドル支援作動表示**
- ハンドル支援中は緑色に点灯

② **プロパイロット作動表示**
- プロパイロット作動中は青色に点灯

③ **先行車検出表示**
- 先行車検出有り：表示
- 先行車検出無し：非表示

④ **プロパイロット作動灯**
- プロパイロットON：白色に点灯
- プロパイロット作動開始：青色に点灯

⑤ **車線検出表示**
- 車線検出有り：緑色に点灯
- 車線検出無し：灰色に点灯

⑥ **車間設定表示**
- 車間距離の設定状況を表示

⑦ **ハンドル支援作動灯／警告灯**
- ハンドル支援中は緑色に点灯

⑧ **車速制御作動灯／警告灯**
- 定車間制御中：緑色に点灯
- 定速制御中：先行車アイコンが非表示

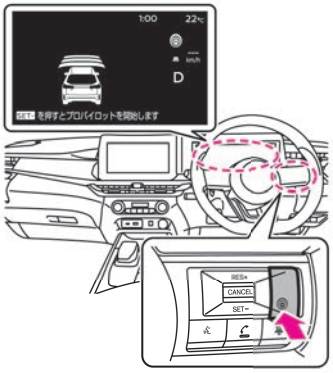
⑨ **設定車速表示**
- 設定車速を表示

⑩ **ルート減速支援表示★**
- ルート減速支援機能作動時は表示

⑪ **最高速度標識表示**
- 標識検知機能で検出された速度標識を表示
- 運転者への操作支援を表示

プロパイロットの使いかた

1. プロパイロットスイッチ㊓を押します。
・プロパイロットがONになります。
・アドバンスドドライブアシストディスプレイにプロパイロットの状態が表示されます。



知識

- プロパイロットには次の機能があります。

➔インテリジェント クルーズコントロールの作動 (P.163)

➔ハンドル支援の作動 (P.173)

- プロパイロットスイッチ㊓を約1.5秒押し続けると、定速制御機能に切り替わります。

➔定速制御機能について (P.180)

- 車間設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。
- e-POWERシステムを停止するとプロパイロットはOFFになります。

2. 設定したい速度まで加速または減速します。
3. SET-方向に押します。
・スイッチを押したときの速度が設定速度になり、プロパイロットの制御が開始します。
（車速約30km/h以下で先行車を検出しているときにスイッチを押した場合、設定速度は30km/hになります。）
プロパイロット作動灯、プロパイロット作動表示が青色で点灯します。



知識

- 次の場合は、プロパイロットの制御を開始することができません。（設定車速表示が約2秒間点滅します。）

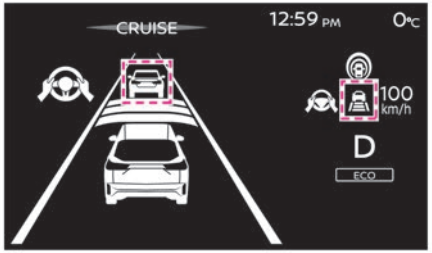


— 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアが開いているとき
— 運転席シートベルトを着用していないとき
— 車速が約30km/hを下回っていて、先行車を検出していないとき
— シフトポジションがDまたはB以外のとき
— 電動パーキングブレーキが作動しているとき
— ブレーキを踏んでいるとき
— VDCをOFFにしたとき
— VDC/TCSが作動したとき
— タイヤが空転したとき

インテリジェント クルーズコントロールの作動

先行車を検出しているとき

●運転者がセットした車速（約30km/h以上）を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車検出表示が点灯し、車速制御作動灯が定車間制御表示（緑）で点灯します。



⚠ 警告

● **運転者は周囲の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルを操作する。**

車速・車間制御機能で停止した後、前方に車両が割り込んできた場合、位置や車両の向きによっては検出することができず、先行車が発進すると自車も動きだし割り込んできた車両に接近するおそれがあります。

📖 知識

● インテリジェント クルーズコントロールで自車が停止したとき、停止した状態を保持するまでは周囲に注意してください。

● 車間設定スイッチ により、車間を設定することができます。

車間距離設定の変更のしかた (P.168)

● インテリジェント クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動した場合は、自車の制動灯が点灯します。

● ブレーキが作動したとき、音がすることがありますが異常ではありません。

● インテリジェント クルーズコントロールにより自車が停止した後、約3分を経過すると、解除音とともに電動パーキングブレーキが作動し、インテリジェント クルーズコントロールは解除されます。

● 次の条件では「RES+で発進します」とメッセージが表示され、停止した状態を保持します。（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

— 約30秒を超えて停止したとき

— 前方にソナーもしくはフロントカメラで障害物を検出したとき

— 割り込み車両を検出したとき

— 歩行者を検知したとき

— 信号機を検知したとき

— ブレーキ操作をしたとき

— 車線幅の狭い道路を検知したとき

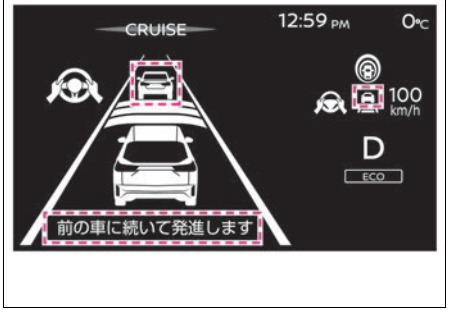
— ソナーが適切に作動していないとき（P.274）

— メーカーオプションナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき

— メーカーオプションナビゲーションシステムとフロントカメラにより、ナビゲーションの道路種別と走行している道路の種別が一致しないと判定したとき

先行車が停止したとき（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

●インテリジェント クルーズコントロールで走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。（停止した状態を保持しているときは、「前の車に続いて発進します」と表示され、先行車検出表示と車速制御作動灯が点滅します）
高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。その後、先行車が約30秒の間に発進すると追従走行を再開します。



先行車が停止したとき（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）

●インテリジェント クルーズコントロールで走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、インテリジェント クルーズコントロールは停止した状態を保持します。（停止した状態を保持しているときは、「RES+で発進します」と表示されます）

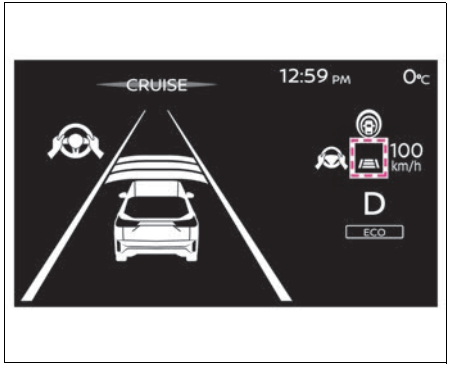
先行車が発進したとき

●インテリジェント クルーズコントロールで停止状態を保持しているときに先行車が発進したときは、RES+方向に押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態は解除され、再びインテリジェント クルーズコントロールによる追従走行を開始します。このとき、RES＋方向に押して発進しようとした場合は、3秒間の発進待機状態となり、その間に先行車が発進すると追従走行を再開します。3秒以上経過すると、発進待機状態が解除されるため、再び発進するときはもう一度RES＋方向に押すか、アクセルペダルを踏んでください。



先行車を検出していないとき

●運転者が設定した速度で、定速走行します。先行車検出表示が消灯し、車速制御作動灯の先行車アイコンが非表示になります。



知識

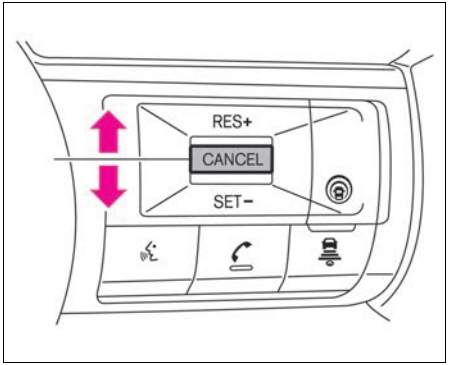
- 設定車速までは機能の制御によって加速しますが、素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- 先行車を検出していない場合、車速が約25km/h以下になると、インテリジェント クルーズコントロールは解除されます。
- 高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行している場合は、停止保持中に先行車を検出しなくなると、インテリジェント クルーズコントロールは解除されます。（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

設定車速の変更のしかた

設定車速が5km/hきざみで変更できます。

●設定車速を上げたいときは、RES+方向に押します。

●設定車速を下げたいときは、SET-方向に押します。



知識

- 車間制御しているときは、先行車に合わせた車速に制御されるため、RES+方向に押して、設定車速を上げても加速しません。このとき機能上は設定車速を変更しているため、先行車を検出しなくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速はアドバンスドドライブアシストディスプレイの設定車速表示を確認しながら変更してください。

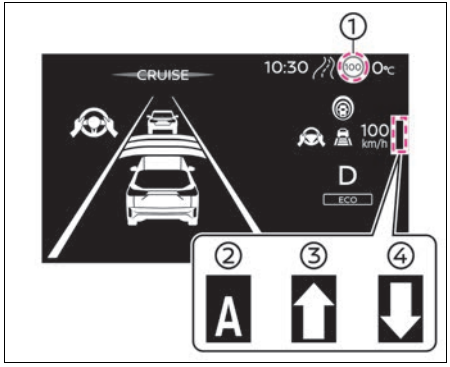
制限速度支援機能★について

標識検知機能により、新しい最高速度標識を検出した場合、新しい速度を自動または、手動で設定車速に反映することができます。

●次の場合は作動を開始します。

― 検出した制限速度が30km/h以上のとき

― アドバンスドドライブアシストディスプレイで制限速度支援機能が「手動」、または「自動」に設定されているとき



① 標識検知機能（赤枠）：標識検知機能により、検出された最高速度標識を表示します。
反映される最高速度標識（緑枠）：新たに検出された最高速度標識が設定車速に反映可能な場合、最高速度標識表示の枠が緑色で表示されます。

② A：オートモード（自動）の作動状態を示します。

③ ↑：マニュアルモード（手動）がONで、検出された最高速度標識が現在走行している速度よりも高い場合、「↑」が表示されます。

④ ↓：マニュアルモード（手動）がONで、検出された最高速度標識が現在走行している速度よりも低い場合、「↓」が表示されます。

⚠ 警告

- **運転者は交通法規を遵守し、安全な速度で走行する責任があります。**

  運転者は走行している道路の制限速度を確認し、設定車速を適切に設定し、安全運転を心がけてください。

- **制限速度支援機能の性能には限界があります。**

  工事や悪天候などで一時的な最高速度標識を検出できなかったり、走行している道路と並行な道路にある最高速度標識を誤って検出してしまうことがあります。運転者は常に周囲の状況を確認し、適切な速度に設定してください。

制限速度支援機能★の作動

オートモード（自動）選択時

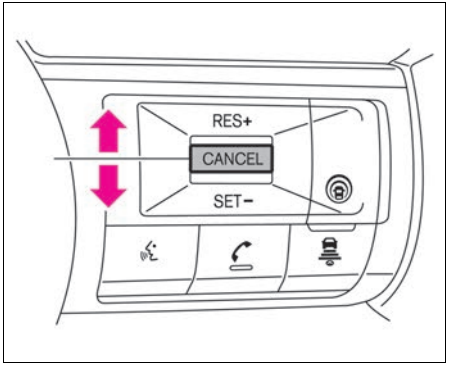
●高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行している場合に、新しい最高速度標識を検出した速度を設定車速に反映します。

マニュアルモード（手動）選択時

●新しく検出された最高速度標識を反映させるには、RES+方向、またはSET-方向に押します。

●RES+方向、またはSET-方向に押さない場合、速度標識支援表示（↑ ↓）は約10秒後に消灯します。
（表示している矢印とは反対のRES+／SET-方向に押すと、速度標識支援表示（↑ ↓）はすぐに消灯します）

●制限速度支援機能は、速度標識が検出されていない場合は作動しません。



知識

- 次のような場合は、標識検知機能が最高速度標識を検出しても、設定車速に反映されない場合があります。
  - ― 標識検知機能が適切に作動していないとき（➔P.216）
  - ― システムをOFFに設定しているとき
  - ― メーカーオプションナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき
  - ― メーカーオプションナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき
  - ― 高速道路、または自動車専用道路の出口に近づいたとき
  - ― 自車の路線と並行する路線があるとき（インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなど本線から出る路線）
  - ― 自車の路線と並行する側道の両車線に最高速度標識が表示され、それぞれが異なる制限速度を検出しているとき
  - ― 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - ― メーカーオプションナビゲーションシステムとフロントカメラにより、ナビゲーションの道路種別と走行している道路の種別が一致しないと判定したとき
- RES+方向に押して、設定車速を標識検知機能が検知している速度よりも高い速度に設定した後では、新しい最高速度標識を検出しても設定速度を超えない場合は反映しません。

制限速度支援機能★のON・OFFのしかた

マニュアルモード（手動）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「制限速度支援」⇒「手動」を選択すると、制限速度支援機能をマニュアルモード（手動）に設定できます。

オートモード（自動）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「制限速度支援」⇒「自動」を選択すると、制限速度支援機能をオートモード（自動）に設定できます。

●システムの作動を停止するときは、「OFF」を選択してください。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)

➔運転支援 (P.65)

●標識検知機能で検出した速度を、プロパイロットの設定車速に反映させるときのオフセット速度を選択します。

― -10km/h～+10km/hまでの範囲内で速度を設定できます。

➔制限速度支援機能★について (P.165)

知識

- 制限速度支援の設定は、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

ルート減速支援機能★について

高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行中にメーカーオプションナビゲーションシステムの地図データを利用して、カーブ・出口などの道路形状に合わせて車速を調節します。



⚠ 警告

- **運転者は交通法規を遵守し、安全な速度で走行する責任があります。**

  運転者は走行している道路の制限速度を確認し、設定車速を適切に設定し、安全運転を心がけてください。

- **ルート減速支援機能の性能には限界があります。**

  ルート減速支援機能は、すべての走行状況、交通環境、天候、路面状況で作動するわけではありません。運転者は周囲の状況に応じて自らアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。

- **ルート減速支援機能は、車両のブレーキにより走行を止める機能ではありません。**

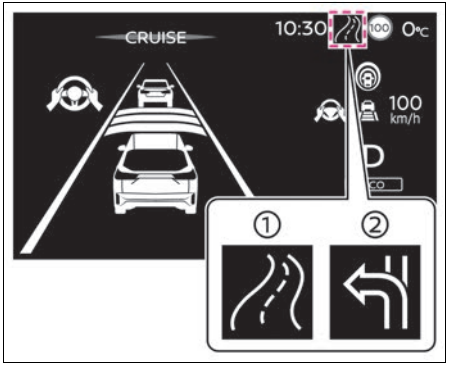
  減速が必要なときは必ず運転者が自ら適切なブレーキ操作を行ってください。

ルート減速支援機能★の作動

- カーブや高速道路の出口などでシステムが作動したときに、ルート減速支援機能が表示されます。

① カーブ

② 高速道路の出口
（高速道路や自動車専用道路など限定された道路）



📖 知識

- 次のような状況では、ルート減速支援機能が適切に作動しない場合があります。

  路面状況や交通環境に応じてアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

  — メーカーオプションナビゲーションシステムの地図データが最新ではない、または利用できないとき

  — メーカーオプションナビゲーションシステムが推奨するルートを走行していないとき

  — メーカーオプションナビゲーションシステムが新しいルートを探索しているとき

  — メーカーオプションナビゲーションシステムの位置検出が正しく行えないとき

  — メーカーオプションナビゲーションシステムの地図に無い道路を走行しているとき

  — 工事中の道路や車線規制がある道路を走行しているとき

  — 車線の分岐・合流のある道路、または交差点付近を走行しているとき

  — 悪天候のとき（雨、霧、雪、強風など）や、道路状況の悪い場所を走行しているとき

  — メーカーオプションナビゲーションシステムとフロントカメラにより、ナビゲーションの道路種別と、走行している道路の種別が一致しないと判定したとき

- アクセルを踏み込んでいる場合、ルート減速支援機能を行いません。
- プロパイロットの車速・車間制御機能の設定や、先行車を検出状態によっては、システムが作動しない場合もあります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ルート減速支援機能★のON・OFFのしかた

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「ルート減速支援」を選択すると、ルート減速支援機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)
➔運転支援 (P.65)

📖 知識

- ルート減速支援機能の設定は、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

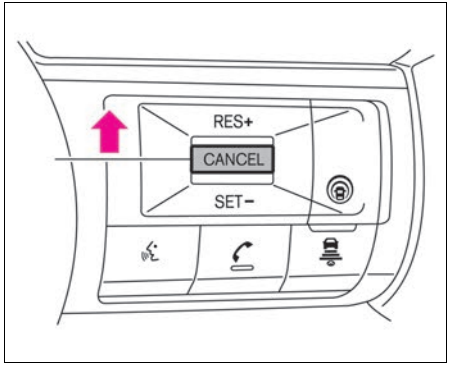
一時的に加速、減速をしたいとき

加速したいとき

●アクセルペダルを踏むと、加速します。
●アクセルペダルを離すと、元の制御状態に戻ります。

減速したいとき

●ブレーキペダルを踏むと、減速（制御が解除）します。
●解除前の設定速度で再びセットしたいときは、RES+方向に押します。



📖 知識

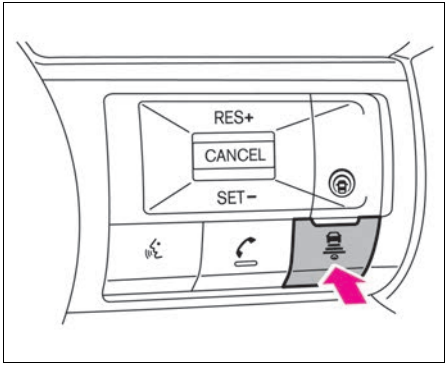
- アクセルペダルを踏んでいるときは、インテリジェント クルーズコントロールによるブレーキ制御も接近警報も行いません。
- 通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて加速、減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。
- アクセルペダルを踏んで加速した場合や、SET-操作（下押し）で設定速度を下げた場合などで設定速度より実際の速度の方が高くなったときは、設定速度表示が点滅します。



車間距離設定の変更のしかた

先行車との車間距離を交通状況に応じて選ぶことができます。インテリジェント クルーズコントロール制御中またはセット待機状態のときに車間設定を切り替えることができます。

●車間設定スイッチを押すごとに「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。



📖 知識

- 車間距離は車速に応じて変わり、速度が高いほど長くなります。

知識

車間設定	ディスプレイ
長	
中	
短	

- 車間設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

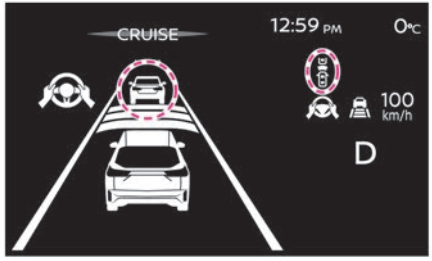
割り込み検知

●自車に近い位置に他車が割り込んできたときは、"ポーン" という音とともに先行車検出表示が点滅し、運転者にお知らせします。

接近警報

●車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、次のようにブザーとアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

●先行車に接近し、車間距離が十分でないと判断されるときはブザーが "ピッ、ピッ、ピッ、ピッ..." と鳴り、アドバンスドドライブアシストディスプレイの先行車検出表示および接近警報表示が点滅します。



知識

- 接近警報が頻繁に作動するような状況では、インテリジェント クルーズコントロールを使用しないでください。
- 短い車間距離でも、次の場合には接近警報が作動しないことがあります。
  - 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停止中の車両に対しては接近警報は作動しません。

追い越し時加速機能

●設定車速が70km/h以上でインテリジェント クルーズコントロール制御中、先行車が設定車速以下のとき、方向指示器を右折側に操作すると、車両が加速し先行車を追い越す準備を始めます。

●運転者がステアリングを操作し、追い越すために車線を変更したときに先行車を検出した場合は、運転者がセットした車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車を検出しなかった場合は運転者がセットした車速で定速走行します。

知識

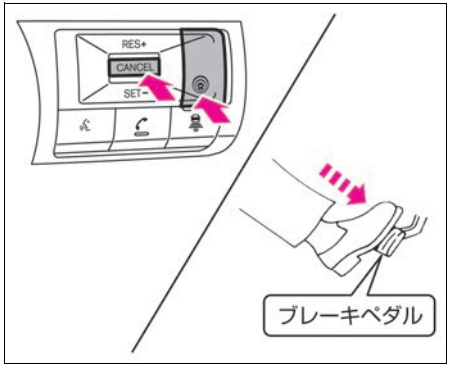
- 方向指示器を右折側に操作し、車両が加速しているときに先行車との距離が近づきすぎると加速は停止し、設定してある車間距離に戻ります。
- 次の場合は追い越し時加速機能が解除されます。
  - ブレーキを踏んだとき
  - CANCELスイッチを押したとき

インテリジェント クルーズコントロールの解除のしかた

次のいずれかの操作でインテリジェント クルーズコントロールが解除されます。

●CANCELスイッチを押す

●プロパイロットスイッチ㊙を押す
●ブレーキペダルを踏む
（インテリジェント クルーズコントロールにより、自車が停止状態を保持しているときを除く）



⚠ 警告

● **車から離れるときは、必ずプロパイロットスイッチ㊙を押して、プロパイロットをOFFにし、シフトポジションをPに入れ、e-POWERシステムを停止する。**

インテリジェント クルーズコントロールの自動解除

●次の場合は、解除音とともにインテリジェント クルーズコントロールが解除されます。
— 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
— 運転席のシートベルトを解除したとき
— 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき
— インテリジェント クルーズコントロールにより自車が停止後、約3分が経過したとき
— シフトポジションをDまたはB以外にしたとき
— 電動パーキングブレーキをかけたとき
— VDCをOFFにしたとき
— VDC/TCSが作動したとき
— タイヤが空転したとき
— 周辺の電波源の影響を受けているとき
●次の場合は、警報音とともに「フロントレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください」と表示され、作動が停止します。
— レーダーセンサー部が汚れ、先行車の検出が困難になったとき
システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びシステムをONにしてください。
— 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
システムを再び作動させる場合は、上記の状況から離れてから再びシステムをONにしてください。

アドバイス

● インテリジェント クルーズコントロールにより自車が停止状態を保持中に運転席ドアを開けたとき、電動パーキングブレーキが正常に作動しなかった場合は「ブレーキペダルを踏んでください」と警告メッセージが表示されます。

知識

● インテリジェント クルーズコントロールにより自車が停止状態を保持しているとき、 次の条件により、インテリジェント クルーズコントロールが解除されると電動パーキングブレーキが作動します。
— 運転席、助手席、後席、またはバックドアのいずれかのドアを開けたとき
— 運転席のシートベルトを解除したとき
— インテリジェント クルーズコントロールにより自車が停止後、約3分が経過したとき
— シフトポジションをDまたはB以外にしたとき
— VDCをOFFにしたとき
— インテリジェント クルーズコントロールに異常があるとき
— CANCELスイッチを押したとき

知識

— プロパイロットスイッチ㊀を押したとき

インテリジェント クルーズコントロールの故障について

●システムに異常があると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイ内に車速制御警告灯（オレンジ）、およびハンドル支援警告灯（オレンジ）が点灯し、警告メッセージが表示され、システムが停止します。
車速制御警告灯（➔P.161）
ハンドル支援警告灯（➔P.161）

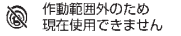
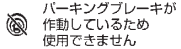
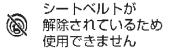
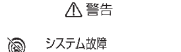
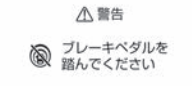
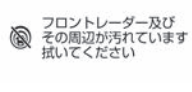
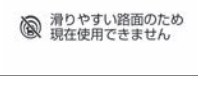


アドバイス

● 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

プロパイロット（インテリジェント クルーズコントロール）警告メッセージ

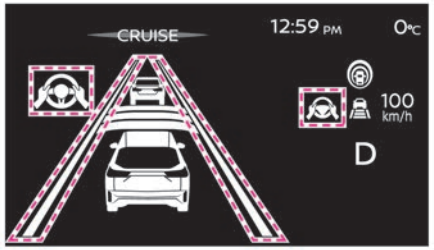
警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。 メーター内の表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● VDCをOFFにしたとき	● VDCがOFFの場合はインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
	● システム故障	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	● インテリジェント クルーズコントロールにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキを踏んでください。
	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ➔レーダーセンサー★の取り扱い (P.314)
	● VDC／TCSが作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき	● VDC／TCSが作動する、またはタイヤが空転するような状況ではインテリジェント クルーズコントロールは使用できません。

ハンドル支援の作動

車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。

- ハンドル支援は、次の条件を満たすとき作動することができます。
  - インテリジェント クルーズコントロールの制御が開始しているとき
  - 両側のレーンマーカーを検出しているとき
    レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。
  - 車速が約50km/h以上のとき
  - 車速が約50km/h以下では、先行車を検出しているとき
  - 運転者がハンドルを持っているとき
  - 車線の中央を走行しているとき
  - 方向指示器が作動していないとき
  - ワイパーが高速で作動していないとき
- ハンドル支援が作動すると、ブザーが鳴るとともにハンドル支援作動灯、ハンドル支援作動表示、車線検出表示が緑色になります。



知識

- ハンドル支援中に走行車線の右側、もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにインテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。

ハンドル支援のON・OFFのしかた

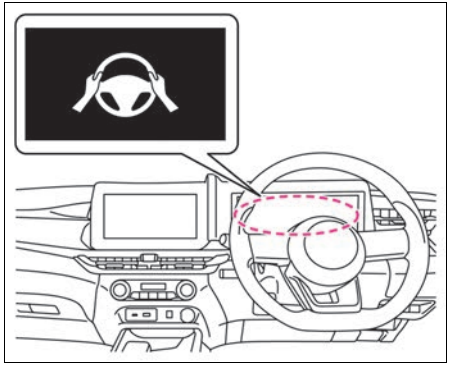
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「ハンドル支援」を選択すると、ハンドル支援のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援をお読みください。
  ➔ 画面の切り替えかた (P.55)
  ➔ 運転支援 (P.65)

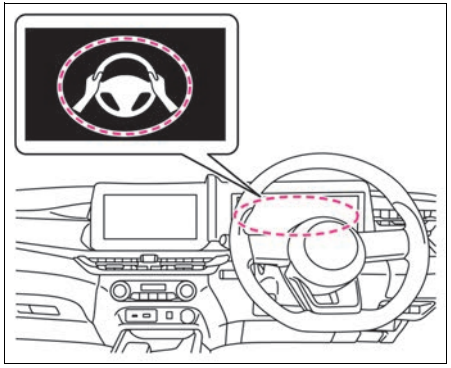
知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイの車両情報画面がクルーズ画面のときは、ステアリングにある OK スイッチを押すとハンドル支援の設定画面が表示されます。
- ハンドル支援のON・OFF設定はe-POWERシステムを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

手放し警告について

- 運転者がハンドルを持っていない、または操作していない場合、メーター内の手放し警告灯が点灯するとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイに手放し警告が表示されます。
- 手放し警告が表示されているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、警告音とともに手放し警告灯および手放し警告が点滅し、ハンドル支援機能は解除されます。





⚠ 警告

- **手放し運転を行うことはできません。**
  運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

アドバイス

- ハンドルに手を軽く添えて運転をしている場合など、ハンドル操作を検出できず、手放し警告が表示されることがあります。

知識

- 手放し警告によりハンドル支援が解除された場合、再び運転者がハンドル操作すると手放し警告は消灯し、プロパイロットを解除し再度セットすることでハンドル支援を再開できます。
- 運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「減速します」と表示され、自車を減速、緊急停止させます。
- 緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅灯は自動で消灯します。

プロパイロット緊急停止支援システム★

- 車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察・消防・医療機関）に救援要請を行います。
  （SOSコールのシステムを利用するにはNissanConnect サービスの契約が必要です。）

➔先進事故自動通報システム★ (P.241)

ハンドル支援の一時待機について

運転操作による一時待機

- 方向指示器を作動させたときは、ハンドル支援機能が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
- ハンドル支援作動灯、ハンドル支援作動表示、車線検出表示が灰色になります。

システムによる一時待機

- 次の場合は、ブザーが鳴りハンドル支援機能が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
  — 両側の車線を検出しなくなったとき
  — 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しなくなったとき
- カメラおよびカメラ周辺の温度が高いときは、警報音（ブザー）とともに警告メッセージが表示され、ハンドル支援機能が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
- ハンドル支援作動灯、ハンドル支援作動表示、車線検出表示が灰色になります。

知識

- 高速道路や自動車専用道路など限定された道路を走行中、車速が約50km/h以下で先行車を検出しなくなった場合、両側の白線を検出しているときはハンドル支援を継続する場合があります。（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

ハンドル支援の自動解除

●次の場合は、警報音（ブザー）とともに警告メッセージが表示され、ハンドル支援機能が解除されます。
- ― ワイパーを高速で作動させたとき
- ― 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）
- ― 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ（➔P.176）

知識

- ハンドル支援によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によりいつでも修正することができます。

ハンドル支援機能の故障について

●システムに異常があると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイにハンドル支援警告灯（オレンジ）が点灯し、警告メッセージが表示され、システムが停止します。ハンドル支援警告灯（➔P.161）

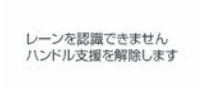
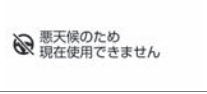
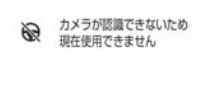
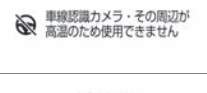
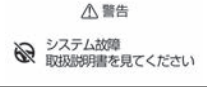


アドバイス

- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。 メーター内の表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき （雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再びハンドル支援機能を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でプロパイロットを解除し、再度セットしてください。
	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速動作を解除してください。その後、プロパイロットを再度セットしてください。
	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき	● 状況が改善すると、プロパイロットを使用することができます。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止してカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。
	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 室内の温度が下がるとプロパイロットを使用することができます。
	● システム故障	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに表示します。 — 表示（赤）により警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。

運転支援機能

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。 — 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロットが解除されます。

プロパイロットに関する注意事項

⚠ 警告

- **プロパイロットは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。**

  先行車との車間距離、車線内の位置、周囲の状況に応じてアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作するなどして、常に安全運転を心がけてください。

- **プロパイロットの性能には限界があります。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、プロパイロットを使用しないでください。**

  — 急カーブや曲がりくねった道
  プロパイロットは直線路や緩やかなカーブ路での使用を想定して設計しているため、車線中央付近を維持できなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

  — 急勾配の坂道
  停止状態を保持できず、車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

  — 急な下り坂
  設定車速を超えてしまうおそれがあります。また先行車がいる場合は、ブレーキが過熱して十分な減速ができなくなるおそれがあります。

  — 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

  — 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況
  ブレーキ作動が遅れて車間距離が短くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

  — 道路構造物（壁、ガードレール、ポール、縁石など）と、レーンマーカーが極端に近い道
  道路構造物に接近し思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **次のような状況では先行車との車間距離が正確に検出できない、またはレーンマーカーが検出できない場合があり、適切に制御できず、思わぬ事故につながるおそれがありますのでプロパイロットを使用しないでください。**

  — 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき

  — 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

  — カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき

  — カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき

  — 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき

  — 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき

  — 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき

  — 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき

  — トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき

  — 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき

  — 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき

  — 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行するとき

  — 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき

  — 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき

  — オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき

- **次のような状況ではプロパイロットは正しく機能しません。プロパイロットを使用しないでください。**

  — タイヤの空気圧が適正ではないとき

  — 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき

⚠ 警告

— 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき

— カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき

— 極端に重い荷物を積んでいるとき

— けん引しているとき

● **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

📖 知識

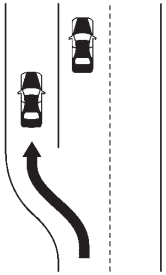
● プロパイロットを正しく作動させるために、カメラ前方のフロントガラス、レーダーセンサーおよびその周辺のお手入れを行ってください。

➔マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.315)

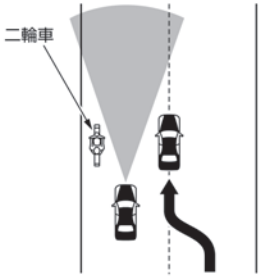
➔レーダーセンサー★の取り扱い (P.314)

インテリジェント クルーズコントロールについて

● 高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上でインテリジェント クルーズコントロールによりセット車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車または先行車の車線変更などで、自車線上に先行車を検出しなくなることによりセット車速まで加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



● 近距離ではレーダーセンサーの検出エリアが狭いため、自車線の端を走行する二輪車を検出できなかったり、間近に割り込んでくる先行車の検出が遅れたりして、車間距離が適切に保てない場合があります。



● レーダーセンサーの汚れを判定する機能を備えておりますが万全ではありません。

状況によってはレーダーセンサーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では、適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。また、レーダーセンサーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。

なお、汚れを判定した場合は、インテリジェント クルーズコントロールは解除されます。

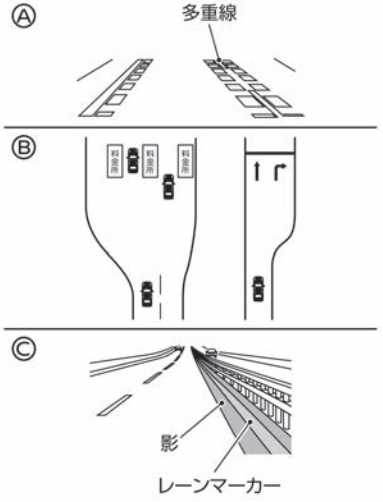
知識

- 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や自車の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に先行車を検出できなくなったり、隣の車線の車両や周辺のものを検出して制御したり、警報が作動する場合があります。

  また、一時的に先行車を検出できず、先行車に近づく場合があります。

ハンドル支援機能について

- 次のような状況ではレーンマーカーを正しく検出できず、適切なハンドル制御が行えない場合があります。
  - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき
  - レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
  - レーンマーカーが多重に描かれているとき Ⓐ
  - 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
  - 料金所や交差点手前などでレーンマーカーがない、またはレーンマーカーが大きく変化しているとき Ⓑ
  - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 停止禁止部分または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
  - 濡れている、または水たまりがある路面を走行しているとき
  - 工事などで車線内に複数のレーンマーカーがある道を走行しているとき
  - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているとき Ⓒ
  - 合流、分岐路を走行しているとき

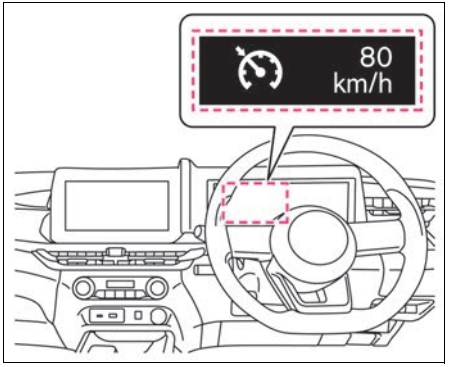


定速制御機能について

定速制御機能を使用すると、シフトポジションがDまたはBのとき、アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができます。（ハンドル支援や車間制御は行いません。）約30km/h以上で任意の速度にセットできます。

■ 定速制御機能表示

- プロパイロットスイッチをONにすると点灯し、システムの作動状態を色で表示します。セットすると設定した速度を表示します。
  - 白色：
    プロパイロットスイッチを1.5秒以上押し、システムがONになると表示します。
  - 緑色：
    車速を設定すると表示します。
  - オレンジ色（警告灯）：
    システムが故障すると表示します。



⚠ 警告

- **定速制御機能を使用するときは、十分な車間距離をとる。**

  定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

- **次の状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、定速制御機能を使用しない。**

  — 交通量の多い道や急カーブのある道

  — 凍結路や積雪路など滑りやすい路面

  — 急な下り坂

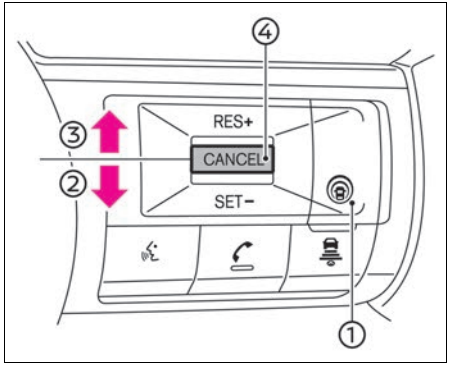
アドバイス

- 定速制御機能表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止し、再始動してから再度定速制御機能をセットしてください。e-POWERシステムを再始動後もセットできない、または定速制御機能表示がオレンジ色に点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- 定速制御機能使用時は、ハンドル支援を行いません。

■ ステアリングスイッチ（定速制御機能）



① **プロパイロットスイッチ**
-定速制御機能のON・OFFができます。

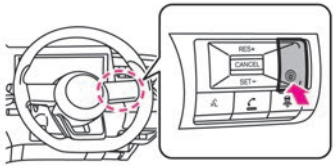
② **SET-操作（下押し）**
-スイッチを押したときの車速で定速制御機能をセットできます。
-設定車速を下げることができます。

③ **RES+操作（上押し）**
-定速制御機能を解除後、解除前の設定車速に再びセットすることができます。
-設定速度を上げることができます。

④ **CANCELスイッチ**
-定速制御機能の解除ができます。

定速走行のしかた

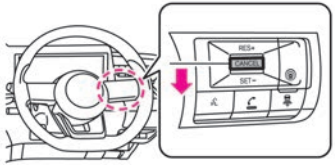
1. ハンドルにあるプロパイロットスイッチを1.5秒以上押して定速制御機能をON（待機状態）にします。
   アドバンスドドライブアシストディスプレイに定速制御機能表示が点灯します。



知識

- 定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。

2. 設定したい速度まで加速または減速します。
3. SET-方向に押します。
   SET-方向に押したときの車速で定速走行を開始します。



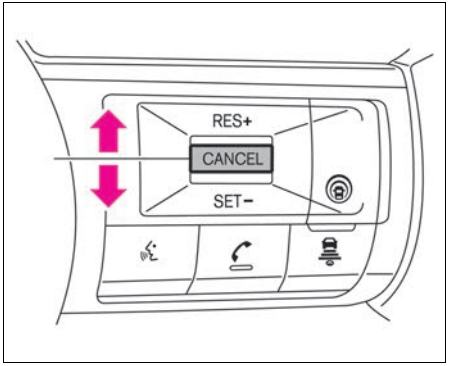
設定車速の変更のしかた

速度を上げる

●定速走行中にRES+方向に押し続けると加速します。設定したい速度で手を離します。

速度を下げる

●定速走行中にSET-方向に押し続けると減速します。設定したい速度で手を離します。



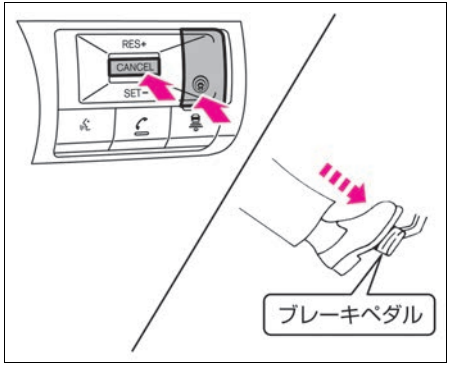
定速走行の解除のしかた

次の操作をすると、定速走行が解除されます。

●CANCELスイッチを押す

●プロパイロットスイッチを押す

●ブレーキペダルを踏む



アドバイス

- CANCELスイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。解除前の設定車速で再びセットしたいときは、RES+方向に押します。

  （車速が約30km/h以上のとき戻せます。）

- 次の場合は、“ピー”という音とともに制御が解除されます。
  - 速度が約25km/h以下になったとき
  - VDC/TCSが作動したとき
  - タイヤが空転したとき
  - シフトポジションをDまたはB以外にしたとき
  - システムに異常があるとき

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

システムに関連する表示



⚠ 警告

● **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

インテリジェント エマージェンシーブレーキは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作の支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。

必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

インテリジェント エマージェンシーブレーキについて

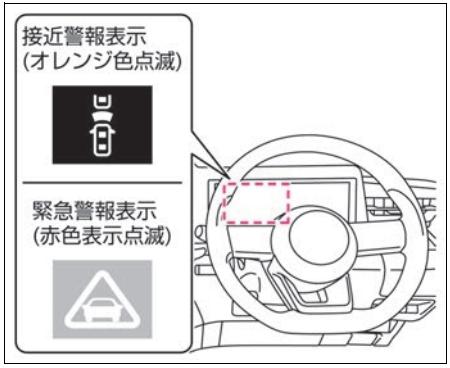
●フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラおよび車両前部のレーダーセンサーにより前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車を検知します。

●車速約5km/hから作動します。
歩行者・人が乗車している自転車には約10km/h~80km/hの範囲で作動します。（車速約100km/h以上では停止車両に対しては作動しません。）

●衝突するおそれがあると判断すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示（接近警報表示）がオレンジ色に点滅します。

●運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、アドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェント エマージェンシーブレーキ表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音（ブザー）とともに軽いブレーキがかかります。

●さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。



📖 知識

● 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
— アクセルペダルを強く踏み込んだとき
— ハンドルを大きく、または素早く切ったとき
— 前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突の危険がなくなったと判断したとき

● システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除されます。

● 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が遅れたり、作動しない場合があります。

● 前方車両と自車の速度の差が小さいときは作動しません。

● システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

● システムによるブレーキ作動中にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。また踏力を加えることで、ブレーキ力を増すことができます。

● アドバンスドドライブアシストディスプレイを「運転支援」および「クルーズ」★に切り替えると、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。

詳しくは、➔画面の切り替えかた(P.55)をお読みください。

インテリジェント エマージェンシーブレーキの停止のしかた

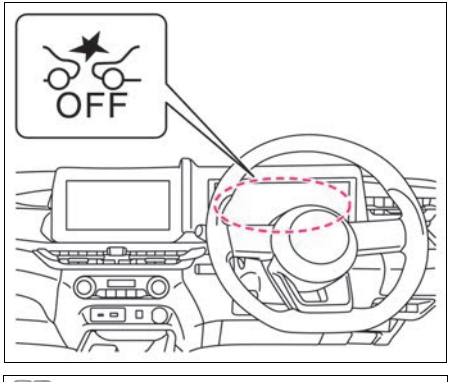
●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「エマージェンシーブレーキ」を選択すると、インテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えること

ができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)
➔運転支援 (P.65)

走行中はインテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えることができません。

- 機能をOFFにすると、システムが停止します。（インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯）



知識

- e-POWERシステムを再始動するとONになります。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにすると、踏み間違い衝突防止アシスト、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）も連動してOFFになります。

➔踏み間違い衝突防止アシスト (P.188)
➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.209)

インテリジェント エマージェンシーブレーキに関する注意事項

知識

- 次のような障害物は検知しません。
  - 子供などの背の低い人、動物
  - 対向車両
  - 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者、人が乗車している自転車以外の障害物）
- システムは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
  - バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
  - 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
  - 前方を横切って通過する車両
  - 斜めもしくは前向きに止まっている車両
- 次のような場合は、前方の車両、歩行者、人が乗車している自転車が検知できないことがあります。
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などの付着やワイパーの拭き残しがあるとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
  - トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - カーブを走行しているとき
  - 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき

知識

- ― 太陽光などが前方車両から強く反射されたとき
- ― 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
- ― e-POWERシステムが始動してから約15秒間のシステムチェックをしているとき
- ― e-POWERシステム始動後、走行してからインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが1回も障害物を検知していないとき
- ― カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
- ― カメラの向きがずれているとき
- ― 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- ― 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- ― オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき
- ― 子供用の自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）

● 以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。

- ― 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
- ― 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
- ― 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合（周りの風景が水たまりに映り込むなど）
- ― 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- ― 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

● 以下の対象物にはシステムが作動しない場合があります。

- ― 歩行者、人が乗車している自転車の移動速度が速いとき
- ― 対向して接近する歩行者、自転車
- ― 歩行者の姿勢や手足の状態（手を上げているなど）により、歩行していると特定できないとき
- ― 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
- ― 車高の低い車両
- ― 最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
- ― 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
- ― 前方の至近距離に割り込んだ車両
- ― 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者、自転車
- ― 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
- ― 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
- ― リヤタイヤから車両後端までが長い車両
- ― 四輪車以外の車両（二輪車など）
- ― 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
- ― ショッピングカート、ベビーカー、自転車などを押しているとき

● 以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。

- ― 複数の対象物同士が近接している場合
- ― 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

● 次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。

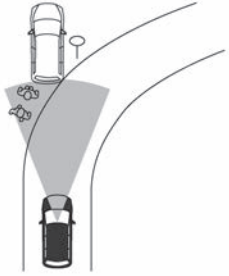
- ― 滑りやすい路面を走行しているとき
- ― 勾配のある路面を走行しているとき
- ― 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき

知識

- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
- 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
- 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）

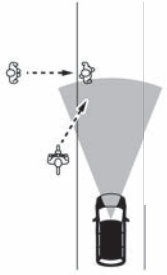
- 路面または壁面の影や模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示、濡れた路面に映り込んだ模様、わだちなどや光の反射を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール、カーブミラー、電柱や電線、看板）などで構成される形状が、車両や歩行者、自転車の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。
- 右左折中の前の車両にシステムが作動を継続する場合があります。
- 前の車両に接近し追い越す場合、システムが作動する場合があります。
- 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、ワインディング道、車線規制や工事中など）によっては、一時的に自車正面の対向車にシステムが作動する場合があります。
- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。

— 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、自転車、人が乗車している自転車、車両など）



— 道幅が狭い路地などを走行する際の歩行者・人が乗車している自転車

— 路肩の障害物を避けるため、一時的に自車前方の走行レーンにはみ出したり、近づいたりする歩行者や人が乗車している自転車



— 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）

— 駐車場内にある物（梁など）

知識

— 走行車線または隣接する車線にある物（歩行者、車両など）
— 走行車線または隣接する車線に近づいてくる物（歩行者、車両など）
— 対向して接近する歩行者
— 走行路にある物（近接する樹木など）

インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき

●次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 が点灯し、作動が停止します。
— インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき

●次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが一時的に作動しなくなります。
— フロントガラスの汚れなどにより、カメラの前方視界が遮蔽されていると判断したとき
— 前方からの強い光により、 カメラが前方を認識できなくなったとき
— 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
（室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
— 周辺の電波源の影響を受けているとき
停止したときの状態が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
— 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。
— 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき
（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。
— 悪天候で視界が悪いとき
— VDCをOFFにしたとき
— インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき
— フロントガラスの結露やくもりなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき
— 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき
— けん引されているとき
— 駐車支援機能（フロントソナー、コーナーソナー、リヤソナー）に異常が発生しているとき

●システムに異常があると、警報音（ブザー）とともにメーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
警告灯（P.268）
警告メッセージ（P.274）

アドバイス

● システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.315）をお読みください。
● 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
警告灯（P.268）

知識

● VDCをOFFにしたときは、メーターの表示と警報音（ブザー）のみ作動します。

📖 知識

- 夜間、ライトを点けずに走行するなどで、カメラの視界が真っ暗な状態になった場合は、 メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 が点灯する場合があります。

踏み間違い衝突防止アシスト

踏み間違い衝突防止アシストは、進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者（前進時のみ）などがいる場所で、駐車操作時など低速のときにアクセルペダルとブレーキペダルを間違えて踏み込む、あるいはブレーキ操作が遅れたときに運転者に音と表示で警告します。

さらにe-POWERシステムやブレーキを制御することで、過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。

システムに関連する表示



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

踏み間違い衝突防止アシストは、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

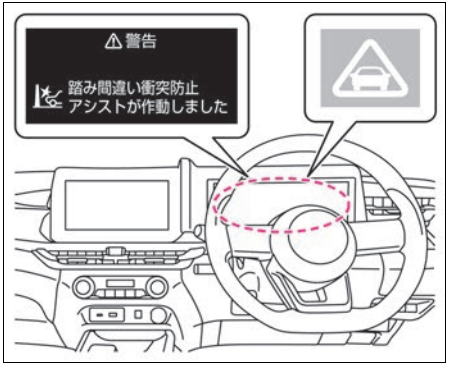
踏み間違い衝突防止アシストについて

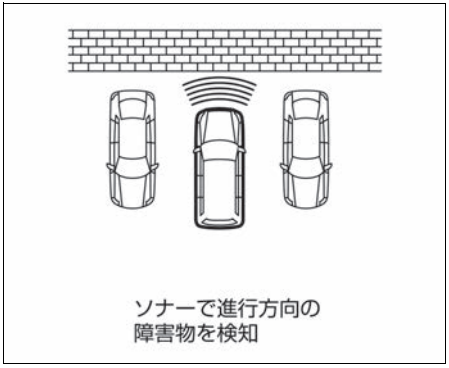
前進時

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知します。
- フロントバンパーに取り付けられたソナーにより、進行方向の障害物を検知します。

後退時

- リヤバンパーに取り付けられたソナーにより、進行方向の障害物を検知します。

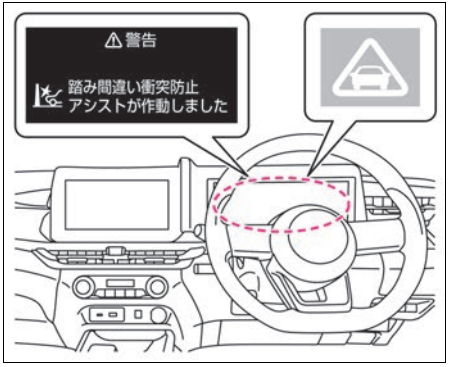


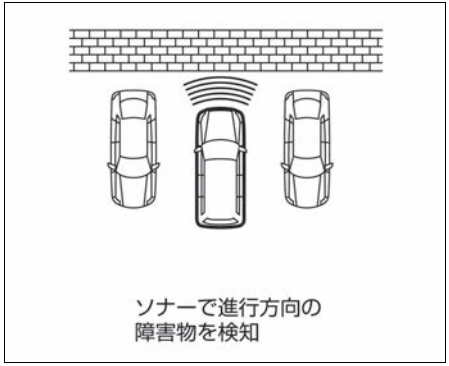


踏み間違い衝突防止アシストには、2つの機能があります。

低速加速抑制機能

- 前進時（停車時含む）、進行方向に車両や歩行者、壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 後退時（停車時含む）、進行方向に壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 車両、歩行者に対しては、車速約0～25km/h の範囲で作動します。
- 壁などの障害物に対しては、車速約0～15km/hの範囲で作動します。
- 低速加速抑制機能が作動しているときは、警報音（ブザー）と緊急警報表示が表示し、およびアドバンスドドライブアシストディスプレイの表示によって運転者に警告します。
  警告メッセージ（➔P.273）



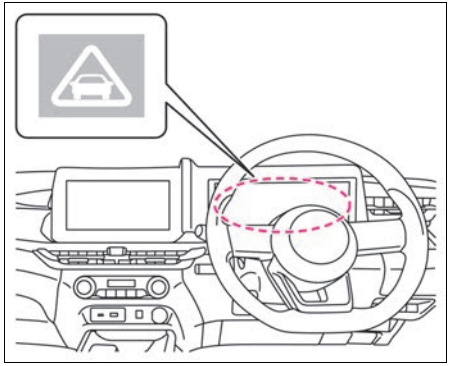


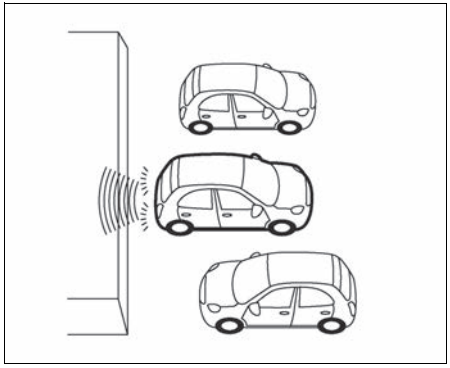
⚠ 警告

- **故意にアクセルペダルを踏み込まない。**
  低速加速抑制機能は、アクセルペダルをゆっくりと深く踏み込んだときには作動しません。故意にアクセルペダルを踏み込まないでください。車両が急に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

低速衝突軽減ブレーキ機能

- 前進、または後退時、進行方向の障害物を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、e-POWERシステムの出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能は、車速約2～15km/h の範囲で作動します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動すると、警報音（ブザー）と緊急警報表示の表示によって運転者に警告します。





知識

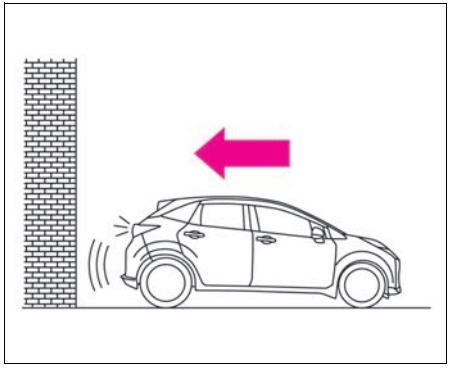
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは制動灯が点灯します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動しているときは、作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

低速衝突軽減ブレーキが作動するとき・しないとき

クルマ止めのない駐車場などで、壁などに衝突しそうになったとき

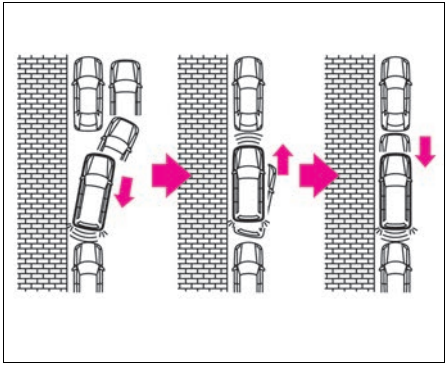
万一、運転者のブレーキ操作が遅れ、壁などに衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音（ブザー）と緊急警報表示が表示し、ブレーキをかけて衝突を回避または被害を軽減します。

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいたときは作動しません。
- システムは、ブレーキペダルを踏みながら車両を移動する（駐車場での操作）など低速における支援を目的にしています。アクセルペダルを踏んで前進・後退する状況などでは作動が遅れ十分に機能しない場合があります。

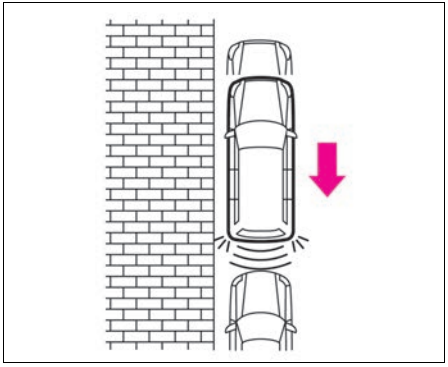


縦列駐車をするとき

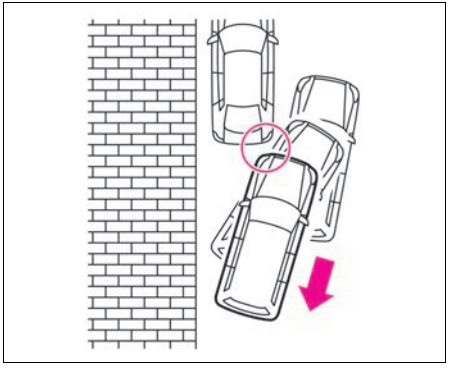
シフトポジションを**D**から**R**、または**R**から**D**に切り替えたときは、セレクトレバーの操作を繰り返すたびに進行方向の障害物を検知してブレーキ制御が作動します。



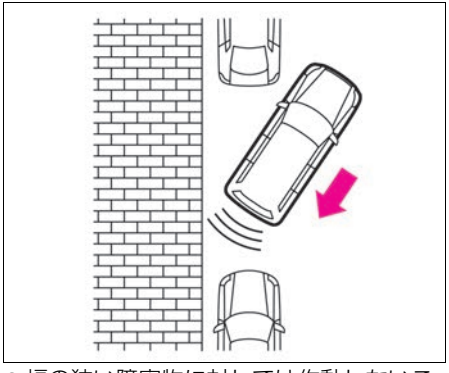
- ブレーキ制御が作動したあと、シフトポジションを切り替えずにさらに同じ障害物に向かって前進、または後退をした場合は、ブレーキ制御は作動しません。
- アクセルペダルを踏んでいるときは作動が遅れることがあります。



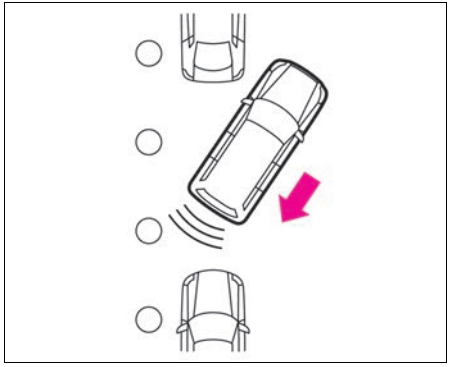
●後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対して作動しません。



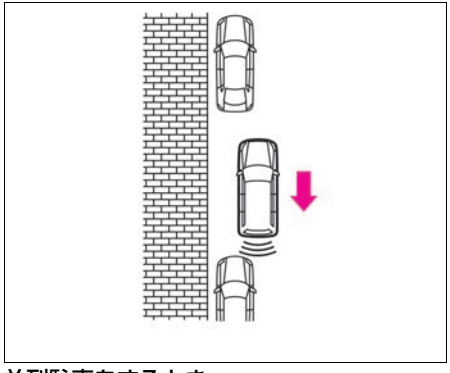
●障害物に対し斜めに接近すると作動しないことがあります。



●幅の狭い障害物に対しては作動しないことがあります。

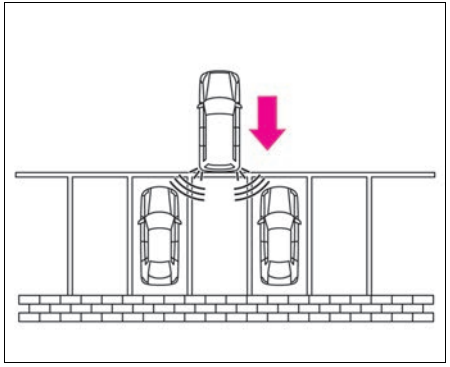


●他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

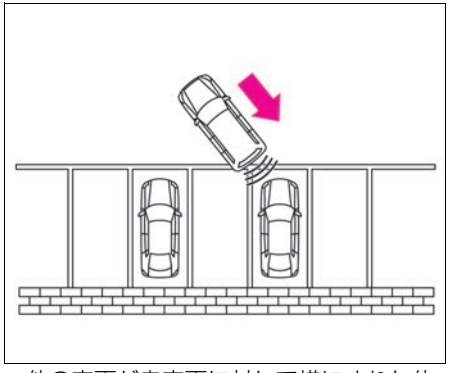


並列駐車をするとき

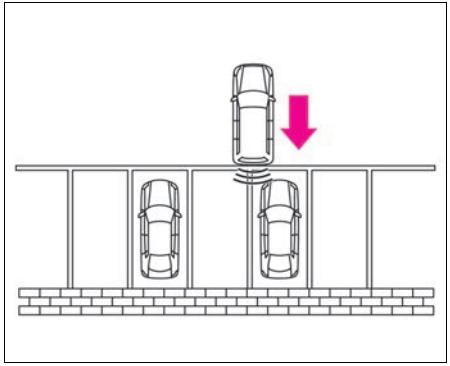
●狭いスペースに進入するときに作動することがあります。



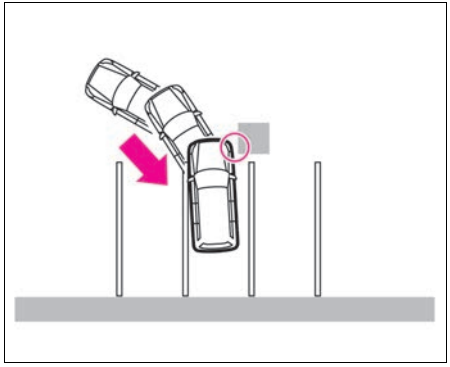
●他の車両の角部に向かって接近したときは作動しません。



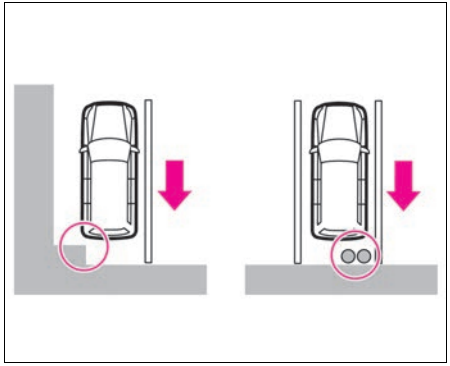
●他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

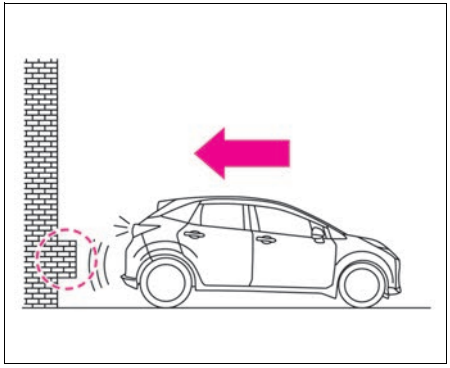


●後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対しては作動しません。

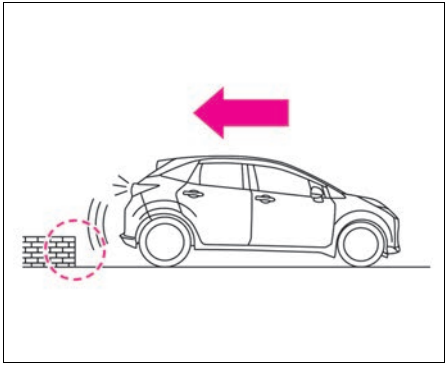


●壁から突き出している柱や配管などの障害物に対しては作動しません。





●低い障害物に対しては作動しません

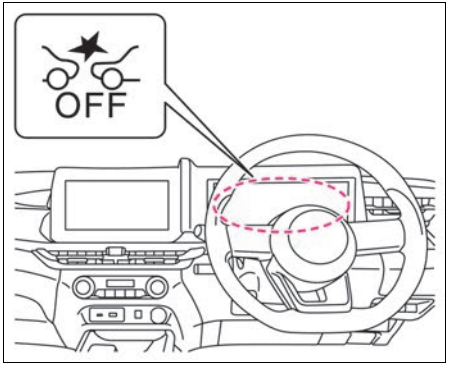


踏み間違い衝突防止アシストの停止のしかた

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「エマージェンシーブレーキ」を選択すると、踏み間違い衝突防止アシストのON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)
➔運転支援 (P.65)

●機能をOFFにすると、システムが停止します。（インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯）



📖 知識

- e-POWERシステムを再始動するとONになります。
- 踏み間違い衝突防止アシストの設定は、インテリジェント エマージェンシーブレーキ、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）の設定と連動しています。

踏み間違い衝突防止アシストに関する注意事項

⚠ 警告

- **次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、踏み間違い衝突防止アシストをOFFにする。**
  - ― けん引するとき
  - ― トレーラーなどに積載するとき
  - ― 点検などでシャシーダイナモを使用するとき
  - ― 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき（車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります）
  - ― センサーを妨げるようなバイクラックなどを装着しているとき
- **ソナーは次のような障害物は検知しません。**
  - ― 背の低い障害物
  - ― 幅の狭い障害物
  - ― 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - ― バンパーに非常に近い障害物
  - ― 急に進行方向に現れた障害物
- **ソナーは次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - ― 地面から高い位置に存在する障害物
  - ― 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - ― 周囲に超音波を発するものがあるとき
  - ― スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **ソナーは次のような場合は検知しないことがあります。**
  - ― 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - ― 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - ― 周囲に超音波を発するものがあるとき
  - ― 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
- **ソナーは次のような場合は検知することがあります。**
  - ― 周囲に草が生い茂っているとき
  - ― 車両側面の近くに壁があるとき
  - ― 路面上に段差や突起物があるとき
  - ― 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
  - ― 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
  - ― 車両感応センサーや他車のソナーなど、超音波を発生するものが付近にいたとき
  - ― 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
  - ― 背が高く上部が張り出しているものがあるとき
  - ― 高さのある縁石や車止めがあるとき
- **マルチセンシングフロントカメラは次のような障害物は検知しません。**
  - ― 子供などの背の低い人、動物、自転車
  - ― 対向車両

⚠ 警告

— 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物）

● **マルチセンシングフロントカメラは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。**

— バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両

— 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両

— 前方を横切って通過する車両

— 斜めもしくは前向きに止まっている車両

● **マルチセンシングフロントカメラは次のような場合、前方の車両、歩行者を検知できないことがあります。**

— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき

— 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

— カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき

— カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき

— 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき

— 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき

— 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき

— 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき

— トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき

— カーブを走行しているとき

— 勾配の変化があるところを走行しているとき

— 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき

— 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき

— 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき

— 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更･右左折、前方車両の右左折･急ハンドル･急加速･急減速など）

— 始動してから約15秒間

— カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）

— カメラの向きがずれているとき

● **マルチセンシングフロントカメラは以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**

— 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合

— 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合

— 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合（周りの風景が水たまりに映りこむなど）

— 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき

— 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

● **以下の対象物にはマルチセンシングフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**

— 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者

— 車高の低い車両

— 最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両

— 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）

— 前方の至近距離に割り込んだ車両

— 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者

⚠ 警告

— 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者

— 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）

— リヤタイヤから車両後端までが長い車両

— 四輪車以外の車両（二輪車など）

— 荷台から荷物や幌がはみ出している車両

- **マルチセンシングフロントカメラは以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。**

  — 複数の対象物同士が近接している場合

  — 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。**
- **車両を停止させる場合は、必ず運転者がブレーキペダルを踏む。**

  低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。**

  車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。

- **アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。**

アドバイス

- 次の場合は、システムが正常に作動しなかったり、機能を十分に発揮できないことがあります。

  — 悪天候（雨、霧、雪など）のとき

  — 勾配が急な坂道を走行しているとき

  — 段差などをまたいでいるときなど車両姿勢が変化しているとき

  — 滑りやすい路面を走行しているとき

  — ハンドルを大きく切って旋回しているとき

  — 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき

  — 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき

  — 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき

  — 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき

  — 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき

  — 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）

- 動いている物体に対しては踏み間違い衝突防止アシストは作動しません。（前方の車両、歩行者を除く）

知識

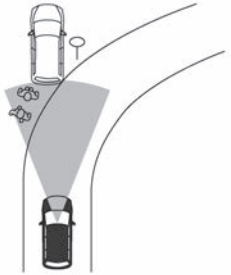
低速加速抑制機能について

- ソナーで検出した壁や車両などの大きな障害物に対して作動します。車両の幅以下の障害物は検知しません。
- マルチセンシングフロントカメラで検出した衝突のおそれのある前方の車両や歩行者に対して作動します。
- 低速加速抑制機能は、運転者がアクセルペダルを戻すと解除されます。
- アクセルペダルを踏み続けた場合は、作動を開始してから約6秒後に解除されます。

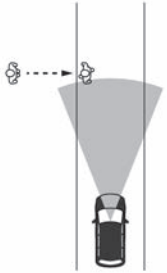
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- 渋滞中などで前方にいる車両を追い越すときなどに低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 信号待ちや右折待ちなどで、車間距離の短い状態から前の車に続いて発進する際、アクセルペダルを素早く深く踏み込むと低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 次の場合は作動しません。
  - 車速が約15km/h以上のとき（前方の車両、歩行者に対しては約25km/h以上）
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - シフトポジションがD、B、R以外のとき
  - トラクションコントロール機能（TCS）が作動しているとき
  - タイヤが空転しているとき
- 路面または壁面の模様・ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似通っている場合、マルチセンシングフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動する場合があります。
- 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。
  - 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



  - 歩行者が自車前方の走行レーンに近づいた場合



  - 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）
  - 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
  - 駐車場内にある物（梁など）
  - 走行車線または隣接する車線にある物（歩行者、車両など）
  - 走行車線または隣接する車線に近づいてくる物（歩行者、車両など）
  - 対向して接近する歩行者
  - 走行路にある物（近接する樹木など）

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。
- 次の場合は作動しません。
  - 車速が約2km/h未満、または約15km/h以上のとき
  - シフトポジションがD、B、R以外のとき
- 前進時は車両後方の障害物に対しては作動しません。同様に、後退時は車両前方の障害物に対しては作動しません。

踏み間違い衝突防止アシストの作動が停止するとき

- 次の場合、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯 が点灯し、作動が停止します。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
  - VDCをOFFにしたとき

— 駐車支援機能（フロントソナー、コーナーソナー、リヤソナー）に異常が発生しているとき

●インテリジェント エマージェンシーブレーキが一時的に作動できなくなったときは、メーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、踏み間違い衝突防止アシストも一時的に作動しなくなります。
詳しくは、インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき (P.187)をお読みください。

●システムに異常があると、警報音（ブザー）とともにメーター内のインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
警告灯（P.268）
警告メッセージ（P.274）

アドバイス

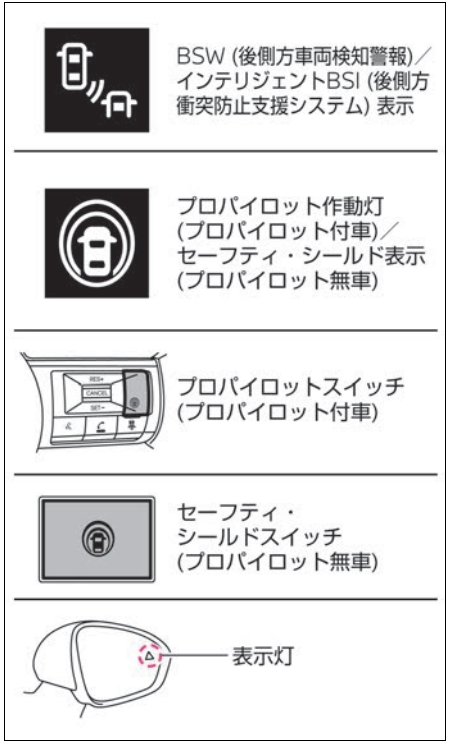
- システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（P.316）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
警告灯（P.268）

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★

BSW（後側方車両検知警報）は、車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合に警報によって運転者に注意を促します。
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は、隣車線に車両がいるときに運転者が車線変更を開始した場合、警報とともに車両をもとの車線内に戻す方向に力を発生させ、隣接車両との接触を回避するよう支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

⚠ 警告

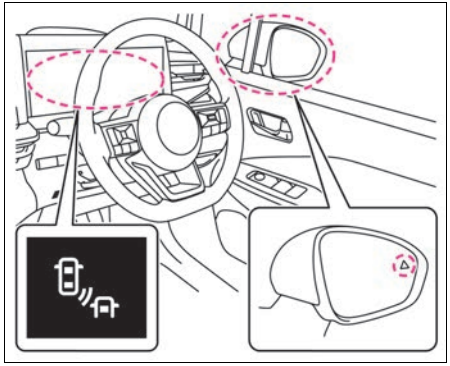
BSW（後側方車両検知警報）およびインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防いだりする機能ではありません。車線変更を行うときは、機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。

- **レーダーセンサーおよびカメラには限界があるため、機能を過信しない。**

  道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

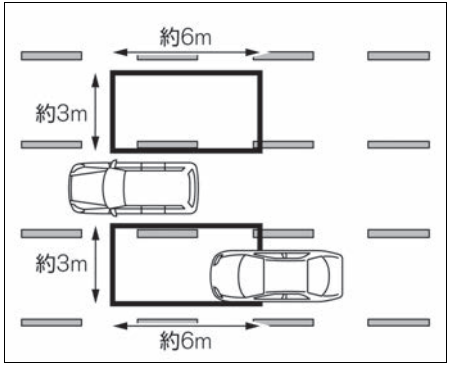
BSW（後側方車両検知警報）について

- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。
- 車速約30km/h以上で作動します。
- レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知すると、検知した側のドアミラー鏡面にある表示灯が点灯します。
- 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）表示と、ドアミラー鏡面にある表示灯が点滅します。



検知範囲について

- レーダーセンサーは、自車両の左右にある検知範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。



知識

- ドアミラー鏡面の表示灯はパワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー鏡面の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。
- 方向指示器が作動しているときに、レーダーセンサーにより隣車線の車両を検知した場合には、表示灯は点滅しますが音は鳴りません。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「運転支援」に切り替えると、BSW（後側方車両検知警報）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。

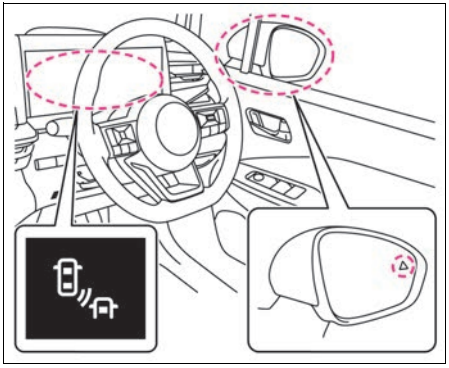
➔ 画面の切り替えかた (P.55)

インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）について

- 車両後部のレーダーセンサーにより隣車線の車両を検知します。また、ルームミラー上方に取り付けられたカメラを使用し、走行している車線のレーンマーカーを検知します。
- 約60km/h以上で走行中に隣車線の車両を検知しているとき、検知している側のレーンマーカーに自車両が接近すると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイのインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面にある

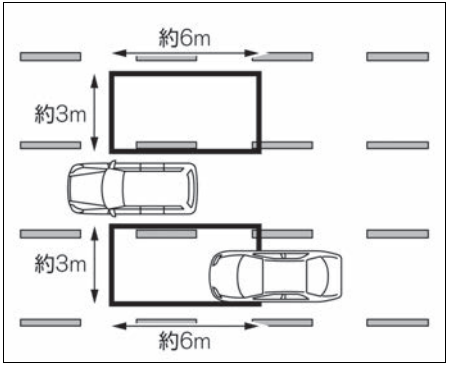
表示灯が点滅します。同時にブレーキを制御し、車両をもとの車線に戻す方向に制御力を短時間発生させ、自車両をもとの車線に戻す操作を促します。

レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。



検知範囲について

- レーダーセンサーは、自車両の左右にある検知範囲内にいる車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーから後方に約6m、車両の側面から横方向に約3mです。



知識

- あらかじめ表示灯が点灯した状態で自車両がレーンマーカーに接近すると、警報とブレーキ制御の両方が作動します。

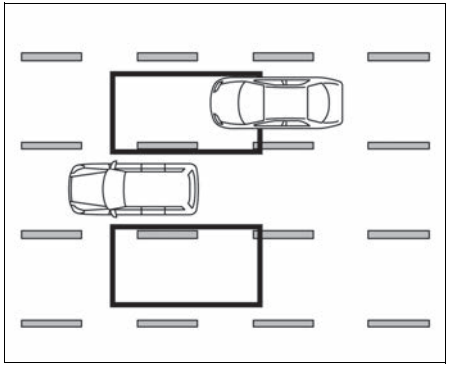
  ただし、自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とブレーキ制御は作動しません。
- インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）は、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）よりも先に作動します。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「運転支援」に切り替えると、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。

詳しくは、➔画面の切り替えかた(P.55)をお読みください。

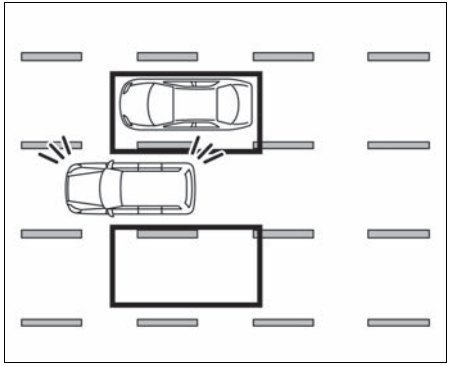
作動するとき・しないとき

後方から車両が接近してくるとき

- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー鏡面にある表示灯が点灯します。



- 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面にある表示灯が点滅します。



⚠ 注意

- **車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認する。**

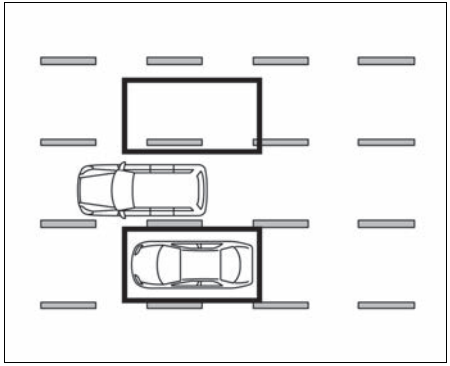
  自車より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。

知識

- 方向指示器を作動した後に、検知範囲に車両が入ってきたときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。

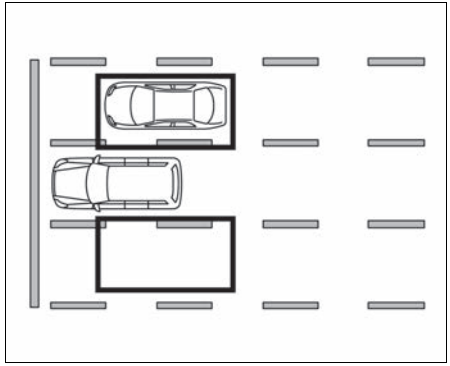
- 自車両がレーンマーカーと交差してから検知範囲に車両が入ってきたときは、警報とブレーキ制御は作動しません。

●車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。 同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。



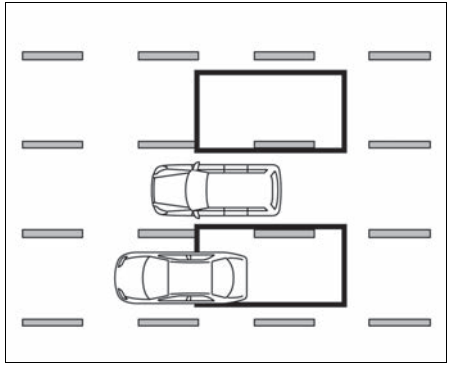
発進するとき

●停車状態から検知範囲に居続ける車両は検知できないことがあります。



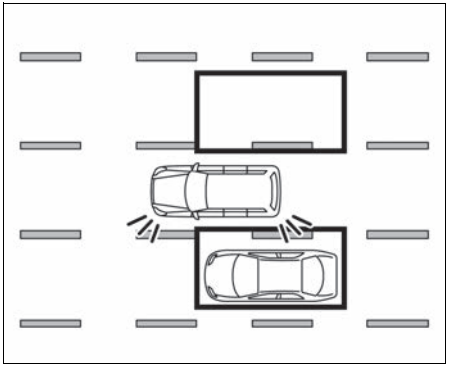
他の車両を追い越すとき

●他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に2秒以上とどまるとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。



●車両を検知し表示灯が点灯しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、アドバンスドドライブアシストディ

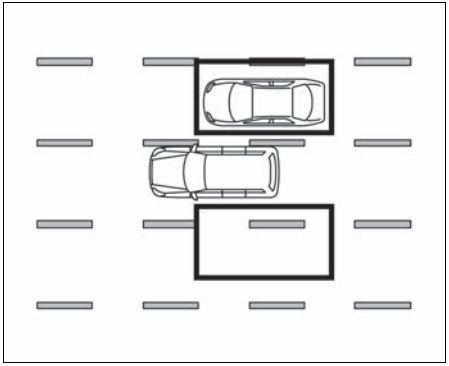
スプレイのBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面にある表示灯が点滅します。



知識

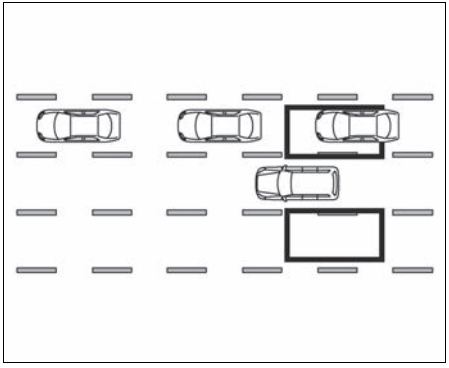
- 速度の遅い車両を素早く追い越したときはシステムが検知しません。

- 車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
  同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。



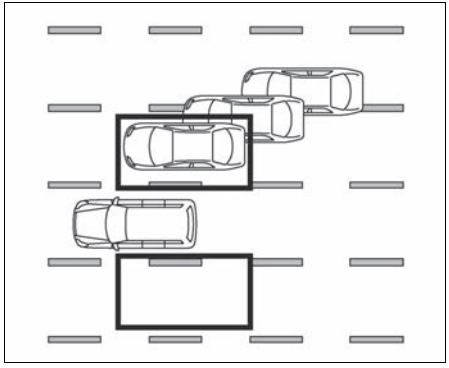
他の車両に追い越されるとき

- 複数の車両に連続して追い越されるとき、追い越す車両の車間距離が短い場合は、1台目の車両以外が検出されないことがあります。

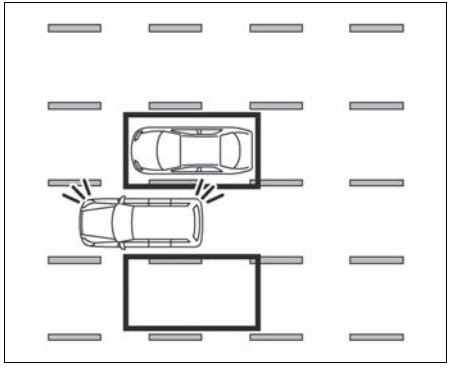


他の車線から車両が接近してきたとき

- 車線変更などで車両が接近してきたときは、検知範囲内に入るとドアミラー鏡面の表示灯が点灯します。



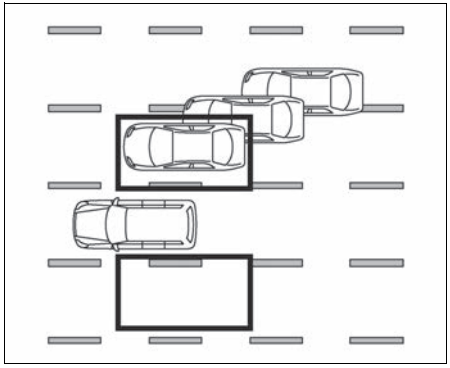
- 車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると警報音（ブザー）が鳴るとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。



知識

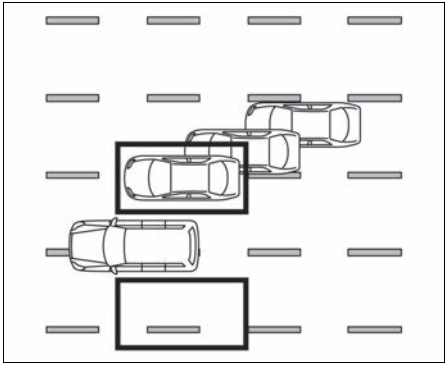
- 自車両とほぼ同じ速度で走行する車両が車線変更してきた場合、検出できないことがあります。
- 方向指示器を作動させたあとに、検知範囲に車両が入ってきたときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯は点滅しますが警報音（ブザー）は鳴りません。

●車両を検知しているときに、検知している側のレーンマーカーに接近すると、警報音（ブザー）が鳴るとともに、アドバンスドドライブアシストディスプレイのBSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示と、ドアミラー鏡面の表示灯が点滅します。
同時にブレーキを短時間制御し、自車両を車線中央へ戻すことを補助します。



自車両がレーンマーカーの上を走行しているとき

●検知範囲に車両が入ってもインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）は作動しません。
この場合、BSW（後側方車両検知警報）のみが作動します。



BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の使いかた

BSW（後側方車両検知警報）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「後側方支援」⇒「後側方車両検知警報」を選択すると、BSW（後側方車両検知警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。
➔画面の切り替えかた (P.55)
➔運転支援 (P.65)

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「後側方支援」⇒「後側方衝突防止支援」

をONにしているとき、プロパイロット付車はプロパイロットスイッチ㊒を押すとプロパイロット作動灯が点灯し、プロパイロット無車はセーフティ・シールドスイッチを押すとセーフティ・シールド表示が点灯して、システムがONになります。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)
➔運転支援 (P.65)

📖 知識

- プロパイロットスイッチ㊒（プロパイロット付車）またはセーフティ・シールドスイッチ（プロパイロット無車）を押すと、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）のON・OFFを同時に切り替えることができます。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「後側方支援」⇒「後側方衝突防止支援」でOFFにすると、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）だけをOFFにできます。
- e-POWERシステムを停止するとインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）はOFFになります。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイのON・OFF設定は、e-POWERシステムを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるためインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）を使用しないでください。**
  - ― 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - ― 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - ― 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
  - ― 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - ― 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - ― 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
  - ― 日産純正部品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような車両は、正確に検知できず、システムが正しく作動しないおそれがあります。**
  - ― 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
  - ― 停車状態から検知範囲に居続ける車両
  - ― 後方から速い速度で接近してくる車両
  - ― 自車が速い速度で追い越した車両
  - ― 合流や車線変更で自車の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両
- **次のような状況では、隣の車線の車両を検知できないことがあります。**
  - ― 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - ― 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
  - ― 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - ― 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - ― 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**

⚠ 警告

— 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき

— 急なカーブのある道路を走行するとき

— 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき

— 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報したり、制御したりする場合があります）

— 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき

— 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき

— 先行車との車間距離が短く、マルチセンシングフロントカメラの検出範囲が遮られるとき

— 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき

— 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき

— 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき

— 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき

— 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

● **レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリー類の取り付け、追加の塗装をしないでください。**

車両を検知する性能が低下するおそれがあります。

⚠ 注意

● **レーダーセンサーは次のような障害物は検知しません。**

— 歩行者、自転車、動物など

— 対向車

アドバイス

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

知識

● 車線の幅が極端に広い道路を運転する場合、隣の車線にいる車両を検知できないことがあります。また、車線の幅が極端に狭い道路を運転する場合、2つ隣の車線にいる車両を検知することがあります。

● レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、植物、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。

● 次の場合はブレーキ制御を行いません。

— ブレーキペダルを踏んでいるとき

— 素早いハンドル操作を行ったとき

— インテリジェント クルーズコントロール★の接近警報が鳴っているとき

— インテリジェント エマージェンシーブレーキが作動しているとき

— 非常点滅表示灯を作動させているとき

— カーブ路でスピードを出して走行しているとき

● ブレーキ制御しているとき、運転者がアクセルペダルを踏み増すとブレーキ制御を中止します。

BSW（後側方車両検知警報）の作動が停止するとき

●次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。

— レーダーセンサーが汚れているとき

— レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき

●システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告メッセージ（P.274）

アドバイス

- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（P.314）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

  e-POWERシステム再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）の作動が停止するとき

●次の場合は “ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「作動範囲外のため 現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。
— VDCをOFFにしたとき

●次の場合は “ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「滑りやすい路面のため 現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。
— ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度プロパイロットスイッチ（プロパイロット付車）またはセーフティ・シールドスイッチ（プロパイロット無車）をOFFにし、再度インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）をONにしてください。

●炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、“ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってから再びシステムをONにしてください。

●次の場合は “ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「サイドレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、システムが停止します。
— サイドレーダー周辺が汚れているとき
— サイドレーダー周辺に雨、雪、氷などが付着しているとき

●システムに異常があると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示され、インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

LDW（車線逸脱警報）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ



⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

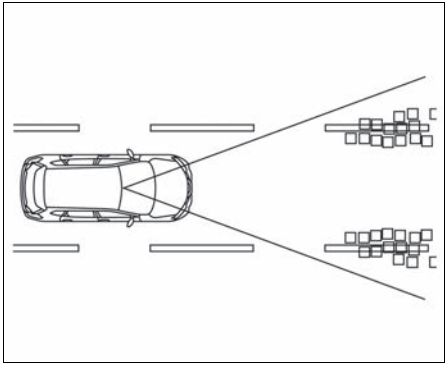
LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転を心がけてください。

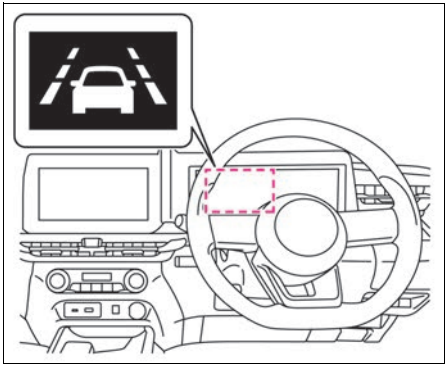
- **カメラには限界があるため、機能を過信しない。**

  道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

LDW（車線逸脱警報）について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにメーター内のLDW（車線逸脱警報）表示がオレンジ色に点滅します。レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。





📖 知識

- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報を行いません。（方向指示器を解除したあと、約2秒間は警報を行いません。）

知識

- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「運転支援」および「クルーズ」★に切り替えると、LDW（車線逸脱警報）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。

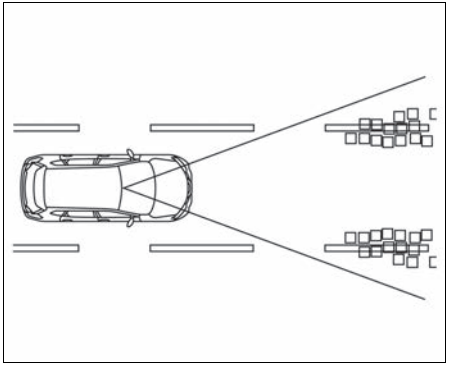
  詳しくは、運転支援をお読みください。

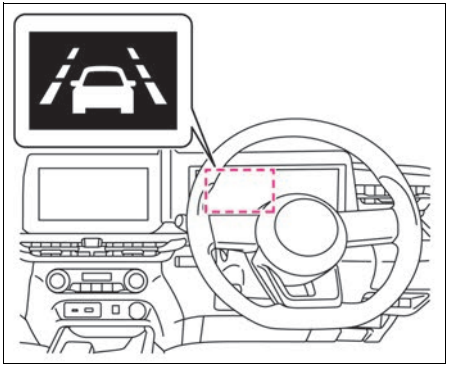
  画面の切り替えかた (P.55)

  運転支援 (P.65)

インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）について

- フロントガラス上部のマルチセンシングフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速が約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともにメーター内のインテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点滅します。
  同時にブレーキを短時間制御し、車両を車線内に戻す方向に制御力を短時間発生させて車両を車線内に戻す操作を促します。
  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。





知識

- 車両の移動する方向に方向指示器を使用している場合は、警報もブレーキ制御も行いません。（方向指示器を解除したあと、約2秒間は作動しません。）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイを「運転支援」および「クルーズ」★に切り替えると、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）の作動状態をアドバンスドドライブアシストディスプレイ内で確認することができます。

  詳しくは運転支援をお読みください。

  画面の切り替えかた (P.55)

  運転支援 (P.65)

ON・OFFのしかた

LDW（車線逸脱警報）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「側方支援」⇒「車線逸脱警報」を選択すると、LDW（車線逸脱警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

  画面の切り替えかた (P.55)

  運転支援 (P.65)

インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）
（インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）付車）

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「側方支援」⇒「車線逸脱防止支援」をONにしているとき、プロパイロット付車はプロパイロットスイッチ㊀を押すと

プロパイロット作動灯が点灯し、プロパイロット無車はセーフティ・シールドスイッチを押すとセーフティ・シールド表示が点灯して、システムがONになります。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)
➔運転支援 (P.65)

（インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）無車）

●セーフティ・シールドスイッチを押すとシステムがONになり、セーフティ・シールド表示が点灯します。

📖 知識

- プロパイロットスイッチ（プロパイロット付車）またはセーフティ・シールドスイッチ（プロパイロット無車）を押すとインテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）★のON・OFFを同時に切り替えることができます。
- 設定は、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。
- e-POWERシステムを停止するとインテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）はOFFになります。

LDW（車線逸脱警報）／インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）に関する注意

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、インテリジェントLI（車線逸脱防止支援システム）を使用しないでください。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂・下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、日産純正品もしくは日産販売会社で購入したタイヤ以外のタイヤを使用しているとき
  - 日産純正品以外のステアリング部品、ブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**
  - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります）
  - 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき
  - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
  - 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲が遮られるとき
  - 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
  - 汚れなどでヘッドランプの明るさが不十分なときやヘッドランプの光軸調整が適切に行われていないとき
  - 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき
  - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

アドバイス

- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

作動が停止するとき

LDW（車線逸脱警報）

- 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったときは、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、一時的に作動が停止します。（室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
  警告（P.274）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.315）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

  e-POWERシステム再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）

- 次の場合は、“ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「作動範囲外のため 現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。
  - VDCをOFFにしたとき
- 次の場合は、“ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「滑りやすい路面のため 現在使用できません」と警告が表示され、作動を解除します。
  - ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

  システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度プロパイロットスイッチ（プロパイロット付車）またはセーフティ・シールドスイッチ（プロパイロット無車）をOFFにし、再度インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）をONにしてください。
- 炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になったときは、“ポー” というブザー音とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。 システムを再び作動させる場合は、室内の温度が下がってから再びシステムをONにしてください。
- システムに異常があると、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示され、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（P.315）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停止し一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。e-POWERシステム再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関する表示



⚠ 警告

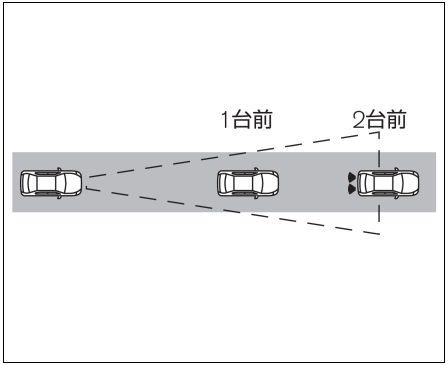
- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は前方を走行する2台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行いますが、衝突を回避する機能はありません。**

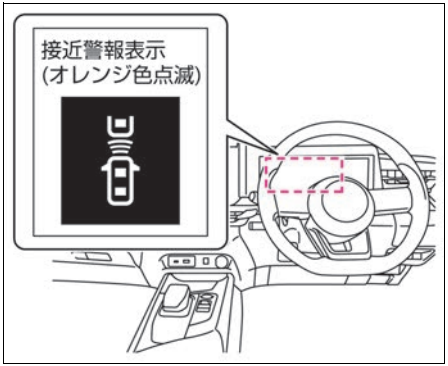
- **インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。**

  前方の車両との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）について

- インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は車速が約5km/h以上で作動します。
- 車両前部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。
- 自車の回避操作が必要と判断すると、アドバンスドドライブアシストディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅するとともに警報音（ブザー）を鳴らして、運転者に注意を促します。





📖 知識

- インテリジェント エマージェンシーブレーキのON・OFFを切り替えると、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）、踏み間違い衝突防止アシストも連動してON・OFFされます。

知識

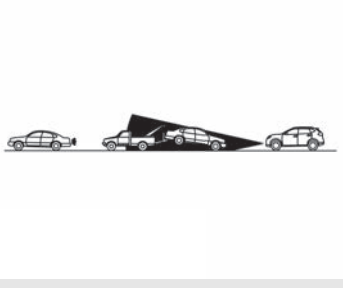
➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.182)

➔踏み間違い衝突防止アシスト (P.188)

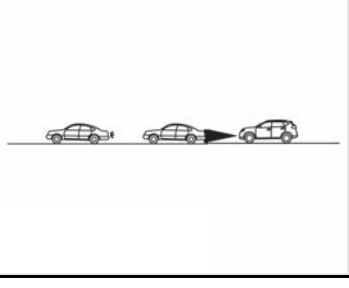
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に関する注意事項

⚠ 警告

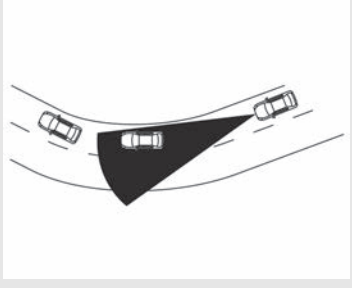
- **次のような障害物は検知しません。**
  - 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
  - 対向車
  - 前方を横切って通過する車両
- **次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - トンネル内を走行しているとき
  - 前方の車両がけん引を行っているとき



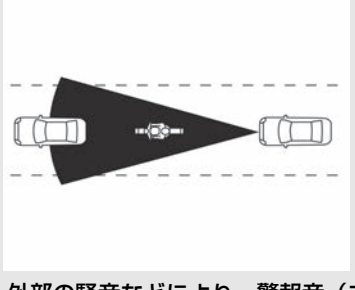
  - 前方の車両との距離が極端に近いとき



  - 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき



- **前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は警報を行わないことがあります。**



- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）の作動が停止するとき

●次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、作動が停止します。
— インテリジェント エマージェンシーブレーキの設定をOFFにしたとき
— インテリジェント エマージェンシーブレーキが異常により作動を停止したとき

●次の場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが一時的に作動しなくなります。
— 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
— 周辺の電波源の影響を受けているとき
停止したときの状態が改善されるとシステムは作動を再開します。
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。

●次の場合、警報音（ブザー）とともにインテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯が点灯し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに「システム故障 取扱説明書を見てください」と警告が表示され、システムが停止します。
— インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）に異常があるとき
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

アドバイス

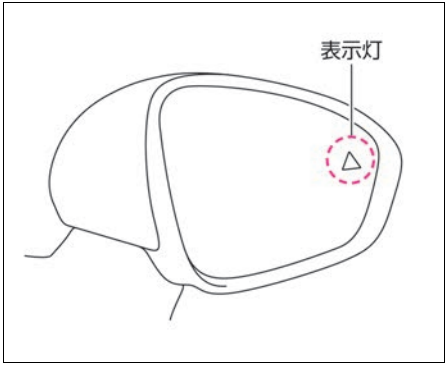
● インテリジェント エマージェンシーブレーキをONにできない、または警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
警告灯（➔P.268）

● レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.314）をお読みください。

RCTA（後退時車両検知警報）★

RCTA（後退時車両検知警報）は、後退時に後方を横切ろうとする車両に衝突するおそれがあるとき、警報によって注意を促します。

システムに関連する表示



警告

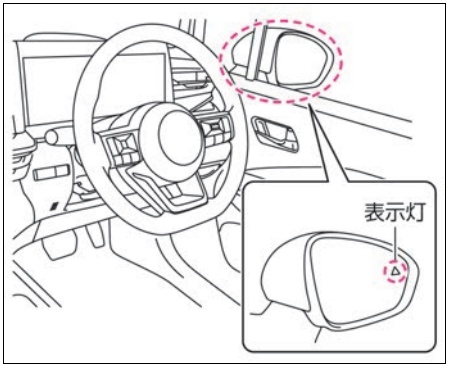
● **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
RCTA（後退時車両検知警報）は、運転者の代わりに周囲を確認したり、車両と障害物との接触を防いだりする機能ではありません。駐車スペースから後退するときは、機能に頼らず、必ず運転者自身で周囲の安全を確認してください。

● **レーダーの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。**

RCTA（後退時車両検知警報）について

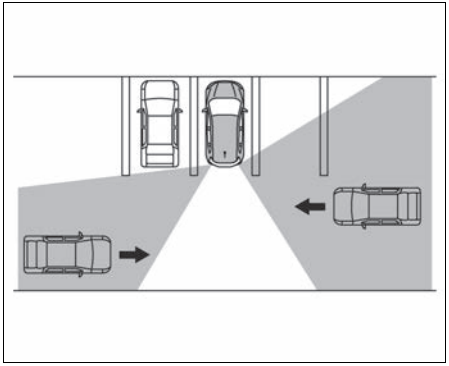
●車両後部のレーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知します。

- シフトポジションがRで、車速約8km/h以下のとき作動します。
- レーダーセンサーにより後方を横切ろうとする車両を検知すると、警報音（ブザー）とともに検知した側のドアミラー鏡面にある表示灯が点滅します。



検知範囲について

- レーダーセンサーは、約20m先から近づいてくる車両を検知します。



知識

- ドアミラー鏡面の表示灯はパワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ドアミラー鏡面の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって切り替わります。

RCTA（後退時車両検知警報）の使いかた

- アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「後退時車両検知警報」を選択すると、RCTA（後退時車両検知警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔ 画面の切り替えかた (P.55)
➔ 運転支援 (P.65)

知識

- 設定は、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

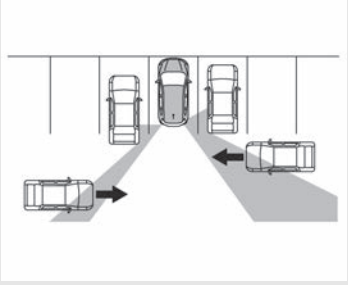
RCTA（後退時車両検知警報）に関する注意事項

警告

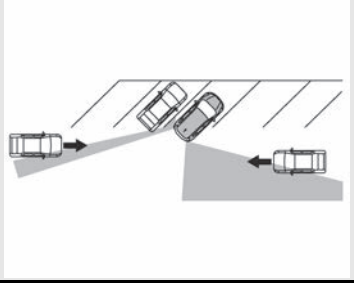
- **後退する前に、必ず目視で周囲の状況を確認してください。レーダーセンサーは接近している（動いている）車両を検知します。次のようなものは検知できないことがあります。**
  - 歩行者、自転車、動物、児童用の玩具の車など
  - 約30km/h以上の速度で通過する車両
  - 約8km/h以下の速度で通過する車両
- **次のような状況では、レーダーセンサーが接近する車両を検知できないことがあります。**

⚠ 警告

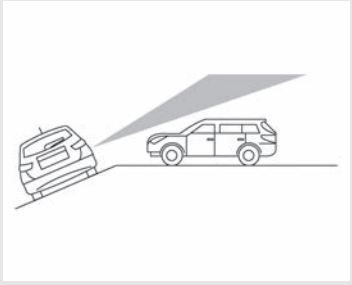
― 隣に駐車している車両などが、レーダーセンサーの検出エリアを妨げているとき



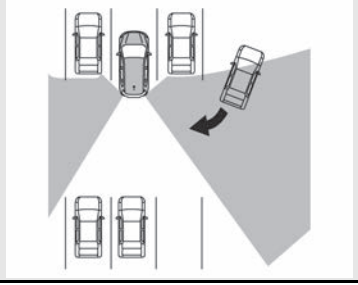
― 駐車枠線が斜めに引かれた駐車場に駐車しているとき



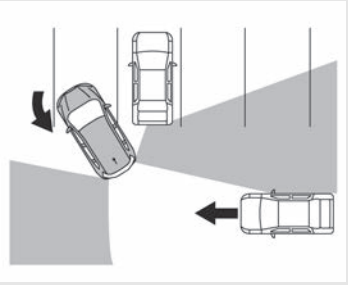
― 傾斜した地面に駐車しているとき



― 回り込むようにして自車後方へ車両が接近してきたとき



― 接近してきた車両の向きが、自車両の向きと同じまたはそれに近いとき



- **次のような場合は、思わぬ事故につながるおそれがあるため、システムを使用しないでください。**
  - ― 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - ― 放送局・レーダー搭載車両など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - ― 水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - ― 雪や氷、泥などがレーダーセンサー付近に付着しているとき
- **レーダーセンサーは静止している障害物を検知しないように設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。**
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

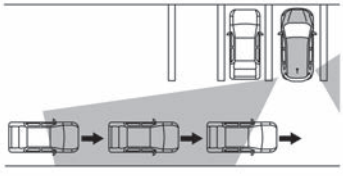
⚠ 警告

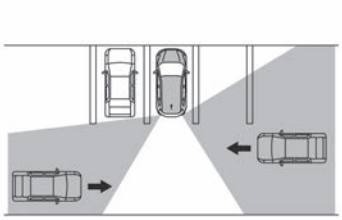
- **レーダーセンサー周辺へのステッカー（透明なものを含む）の貼り付け、アクセサリー類の取り付け、追加の塗装をしないでください。**

  車両を検知する性能が低下するおそれがあります。

知識

- 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向から車両が接近してきた場合、2台目以降に対して警報が作動しない場合があります。





RCTA（後退時車両検知警報）の作動が停止するとき

- 次の場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに「サイドレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください」と警告が表示され、一時的にシステムが停止します。
  - レーダーセンサーが汚れているとき
  - レーダーセンサーに雨、雪、氷などが付着しているとき
- システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
  警告メッセージ（➔P.274）

アドバイス

- レーダーセンサー周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからe-POWERシステムを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（➔P.314）をお読みください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

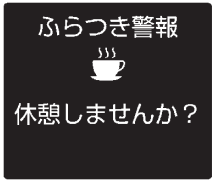
  e-POWERシステム再始動後も表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェント DA（ふらつき警報）

インテリジェント DA（ふらつき警報）は、ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したときに、アドバンスドドライブアシストディスプレイの表示と音により運転者に休憩を促します。

システムに関連する表示

インテリジェント DA
(ふらつき警報) 表示



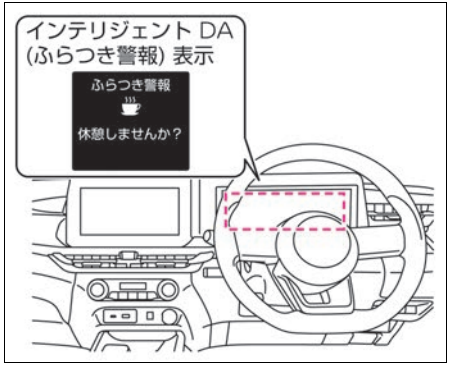
⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故にいたる危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転を心がけてください。

インテリジェント DA（ふらつき警報）について

●車速約60km/h以上で走行中、運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに、警報音（ブザー）とともにアドバンスドドライブアシストディスプレイに「休憩しませんか？」と警告メッセージを表示します。
警告メッセージ（➔P.275）



インテリジェント DA（ふらつき警報）の停止のしかた

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「ふらつき警報」を選択すると、インテリジェント DA（ふらつき警報）機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)

➔運転支援 (P.65)

📖 知識

- 設定は、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。
- プロパイロット作動中は、インテリジェント DA（ふらつき警報）のシステムはOFFになります。

  ➔プロパイロット★ (P.160)

インテリジェント DA（ふらつき警報）の作動が停止するとき

●システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告が表示され、作動が停止します。
警告メッセージ（➔P.274）

アドバイス

- 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
- 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。

  通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

標識検知機能

フロントガラス上部にあるマルチセンシングフロントカメラにより標識を検知し、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

システムに関連する表示



最高速度標識検知表示



進入禁止標識検知表示


はみ出し通行禁止標識検知表示



一時停止標識検知表示

⚠ 警告

- **走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。**

  標識検知機能は、運転者の安全運転を支援する機能です。

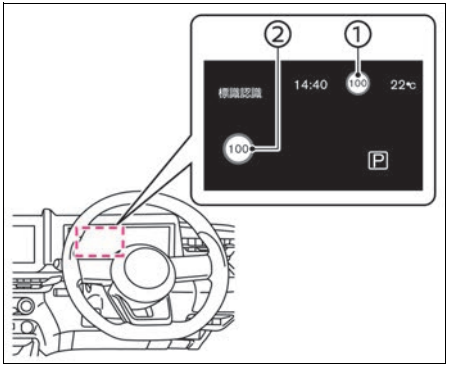
  標識検知機能には限界があり、状況によっては標識を検知できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。

運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

標識検知機能について

●標識検知機能には次の機能があります。

最高速度標識検知



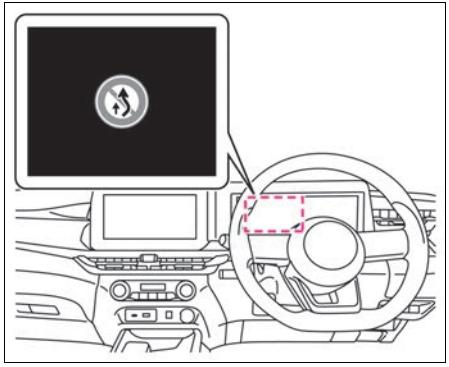
●前方の最高速度標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイ①、および走行支援グループ㊐②に表示されます。

➔走行支援グループ (P.63)

●次の場合は、最高速度標識の表示を終了します。

- 最高速度標識を検知し、車両がその標識を通過してから一定の距離を走行したとき
- 右左折などで走行している路線が変わったとシステムが判断したとき

はみ出し通行禁止標識検知

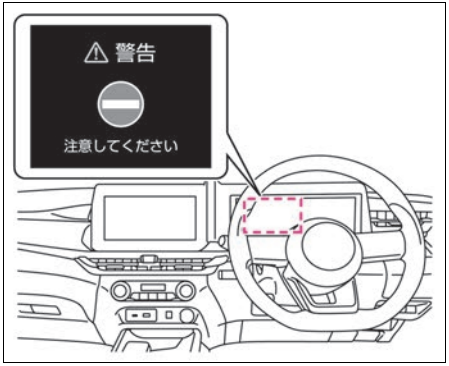


●前方のはみ出し通行禁止標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

進入禁止標識検知

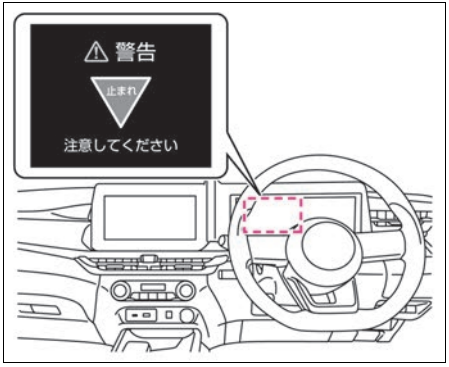
●前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合にはアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告表示します。

●万一、車両進入禁止標識を通過した場合には警告音が鳴ります。



一時停止標識検知

●前方の一時停止標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。



進入禁止標識／一時停止標識検知の停止のしかた

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「標識検知支援」を選択すると、進入禁止標識／一時停止標識検知機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)
➔運転支援 (P.65)

📖 知識

● いずれの設定も、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

最高速度標識検知／はみ出し通行禁止標識検知の停止のしかた

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「速度標識表示」を選択すると、最高速度標識検知機能／はみ出し通行禁止標識検知機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援をお読みください。

➔画面の切り替えかた (P.55)
➔運転支援 (P.65)

📖 知識

● いずれの設定も、e-POWERシステムを再始動しても維持されます。

標識検知機能に関する注意事項

⚠ 警告

● **次のような場合は、標識の検知が遅れたり、検知できなかったりすることがあります。**
  — 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、あるいはヘッドランプのレンズが極端に汚れているとき
  — カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界が遮られているとき
  — カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  — 前方から強い光（太陽光や対向車のハイビームなど）を受けているとき
  — 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき
  — トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  — 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  — 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  — 勾配の変化があるところを走行しているとき
  — 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき

⚠ 警告

- 隣を走る車で視界が遮られているとき
- 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
- 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき
- 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
- 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
- 標識が色あせたり、折れ曲がったりしているとき
- 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき
- 標識が泥、雪、または霜などで覆われているとき
- 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
- 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
- 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
- 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
- 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
- カメラの向きがずれているとき
- 始動してから約15秒間は標識を検知しません

- **次のような場合は、標識の検知が適正に行えず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、 実際には対象となる標識がないのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の最高速度よりも高い数字や、低い数字を表示したりすることがあります）**
  - 数字が認識しにくい標識（数字が消えかかっているなど）
  - 検知対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物、案内標識上の数字など）
  - 自車の路線に対しての標識ではないが、自車の路線付近にあり、その標識が自車の路線に向いている場合（本線から分岐する側道の一時停止標識や最高速度標識など）



  - コントラストが低い電光標識
  - 数字が認識しにくい電光標識 （遠く離れた位置にある標識、3桁の標識など）
  - 標識の近傍に補助標識（区間の始まり、終わり、曜日、時間など）があるとき
  - 工事などの通行規制区間に標識があるとき
  - メーカーオプションナビゲーションシステム★の地図データが最新ではない、または利用できないとき
  - メーカーオプションナビゲーションシステム★が推奨するルートを走行していないとき
  - メーカーオプションナビゲーションシステム★が新しいルートを検索しているとき
  - メーカーオプションナビゲーションシステム★の位置検出が正しく行えないとき
  - メーカーオプションナビゲーションシステム★の地図にない道路を走行しているとき

⚠ 注意

- **標識の近傍にある補助標識は検知しないため、実際の規制内容と異なる表示をする場合があります。必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。**

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意



アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。マルチセンシングフロントカメラの取り扱いについては、（➔P.315）をお読みください。

知識

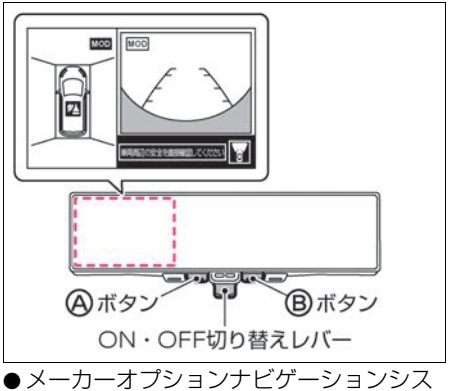
- 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）★

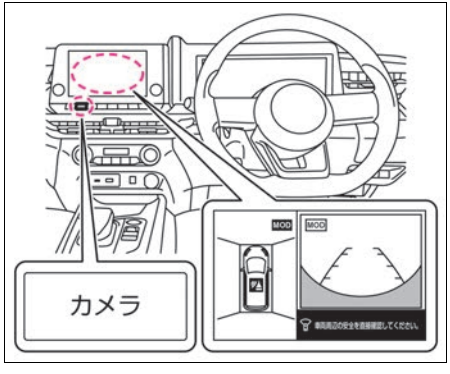
インテリジェント アラウンドビューモニターは、自車位置を映し出すことにより、駐車スペースへの駐車時や縦列駐車時に運転者を補助します。

インテリジェント アラウンドビューモニターについて

●メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、パワースイッチがONのときに、Ⓐボタンを押すか、シフトポジションを**R**にするとインテリジェント ルームミラーに表示します。



●メーカーオプションナビゲーションシステム装着車は、パワースイッチがONのときに、ナビゲーションシステムの［カメラ］を押すか、シフトポジションを**R**にするとナビゲーションシステムに表示します。



⚠ 警告

- **インテリジェント アラウンドビューモニターの機能を過信しない。**

  インテリジェント アラウンドビューモニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップビュー、フロントビュー、リヤビューに障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。
- **実際の距離感を間違えないように注意する。**

  インテリジェント アラウンドビューモニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

知識

- メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、インテリジェント ルームミラーの設定でインテリジェント アラウンドビューモニター画面位置を切り替えることができます。

  ➔Camera Position（カメラ表示位置）★ (P.104)

インテリジェント アラウンドビューモニターの使いかた

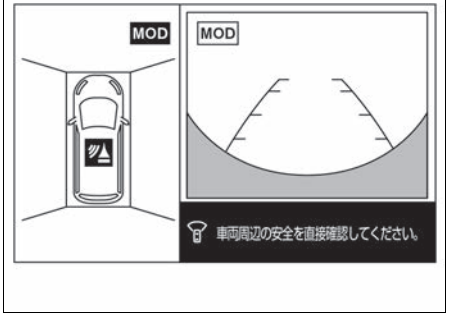
●メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車は、インテリジェント ルームミラーがインテリジェント ルームミラーモードの時に使用できます。（➔P.102）

●切り替えレバーがOFFのときでも、シフトポジションを**R**にするとインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／リヤビュー（右側画面）を表示します。シフトポジションを**R**から他の位置にすると、インテリジェント アラウンドビューモニターがOFFになります。

●シフトポジションが**D**または**B**のときに、ソナーが障害物を検知したときはインテリジェント アラウンドビューモニターが

ONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。障害物の検知がなくなると、インテリジェント アラウンドビューモニターはOFFになります。

●インテリジェント ルームミラーのⒶボタン（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または［カメラ］（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押すとインテリジェント アラウンドビューモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。



⚠ 警告

● **ドアミラーを格納した状態で使用しない。**

適切な範囲を映すことができません。また使用するときは、バックドアが確実に閉まっているか確認してください。

📖 知識

● インテリジェント ルームミラーのⒷボタン（インテリジェント アラウンドビューモニターが右側に表示されているときはⒶボタン）（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または［カメラ］（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押すと、画面を切り替えることができます。

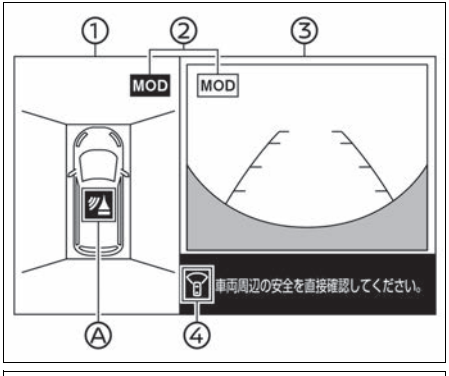
— シフトポジションがRのとき
トップビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）
→サイドブラインドビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）
→リヤビュー（全画面）

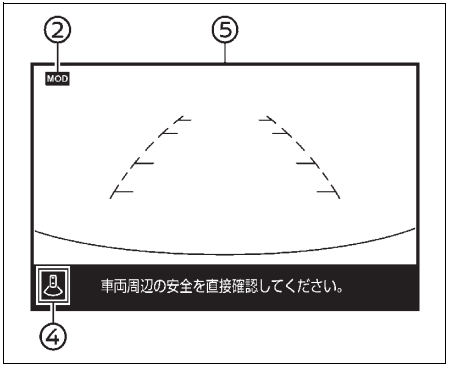
— シフトポジションがR以外のとき
トップビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）
→サイドブラインドビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）
→インテリジェント アラウンドビューモニターOFF

● 右側画面にフロントビューが表示されているときにシフトポジションをRにすると、リヤビューに切り替わります。シフトポジションをRから他の位置にすると、再度、フロントビューに切り替わります。

● **3分タイマー機能**
インテリジェント ルームミラーのⒶボタン（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または［カメラ］（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押してから約3分後にインテリジェント アラウンドビューモニター表示が消える機能です。シフトポジションがR以外のときに作動します。（ただし、タイマー作動中にインテリジェント ルームミラーのⒷボタン（インテリジェント アラウンドビューモニターが右側に表示されているときはⒶボタン）（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または［カメラ］（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押したり、ソナーまたは移動物 検知機能が作動したりするとタイマーがリセットされます。）

画面の見かた





①左側画面

●トップビューまたはサイドブラインドビューを表示します。

②移動物 検知機能作動状態アイコン

●どちらのビューで移動物 検知機能が作動するかを表します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

— MOD：移動物 検知機能が作動します

— MOD：移動物 検知機能が作動しません

③右側画面

●シフトポジションがRのときはリヤビューを、R以外のときはフロントビューを表示します。

④方向指示アイコン

●右側画面の映している方向を表します。

— ：リヤビュー表示

— ：フロントビュー表示

⑤全画面表示リヤビュー画面

●車両の後方の映像を画面幅いっぱいに表示します。

※：本表示はメーカーオプションナビゲーションシステム付車の表示になります。グレード、オプションなどにより表示は異なります。

知識

- パワースイッチをONにしてから初めてインテリジェント アラウンドビューモニターを表示したときに、アイコンⒶの色と点滅（約3秒間）で、ソナーの作動状況を表します。
  - — 赤色に点滅：ソナーON
  - — 灰色に点滅：ソナーOFF（ソナーをOFFにした直後も点滅します。）
- 表示しているビューで映している範囲でのみ移動物 検知機能が作動します。例えば、リヤビューで移動物 検知機能を作動させている場合には、車両前方の移動物は検知しません。

画面表示に関する注意事項

⚠ 警告

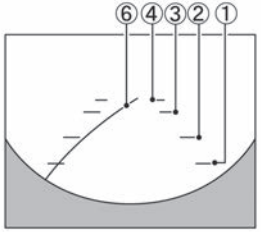
- **リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**
- **ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な映像のため、トップビューは、障害物を実際より遠く映します。**
- **囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されなかったりすることがあります。**
- **カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。**
- **トップビューの映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。**
- **路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。**

画面表示の種類について

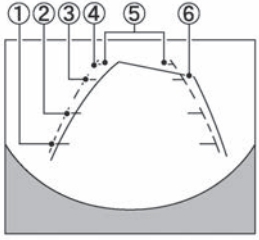
■ フロントビュー／リヤビュー

●車両の前方／後方の映像をインテリジェント アラウンドビューモニター右側画面に表示します。

<フロントビュー>



<リヤビュー>



距離目安ライン

●車体からの距離の目安を表示します。

— ①赤色：約0.5m

— ②黄色：約1m

— ③緑色：約2m

— ④緑色：約3m

⑤車幅目安ライン

●車幅の目安を表示します。

⑥予想進路線

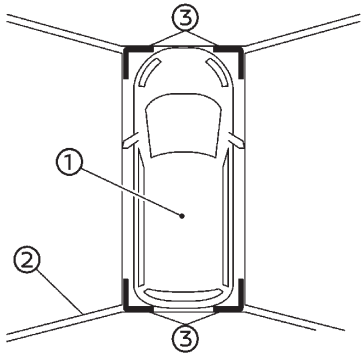
●運転操作時に予想進路を表示します。予想進路線は、ハンドルを切ったときに表示されます。予想進路線はハンドルを切った角度に応じて移動し、ハンドルを中立位置にすると表示されなくなります。

●フロントビューは、車速が約10km/hを超えると表示されなくなります。

アドバイス

- フロントビューが表示されているときに、中立位置から約90度の範囲内でハンドルを切ると、予想進路線が左右に表示されます。約90度以上ハンドルを切ると、予想進路線はハンドルを切った方向とは逆方向にのみ表示されます。
- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。
- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少右にずれて見えます。

■ トップビュー



① 自車

② トップビュー境目

③ コーナー部分

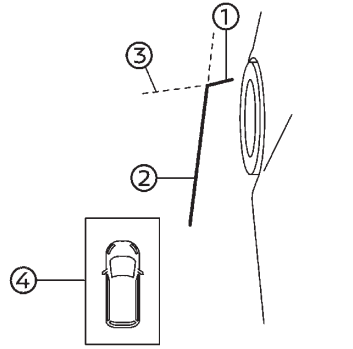
●自車位置や駐車スペースへの進入コースがわかりやすい、車両を上から見たような映像をインテリジェント アラウンドビューモニター左側画面に表示します。

●車両アイコン①は、自車位置を示しています。トップビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。カメラでは撮影できない領域トップビュー境目②は、黒色で表示されます。

●パワースイッチをONにし、初めてトップビューを表示すると、トップビュー境

目②と撮影されないコーナー部分③は、約3秒間黄色で強調表示されます。ソナーがOFFのとき、撮影されないコーナー部分③は赤色で表示されます。

■ サイドブラインドビュー



① 前端目安ライン

② 側方目安ライン

③ 前端目安ラインと側方目安ラインの延長線

④ ソナー表示

●車両の左側前輪付近から前方を、インテリジェント アラウンドビューモニター左側画面に表示します。道路端への幅寄せ駐車などに便利です。

目安ライン

●モニターには車幅と車両の前輪を示す目安ラインが表示されます。

— ①前端目安ラインは、車両前部の位置の目安を示します。

— ②側方目安ラインは、ドアミラーを含めた車幅の目安を示します。

— ③前端目安ラインと側方目安ラインの延長線は、緑色の破線で表示します。

ソナー表示

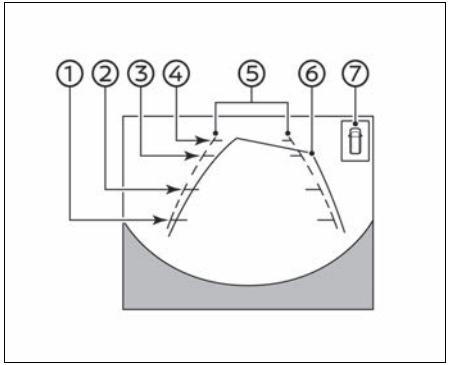
●④ソナー表示は、ソナーが障害物を検知すると、表示されます。

アドバイス

- 方向指示器の光が側方目安ラインと重なる場合がありますが、異常ではありません。
- サイドブラインドビュー表示中に、約10km/h以上になると画面の一部がグレーとなりますが、異常ではありません。

■ リヤビュー（全画面表示）

●車両の後方の映像を画面幅いっぱいに表示します。



距離目安ライン

●車体からの距離の目安を表示します。

— ①赤色：約0.5m

— ②黄色：約1m

— ③緑色：約2m

— ④緑色：約3m

⑤車幅目安ライン

●車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

●運転操作時に予想進路を示します。予想進路線は、ハンドルを切ったときに表示されます。予想進路線はハンドルを切った角度に応じて移動し、ハンドルを中立位置にすると表示されなくなります。

⑦ソナー表示

●ソナーが障害物を検知すると表示します。

アドバイス

- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。
- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少右にずれて見えます。

画質調整のしかた（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

ナビゲーションシステムで次の操作をすると、インテリジェント アラウンドビューモニター画面の画質を調整することができます。

［メニュー］⇒＜設定＞⇒＜カメラ＞

ナビゲーションシステムの操作方法は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書の「ご使用前の確認と設定」の章をお読みください。

項目1	項目2	機能
画質調整	明るさ	● ＜＋＞、＜－＞をタッチして明るさを調整します。
	コントラスト	● ＜＋＞、＜－＞をタッチしてコントラストを調整します。
	色合い	● ＜＋＞、＜－＞をタッチして色合いを調整します。
	色の濃さ	● ＜＋＞、＜－＞をタッチして色の濃さを調整します。
	黒レベル	● ＜＋＞、＜－＞をタッチして黒レベルを調整します。

移動物 検知機能について

- ●車庫入れや駐車場からの発進時などに自車周辺の移動物を運転者にお知らせすることで、安全確認をサポートする機能です。
- ●車両周辺に移動物があるときに、音と黄枠を表示してお知らせします。
- ●トップビューに MOD 表示がある場合には移動物を検知したエリア（前後左右）に黄枠を表示します。
- ●移動物 検知機能は以下の条件のとき、MOD が表示されている画面で作動します。
  - ― シフトポジションがPまたはNで停車しているときに、トップビュー側で作動します。
  - ― シフトポジションがDで車速約8km/h以下のときに、フロントビューで作動します。
  - ― シフトポジションがRで車速約8km/h以下のときに、リヤビューで表示します。

⚠ 注意

- **車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。**

知識

- ソナーブザーが鳴っている場合は移動物 検知機能ブザーは鳴りません。
- サイドブラインドビューには移動物検知機能がないため、MOD アイコンを表示しません。

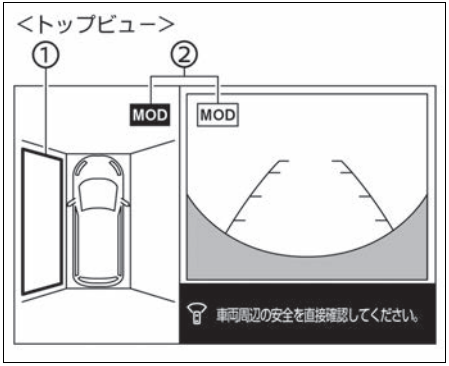
画面の見かた

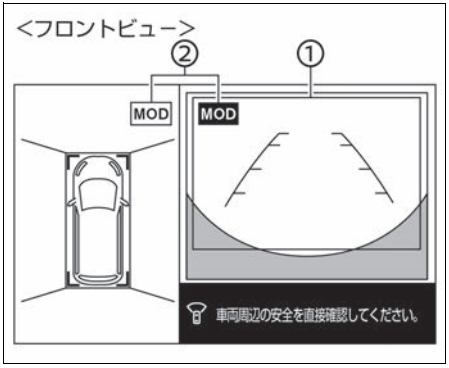
①移動物 検知表示

- ●移動物 検知機能で移動物を検知したときに、黄枠でお知らせします。

②移動物 検知機能作動状態アイコン

- ●移動物 検知機能を作動させる側の画面のアイコンを青色で表示します。
  - ― MOD：移動物 検知機能が作動します
  - ― MOD：移動物 検知機能が作動しません



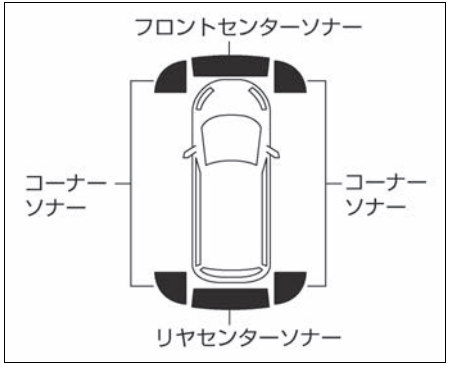


知識

- 次の場合は、移動物 検知機能は作動しません。
  - ― 車速やシフトポジションが移動物 検知機能の作動条件から外れている場合
  - ― トップビューによる移動物 検知機能作動中でいずれかのドアが開いている場合
  - ― リヤビューによる移動物 検知機能作動中でバックドアが開いている場合
- トップビューによる移動物 検知機能作動中で電動格納式ミラーが作動していると、誤検知する場合があります。

ソナー機能について

- インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）を表示させて、走行中にソナーが静止した障害物を検知した場合は、ソナー表示とブザーでお知らせします。
- ソナー表示はトップビュー、サイドブラインドビューまたはリヤビュー（全画面表示）画面に表示されます。
- 障害物を検知してから、ソナー表示とブザーが出るまでに多少時間がかかります。



⚠ 警告

- **バンパーにへこみなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。**
- **日産純正品以外のバンパーを取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。**

⚠ 注意

- **気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはソナーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、ソナーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。**
- **次のような障害物には作動しません。**

⚠ 注意

— 背の低い障害物
— 幅の狭い障害物
— 針金、金網、ロープなどの細い障害物
— ソナーに非常に近い障害物
— 急に進行方向に現れた障害物

● **次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**

— 地面から高い位置に存在する障害物
— スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物

● **ソナーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。**

— 雨、雪、氷、汚れなどがソナーセンサー部や周辺に付着しているとき
— 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
— 周囲に草が生い茂っているとき
— 車両側面の近くに壁があるとき
— 路面上に段差や突起物があるとき
— 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
— 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
— 周囲で大きな音が鳴っているとき
— 車両感応センサーやホーン、他車のソナー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき
— 炎天下や寒冷時
— 表面が一様でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸な形状の場合）

● **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

● **ソナー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があったりしてもソナーが検知しないことがあります。**

（氷が解ければ、正常に復帰します）

● **ソナーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けたりしないでください。**

● **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。**

アドバイス

● システムを正しく作動させるためにソナーはいつもきれいにしておいてください。ソナーの取り扱いについては、（➔P.316）をお読みください。

■ コーナーソナー

障害物までの距離（目安）	60～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ フロントセンターソナー

障害物までの距離（目安）	100～70cm	70～50cm	50～30cm	30cm以下
表示色	緑	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	遅い	早い	点灯
ブザー音	無し	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ リヤセンターソナー

障害物までの距離（目安）	150～70cm	70～30cm	30cm以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯

障害物までの距離（目安）	150～70cm	70～30cm	30cm以下
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ…	ピピピピピ…	ピー

■ ソナー表示色

●ソナー表示の色は、障害物に近づくにしたがって、緑、黄、赤と変化します。ソナーの表示の色と距離目安線とでは障害物までの距離は異なります。

■ ブザー音

●障害物との距離が近づくにしたがって、断続音の間隔が短くなります。表示が赤の場合は連続音になります。
●障害物との距離が広がった場合は断続音が消え、ソナー表示のみとなります。
●障害物との距離が約3秒間変わらない場合は断続音は消え、ソナー表示のみとなります。
●フロントソナーが検知したときは低音、バックソナーが検知したときは高音でお知らせします。

■ ソナー機能OFF

●アドバンスドドライブアシストディスプレイで「設定 ⚙ 」⇒「運転支援」⇒「駐車支援」を選択すると、各ソナー機能のON・OFFを設定できます。

■ ソナーによるカメラ画面の自動表示機能

●シフトポジションがDかつ車速約10km/h以下でカメラが表示されていない場合に、車両前方の障害物を検知した場合はインテリジェント アラウンド ビューモニター画面を自動で表示します。
●障害物がなくなると、自動的にインテリジェント アラウンドビューモニターはOFFになります。

■ ソナーシステムの作動が停止するとき

●システムに異常があると、アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
ソナーシステム異常警告（➔P.274）

インテリジェント アラウンド ビューモニター★に関する注意事項

⚠ 警告

- **カメラの作動を妨げるような物をカメラ部分に取り付けないでください。字光式ナンバープレートやナンバープレートリムを装着すると、フロントビューおよびリヤビューモニターの映像が一部映らなくなることがあります。**
- **距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**
- **目安ラインや予想進路線は、乗車人数や燃料の容量などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。**
- **サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップビューが不適切に表示されることがあります。**
- **上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くにあるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。**
- **フロントビューおよびリヤビューの表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。**

アドバイス

- カメラに汚れ、雨、雪が付着すると、映像の映りが悪くなることがあります。カメラを清掃してください。

➔フロントビュー／サイドビューカメラ★の取り扱い (P.315)

➔リヤビューカメラ★の取り扱い (P.316)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

- アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて含ませた布でふき取ったあと、乾いた布でふいてください。
- モニター映像に悪影響が生じるため、カメラに傷をつけないよう注意してください。
- カメラにはワックスを使用しないでください。中性洗剤を薄めて含ませた清潔な布でワックスをふき取ってください。

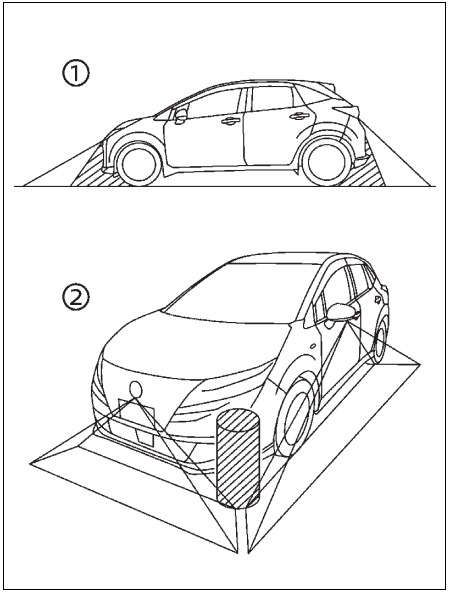
知識

- カメラレンズの特性により、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して見えることがあります。車幅目安ラインと予想進路線は、実際の車幅と進路よりも広くなっています。

- シフトポジションが R 以外のとき、インテリジェント ルームミラーのⒶボタン（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）または［カメラ］（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）を押してインテリジェント アラウンドビューモニターを表示させたあと、ソナーまたは移動物 検知機能が作動しない状態で約3分間操作を行わないでいると、インテリジェント アラウンドビューモニター表示が消えます。（3分タイマー機能）
- 画面の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。インテリジェント アラウンドビューモニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。
- 外気温が極端に高いか、低いときは、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- カメラに直接強い光を当てると、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- 蛍光灯照明が当たると、映像にちらつきが出ることがありますが、異常ではありません。
- インテリジェント アラウンドビューモニター映像の色味は、実際とはわずかに異なって見えることがあります。
- 暗いところや夜間時には映りが悪くなり、色味が異なって見えることがありますが、異常ではありません。

- トップビューの各カメラの映像に鮮明さの違いが生じることがあります。
- トップビューの画像は、4つのカメラからの映像を加工処理して表示するため、次のように表示される場合があります。
  - 立体物が倒れこんで見える
  - 路面よりも高い位置にある車両などが実際より遠くに見える
  - 高さのあるものが画像の継ぎ目でずれて表示される
  - 各カメラ画像の明るさが違う

映し出す範囲

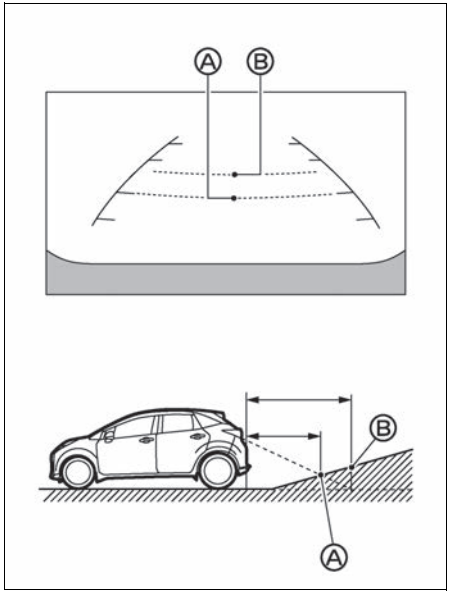


●特定の領域は、カメラに映し出されません。フロントビューまたはリヤビューでは、バンパー下側または地上面の部分は表示されないことがあります①。トップビューではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります②。

映像と実際の路面との誤差

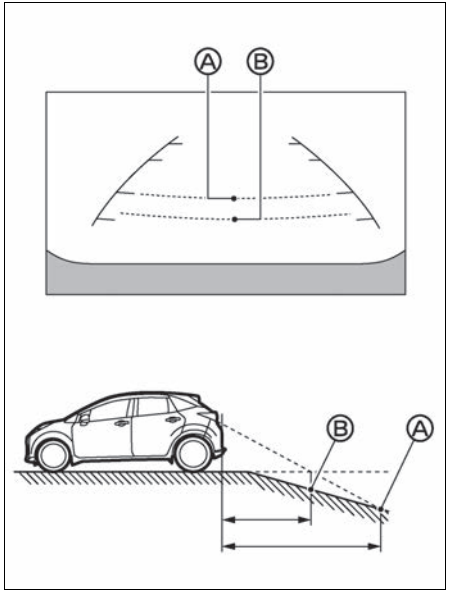
●フロントビューとリヤビューに表示される距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離はあくまでも目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

急な上り坂が後方にあるとき



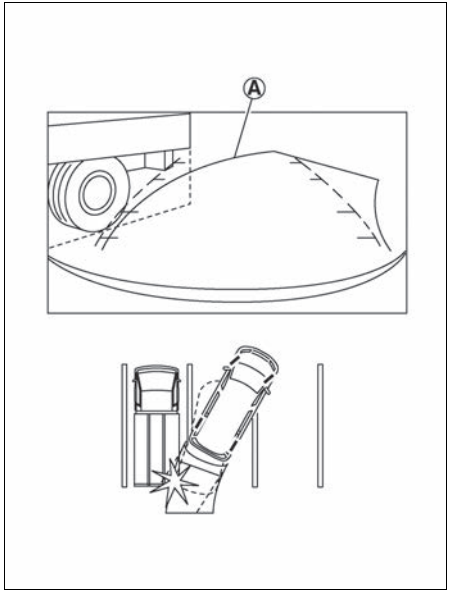
●距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。上り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。

急な下り坂が後方にあるとき

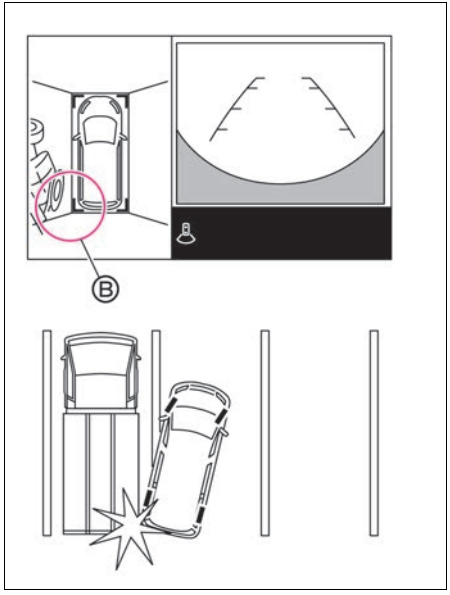


●距離目安ラインと車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。 例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。下り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも近くにあるように見えます。

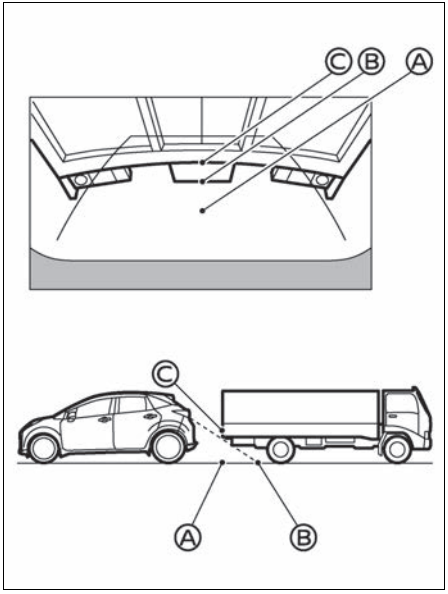
立体物が近くにあるとき



- 立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。
- 例1：予想進路線Ⓐは表示されているトラックの車体に触れていません。しかし、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、ぶつかることがあります。
- 例2：表示されているトップビューⒷでは、自車とトラックの車体間にはわずかな距離があるように見えます。しかし、実際の距離は表示されているよりも短く、トラックの車体にぶつかることがあります。



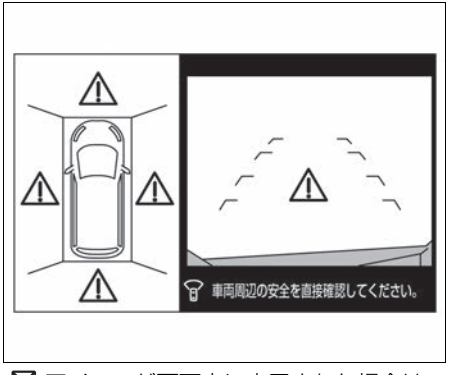
立体物に接近するとき



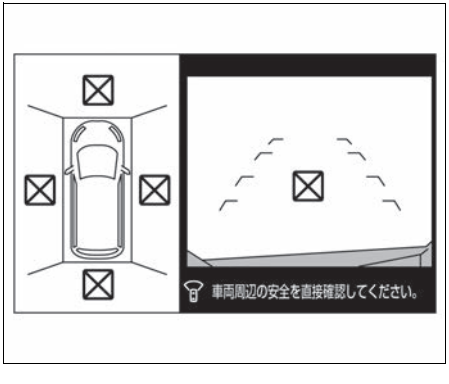
- Ⓒの位置はⒷの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はⒶの位置と同じ距離です。トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、Ⓐの位置まで下がるとぶつかることがあります。

画面のエラー表示について

⚠ アイコンが画面内に表示された場合は、インテリジェント アラウンドビューモニター（移動物 検知機能付）の異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。



☒ アイコンが画面内に表示された場合は、カメラ映像が一時的に周囲の電子機器の影響を受けている可能性があります。頻繁に表示される場合は日産販売会社で点検を受けてください。



カメラ映像が正常に表示されない場合

シフトポジションをRに入れ、インテリジェント アラウンドビューモニターを作動させた状態でも次のような画面表示が続く場合は、カメラシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

カメラECUが作動しない場合（メーカーオプションナビゲーションシステム非装着車）

- インテリジェント アラウンドビューモニター画面がカメラ画面に切り替わらず、ミラー表示し続けているとき

カメラECUが作動しない場合（メーカーオプションナビゲーションシステム装着車）

- インテリジェント アラウンドビューモニター画面がカメラ画面に切り替わらず、前の画面（ナビゲーションシステムなど）を表示し続けているとき

カメラが作動しない／カメラの故障／カメラECUの故障などにより映像に異常がある場合

- インテリジェント アラウンドビューモニター画面が黒色／青色／灰色など、異常なカメラ映像が表示されるとき

MEMO

室内照明

マップランプ／ルームランプ／ラゲッジランプ	P.236

収納装備

グローブボックス	P.238
センターコンソールボックス	P.238
ロアコンソールトレイ	P.238
コンソールポケット	P.239
カップホルダー／ボトルホルダー	P.239

その他の室内装備

先進事故自動通報システム★	P.241
ステアリングヒーター★	P.244
ヒーターシート★	P.245
電源ソケット	P.245
USB電源ポート	P.246
フロアカーペット	P.247
サンバイザー／バニティミラー	P.247
チケットホルダー	P.248
アシストグリップ	P.248

マップランプ／ルームランプ／ラゲッジランプ

マップランプの使いかた

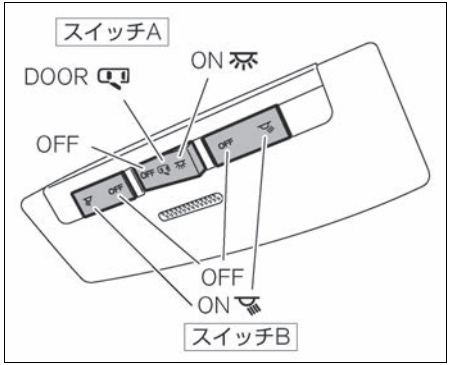
●マップランプは、前席シート天井部の中央にあります。
●次のように点灯・消灯します。

スイッチA

スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
ON	常時点灯
DOOR（中立）	スイッチが中立位置にあるときにドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	消灯

スイッチB

スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
ON	常時点灯
OFF（水平）	スイッチAが中立のとき、ドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、閉めると消灯します。



アドバイス

● 走行可能表示灯が消灯時に、長時間マップランプを点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

● スイッチAがDOOR位置にあると、次の条件で点灯します。
  — パワースイッチをOFFにしてから約20秒間
  — パワースイッチがOFFのとき、ドア（バックドアを除く）を解錠してから約20秒間
  — パワースイッチがOFFのとき、ドア（バックドアを除く）を閉めてから約20秒間
  — ドア（バックドアを除く）が開いているとき

バッテリーセーバー

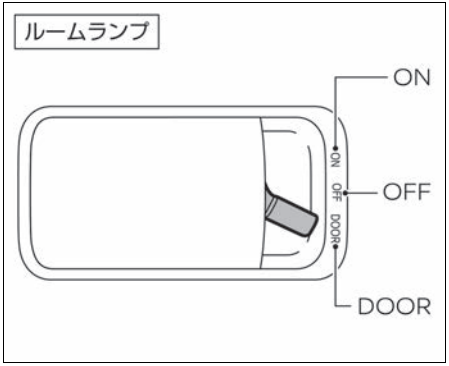
● 12Vバッテリーあがりを防止するため、マップランプは10分以上点灯し続けると消灯します。

ルームランプの使いかた／ラゲッジランプについて

ルームランプの使いかた

●ルームランプは、天井部の中央にあります。
●次のように点灯・消灯します。

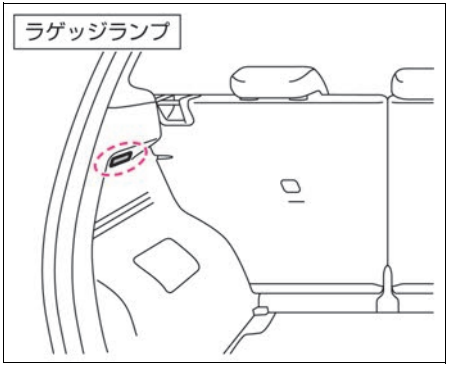
スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
ON	常時点灯
OFF（中立）	消灯
DOOR	ドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、閉めると消灯します。



ラゲッジランプについて

ラゲッジランプはラゲッジルームの左側にあります。

●バックドアを開けると自動で点灯し、バックドアを閉めると消灯します。



アドバイス

● 走行可能表示灯 が消灯時に、ルームランプおよびラゲッジランプを長時間点灯させないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム（ラゲッジランプを除く）

● ルームランプのスイッチがDOOR位置にあると、次の条件で点灯します。

— パワースイッチをOFFにしてから約20秒間

— パワースイッチがOFFのとき、ドアを解錠してから約20秒間

— パワースイッチがOFFのとき、ドア（バックドアを除く）を閉めてから約20秒間

— ドア（バックドアを除く）が開いているとき

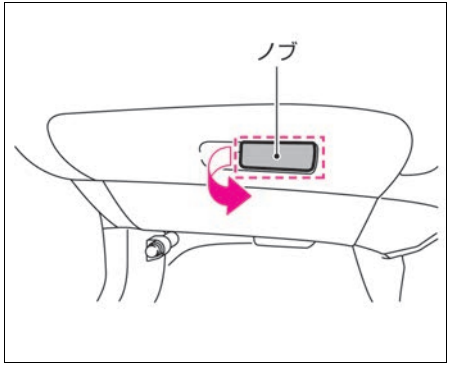
バッテリーセーバー

● 12Vバッテリーあがりを防止するため、ルームランプ、ラゲッジランプは10分以上点灯し続けると、消灯します。

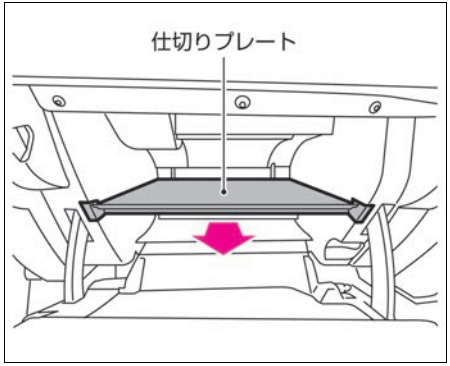
グローブボックス

グローブボックスの使いかた

●開けるときは、ノブを手前に引きます。
●閉めるときは、ロックするまでふたを押します。



●グローブボックス内の仕切りプレートは、手前に引くと取り外すことができます。



⚠ 注意

● **グローブボックスを開けたまま走行しない。**

ブレーキをかけたときに、収納した物が飛び出したり、ふたに当たったりするなどして、思わぬケガをするおそれがあります。

● **ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。**

ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。

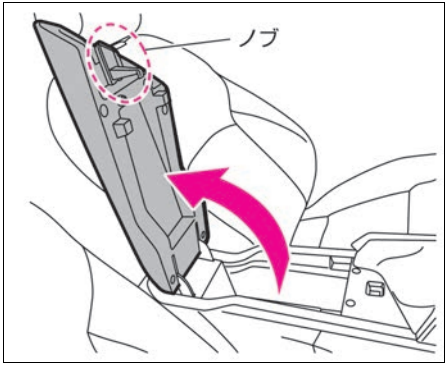
アドバイス

● 仕切りプレートを取り付けるときは、ロックするまで奥に押し込んでください。開いたグローブボックスのふたの上に物を置いたまま閉めると、収納したものや仕切りプレートが破損するおそれがあります。

センターコンソールボックス

センターコンソールボックスの使いかた

●開けるときは、ノブを引きながら、ふたを引き上げます。
●閉めるときは、ロックするまでふたを押します。



⚠ 注意

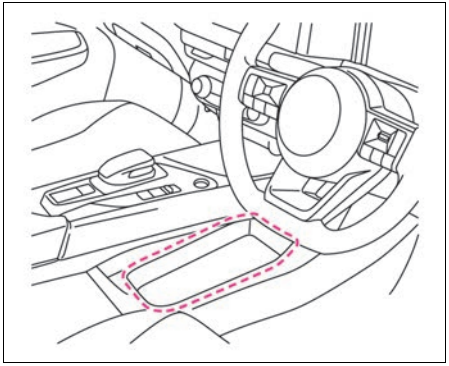
● **センターコンソールボックスを開けたままにしない。**

開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。

ロアコンソールトレイ

ロアコンソールトレイについて

●ロアコンソールトレイは、センターコンソールの下部にあります。



⚠ 注意

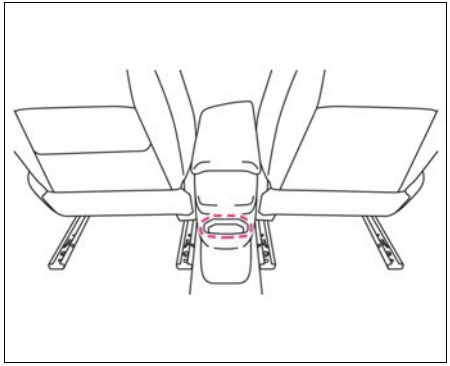
- **ロアコンソールトレイに飛び出すおそれがあるものを置かない。**

  急ブレーキ時や衝突時に物が飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。

コンソールポケット

コンソールポケットについて

●コンソールポケットは、センターコンソールの後部にあります。



⚠ 注意

- **コンソールポケットに飛び出すおそれがあるものを入れない。**

  急ブレーキ時や衝突時に物が飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。

カップホルダー／ボトルホルダー

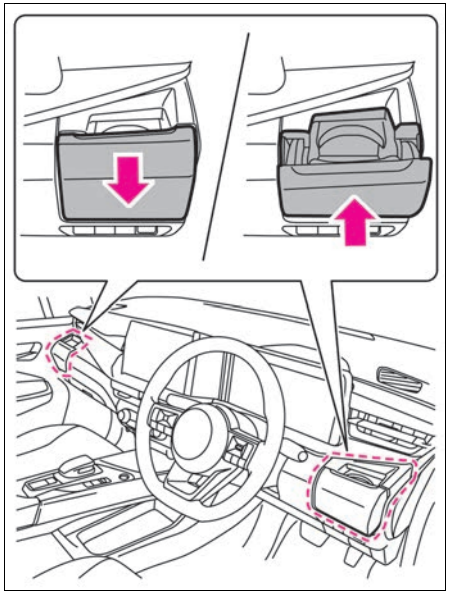
カップホルダーについて

⚠ 注意

- **トレイに3kg以上の物を載せない。**

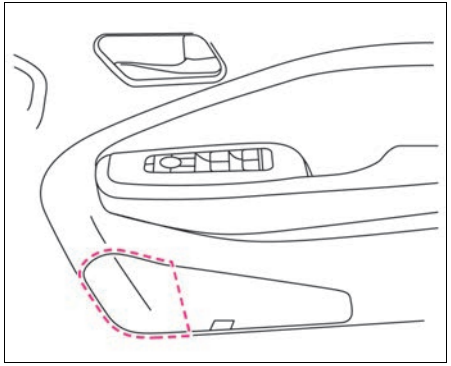
  破損したり、物が落ちたりして思わぬケガをするおそれがあります。また、カップホルダーに熱い飲物を置いているときは、こぼれてやけどをするおそれがあります。

●インストルメントパネル部に2箇所あります。
●手前に引き出して使用します。
●格納するときは押し戻します。



ボトルホルダーについて

●ボトルホルダーは、前席および後席のドアポケットにあります。



カップホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

- **運転中に飲物を出し入れしない。**
  運転中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲物を出し入れしてください。
- **ビンなどの硬いものは入れない。**
  側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

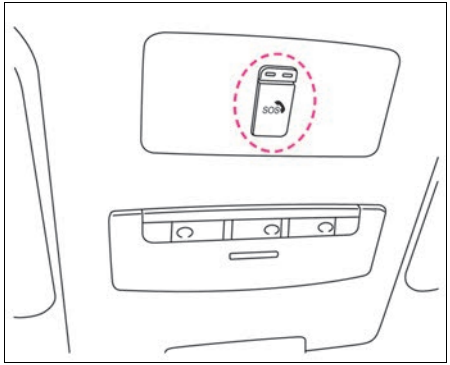
- **熱い飲物を置かない。**
  熱い飲物をカップホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。
- **飲物をこぼさないように注意する。**
  飲物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。
- **車室内のスイッチや画面などに飲物をこぼさないようにする。**
  故障や火災のおそれがあります。

先進事故自動通報システム★

SOSコールスイッチを押すことでSOSコールを開始できます。また、事故発生時（SRSエアバッグ、SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグ、SRSニーエアバッグ展開時）には自動でSOSコールを開始します。

先進事故自動通報システムについて

- パワースイッチがONのとき、SOSコールスイッチを押すと、SOSコールを開始できます。
- 事故発生時（SRSエアバッグ、SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグ、SRSニーエアバッグ展開時）には自動でSOSコールを開始します。
- SOSコールスイッチは、マップランプ周辺にあります。
- プロパイロット緊急停止支援システムにより緊急停止したときには自動でSOSコールを開始します。



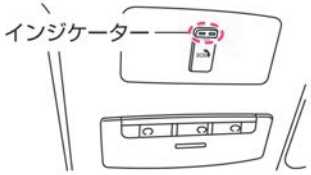
知識

- SOSコールとは、急病・犯罪・事故などの緊急時に警察・消防・医療機関への連絡を補助するサービスです。タイヤのパンクや車両の修理には対応できません。
- SOSコールのサービス提供は、（株）日本緊急通報サービスからのものです。
- 日産販売会社でサービスのお申し込みと、車両側での初期設定が完了していないと、SOSコールを利用することができません。
- エアバッグ展開を伴う自動通報（SOSコール）後は、自動通報機能が使用できなくなります。リセット作業が必要ですので、日産販売会社へお問い合わせください。

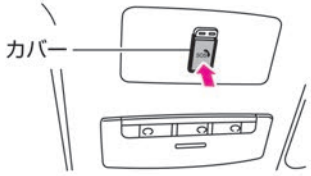
- SOSコールサービスのオペレーターや公共機関との通話中は、車両側から通話を終了させることはできません。

先進事故自動通報システムの使いかた

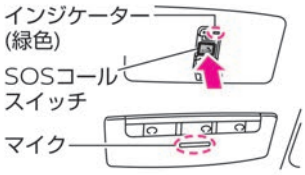
1. パワースイッチをONにします。
   SOSコールスイッチのインジケーターが赤色・緑色ともに点灯し、一定時間経過後に緑色のみ点灯を続けます。



2. SOSコールスイッチのカバーを押して開きます。



3. SOSコールスイッチを約1秒間押します。
   緑色のインジケーターが点滅し、オペレーターに繋がります。



4. SOSコールサービスのオペレーターと通話します。
状況に応じてオペレーターからの折り返し、もしくは公共機関（警察・消防・医療機関）からの通話着信があります。着信時は自動で音声接続します。
通話が終了したら、カバーを戻し、ロックするまで押します。

⚠ 警告

- **SOSコールスイッチを押すときは、安全な場所に停車してから行う。**
  走行中に運転者がスイッチを押そうとすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **SOSコールは無線通信機能を利用しています。心臓ペースメーカーなどの医療用電気機器を使用している場合は、当該の医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波の影響について必ず確認してください。**

アドバイス

- 次の場合は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
  - パワースイッチをONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないとき
  - インジケーターが赤色・緑色ともに点灯してから一定時間経過後、赤色のインジケーターのみ点灯しているとき
- インジケーターが赤色・緑色ともに消灯している場合は、電波環境のよい場所まで車を移動させてください。

SOSコールスイッチのインジケーターについて

●SOSコールスイッチには、システムの状態を表すインジケーターがあります。

インジケーターの点灯パターン		システム状態	説明・対処方法
赤色	緑色		
 (消灯)	 (消灯)	システムOFF サービスエリア外	● システムがOFFの状態です。 ● パワースイッチをONにすると電源が入ります。パワースイッチをONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないときは日産販売会社で点検を受けてください。 ● 電波環境が悪く、SOSコールを開始できない状態です。車を電波環境のよい場所へ移動させてください。
 (点灯)	 (点灯)	システムON通知	● システムがONになったことを知らせます。 ● システムがONになると、一定時間点灯します。 ● 初期設定が完了していないと点灯を続けます。
 (消灯)	 (点灯)	SOSコール開始可能	● SOSコールを開始できる状態です。
 (消灯)	 (点滅)	SOSコール利用中	● オペレーターセンターと通信中、またはオペレーターと通話中の状態です。
 (点灯)	 (消灯)	システム異常 SOSコールサービス契約なし	● システム異常またはSOSコールサービス契約がなく、サービスを正常に提供できない状態です。すみやかにサービスの利用契約期限をご確認いただき、日産販売会社で点検を受けてください。

先進事故自動通報システムに関する注意事項

アドバイス

- SOSコールスイッチの赤色のインジケーターのみ点灯する場合は、システムに異常があるか、サービスの契約期限が切れています。契約期限をご確認いただき、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 12Vバッテリーあがりにつながるため、SOSコール利用中は安全を確認したうえでe-POWERシステムを停止せずにご使用ください。
- 通話中は、停車した状態でSOSコールスイッチ付近のマイクに向かって話してください。
- 先進事故自動通報システムは、携帯電話と同様のデータ網を使用しています。圏外エリア（トンネル内、地下駐車場など）や電波の届きにくい場所（山間部）では利用できない場合があります。
- 救急車両は車両位置／車種／車体色／登録ナンバーをもとに現場の通報車両を特定します。元の車体色がわからなくなるほど塗り替えをしてしまっていると、救急車両の到着が遅れる場合があります。
- システムを利用する前にNissanConnect サービスの契約が必要です。
- システムを利用する前に車側で初期設定が必要です。サービス契約後は日産販売会社で初期設定を完了してください。
- 車の登録ナンバーを変更したときは、NissanConnect お客さまセンターへ必ずご連絡ください。SOSコール利用時、会員登録上の車のナンバーと実際の車のナンバーが一致しない場合、救急隊員の到着が遅れることがあります。
- SOSコールサービス契約中に車を手放す場合は、NissanConnect お客さまセンターに必ずご連絡いただき、解約を行ってください。

NissanConnect お客さまセンター：

0120-981-523

受付時間 9:00～17:00（年末年始を除く）

知識

- 先進事故自動通報システムは、国内でのみ利用できます。
- 先進事故自動通報システムは、NissanConnect サービスを申し込みいただくことで利用できます。
- SOSコールスイッチの赤色のインジケーターが点灯していても、SOSコールを開始することができます。ただし、発生している異常によっては、音声通話や救急車両の案内を正常に行えないことがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- SOSコール開始後は通話のキャンセルはできません。いたずらや機能確認など、緊急の場合以外でSOSコールスイッチを押さないでください。
- SOSコールは車載された通信機を使用するため、お客さまの携帯電話がなくても利用できます。
- 通話中の音声は、ボリュームを変更することができません。
- SOSコールサービスの契約期限後、継続利用を希望しない場合、日産販売会社にて退会手続きを行ってください。
- 本システムは、オープンソースを使用したソフトウェアを実装しています。ライセンスについて、次のWebサイトを参照してください。

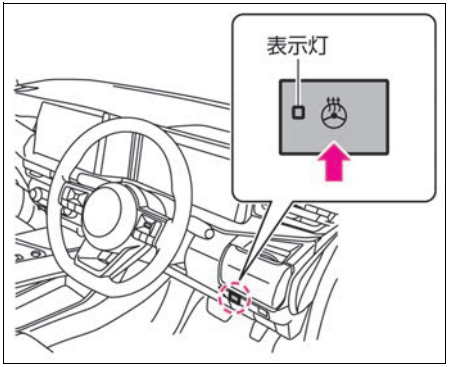
  http://opensourceautomotive.com/IC/tZ7T3eE6AiV4/

ステアリングヒーター★

ハンドルを温めます。走行可能表示灯 が点灯しているときに使えます。

ステアリングヒーターの使いかた

●スイッチを押すと約30分間作動します。
（スイッチの表示灯が点灯）
●作動中にスイッチを押すと作動が停止します。
（スイッチの表示灯が消灯）



知識

- ハンドルの温度が一定温度以上のときは、スイッチを押してもステアリングヒーターは作動しません。

ヒーターシート★

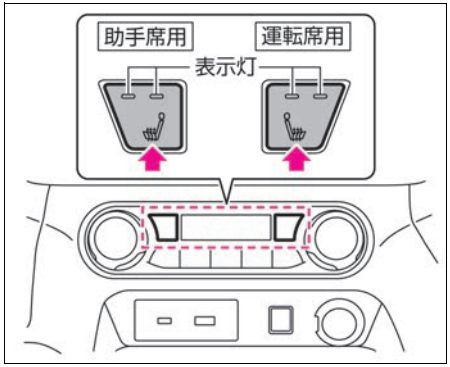
前席シートを温めます。パワースイッチがONのときに使えます。

ヒーターシートの使いかた

●スイッチを押すと作動します。
（スイッチの表示灯が点灯）

モード	表示灯	働き
Hi	2つ点灯	早く温めたいとき
Lo	1つ点灯	保温したいとき
OFF	消灯	OFF

●スイッチを押すごとにHi→Lo→OFF→Hiの順に切り替わります。



⚠ 注意

- **長時間の連続使用はしない。**
  低温やけどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。
- **硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。**

アドバイス

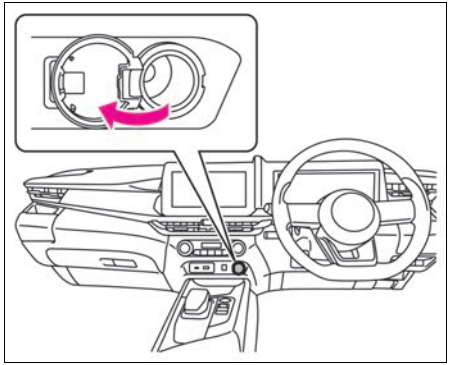
- 過熱するおそれがあるため、シートに毛皮や座布団を載せたり、シートカバーを使用しないでください。
- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。
- 12Vバッテリーあがりを防止するため、e-POWERシステムを始動した状態で使用してください。

電源ソケット

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。パワースイッチがONのときに使えます。

電源ソケットの使いかた

●電源ソケットはインストルメントパネルにあります。
●ふたを開けて使います。
●使用しないときは、ふたを閉めます。
●容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
●相手プラグを挿入したり抜いたりするときは、パワースイッチをOFFにするか、使用機器側の電源をOFFにしてください。



⚠ 警告

- **電源ソケットを使うときは、次のことを守る。**

  電源ソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどのおそれがあります。

  — 複数の電源ソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんの機器を接続しないでください。

  — 消費電力120W以下のものを使ってください。

  — 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入してください。

  — 使用中や使用後はソケットやプラグの取り扱いに十分注意してください。

  — シガーライターをソケットに差し込まないでください。

  — ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

アドバイス

- 12Vバッテリーあがりを防止するため、e-POWERシステムを始動した状態で使用してください。また、長時間使用したり、エアコン、ヘッドランプ、リヤウインドーデフォッガーなどを同時に使用したりしないでください。

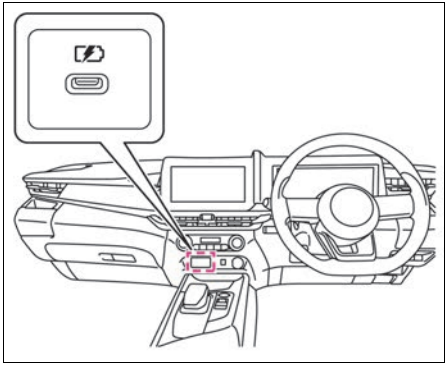
USB電源ポート

USB電源ポートはモバイル機器などの充電専用です。パワースイッチがONまたはOFF（ACC状態）のときに使えます。ACC状態については、オートACC機能（➔P.124）をお読みください。

USB電源ポートの使いかた

モバイル機器を充電するのに便利なUSB電源ポートが用意されています。

- USB電源ポートはインストルメントパネルにあります。
- 容量は、5V（ボルト）、3A（アンペア）、15W（ワット）です。
- メーカーオプションナビゲーションシステム装着車のUSB電源ポートについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。



⚠ 警告

- **SRSエアバッグの作動を妨げるような場所に、モバイル機器や接続用のケーブルを設置しない。**

  SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグの作動時にモバイル機器が飛ばされたりして、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。

  ➔SRSエアバッグの種類 (P.29)

- **USB電源ポートを使用するときは、次のことを守る。**

  USB電源ポートの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどにつながるおそれがあります。

  — 複数のUSB電源ポートを持つアダプターを使用して、一度にたくさんのモバイル機器を充電しない

⚠ 警告

— 消費電力15W以下のものを使用する

— ケーブルはしっかり奥まで挿入する

— ポートに水をかけたり、指や金属などを入れたりしない

— ポートの向きに注意し、無理な接続や取り外しをしない

⚠ 注意

● **モバイル機器または接続用のケーブルは、運転の邪魔にならない場所に固定する。**

運転に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

● 12Vバッテリーあがりを防止するため、e-POWERシステムを始動した状態で使用してください。

フロアカーペット

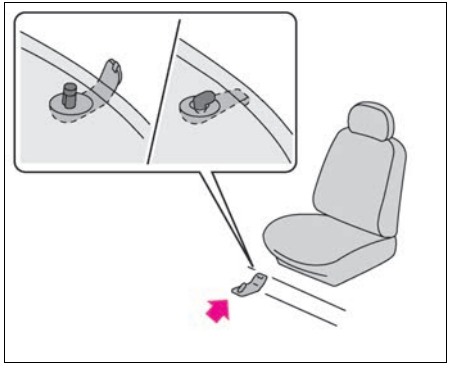
この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。

固定のしかた

●床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。

●フロアカーペットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。

●車種により、固定クリップ・ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。



⚠ 警告

● **この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。**

フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなったりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

● **運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことを守る。**

— 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない

— フロアカーペットでペダルを覆わない

— フロアカーペットを重ねて敷かない

— 運転席専用のフロアカーペットを使用する

— フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返しにしたりして使用しない

● **運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。**

● **運転に支障がないことを確認する。**

運転する前、パワースイッチがOFFの状態で各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないことを確認してください。

● **タバコの火種をフロアカーペットなどに落とさない。**

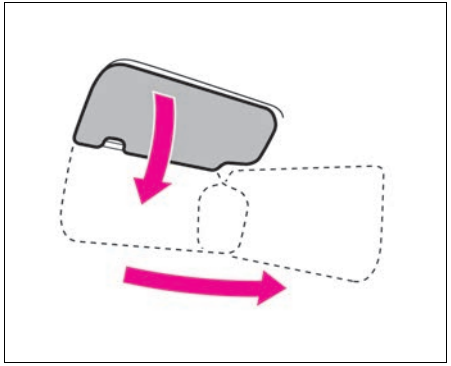
火災につながるおそれがあります。

サンバイザー／バニティミラー

サンバイザーの使いかた

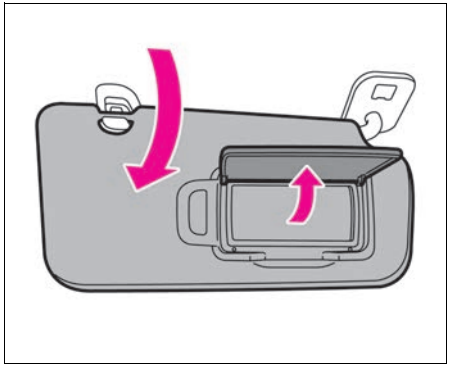
●前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。

●横からの日差しを防ぐときは、下に下げて、フックから外し、横にして使います。



バニティミラーの使いかた

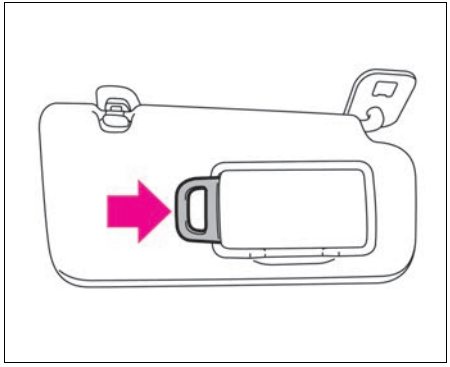
- サンバイザー裏側にバニティミラー（鏡）が付いています。
- サンバイザーを下に下げて、カバーを開けて使います。



チケットホルダー

チケットホルダーの使いかた

- サンバイザーにチケットホルダーが付いています。
- カードをスライドさせ、差し込みます。



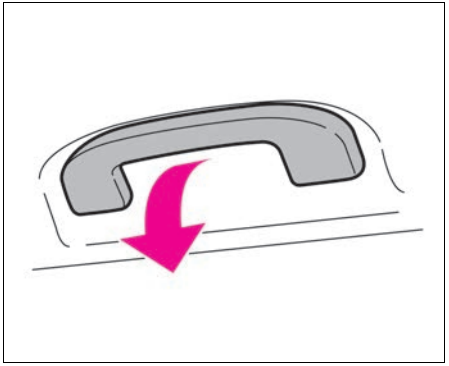
アドバイス

- 炎天下での駐車は車室内が大変高温になりますので、カードを入れたままにしないでください。カードが変形するおそれがあります。

アシストグリップ

アシストグリップの使いかた

- アシストグリップは、前席シート左右および後席シート左右にあります。



⚠ 注意

- **アシストグリップに手をかけて乗り降りしない。**

  アシストグリップは、走行中などシートに座った状態で身体を支えるために使用してください。乗降用ではないため、手をかけて乗り降りしないでください。万一、アシストグリップが外れた場合は、思わぬケガをするおそれがあります。

トラブルがおきたときは

まずはじめに

故障したときは	P.250
発炎筒	P.250
けん引について	P.251

緊急時の対処方法

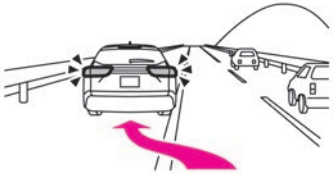
パンクしたときは	P.254
ドアが開かないときは	P.259
インテリジェントキーで始動できないときは	P.260
12Vバッテリーがあがったときは	P.261
出力制限表示灯が点灯したときは	P.264
警告灯がついたときは	P.264
警告メッセージが表示されたときは	P.270
警報音（ブザー）が鳴ったときは	P.288
窓ガラスがくもったときは	P.289
オーバーヒートしたときは	P.290
雪道やぬかるみにはまったときは	P.291
水没したときは	P.291
外装ランプが点灯しないときは	P.292
ヒューズが切れたときは	P.294

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

1. 非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。
   路肩が無い場所では、可能な限り広いところまで自走します。



⚠ 警告

- **発炎筒はトンネル内では使用しない。**
  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。非常点滅表示灯を使ってください。

⚠ 注意

- **走行中にe-POWERシステムが停止したときは、慎重に運転する。**
  故障によりe-POWERシステムが停止していると、ブレーキや電動パワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあります。すみやかに安全な場所に停車してください。

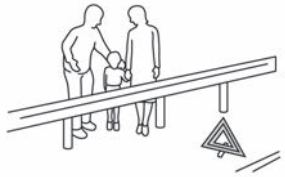
アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務付けられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。

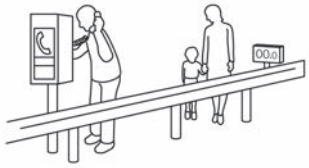
2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。
   ➔ 発炎筒 (P.250)



3. 運転者もガードレールの外側などに避難します。
   避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。



4. 非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。

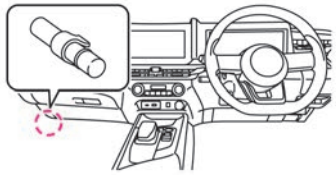


発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障・事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

発炎筒の使いかた

1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。



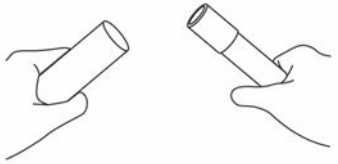
⚠ 警告

- **お子さまには触らせない。**
  いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- **可燃物の近くで使用しない。**
  引火するおそれがあります。
- **点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。**
  やけどをするおそれがあります。

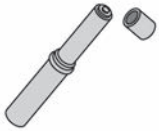
アドバイス

- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。

2. 本体をひねりながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。



3. 先端のふたを取り、ケースのすり薬で発火筒の先端をこすって着火します。



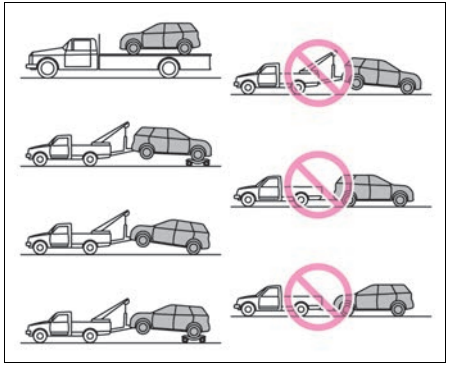
けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。
やむをえずけん引するときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

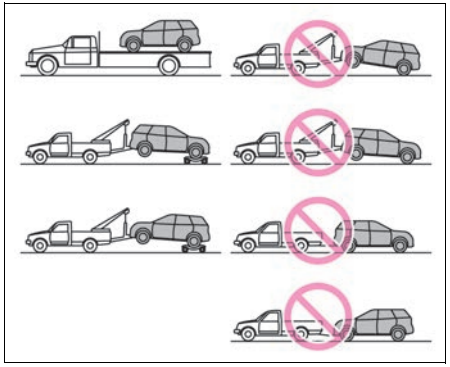
けん引時の注意事項

- 車両が動かなかったり、異常な音がするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、2WD車は前輪または4輪を、4WD車は4輪を持ち上げてください。
- やむをえず4輪接地の状態でけん引されるときは、シフトポジションを**N**に入れて行ってください。
- この車両は、オートP機能（➔P.127）により、パワースイッチがOFFのときはシフトポジションを**P**から**N**に切り替えることができません。そのため、12VバッテリーあがりなどでパワースイッチがOFFから切り替えられないときは、4輪接地の状態でけん引できません。
- けん引中は、e-Pedal StepをOFFしてください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

2WD車



4WD車



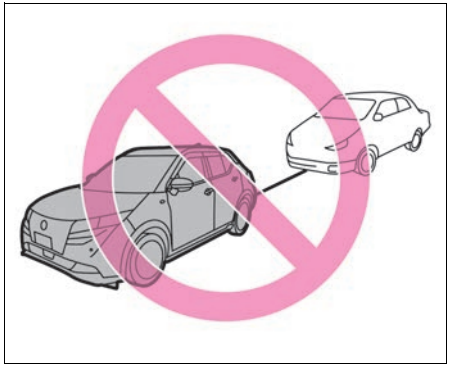
⚠ 注意

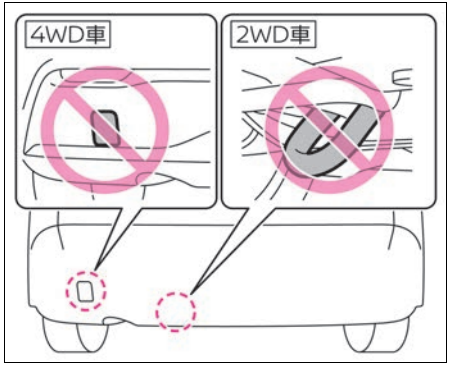
- **2WD車の前輪を持ち上げてけん引するときは、パワースイッチをOFFにする。**

  VDCが作動し、ブレーキがかかることがあります。

リヤフックについて

この車両で他車をけん引することはできません。後ろ側についているフック（リヤフック）（2WD車）またはけん引フック取り付け穴（4WD車）は、船舶またはトレーラー輸送時の固定専用です。
けん引時などの固定には絶対使用しないでください。



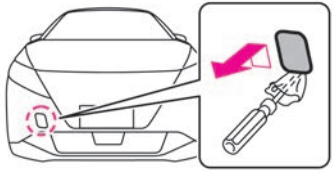


アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

やむをえず4輪接地でけん引されるときは

1. 先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。



⚠ 警告

- **4輪接地でけん引されるときは、パワースイッチをOFFにしない。**

  この車両はオートP機能（➔P.127）により、パワースイッチがOFFのときはシフトポジションをPからNに切り替えることができません。また、けん引中はパワースイッチをOFFにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

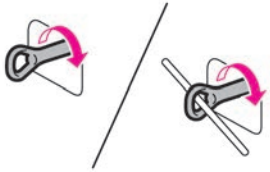
⚠ 注意

- **e-POWERシステムが停止していると、ブレーキや電動パワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなったりすることがあるので注意する。**
- **けん引フックに指定以外のフックは絶対に使用しない。**

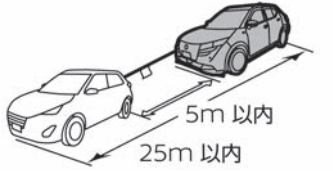
  フック部が破損するおそれがあります。
- **長い下り坂ではけん引しない。**

  ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。

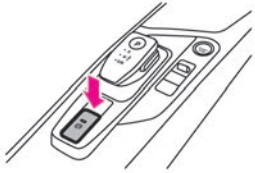
2. 金属の固い棒などを使用して、けん引フックを取り付けます。



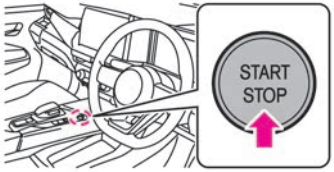
3. 自車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に30cm×30cm 以上の白い布を取り付けます。
ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。



4. e-POWERシステムを始動しシフトポジションをNに入れ、パーキングブレーキを解除します。



5. e-POWERシステムを始動できないときはパワースイッチをONにし、シフトポジションをNに入れてください。



アドバイス

- 4輪接地の状態でけん引されるときは、e-POWERシステムを始動するかパワースイッチをONにしてシフトポジションをNにした状態で行ってください。パワースイッチがOFFのときは、オートP機能によりシフトポジションをNに切り替えられないため、けん引することができません。
  オートP機能（P.127）
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。
- 4輪接地でけん引してもらうときは、速度30km/h以下でできる限り短距離の移動のみとしてください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷をつけないように注意してください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

パンクしたときは

この車両にはスペアタイヤおよびジャッキが標準で搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤ応急修理キットで応急修理ができます。

応急修理する前に

- 応急修理を行うときは、次の準備をしてください。
  - 地面が固く平らな場所に車両を移動する
  - パーキングブレーキをかける
  - シフトポジションを**P**にする
  - パワースイッチをOFFにする
  - 非常点滅表示灯を点滅させる
- 次の場合はタイヤ応急修理キットでは応急修理ができません。日産販売会社またはJAFなどに連絡してください。
  - 約4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - タイヤサイド部が損傷を受けたとき
  - ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
  - タイヤがホイールから外れているとき
  - ホイールが破損しているとき
  - タイヤが2本以上パンクしているとき
  - 修理剤の有効期限が切れているとき

アドバイス

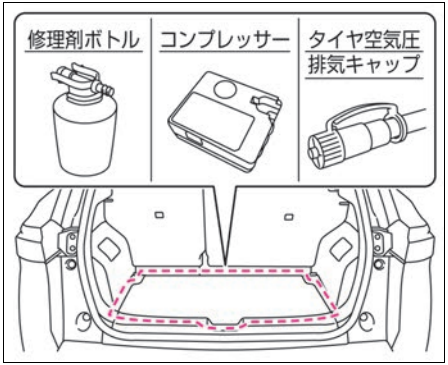
- タイヤに釘やネジが刺さっている場合は、抜いてしまうとパンク穴が大きくなり空気が漏れやすくなるため、抜かずにタイヤ応急修理キットで応急修理してください。

知識

- タイヤ応急修理キットの修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをおすすめします。タイヤの交換については専門の修理業者と相談し、損傷が激しい場合は交換、修理可能と判断された場合は修理を実施してください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しいものと取り替えてください。

タイヤ応急修理キットについて

- タイヤトレッド部（接地面）の軽度なパンクは、タイヤ応急修理キットで応急修理できます。
- タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルームに格納されています。
  工具、タイヤ応急修理キットの格納場所 (P.299)
- 応急修理を目的としているため、修理後に長期間の走行はできません。修理後はすみやかに日産販売会社または専門の修理業者で点検、恒久修理またはタイヤ交換を行ってください。



※車種により、タイヤ応急修理キットの内容や部品形状が異なります。

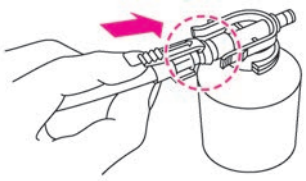
応急修理のしかた（タイプA）

■ コンプレッサーの準備

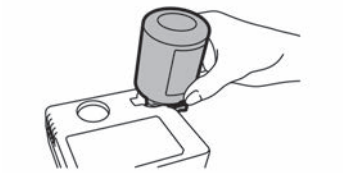
1. コンプレッサーからホース、電源プラグを取り出します。
   （ホースはコンプレッサーの裏側に収納されています。）



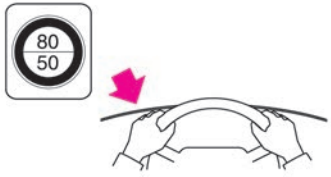
2. ホースの差し込み口を、修理剤ボトルにしっかりと接続します。



3. コンプレッサーに修理剤ボトルを固定します。



4. 修理剤ボトルの速度制限シールをはがし、運転者のよく見えるところに貼ります。



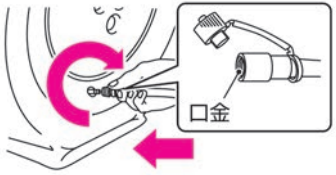
⚠ 注意

- **ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。**

  SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。

■ エアの注入

1. ホースにあるタイヤ空気圧排気キャップを取り外します。
パンクしたタイヤのバルブからキャップを外し、ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブにしっかりとねじ込みます。



⚠ 注意

- **ホースとタイヤのバルブの接続をしっかりと行う。**

  接続が不十分な場合、空気が漏れたり、修理剤が飛び散ったりするおそれがあります。

- **破裂の危険があるため応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れる。**

- **タイヤに亀裂や変形が生じている場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、修理を中止する。**

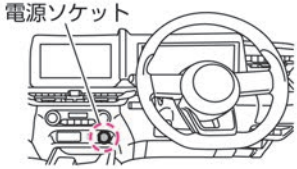
  バルブを介して修理剤を注入するため、圧力が600kPaに達することがありますが、異常ではありません。通常は、30秒ほどで下がります。

- **空気を入れたあとは、ホースの口金が熱くなることがあるため、やけどしないように注意する。**

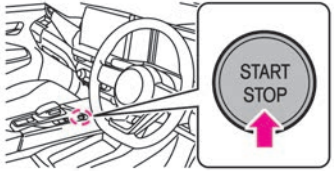
アドバイス

- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、15分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。

2. コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認し、電源プラグを車室内の電源ソケットに差し込みます。
➔電源ソケットの使いかた (P.245)

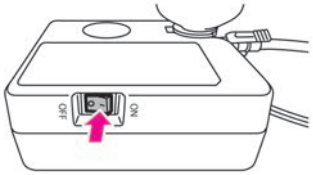


3. パワースイッチをONにします。



4. コンプレッサーのスイッチをON（「｜」の位置）にし、タイヤを指定空気圧まで昇圧させます。この際、

実際の空気圧が測れるようにコンプレッサーを一時停止して空気圧計で測定してください。



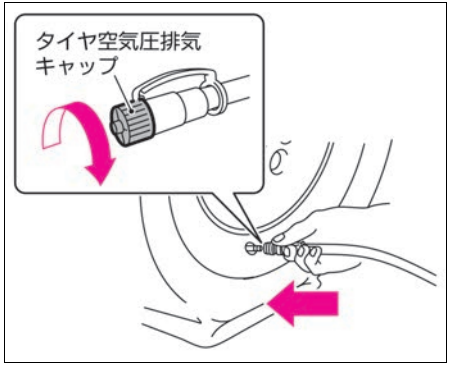
5. 指定空気圧まで昇圧できたら、コンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、電源プラグを電源ソケットから抜きます。
6. ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外し、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。
取り外したホースにタイヤ空気圧排気キャップを取り付けます。

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。日産販売会社またはJAFなどに連絡してください。

空気を入れすぎてしまったとき

ホースをタイヤのバルブから外します。ホース先端にタイヤ空気圧排気キャップをねじ込み、タイヤ空気圧排気キャップの突起部をタイヤバルブに押しあてて、空気を抜いてください。



■ 点検走行

1. ただちに走行を始め、3km程度走行してください。80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
2. 走行後、再度タイヤ空気圧を測定します。コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認し、空気圧計で測定してください。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサー ビスに連絡してください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

コンプレッサーのスイッチをON（「｜」の位置）にして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかに日産販売会社または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

⚠ 注意

- **走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。**

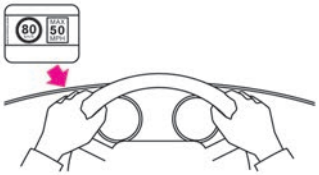
アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、日産販売会社または修理業者で点検を受けてください。
- 修理剤は再使用できません。使用後は新しい修理剤をお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

応急修理のしかた（タイプB）

■ コンプレッサーの準備

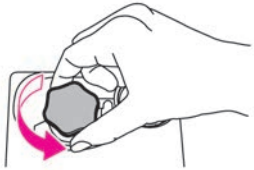
1. コンプレッサーの速度制限シールをはがし、運転者のよく見えるところに貼ります。



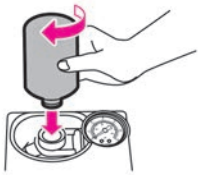
2. コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出します。



3. コンプレッサーから、ボトルホルダーのキャップを外します。



4. 修理剤ボトルのキャップを外し、内ぶたをつけたままボトルホルダーに取り付けます。
（ボトルホルダーにねじ込むと内ぶたが破れます。修理剤ボトルは止まるまで回してください。）

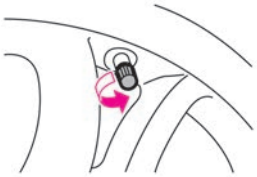


⚠ 注意

- **ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。**
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。

■ エアの注入

1. パンクしたタイヤのバルブからキャップを外します。

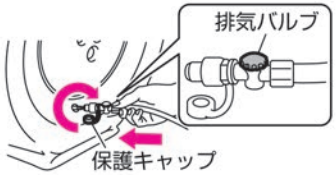


⚠ 注意

- **ホースとタイヤのバルブの接続をしっかりと行う。**
  接続が不十分な場合、空気が漏れたり、修理剤が飛び散ったりするおそれがあります。

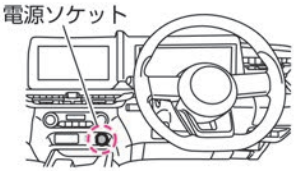
- **破裂の危険があるため応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れる。**
- **タイヤに亀裂や変形が生じている場合、ただちにコンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、修理を中止する。**
  バルブを介して修理剤を注入するため、圧力が600kPaに達することがありますが、異常ではありません。通常は、30秒ほどで下がります。
- **空気を入れたあとは、ホースの口金が熱くなることがあるため、やけどしないように注意する。**

2. ホース先端の保護キャップを外し、ホース（排気バルブを時計回りに回し、確実に閉まっていることを確認してください）をパンクしたタイヤのバルブにしっかりとねじ込みます。
※：保護キャップを外したときに、修理剤が飛び散るおそれがあります。

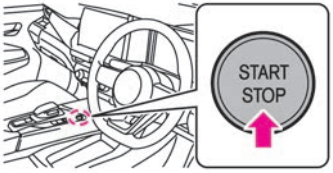


3. コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認し、電源プラグを車室内の電源ソケットに差し込みます。
➔電源ソケットの使いかた (P.245)

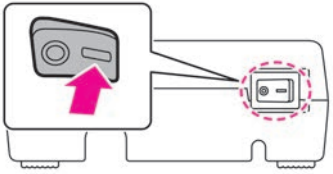
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備



4. パワースイッチをONにします。



5. コンプレッサーのスイッチをON（「−」の位置）にし、タイヤを指定空気圧、または180kPa以上まで昇圧させます。
この際、実際の空気圧が測れるようにコンプレッサーを一時停止して圧力計で測定してください。



6. 指定空気圧、または180kPa以上まで昇圧できたら、コンプレッサーのスイッチをOFF（「○」の位置）にし、電源プラグを電源ソケットから抜きます。

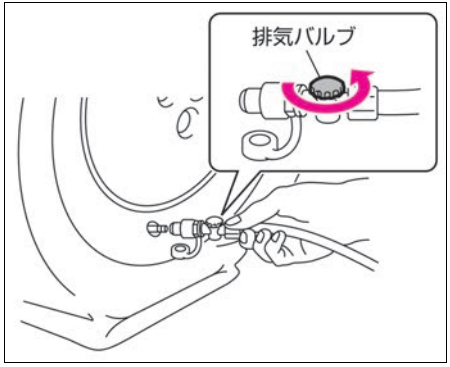
7. ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外します。ホースに保護キャップを取り付け、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合

10分以内に180kPaまで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。日産販売会社またはJAFなどに連絡してください。

空気を入れすぎてしまったとき

ホースがタイヤのバルブに取り付けられた状態で、排気バルブを反時計回りに回して、空気を抜いてください。



アドバイス

- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。
- 修理剤ボトルは、コンプレッサーのボトルホルダーから取り外さないでください。取り外すとボトル内に残った液剤がこぼれるおそれがあります。

■ 点検走行

1. 修理剤をタイヤ内に広げるためただちに走行を始め、10分間または3km程度走行してください。
80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
2. 走行後、再度タイヤ空気圧を測定します。コンプレッサーのスイッチがOFF（「○」の位置）であることを確認します。
ホース先端の保護キャップを外し、ホースをタイヤのバルブに取り付け、コンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧をチェックしてください。
※：保護キャップを外したときに、修理剤が飛び散るおそれがあります。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサー ビスに連絡してください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

コンプレッサーのスイッチをON（「−」の位置）にして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかに日産販売会社または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

⚠ 注意

- **走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。**

アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、日産販売会社または修理業者で点検を受けてください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

タイヤ応急修理キットの注意事項

⚠ 注意

タイヤ応急修理キットについて

- **タイヤ応急修理キットは搭載車両専用のため、他の車には使用しない。**
- **タイヤ応急修理キットは自動車用タイヤの空気充てんや空気圧チェック以外で使用しない。**
- **タイヤ応急修理キットはDC12V専用のため、他の電源での使用はしない。**
- **分解、改造などは絶対にしない。**
- **コンプレッサーに衝撃を与えない。**

  故障の原因となります。
- **お子さまが誤って手を触れないように注意する。**

修理剤について

- **修理剤を口に入れない。**

  修理剤を飲み込むと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診療を受けてください。
- **万一目や皮膚に付着したときは、水でよく洗い流す。**

  それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

アドバイス

タイヤ応急修理キットについて

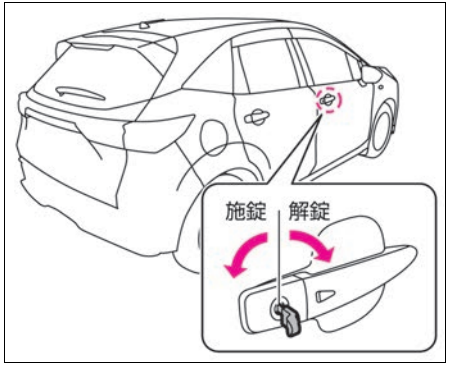
- タイヤ応急修理キットは、必ず日産純正品を使用してください。
- 水やほこりを避けて使用してください。

ドアが開かないときは

インテリジェントキーの電池が切れたときや、12Vバッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠・解錠してください。

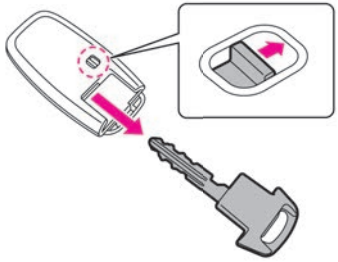
内蔵キー（メカニカルキー）でのドアの開けかた

運転席ドアにある鍵穴に内蔵キーを差し込んで車両前方に内蔵キーを回すと解錠します。施錠するときは、車両後方に内蔵キーを回します。



知識

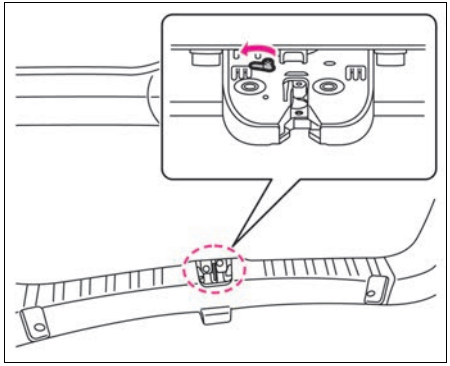
- 内蔵キーはインテリジェントキーに内蔵されています。



緊急時のバックドアの開けかた

12Vバッテリーあがりなどにより、バックドアを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。

●バックドアの車室内側にあるロック機構のレバーを矢印の方向に動かし、解錠し、バックドアを持ち上げます。



アドバイス

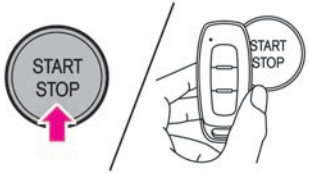
- この手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは使用しないでください。
- バックドアオープナースイッチなどの故障につながるおそれがあるため、この操作をしたときは日産販売会社で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早く日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェントキーで始動できないときは

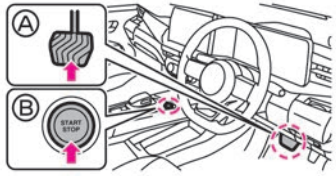
キーの電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でe-POWERシステムを始動してください。

e-POWERシステムの始動のしかた

1. パワースイッチを押してから、キーのロゴマークの裏面をパワースイッチに接触させます。
（ブザーが“ピピッ”と鳴ります。）



2. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルⒶをしっかりと踏み込みながら、パワースイッチⒷを押します。



アドバイス

- 左記の手順でe-POWERシステムを始動できない場合は、早めに日産販売会社にご連絡ください。

知識

- ドアの施錠・解錠は、内蔵キー（メカニカルキー）（➔P.259）をご使用ください。

知識

- キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。

インテリジェントキーの電池交換 (P.309)

e-POWERシステムの停止のしかた

e-POWERシステムを停止するときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- パワースイッチをすばやく3回押す。
- パワースイッチを2秒以上押し続ける。

12Vバッテリーがあがったときは

12Vバッテリーがあがり、パワースイッチをONにできなくなったときは、救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。

エンジンルーム内の配置図 (P.302)

警告

- **ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**

  12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。**

  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。**
- **ブースターケーブルを自車12Vバッテリーの⊖端子に直接つながない。**
- **ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。**

  火花が発生し、12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**

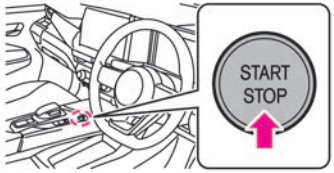
  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**

  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

ジャンプスタートのしかた

1. 自車と救援車のパワースイッチをOFFにします。

パワースイッチでのモードの切り替えかた (P.123)



警告

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、エンジンやモーターに絶対に接続しない。**

注意

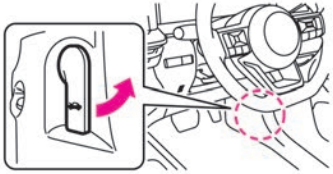
- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触したりしないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**

  救援車のエンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- **冷却ファンやベルトに注意する。**

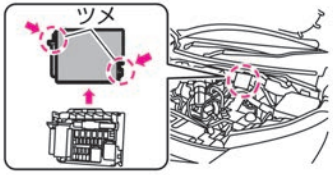
  ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

2. 自車の運転席の右下にあるボンネットオープナーを引いて、ボンネットを開けます。

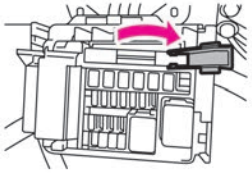
➔ボンネットの開けかた、閉めかた (P.303)



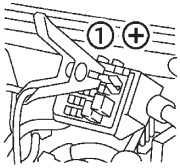
3. 自車のヒューズボックスのカバーを、ツメを押しながら外します。



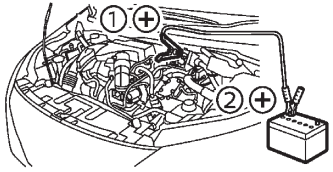
4. 自車のヒューズボックス内のカバーを、ツメを押しながら開けます。



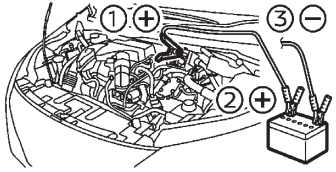
5. ブースターケーブル①を自車のヒューズボックスの⊕端子に接続します。



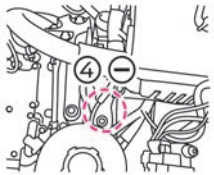
6. 手順5で接続したケーブルの反対側②を救援車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。



7. もう1本のブースターケーブル③を救援車の12Vバッテリーの⊖端子に接続します。



8. 手順7で接続したケーブルの反対側④を右記のような自車の車体（手順5で接続した位置から離れた未塗装の金属部）に接続します。



アドバイス

- 押しがけによる始動はできません。
- この車両を救援車として使用しないでください。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- e-POWERシステムが始動できない場合には、パワースイッチをOFFにしてください。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。その後、再始動してください。
- 12Vバッテリーがあがると、パワースイッチのON・OFFができなくなります。すみやかに12Vバッテリーを充電してください。

9. 救援車のエンジンを始動し、エンジン回転数を少し高めにします。
自車のe-POWERシステムを始動します。
➔e-POWERシステムの始動のしかた (P.122)

10. e-POWERシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。

アドバイス

- e-POWERシステムを始動するときは、ヘッドランプやエアコン、およびその他の電装品はOFFにしてください。
- e-POWERシステムが始動しても、しばらくエアコンやオーディオ★を使用しないでください。

出力制限表示灯が点灯したときは

出力制限表示灯が点灯したときは、次の対処方法に従ってください。

点灯したときの状況	対処方法	注意事項
走行中に出力制限表示灯が点灯したとき	**高速道路を走行しているとき** 80km/h以下で走行してください。次のパーキングエリアまたはサービスエリアで車両を止め、出力制限表示灯が消灯するまで待ちます。 **一般道を走行しているとき** 安全な場所に停車し、出力制限表示灯が消灯するまで待ちます。	他の警告灯が点灯しているときは、そちらの警告灯に対する処置を優先して行ってください。出力制限表示灯のみが点灯した場合は、左記の対処方法に従ってください。
停車中に警報音（ブザー）とともに出力制限表示灯が点灯したとき	アクセルペダルから足を離してください。	点灯した状態でシフトポジションをDに入れると、走行用モーターの出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がりにくくなります。

警告灯がついたときは

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯・点滅したときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

油圧警告灯



■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、e-POWERシステムが始動すると消灯します。
- e-POWERシステムが作動しているとき、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

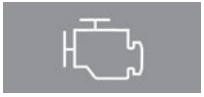
■ 説明・対処方法

- 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。

⚠ 注意

- **油圧警告灯が点灯したまま走行しない。**
  エンジンを破損するおそれがあります。

故障警告灯（MIL）



■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、e-POWERシステムが始動すると消灯します。
- パワースイッチがONで警告灯が点灯しているときに、システムチェックにより点滅することがありますが異常ではありません。
- e-POWERシステムが作動しているとき、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。

■ 説明・対処方法

●点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。

12V系充電警告灯



■ 点灯・点滅する条件

●正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
●e-POWERシステムが作動しているとき、12Vバッテリーの充電系統に異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

●点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

⚠ 注意

● **12V系充電警告灯が点灯したまま走行しない。**
12Vバッテリーが破損したり、エンジンが突然停止したりし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABS警告灯



■ 点灯・点滅する条件

●正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
●パワースイッチがONのとき、ABSのシステムに異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

●パワースイッチをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

● ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。

電動パーキングブレーキ警告灯



■ 点灯・点滅する条件

●正常なときは、パワースイッチがONのとき、電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します。
●パワースイッチがONのとき電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。

■ 説明・対処方法

●パワースイッチがONで警告灯が点滅しているときに、電動パーキングブレーキを解除しても点滅が続くときは、すみやかに車両を安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。

ブレーキ警告灯（赤色表示）



■ 点灯・点滅する条件

●正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
●パワースイッチがONのとき、次の場合は点灯し続けます。
— ブレーキ液が不足しているとき
— ブレーキシステムに異常があるとき

■ 説明・対処方法

●走行中にブレーキ警告灯（赤色表示）が点灯した場合は、車両を停止し、以下の確認を行ってください。（ブレーキシステム警告灯と同時にVDC警告灯も点灯します。）
— ブレーキ液の量が規定通りに入っていることを確認してください。ブレーキ

液が不足してる場合は、ブレーキ液を補充し日産販売会社で点検を受けてください。

— ブレーキ液の量が適正のときは、他に原因があることが考えられますので、日産販売会社で点検を受けてください。

ブレーキシステム警告灯（黄色表示）



■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中にブレーキシステム警告灯（黄色表示）が点灯し続けたときは、電動パーキングブレーキ機能が故障しているおそれがあります。

■ 説明・対処方法

- 走行中にブレーキシステム警告灯（黄色表示）が点灯した場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

SRSエアバッグ警告灯



■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、約7秒後に消灯します。
- パワースイッチがONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯を続けます。

■ 説明・対処方法

⚠ 警告

- **パワースイッチをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、放置したまま走行しない。**

  万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

シートベルト警告灯



■ 点灯・点滅する条件

- パワースイッチがONのとき、前席および後席の乗員がシートベルトを着用していないと点灯します。
- シートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、警告灯が点滅します。

シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）

- シートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、約95秒間ブザーが鳴ります。

■ 説明・対処方法

- シートベルトを着用してください。

⚠ 警告

- **走行中は全員がシートベルトを着用する。**

  着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- 助手席シートまたは後席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。
- シートベルトの着用状態は、アドバンスドドライブアシストディスプレイにも表示されます。

  警告メッセージ（➔P.271）

燃料残量警告灯



■ 点灯・点滅する条件

●パワースイッチがONのとき、燃料の残量が 少ないと点灯します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに指定の燃料を補給してください。

アドバイス

- 燃料切れでエンジンが停止したときは、e-POWERシステムの始動操作を繰り返さないでください。リチウムイオンバッテリー保護のため、始動できない場合があります。燃料を補給しても始動できない場合は、日産販売会社にご連絡ください。
- 燃料の残量が約5.5ℓ以下で点灯します。なお、走行に使用できる燃料容量は、上記残量より若干少なくなります。
- 車両姿勢、走行状況などによっては燃料がタンク内で移動するため、警告灯の点灯するタイミングが変わる場合があります。

VDC警告灯



■ 点灯・点滅する条件

●正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。

●パワースイッチがONのとき、VDCが作動すると点滅します。

●e-POWERシステムが作動しているとき、VDC、ヒルスタートアシストの電子制御システムに異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

●点灯したときはVDC、ヒルスタートアシストの作動は停止しますが、それらのシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

➔VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.153)
➔ヒルスタートアシスト (P.156)

e-POWERシステム警告灯



■ 点灯・点滅する条件

●パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。

●パワースイッチがONのとき、e-POWERシステムに異常が発生すると点灯します。

■ 説明・対処方法

●点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。

出力制限表示灯



■ 点灯・点滅する条件

●正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。

●パワースイッチがONのとき、次の場合に点灯します。

- リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下しているとき
- 真冬の屋外などで、リチウムイオンバッテリーの温度が極端に低いとき
- 上り坂の連続走行などで、走行用モーターやリチウムイオンバッテリーなどの温度が極端に高いとき
- 発電出力が制限されているとき
- シフトポジションがNで停車中、アクセルペダルを踏み込んだとき

■ 説明・対処方法

●点灯中は走行用モーターまたは発電用モーターの出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がりにくくなります。

●アドバンスドドライブアシストディスプレイ内に「走行制限中」というメッセージが表示されます。

➔出力制限表示灯が点灯したときは (P.264)

電制シフト警告灯



■ 点灯・点滅する条件

- パワースイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- パワースイッチがONのとき、電制シフトに異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- アドバンスドドライブアシストディスプレイ内にメッセージが表示されたときは、表示されたメッセージに従ってください。

インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯



■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、e-POWERシステムが始動すると消灯します。
- 次の場合は点灯します。
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキをOFFにしているとき
  - VDCをOFFにしているとき
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシストまたはインテリジェント FCW（前方衝突予測警報）、駐車支援機能（フロントソナー、コーナーソナー、リヤソナー）に異常が発生しているとき
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき
  - レーダーセンサーの汚れなどで、インテリジェント エマージェンシーブレーキが一時的に作動できない状態になっているとき
  - フロントガラスの汚れなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき
  - 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき
  - 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
  - フロントガラスの結露やくもりなどにより、マルチセンシングフロントカメラが前方を認識できなくなったとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）
  - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したとき
  - インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき
  - けん引されているとき

■ 説明・対処方法

- インテリジェント エマージェンシーブレーキまたは、VDCをOFFにしているときはONにすると消灯します。
- 安全な場所に停車し、パワースイッチをOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。
  再始動後も警告灯が点灯が表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
- フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。
  ➔マルチセンシングフロントカメラの取り扱い (P.315)
- フロントガラスに結露やくもりなどがある場合は結露やくもりを除去し、警告灯が消灯したことを確認してください。
  ➔フロントガラスのくもりの取りかた (P.289)
- 室内の温度が高いときなどは、温度が下がると作動を復帰します。

各システムについては、➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.182)、➔踏み間違い衝突防止アシスト (P.188)、および➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.209)をお読みください。

EPS（電動パワーステアリング）警告灯



■ 点灯・点滅する条件

- 正常なときは、パワースイッチをONにすると点灯し、e-POWERシステムが始動すると消灯します。
- e-POWERシステムが作動しているとき、電動パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

- 点灯したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
- 点灯しているときは、電動パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。

アドバイス

- ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。

知識

- すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがありますが、異常ではありません。

車両接近通報システム警告灯



■ 点灯・点滅する条件

- 車両接近通報装置に異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

- すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

マスターウォーニング



■ 点灯・点滅する条件

- アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。

■ 説明・対処方法

- 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。
➔警告メッセージが表示されたときは (P.270)

手放し警告灯★



■ 点灯・点滅する条件

- プロパイロットでハンドル支援を行っているとき、ハンドルを持っていないまたはハンドル操作が検出されないと点灯します。
- 手放し警告灯が点灯しているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、警告音とともに手放し警告灯が点滅し、ハンドル支援機能は解除されます。
- プロパイロット（ハンドル支援）のシステムに異常があると点灯します。

■ 説明・対処方法

- すみやかにハンドルを持って操作してください。運転者のハンドル操作を検出すると警告灯は消灯し、ハンドル支援機能が復帰します。
- e-POWERシステム再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

e-POWERシステム始動操作表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

●インテリジェントキーを持って車室内に入ると表示します。

■ 説明・対処方法

●ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押してください。e-POWERシステムが始動します。

📖 知識

● 次の場合、表示が消えます。
- e-POWERシステムを始動したとき
- リモコン機能、またはドアハンドルのスイッチでドアを施錠したとき

インテリジェントキー非作動時e-POWERシステム始動表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

●インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境により、キーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。

■ 説明・対処方法

●パワースイッチを押してから、インテリジェントキーのロゴマークの裏面をパワースイッチに接触させてください。
➔インテリジェントキーで始動できないときは (P.260)

インテリジェントキー電池切れ表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

●インテリジェントキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。

■ 説明・対処方法

●新しい電池に交換してください。
➔インテリジェントキーの電池交換 (P.309)

📖 知識

● パワースイッチをON以外にすると表示が消えます。

インテリジェントキー持ち出し警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●パワースイッチがONのとき、インテリジェントキーが車外に持ち出されると表示します。
●次のときにパワースイッチを切り替えようとすると表示します。
- インテリジェントキーを携帯していないとき
- 携帯しているインテリジェントキーの電池が切れているとき
- 登録されていないインテリジェントキーを携帯しているとき

■ 説明・対処方法

●インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか確認してください。

- インテリジェントキーを携帯してください。
- 新しい電池に交換してください。
  インテリジェントキーの電池交換(P.309)
- 自車のインテリジェントキーであることを確認してください。
- e-POWERシステムを停止させるときは、次のいずれかの操作を行ってください。
  — パワースイッチをすばやく3回押す
  — パワースイッチを2秒以上押し続ける

ドア開き警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

- ドアが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。

■ 説明・対処方法

- ドアを確実に閉めてください。

知識

- 走行前に表示が消えていることを確認してください。ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルト警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

- パワースイッチがONのとき、前席および後席の乗員がシートベルトを着用していないと、シートベルトを着用していない席を赤色で表示します。
- シートベルトを着用している席は緑色で表示されます。
- 空席は灰色で表示されます。

■ 説明・対処方法

- シートベルトを着用してください。

⚠ 警告

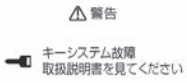
- **走行中は全員がシートベルトを着用する。**
  着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- 助手席シートまたは後席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、シートベルト警告が表示されることがあります。

キーシステム警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

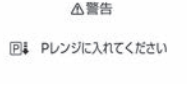
- キーシステムに異常があると表示します。

■ 説明・対処方法

- 日産販売会社にご連絡ください。e-POWERシステムが始動できないことやパワースイッチが切り替わらないことがあります。

P戻し忘れ警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

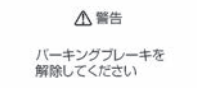
- シフトポジションがP以外で、運転席ドアを開けたときに点灯します。

■ 説明・対処方法

- シフトポジションをPに切り替えてください。

電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

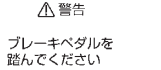
●電動パーキングブレーキをかけ、運転席ドアが開いた状態でアクセルペダルを踏み、発進すると表示します。

■ 説明・対処方法

●運転席ドアを閉めてください。
●すみやかに電動パーキングブレーキを解除してください。
➔電動パーキングブレーキ (P.127)

電動パーキングブレーキ警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

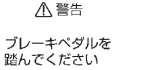
●急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で車両が動くと表示し、ブザーが鳴ります。
●電動パーキングブレーキがかかった状態で、ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを押した場合に表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかにブレーキペダルを踏んでください。
●解除する場合は、ブレーキペダルを踏んでから電動パーキングブレーキスイッチを押し下げてください。
➔電動パーキングブレーキ (P.127)

オートブレーキホールド警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●オートブレーキホールドが作動中に車が動いたときに表示します。

■ 説明・対処方法

●ブレーキペダルを踏んで車を停止させてください。

オートブレーキホールド急坂路注意表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

●急な坂道などでオートブレーキホールドが作動したときに表示し、ブザーが鳴ります。

■ 説明・対処方法

●すみやかにブレーキペダルを踏んでください。
●急な坂道や滑りやすい路面でオートブレーキホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。
➔オートブレーキホールド (P.129)

オートブレーキホールドスイッチ解除操作表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

●オートブレーキホールド作動中、ブレーキペダルを踏まずにオートブレーキホールドスイッチを押したときに表示します。

■ 説明・対処方法

●ブレーキペダルを踏んでからオートブレーキホールドスイッチを押してください。
➔オートブレーキホールド (P.129)

燃料残量警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●燃料が少なくなると表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに指定の燃料を補給してください。

知識

- 燃料の残量が約5.5ℓ以下で表示します。
- 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わる場合があります。

オーバーヒート警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●エンジン冷却水の温度が異常に高くなると表示します。

■ 説明・対処方法

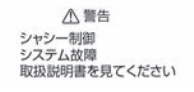
●表示したときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置してください。
➔オーバーヒートしたときは (P.290)

注意

- **表示したまま走行をしない。**
  そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

シャシー制御表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

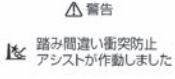
●シャシー制御のシステムに異常があると表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

踏み間違い衝突防止アシスト作動時表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

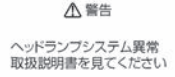
●踏み間違い衝突防止アシストが作動すると表示します。

■ 説明・対処方法

●進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者などを検知している場合に、アクセルペダルが素早く深く踏み込まれたとシステムが判断したときに作動します。
➔踏み間違い衝突防止アシスト (P.188)

ヘッドランプ警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●LEDヘッドランプに異常があると表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

システム故障警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

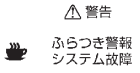
●プロパイロット、インテリジェント エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト、BSW（後側方車両検知警報）、インテリジェントBSI（後側方衝突防止支援システム）、LDW（車線逸脱警報）、インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）、インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）、RCTA（後退時車両検知警報）、標識検知機能、駐車支援機能（フロントソナー、コーナーソナー、リヤソナー）が故障すると表示します。

■ 説明・対処方法

●安全な場所に停車し、パワースイッチをOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム★、オーディオ★、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。
再始動後もメッセージが表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
➔プロパイロット★ (P.160)
➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.182)
➔踏み間違い衝突防止アシスト (P.188)
➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.197)
➔LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム） (P.205)
➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.209)
➔RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.212)
➔標識検知機能 (P.216)

インテリジェント DA（ふらつき警報）システム異常警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

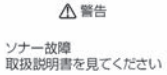
●インテリジェント DA（ふらつき警報）に異常があると表示します。

■ 説明・対処方法

●安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。
●再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
➔インテリジェントDA（ふらつき警報） (P.215)

ソナーシステム異常警告A

■ 画面表示



■ 表示する条件

●ソナーが故障したときに表示します。

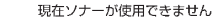
■ 説明・対処方法

●安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

●再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。
通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
➔ソナー機能 (P.81)
➔踏み間違い衝突防止アシスト (P.188)

ソナーシステム異常警告B

■ 画面表示



■ 表示する条件

●ソナーが一時的に使用できない状態になっているときに表示します。

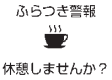
■ 説明・対処方法

●安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからソナーの汚れを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。

●他車のソナーが付近に存在するときや周囲で大きな音が鳴っているときは、静かな場所に移動し、一度e-POWERシステムを停止してから再始動してください。

インテリジェントDA（ふらつき警報）表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

●運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに表示します。

■ 説明・対処方法

●表示・非表示の設定ができます。
➔インテリジェントDA（ふらつき警報） (P.215)

進入禁止標識検知表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

●前方の車両進入禁止標識を検知し、一方通行路へ進入する可能性がある場合はアドバンスドドライブアシストディスプレイに警告表示します。

■ 説明・対処方法

●表示・非表示の設定ができます。
➔標識検知機能について (P.217)

一時停止標識検知

■ 画面表示



■ 表示する条件

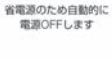
●前方の一時停止標識を検知した場合には、アドバンスドドライブアシストディスプレイに表示します。

■ 説明・対処方法

●表示・非表示の設定ができます。
➔標識検知機能について (P.217)

自動電源OFF表示A

■ 画面表示



■ 表示する条件

●e-POWERシステムが停止している状態で、パワースイッチをONにしたまましばらくすると表示します。

■ 説明・対処方法

●そのままパワースイッチを切り替えないと、省エネのためパワースイッチがOFFになります。

自動電源OFF表示B

■ 画面表示



■ 表示する条件

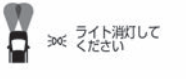
●e-POWERシステムが停止している状態で、パワースイッチをONにしたまま時間が経過し、パワースイッチが自動でOFFになったときに表示します。

■ 説明・対処方法

●そのままパワースイッチを切り替えないと、省エネのためパワースイッチがOFFになります。

ライト消し忘れ警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●パワースイッチがON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合に表示し、ブザーが鳴ります。

– ライトスイッチが ≡D の位置にあるとき

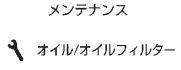
– ライトスイッチを ≡D/OFFの位置に回して、メーター内のテールランプ表示灯 ≡D が点灯しているとき

■ 説明・対処方法

●ライトスイッチをAUTOの位置にする、または ≡D/OFFの位置に回してメーター内のテールランプ表示灯 ≡D を消灯してください。

オイル/オイルフィルター交換表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

●設定したオイル/オイルフィルター交換距離に達すると表示します。

■ 説明・対処方法

●オイル/オイルフィルター交換距離は、設定したりリセットしたりできます。
設定（➔P.73）

タイヤ交換表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

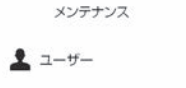
●設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。

■ 説明・対処方法

●タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。
設定（➔P.73）

メンテナンス距離表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

●オイル/オイルフィルター、タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。

■ 説明・対処方法

●その他の整備項目には、例えばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は設定したり、リセットしたりできます。
設定（➔P.73）

凍結注意アラーム表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

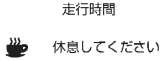
●外気温が3℃以下になったことを知らせます。

■ 説明・対処方法

●表示・非表示の設定ができます。
設定（P.69）

走行時間アラーム表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

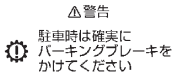
●設定した時間まで連続走行したことを知らせます。

■ 説明・対処方法

●表示・非表示の設定ができます。
設定（P.69）

電制シフト警告A

■ 画面表示



■ 表示する条件

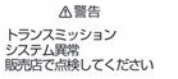
●電制シフトに異常が発生したときに表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
●駐車するときは、パーキングブレーキを確実にかけてください。パーキングブレーキをかけていないと、パワースイッチをOFFにできないことがあります。
●パワースイッチをOFFにできないときは、次の操作を行ってください。
— ①停車してパーキングブレーキをかけます。
— ②ブレーキペダルを踏み込みながらパワースイッチを押して、パワースイッチをONに切り替えます。
— ③セレクトレバーにあるⓅスイッチを押してPに切り替えます。
— ④パワースイッチを押して、OFFに切り替えます。

電制シフト警告B

■ 画面表示



■ 表示する条件

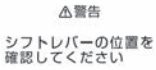
●電制シフトに異常が発生したときに表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
●シフトポジションがすぐに切り替わらないことがあるため、目的のシフトポジションの位置でセレクトレバーを保持し、シフトポジションが切り替わったことを確認してから手を離してください。
●オートP機能（P.127）が作動しないことがあるため、駐車するときはセレクトレバーにあるⓅスイッチを押し、Pに切り替わったことを確認してください。

シフトポジション警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●セレクトレバーが中央の位置以外で保持され続けたときに表示します。

■ 説明・対処方法

●セレクトレバーが中央の位置にあるか確認してください。
●セレクトレバーが中央の位置にあるときに表示された場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

出力制限警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

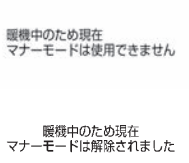
●出力制限表示灯 が点灯すると同時に表示します。

■ 説明・対処方法

●出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がらなくなります。
●リチウムイオンバッテリーの残量が極端に低下して点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

マナーモード警告A

■ 画面表示



■ 表示する条件

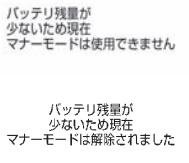
●システムが暖機を必要と判断した場合に表示します。

■ 説明・対処方法

●システムが暖機を必要と判断しているため、マナーモードを使用できません。
●暖機終了後にEVモードスイッチを押してください。
➔マナーモード (P.151)

マナーモード警告B

■ 画面表示



■ 表示する条件

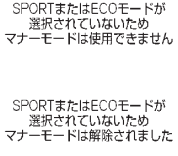
●リチウムイオンバッテリーの残量が少ない場合に表示します。

■ 説明・対処方法

●リチウムイオンバッテリー残量低下によりマナーモード走行はできません。
●チャージモードで走行するなど、リチウムイオンバッテリー残量を増やしてからEVモードスイッチを押してください。
➔マナーモード (P.151)

マナーモード警告C

■ 画面表示



■ 表示する条件

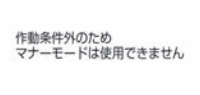
●SPORTモード、またはECOモードが選択されていない場合に表示します。

■ 説明・対処方法

● ドライブモードがNORMALのためマナーモードを使用できません。
ドライブモードをSPORTモード、またはECOモードに切り替えてからEVモードスイッチを押してください。
➔マナーモード (P.151)

マナーモード警告D

■ 画面表示



作動条件外のため
マナーモードは解除されました

■ 表示する条件

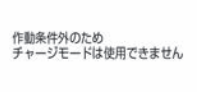
● マナーモードの作動条件から外れていると表示します。

■ 説明・対処方法

● システムの判断によりマナーモードを使用できません。
（外気温が極端に低いときなど）
● 作動条件を満たすと表示が消えるので、そのときにEVモードスイッチを押してください。
➔マナーモード (P.151)

チャージモード警告A

■ 画面表示



作動条件外のため
チャージモードは解除されました

■ 表示する条件

● チャージモードの作動条件から外れていると表示します。

■ 説明・対処方法

● システムの判断によりチャージモードを使用できません。
（外気温が極端に低いときなど）
● 作動条件を満たすと表示が消えるので、そのときにEVモードスイッチを押し続けてください。
➔チャージモード (P.150)

チャージモード警告B

■ 画面表示

SPORTまたはECOモードが
選択されていないため
チャージモードは使用できません

SPORTまたはECOモードが
選択されていないため
チャージモードは解除されました

■ 表示する条件

● SPORTモード、またはECOモードが選択されていない場合に表示します。

■ 説明・対処方法

● ドライブモードがNORMALのためチャージモードを使用できません。
ドライブモードをSPORTモード、またはECOモードに切り替えてからEVモードスイッチを押し続けてください。
➔チャージモード (P.150)

e-POWERシステム警告A

■ 画面表示



■ 表示する条件

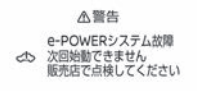
● 停車中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。

■ 説明・対処方法

● すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告B

■ 画面表示



■ 表示する条件

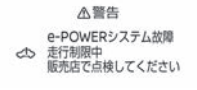
●e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが再始動できないときに表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告C

■ 画面表示



■ 表示する条件

●e-POWERシステムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告D

■ 画面表示



■ 表示する条件

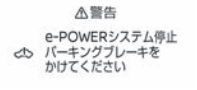
●走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告E

■ 画面表示



■ 表示する条件

●停車中、e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止しているときに表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかにパーキングブレーキをかけ、日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告F

■ 画面表示



■ 表示する条件

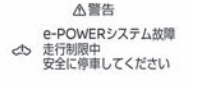
●走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、出力が停止しているときに表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告G

■ 画面表示



■ 表示する条件

●走行中、e-POWERシステムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

e-POWERシステム警告H

■ 画面表示



■ 表示する条件

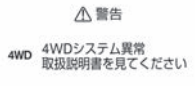
●e-POWERシステムに異常が発生し、e-POWERシステムが停止せず、出力が制限されていないときに表示します。

■ 説明・対処方法

●すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

4WDシステム警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

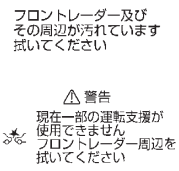
●4WDシステムに異常が発生したときに表示します。

■ 説明・対処方法

●4WDシステムに異常が発生しているため2WD状態になっています。高速走行をせず、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

フロントレーダーシステム停止警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。
— ➔プロパイロット★ (P.160)
— ➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.182)
— ➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.209)

●次のような道路形状、または建造物がある場合は、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できず、作動が停止します。
— 長い橋を走行しているとき
— 砂地や雪原を走行しているとき
— 長い壁の近くを走行しているとき

●車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。
➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.182)
➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.209)

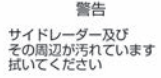
■ 説明・対処方法

●安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。

●停止したときの状態が改善、または変更されると、システムは作動を再開します。（再開するまでに時間がかかることがあります）

サイドレーダーシステム停止警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●車両後部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。
— ➔BSW（後側方車両検知警報）／インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）★ (P.197)

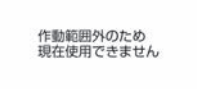
— RCTA（後退時車両検知警報）★ (P.212)

■ 説明・対処方法

●レーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから、システムを一旦OFFにしたあと、再びONにしてください。

作動範囲外警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

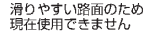
●次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。
— プロパイロット★ (P.160)
— インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.197）
— インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.205）
●VDCをOFFにしたとき

■ 説明・対処方法

●停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再びONにしてください。

スリップ警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

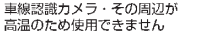
●次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。
— プロパイロット★ (P.160)
— インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.197）
— インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）（P.205）
●ABSまたはVDC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき

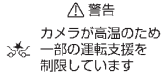
■ 説明・対処方法

●停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再びONにしてください。

カメラ高温警告

■ 画面表示





■ 表示する条件

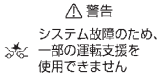
●炎天下に駐車したときなど、マルチセンシングフロントカメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。
— プロパイロット★ (P.160)
— インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）（P.197）
— LDW（車線逸脱警報）／インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）(P.205)
— 標識検知機能 (P.216)
●カメラおよびカメラ周辺の温度が高いときに表示します。

■ 説明・対処方法

●停止したシステムを再び作動させる場合は、マルチセンシングフロントカメラ周辺の温度が下がってから、再びONにしてください。
●車室内の温度が下がるとシステムは自動的に作動を再開します。

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム故障警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが故障すると表示します。

■ 説明・対処方法

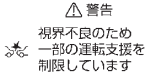
●安全な場所に停車し、パワースイッチをOFFにしてから再始動してください。

●再始動後もメッセージが表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

➔インテリジェント エマージェンシーブレーキ (P.182)
➔インテリジェント FCW（前方衝突予測警報） (P.209)

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム視界不良警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いときに表示します。

●前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているときに表示します。

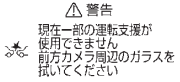
■ 説明・対処方法

●悪天候時にはインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。

●状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。

カメラ視界不良警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラス凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったときに表示します。

●夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯せず、真っ暗な状態が継続したときに表示します。

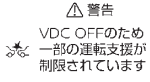
■ 説明・対処方法

●安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。

●停止したときの状態が改善されると、システムは作動を再開します。

VDC OFF警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

●VDCをOFFにしたときに表示します。

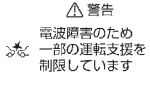
■ 説明・対処方法

●VDCをOFFにしたときに停止する機能については、（➔P.154）をお読みください。

●インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）は作動します。

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム電波障害警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

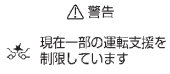
●放送局など周辺の電波源により影響を受けているときに表示します。

■ 説明・対処方法

- 周辺の電波源による影響を受けているときはインテリジェント エマージェンシーブレーキは作動しません。
- 状態が改善されると、システムは作動を再開します。

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム作動制限警告

■ 画面表示



■ 表示する条件

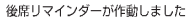
- インテリジェント エマージェンシーブレーキのシステムチェックが正常に終了しなかったとき表示します。
  インテリジェント エマージェンシーブレーキの作動が停止するとき (P.187)
- けん引されているときに表示します。

■ 説明・対処方法

- 安全な場所に停車し、パワースイッチをOFFにします。インテリジェントキーを車室内に置いた状態で、一度運転席ドアを開閉したあと、ナビゲーションシステム、オーディオ、ドアロックなどすべての操作を行わず、ドアを閉じた状態のまま3分以上待機します。
- けん引されているときはインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。
- 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。

後席リマインダー作動開始表示

■ 画面表示



■ 表示する条件

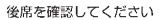
- 後席リマインダーのシステムがONになったときに表示します。
  後席リマインダー (P.95)

■ 説明・対処方法

- ステアリングスイッチで「メッセージを閉じる」を選択すると、一時的にメッセージを消すことができます。
- ステアリングスイッチで「リマインダーを無効にする」を選択すると、一時的に後席リマインダーをOFFにすることができます。再び後席リマインダーをONにしたいときは、e-POWERシステムを再始動してください。

後席リマインダー表示

■ 画面表示



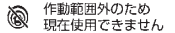
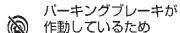
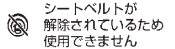
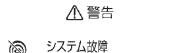
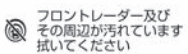
■ 表示する条件

- 後席リマインダーがONのとき、走行前に後席ドアを開閉してから10分以内に車両を発進させると、走行後にシフトポジションをPに切り替えたときに表示し、ブザーが鳴ります。
  後席リマインダー (P.95)

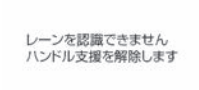
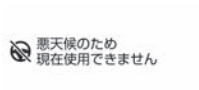
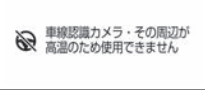
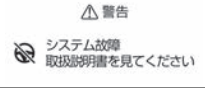
■ 説明・対処方法

- 後席を確認してください。

プロパイロット（インテリジェント クルーズコントロール）警告メッセージ

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● VDCをOFFにしたとき	● VDCがOFFの場合はインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はインテリジェント クルーズコントロールは使用することができません。
	● システム故障	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	● インテリジェント クルーズコントロールにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキを踏んでください。
	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度e-POWERシステムを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、e-POWERシステムを再始動してください。 ➔ レーダーセンサー★の取り扱い (P.314)
	● VDC／TCSが作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき	● VDC／TCSが作動する、またはタイヤが空転するような状況ではインテリジェント クルーズコントロールは使用できません。

プロパイロット（ハンドル支援）警告メッセージ

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再びハンドル支援機能を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でプロパイロットを解除し、再度セットしてください。
	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速動作を解除してください。その後、プロパイロットを再度セットしてください。
	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき	● 状況が改善すると、プロパイロットを使用することができます。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止してカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。
	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 室内の温度が下がるとプロパイロットを使用することができます。
	● システム故障	● 安全な場所に停車して、e-POWERシステムを一旦停止して再始動し、再びシステムをONにしてください。
	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないときに表示します。 — 表示（赤）により警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
	● 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。 — 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。

緊急時の対処方法

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、プロパイロットが解除されます。

警報音（ブザー）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

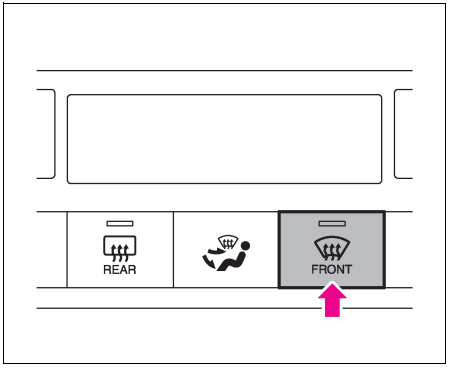
どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ...（数秒間）	ドアハンドルのスイッチを押したとき	走行可能表示灯 が点灯していないか インテリジェントキーを車室内またはラゲッジルーム内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアハンドルのスイッチを押していないか
		インテリジェントキーのドア施錠スイッチを押したとき	走行可能表示灯 が点灯していないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に施錠スイッチを押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアハンドルのスイッチを押していないか
	ピッピッピッ（3回）	ドアを閉めたとき	パワースイッチがONのまま、インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。
車室内	ピピッピピッピピッ（3回）	ドアを閉めたとき	パワースイッチがONのまま、インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか

窓ガラスがくもったときは

デフロスタースイッチは、パワースイッチがONのとき使えます。リヤウインドーデフォッガースイッチは、走行可能表示灯 が点灯しているとき使えます。

フロントガラスのくもりの取りかた

- デフロスタースイッチを押すとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。（スイッチの表示灯が点灯）
- もう一度スイッチを押すと止まります。（スイッチの表示灯が消灯）



⚠ 注意

- **デフロスタースイッチをONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。**
  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

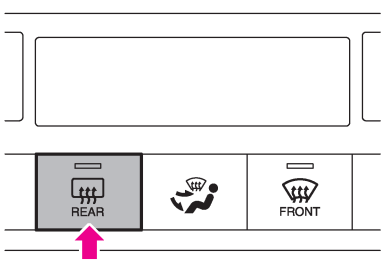
- デフロスタースイッチをONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

知識

- エアコンがOFFのとき、デフロスタースイッチを押すとエアコンも自動的に作動します。

リヤガラスのくもりの取りかた

- リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと約20分間作動し、バックドアガラスの熱線が暖まります。（リヤウインドーデフォッガースイッチの表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。（リヤウインドーデフォッガースイッチの表示灯が消灯）



知識

- リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと、ドアミラーヒーター★も同時に作動します。

■ ワイパーデアイサー★

- フロントガラスを温めて、ガラス下端にたまった雪を取り除きやすくします。リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと約20分間作動します。（リヤウインドーデフォッガースイッチの表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。（リヤウインドーデフォッガースイッチの表示灯が消灯）

アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。

アドバイス

消費電力が大きいためバッテリーあがりの原因になります。

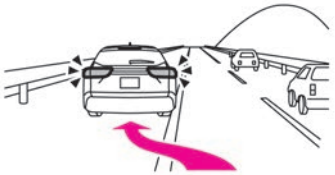
- ガラスにたまった雪はこまめに取り除き、視界を確保してください。

オーバーヒートしたときは

アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート警告（➔P.273）が表示されたときや、エンジンルームのすき間から蒸気が出ているときはオーバーヒートしています。次の方法で処置してください。

処置のしかた

1. ただちに安全な場所に停車します。
➔故障したときの対処のしかた (P.250)

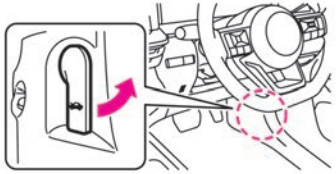


⚠ 警告

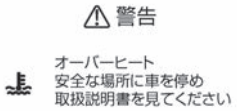
- **ボンネットを開けるときは十分に注意する。**
エンジンルーム内は高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

- **蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。**
やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
e-POWERシステムを停止し、蒸気が出なくなるまで待ち、ボンネットを開けてください。
- **エンジンが十分に冷えていないときは、リザーバータンクのキャップを外さない。**
蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **オーバーヒートしたときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置をする。**
そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

2. e-POWERシステムを作動させたままボンネットを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。
万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにe-POWERシステムを停止し、自然冷却してください。



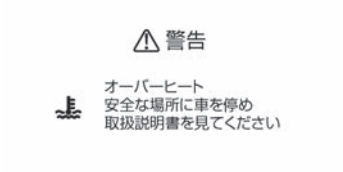
3. アドバンスドドライブアシストディスプレイのオーバーヒート警告が消えたら、e-POWERシステムを停止させしばらく待ちます。
エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。



4. 冷却水が不足しているときは、エンジン冷却用のリザーバータンクに冷却水を補充してください。
➔エンジンルーム内の配置図 (P.302)
補充後は、しっかりキャップを閉めてください。



5. 走行中、再度アドバンスドドライブアシストディスプレイにオーバーヒート警告が表示されたら、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。



6. 早めに日産販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

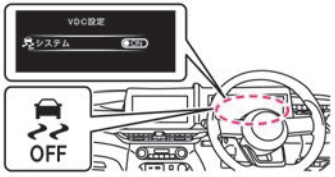
雪道やぬかるみにはまったときは

雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

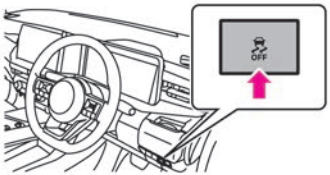
脱出のしかた

1. アドバンスドドライブアシストディスプレイ、または、VDC OFFスイッチで、VDCをOFFにします。

VDCの停止のしかた (P.154)



VDC OFF スイッチ無車



VDC OFF スイッチ付車

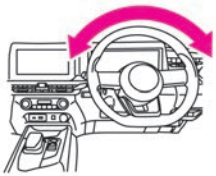
⚠ 警告

- **周囲の安全を必ず確認する。**
  周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- **必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。**
  急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。**
  タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品が異常過熱したりすることにより思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

2. 車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
   必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。



3. ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
   周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。



アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

水没したときは

水没したときの対処のしかた

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

- シートベルトを外して車外に脱出してください。
- ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。

- ドアが開かなかった場合、パワーウインドーのスイッチを押し窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
- パワーウインドースイッチを押しても窓ガラスが開かない場合、以下の方法で脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がある場合、窓ガラスを割り窓から車外に脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）がない場合、または緊急脱出用ハンマーで窓ガラスが割れない場合には、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドアを強く押し開けて車外に脱出してください。（車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます。）
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

⚠ 警告

- **水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車室内に入り、ケガをするおそれがあります。**

緊急脱出用ハンマー（ディーラーオプション）について

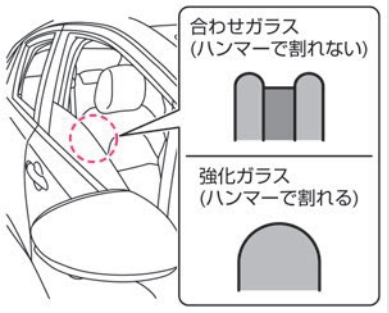
- **フロントウインドーガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。リヤドアガラス、バックドアガラスを割って脱出してください。**

- **ドアガラスは車種によって、合わせガラスを使用しています。ただし、車両の仕様変更により合わせガラスの位置が異なる場合があります。**

  合わせ、または強化ガラスの見分け方法については、ガラスの断面、もしくは刻印（マーク）を確認することで見分けることができます。

ガラスの断面で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスを半分ほど開け、断面を上から確認し、2枚のガラスが貼り合わせられている場合は合わせガラスとなります。



ガラスにある刻印（マーク）で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスには次のような刻印（マーク）が表示されています。この表示によって、合わせガラスかどうかを見分けることができます。



※車両によっては、刻印（マーク）が表示されていない、またはガラスの種類を示す表示の位置が異なる場合があります。

外装ランプが点灯しないときは

次の交換可能な電球（バルブ）、番号灯、制動灯／尾灯、尾灯（バックドア側）、後退灯、方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）以外の外装ランプはすべてLEDです。LEDが一部でも点灯しない場合は日産販売会社で点検を受けてください。

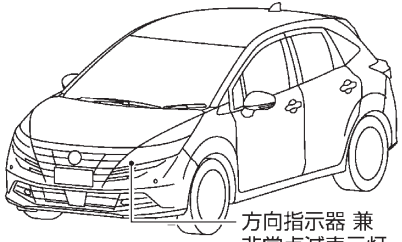
ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。

また、レンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が

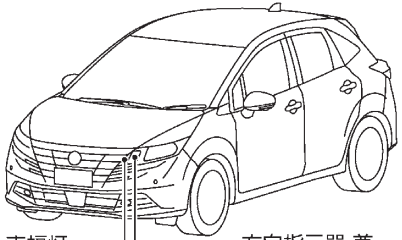
付着している場合は、日産販売会社にご相談ください。

交換可能な電球（バルブ）の位置

アダプティブLEDヘッドライトシステム付車



ハイビームアシスト付車





⚠ 注意

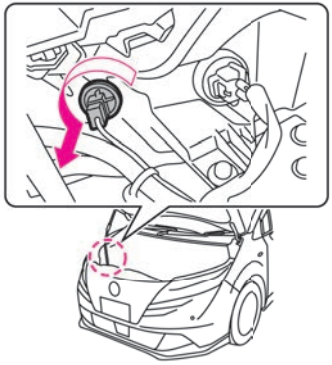
- **電球交換は、ボンネットや電球が冷えた状態で行う。**
  やけどをするおそれがあります。
- **ステーなどの端で指や腕をケガしないように注意する。**
- **電球は確実に取り付ける。**
  電球は点灯中、表面が高温になります。電球が正しく取り付けられていないと、走行中に電球が外れて周辺の部品に接触するなどし、発熱、発火につながるおそれがあります。

アドバイス

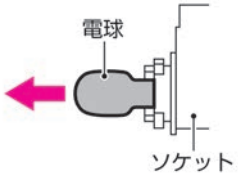
- 電球交換をするときは、軍手などを着用してください。
- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- 電球に油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。電球の寿命が短くなったり電球が破損するおそれがあります。

車幅灯（ハイビームアシスト付車）

1. ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。
   ➔ボンネットの開けかた、閉めかた (P.303)



2. 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

3. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

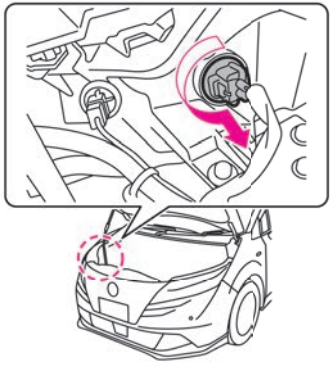
知識

- 車幅灯：12V-5W（W5W）
- アダプティブLEDヘッドライトシステム付車の車幅灯は交換できません。点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。

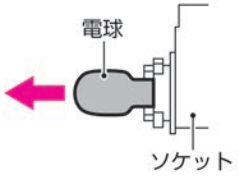
方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）

1. ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。

➔ボンネットの開けかた、閉めかた (P.303)



2. 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。



3. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）：12V-21W（アンバー）（WY21W）

ヒューズが切れたときは

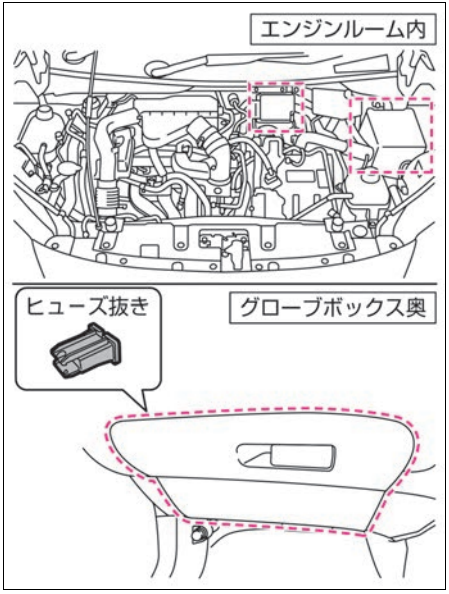
ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

ヒューズボックスの位置

- ヒューズボックスは、次の位置にあります。
  - エンジンルーム内
  - グローブボックス奥
- 各ヒューズの位置は、ヒューズボックスのふたの裏側またはヒューズボックス付近に表示してあります。

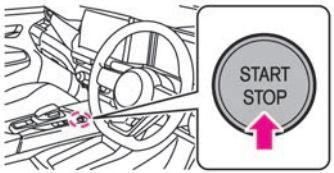
ヒューズ抜きについて

- グローブボックス奥のヒューズボックス内にヒューズ抜きがあります。

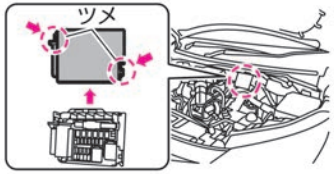


ヒューズの点検・交換のしかた（エンジンルーム内）

1. パワースイッチをOFFにし、ボンネットを開けます。
➔ボンネットの開けかた、閉めかた (P.303)



2. ヒューズボックスのふたを外します。

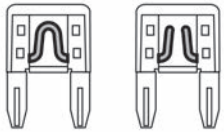


3. ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。
ヒューズ抜き（➔P.294）
ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。



4. ヒューズが切れていないか点検します。
切れているときは新しいヒューズと交換します。
交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

ヒューズの参考画像

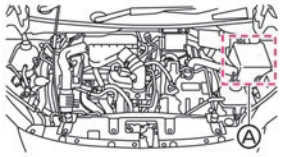


⚠ 警告

- **高電圧部位、サービスプラグ、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターに触れたり、取り外し、分解などは絶対に行わない。**
  重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- Ⓐの位置にあるヒューズを交換するときは、日産販売会社にご相談ください。

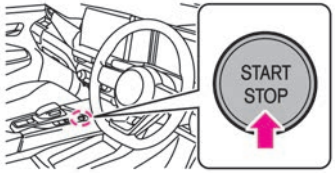


知識

- エンジンルーム内のヒューズを交換するときは、日産販売会社にご相談ください。

ヒューズの点検・交換のしかた（グローブボックス奥）

1. パワースイッチをOFFにします。



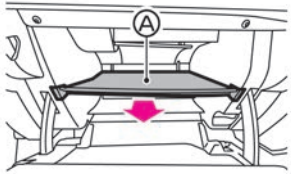
警告

- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

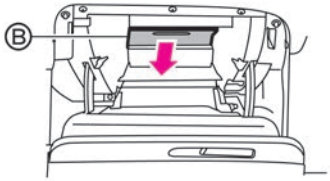
アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。
- 内側のプレートを取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

2. グローブボックスを開け、内側のプレートⒶを手前に引いて外します。



3. 内側のプレートⒷを下方向に引っ張り、取り外します。

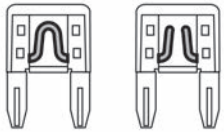


4. ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。
ヒューズ抜き（P.294）



5. ヒューズが切れていないか点検します。
切れているときは新しいヒューズと交換します。

ヒューズの参考画像



メンテナンス

メンテナンスの前に

点検整備について P.298

工具・ジャッキ

工具・ジャッキ★について P.299

点検と整備

エンジンルーム P.302
ウォッシャー液の補給 P.304
寒冷時の取り扱い P.304
タイヤ P.306
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.308
ワイパー P.308
インテリジェントキーの電池交換 P.309
12Vバッテリー P.310
エンジンオイル P.310

清掃・お手入れ

外装のお手入れ P.312
内装のお手入れ P.317

サービスデータ

点検値 P.319
交換油脂類 P.319
車両仕様 P.322
イベントデータレコーダ（EDR） P.323
車両状態記録機能 P.324

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

●**日常点検**
走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水漏れ、油漏れなど）

●**定期点検**
1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。

●**その他の点検**
新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

📖 知識

- 点検・整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

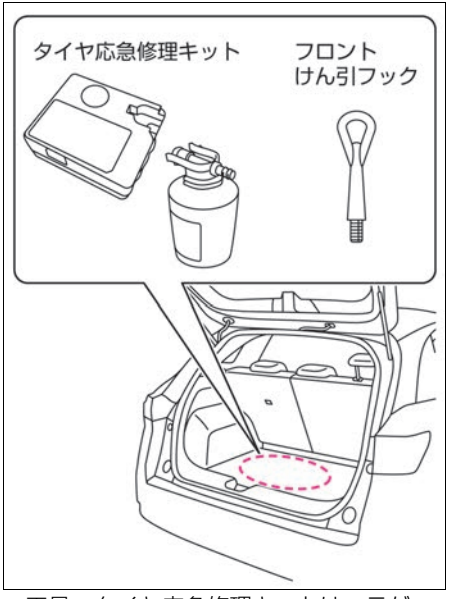
車検、点検整備のとき

●車検、点検整備については、日産販売会社にご相談ください。

工具・ジャッキ★について

この車両には、スペアタイヤ、ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

工具、タイヤ応急修理キットの格納場所



●工具・タイヤ応急修理キットは、ラゲッジルーム内に格納されています。（車種により、タイヤ応急修理キットの内容や部品形状が異なります。）

➔応急修理する前に (P.254)
➔タイヤ応急修理キットについて (P.254)

⚠ 注意

● **工具、タイヤ応急修理キットを使ったあとは、元の場所に収納する。**
車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

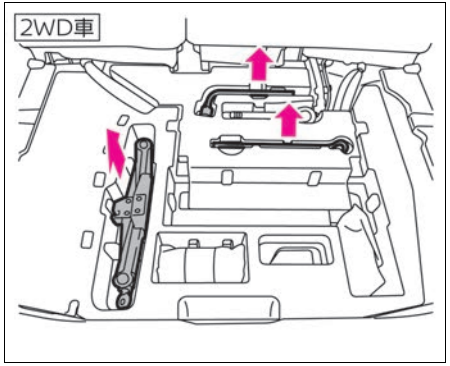
知識

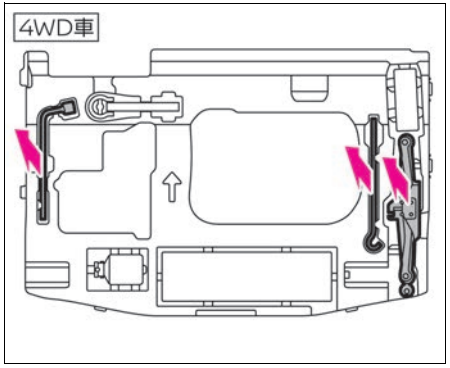
● 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。

● 工具の種類や発炎筒（➔P.250）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。

ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーの取り出しかた（ディーラーオプション）

●ラゲッジルームのフロアカバーを持ち上げて取り出します。





⚠ 注意

● **ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しない。**

アドバイス

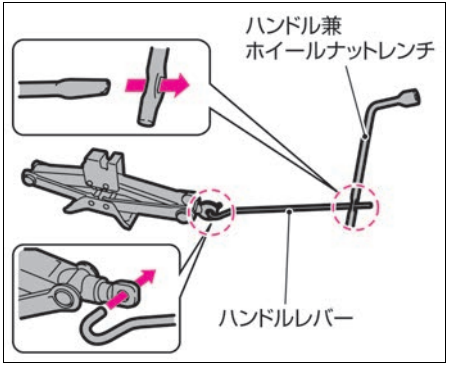
- ジャッキとフロアカバーが内装部品にぶつからないようにしてください。傷がつくおそれがあります。

知識

- この車両には、ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

ジャッキの使いかた

- ジャッキにハンドルレバーとハンドル兼ホイールナットレンチをセットします。
- ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。



警告

- **ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。**

  ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。

注意

- **工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。**

  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドル兼ホイールナットレンチを回すときは、ハンドルレバーをしっかり握って回す。**

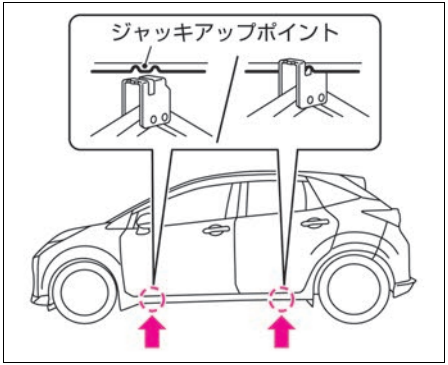
  ハンドルレバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ハンドルレバーは、確実にハンドル兼ホイールナットレンチの穴に差し込む。**

  ハンドルレバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキアップ中はe-POWERシステムを始動しない。**

  車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

ジャッキアップポイント

- 矢印の位置がジャッキアップポイントです。



注意

- **ジャッキを使うときは、次のことを必ず守る。**
  - ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使用しないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使用しないでください。
  - ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
  - 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
  - 使用前にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。
  - 輪止めなどで車を固定してください。

⚠ 注意

— ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。

— 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

アドバイス

- ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使わないでください。
- ジャッキアップポイント以外にはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

ジャッキアップのしかた

1. 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。

➔停車・駐車のしかた (P.133)

⚠ 注意

- **柔らかい地面の上ではジャッキアップしない。**

  ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- **やむをえず傾斜地で作業するときは、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。**

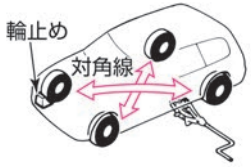
アドバイス

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

知識

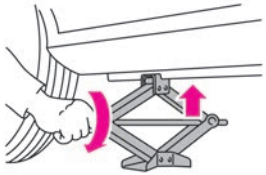
- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

2. ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。輪止めは、前輪をジャッキアップするときは後輪の後ろ側、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に置きます。

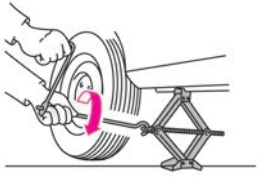


3. ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。

➔ジャッキアップポイント (P.300)



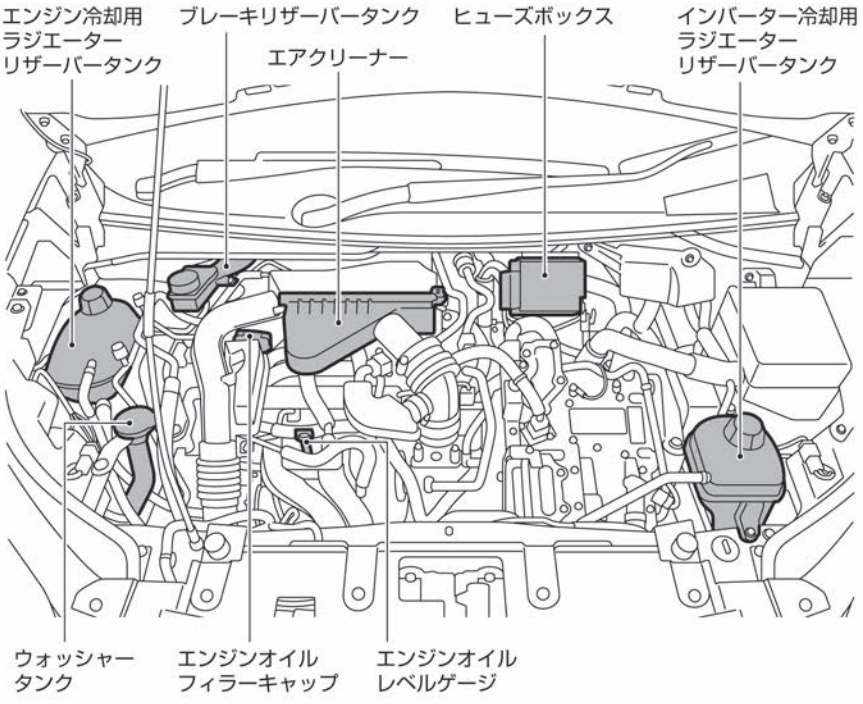
4. ハンドル兼ホイールナットレンチを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。



エンジンルーム

エンジンルーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

エンジンルーム内の配置図



⚠ 警告

- **点検や整備に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れない。**

  故障や車両火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **エンジンルーム内の作業をするときは、パワースイッチをOFFにする。**

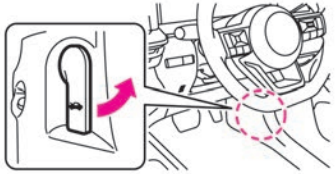
  e-POWERシステム作動中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーを損傷します。
- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

1. 運転席の右下にあるボンネットオープナーを引きます。
   ボンネットが少し浮き上がります。



⚠ 警告

- **走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。**

  ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

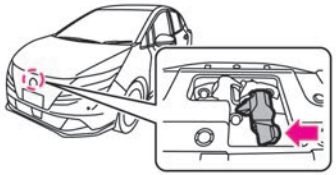
⚠ 注意

- **風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。**
- **ステーを持つときは、必ず操作部を持つ。**

  e-POWERシステム停止直後はステーが高温になることがあるため、やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。**
- **ラジエーターなどの高温部には触れない。**

  やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。**

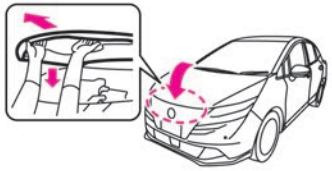
2. ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらボンネットを持ち上げます。



3. ボンネット裏側に付いているステーをフックから外し、操作部を持って車体の穴（ステー差し込み位置）に確実に差し込みます。



4. 閉めるときはステーをフックに戻し、ボンネットを20cm～30cmの高さまでゆっくり降ろしてから、手を離して落としてロックします。ロックできなかったときは、レバーを操作してボンネットをもう一度持ち上げてから再度落としてください。ボンネットを上から押して閉めようとしないでください。



アドバイス

- ボンネットを30cm以上の高さから落とさないでください。破損するおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときに、ボンネットに体重をかけて強い力で押すと、ボンネットがへこむおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

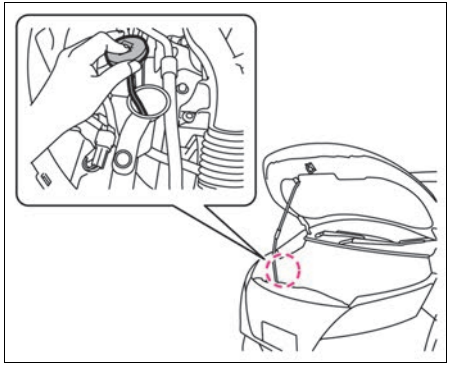
ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

●ウォッシャータンクのふたの穴を押さえて引き抜くと、スポイト式にウォッシャー液の残量が確認できます。

●ウォッシャー液が減っているときは、ウォッシャータンクのふたを外し、ウォッシャー液を補給してください。

●ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。



注意

- **ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。**
  出火するおそれがあります。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

知識

- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。
- 日産純正ウインドウォッシャー液をおすすめします。

➔ウォッシャー液 (P.321)

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

●冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
30%	約-15℃
50%	約-35℃

●冷却水を補充・交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈品）をお使いください。

➔エンジン冷却水 (P.320)
➔インバーター冷却水 (P.320)

アドバイス

- 寒冷地仕様車および4WD車の冷却水は工場出荷時に50%にしてあります。
- 冷却水の点検・補充・交換は日産販売会社にご相談ください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

●冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

●タイヤチェーンは、タイヤサイズにあった日産純正品をおすすめします。

■ ウォッシャー液の濃度点検

●ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

●ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。

●寒冷時にドアミラーが正常に作動しない場合は、ドアミラー内部が凍結している可能性があります。無理に動かしたりせず、ドアミラー本体にぬるま湯をかけて凍結を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。

●ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使用して、ガラスを傷つけないように雪を取り除いてください。

●足まわり（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品を破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。

●車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。

⚠ 警告

● ルーフに積もった雪は落とす。

窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ルーフから雪を落とすときは、アンテナに強い力をかけないようにしてください。アンテナが破損したり、車体がへこんだりするおそれがあります。
- アンテナに雪が積もっているときは、雪を落としてください。受信感度が低下し、雑音が入るおそれがあります。
- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷するおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。
- ドアミラーが凍結するような寒冷時は、ドアロック連動格納機能をOFFにしてください。凍結したまま作動を繰り返すと、故障の原因となります。

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

●滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。

●雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。

➔冬用タイヤ・タイヤチェーン (P.308)

■ 走行中の雪の付着に注意

●ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。

●フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

●シフトポジションを**P**に入れ、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。

●軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。

●雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。

日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。

詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧

●すべてのタイヤの空気圧を点検してください。

●タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。

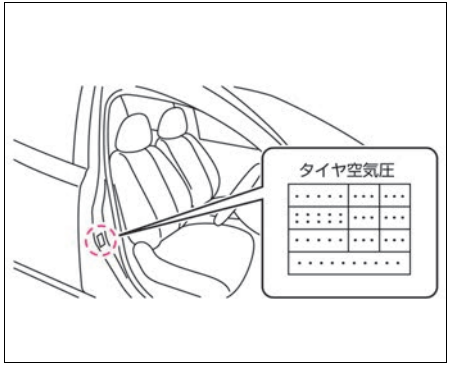
タイヤの亀裂・損傷の有無

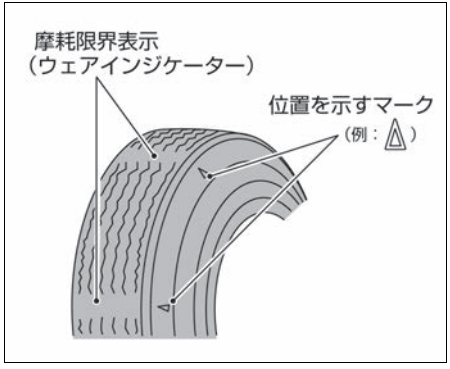
●タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

●タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限界表示）が表れていないか点検してください。

●タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。





知識

● タイヤの空気は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。

● タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。

● タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。

● 走行直後はタイヤ空気圧が約1割上がることがあります。

タイヤ・ロードホイールを交換するときは

●タイヤ交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。

●タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。

●タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。

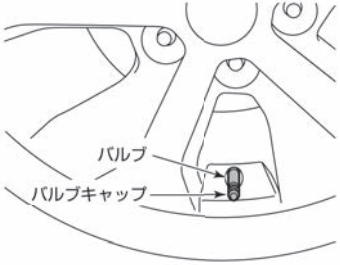
●ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。
ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

アドバイス

● ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

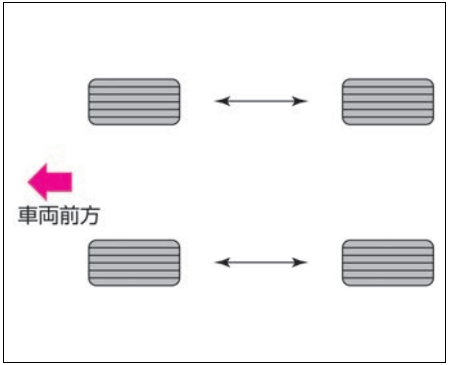
- アルミホイール★には荷重制限がありますので、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは日産純正品を使用してください。日産純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。



- バルブキャップは工具などを使用して締め付けると、破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、108N・m（11kg・m）です。

タイヤローテーションのしかた

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。



アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。

タイヤに関する注意事項

⚠ 警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**

  気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **5〜7年を目安に必ず点検する。**

  タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社へご相談ください。

- **指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けない。**

  不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**

  特に4WD車は、摩耗差が大きいものやサイズが異なるタイヤを装着すると、車の走行性能が悪化するおそれがあります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。

  — 摩耗差の大きいタイヤの装着

  — 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着

  — サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

⚠ 注意

- **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**

  車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

冬用タイヤ・タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

⚠ 注意

- **タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。**

  ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

- タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、パワースイッチをOFFにして作業してください。
- タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。4WD車も前2輪に装着してください。
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。
- お客さまのタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。
- タイヤチェーンはお客さまの車に適合した日産純正品をおすすめします。
- 適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバー★やアルミホイール★に傷をつけるおそれがあります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。路面を損傷したり、チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行したり、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパー

ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷つけたりします。定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

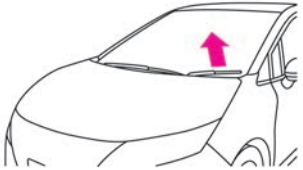
ワイパーブレードの交換のしかた

⚠ 注意

- **交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう注意する。**

  ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。

1. ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを少し傾けます。



アドバイス

- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

知識

- リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。

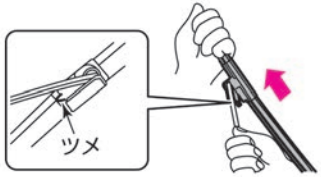
2. ワイパーブレードのツメを押したままにします。



3. ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。



4. 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。

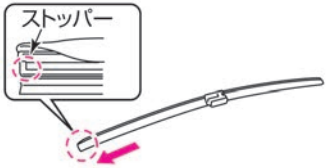


ワイパーゴムの交換のしかた

1. ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。

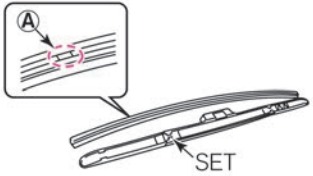


2. ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。



3. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。

- ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。
- ワイパーゴムのⒶ部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。



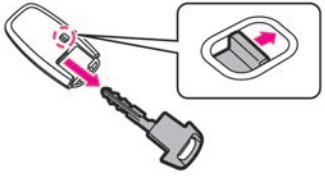
知識

- ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。

インテリジェントキーの電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときや作動表示灯（➔P.86）が点滅しないときは、電池の消耗が考えられます。次の手順に沿って、電池を交換してください。

1. キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（メカニカルキー）を引き抜きます。



⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**

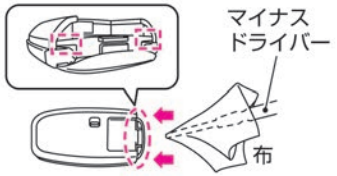
  インテリジェントキーには、ボタン電池が使用されています。誤って電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。 新しい電池および取り外した電池は、お子さまの手の届かない場所に保管してください。
- **電池を飲み込んだり、体内に入れてしまった場合は、ただちに医師の診察を受ける。**

⚠ 注意

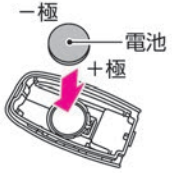
- **カバーがしっかりと閉まらない場合は、インテリジェントキーの使用を中止する。**

  インテリジェントキーをお子さまの手の届かない場所に保管し、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

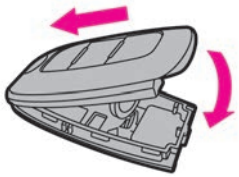
2. すき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）



3. 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください。）
   使用電池：CR2032



4. カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。



アドバイス

- 電池交換の際、無理にカバーを取り外そうとすると、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換の際は、必ず同じタイプの電池と交換してください。
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、日産販売会社にご相談ください。

12Vバッテリー

12Vバッテリーのメンテナンスについては、日産販売会社にご相談ください。

12Vバッテリーに関する注意事項

⚠ 警告

- **12Vバッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**

  12Vバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。**

  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **12Vバッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**

  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、12Vバッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **12Vバッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**

  しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

エンジンオイル

エンジンオイルの交換時期は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

また、指定のエンジンオイルについては、巻末のサービスデータ（P.319）をお読みください。

エンジンオイルに関する注意事項

⚠ 注意

- **オイルの点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込む。**

  オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが噴き出し火災の原因になるおそれがあります。

- **エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉める。**

  走行時にキャップが外れてエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 適切にオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 8km以下の短距離走行が多い場合、2、3か月に一度30分以上の走行をすることでエンジンオイルの劣化を防止することができ、燃費向上につながります。

外装のお手入れ

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 自動洗車機で洗車するときは、ドアミラーを格納してください。（P.107）
- 高圧洗浄機で洗車するときは、高圧ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。
- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
  - ― ばい煙、虫の死がいや鳥のふん、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
  - ― 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ― ほこり、汚れがひどいとき

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。

- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

水洗いするときは

① 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。

② 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。

③ はん点が残らないように水をふき取ります。

アドバイス

- 洗車をするときに、車体に体重をかけるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車時の注意

⚠ 注意

- **下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。**
- **エンジンルームを水で洗ったり、洗剤やワックスなどを直接スプレーしたりしない。**

e-POWERシステムの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

水や洗剤、ワックスなどの製品、もしくはその他シリコンを含む製品を使用する場合は、布に塗布してからエンジンルームをふいてください。

洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納してください。
  ドアミラーの格納のしかた (P.107)
- 燃料補給口を完全に閉めてください。
  燃料補給口の閉めかた（P.111）
- 高圧洗浄機を使用するときは、高圧ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。高圧ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材、サッシュテープなどが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。

アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。

アドバイス

- 高圧洗浄機を使用するときは、シャークフィンアンテナのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。シール部が変形、破損するおそれがあります。

ワックスをかけるときは

●ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。

② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

●コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラ★のレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

アルミホイール★のお手入れ

●中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - ― 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
  - ― 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
  - ― 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
  - ― 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

軽い補修のしかた

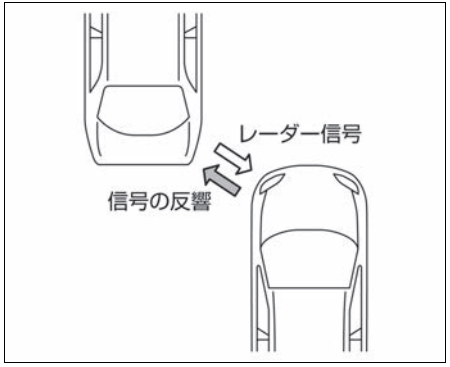
●フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺以外は、塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。
サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。

●フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺はタッチアップペイント含め塗装修理はできません。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。
レーダーセンサー★の取り扱い (P.314)

バンパーの修理

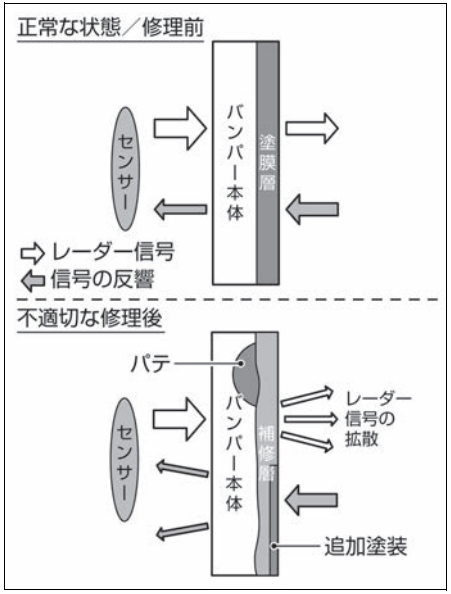
バンパーにはレーダーセンサーが内蔵されているため、修理には細心の注意が必要です。

■ レーダーセンサーの仕組み



レーダーセンサーからレーダー信号を発生させ、その信号の反響により障害物を検出します。

■ バンパーの修理



不適切なバンパー修理（異なる素材のパテ使用や追加塗装など）を行うと、レーダー信号が弱まったり、正しく発信できなかったりするため、障害物を正しく検出することができなくなります。

レーダーセンサー／カメラ類の取り扱い注意

⚠ 警告

- **センサー、カメラ部に強い衝撃を与えない。**

精密機器のため高圧洗車など、強い衝撃を与えないでください。故障、火災、または感電のおそれがあります。

- **レーダーセンサーの技適認証について**

以下の装置は日本の電波法（電波法）に基づいて認可されています。本製品の改造は禁止されています。（適合証明番号などが無効となります。）



フロントレーダー



サイドレーダー

⚠ 注意

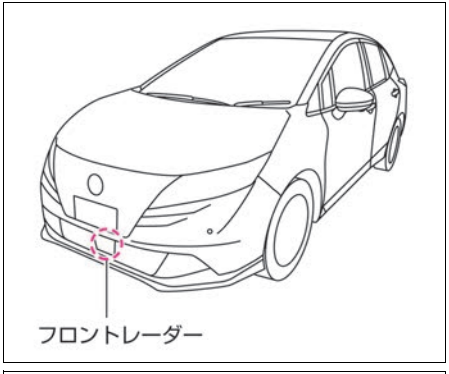
- **フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺に誤った塗装修理を行うと、本来の機能を発揮できなくなる可能性があります。**

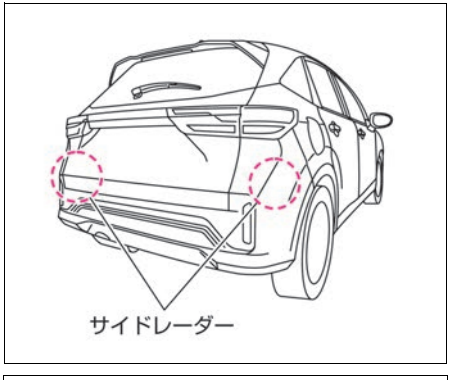
適切な修理を行うため、日産販売会社にご相談ください。

レーダーセンサー★の取り扱い

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- 以下の状態の場合レーダーセンサーの性能が発揮できない可能性があります。取り付けた部品の除去、洗車、修理、もしくはバンパー交換を推奨します。
  - レーダーセンサー周辺へのステッカー貼り付け、後付け部品の取り付け
  - お客さまの手による補修
  - レーダーセンサー周辺の傷つき、鳥糞、虫、泥などの付着
  - 衝突などでレーダーセンサー周辺を破損したとき
- フロントバンパー、リヤバンパーを改造、脱着したり、塗装したりしないでください。塗装する場合は日産販売会社にご相談ください。





アドバイス

- フロントレーダー周辺に雪や氷、泥などが付着している場合は、アドバンスドドライブアシストディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。

フロントレーダーシステム停止警告（P.281）

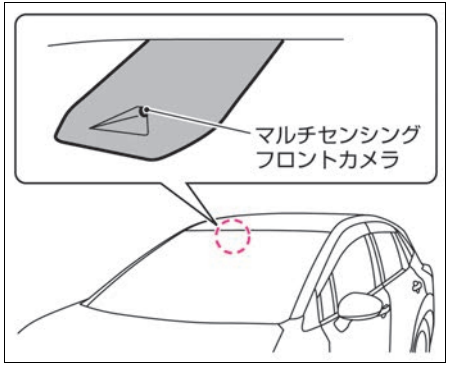
システム故障警告（P.274）

- フロントレーダー周辺の遮蔽物を取り除いて走行すると、システムの作動は再開します。再開しない場合は日産販売会社にご連絡ください。

マルチセンシングフロントカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

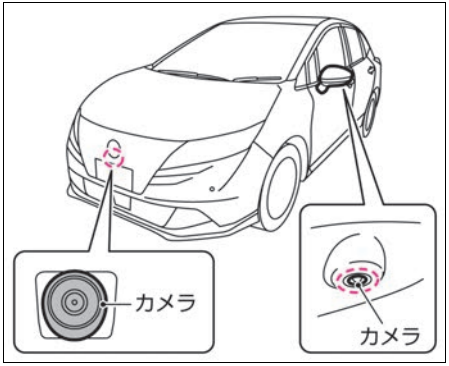
- カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ前方のフロントガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。またカメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。



フロントビュー／サイドビューカメラ★の取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



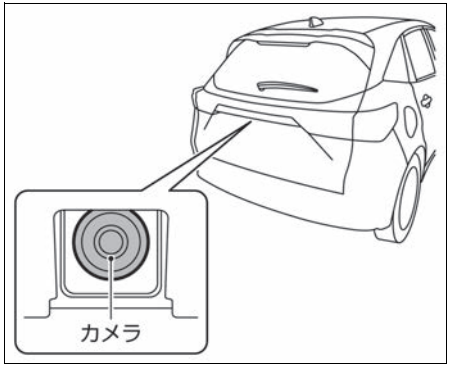
アドバイス

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、濡れた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。画面の映像へ影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

リヤビューカメラ★の取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
  中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
- 光が反射するため、ナンバープレートのアクセサリーを取り付けないでください。
- カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。



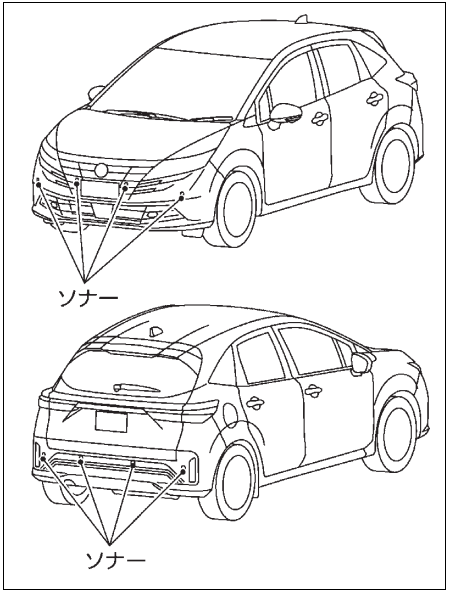
アドバイス

- カメラレンズ部に泥、雨滴、雪などが付着すると、モニター画像の映りが悪くなりますので、濡れた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、乾いた柔らかい布でふき取ってください。
- カメラ部には傷をつけないでください。画面の映像へ影響が出ることがあります。
- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

ソナーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、以下のことをお守りください。

- ソナーはいつもきれいにしておいてください。
  汚れているときは、柔らかい布で傷つけないように注意してふき取ってください。
- 強い力で乾拭きしないでください。また、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーで清掃するときは、ソナーから十分に離して使用してください。ソナーを損傷するおそれがあります。
- ソナーまたはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またソナーの取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでソナーの取り付け部が変形した場合は、日産販売会社にご相談ください。
- ソナーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。



内装のお手入れ

内装のお手入れについて

アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。オーディオ★やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。
- オーディオ★やスイッチ類などの電装品、ブレーキペダル周りにシリコーン（シリコン）を含むケミカル用品（スプレー、グリース、オイルなど）を使用しないでください。電装品の故障につながるおそれがあります。
- 消臭剤・芳香剤、化粧品・日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤・芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。
- 塩素系（二酸化塩素や次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。塗装はがれやサビなどの原因となるおそれがあります。やむをえず洗浄（除菌）する場合は、エタノール75%以下をご使用ください。エタノールを乾いた布に含ませ、内装部品をふいてください。エタノールがなくなるまでふき取ってください。ふき残しがあると塗装はがれや色落ちなどの原因となるおそれがあります。エタノールは、引火性ですので、火気に注意してください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

カーペットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。
➔フロアカーペット (P.247)

布、合成皮革の汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

IRカット&スーパーUVカット断熱グリーンガラス★のお手入れ

前席ドアガラスの内側にはIRカット&UVカットコーティングがされてます。

●前席ドアガラスの内側を清掃するときは、水または温水を含ませた柔らかいきれいな布で早めに汚れをふき取ってください。

アドバイス

- IRカット&UVカットコーティングの傷つきや劣化を防ぐため、次のことをお守りください。
  - 前席ドアガラスの汚れがひどいときは、なるべく窓ガラスの開閉を行わない。
  - 清掃するときはコンパウンド（研磨剤）入りのガラスクリーナー、アルカリ性洗剤は使用しない。
  - 砂などが付着している布で清掃をしない。

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

●塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色の原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

ガラスの汚れ取り

●バックドアガラスの内側を清掃するときは、熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線にそって軽くふいてください。

●ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。

●ガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線★を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。

インテリジェント ルームミラー★のお手入れ

●ミラーやカメラ部は常にきれいな状態にしておいてください。汚れなどが付いていると見えにくくなるおそれがあります。

●ミラーやカメラ部を清掃するときは、乾いた柔らかい布などでそっとふいてください。

●清掃するときはアルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品でミラーやカメラ部をふかないでください。変色、劣化、故障の原因となります。汚れがひどいときは、まず濡れた柔らかい布でふいてから乾いた柔らかい布でふいてください。

●カメラ前面のバックドアガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた布でふき取ります。油膜が付いているときは、油膜取りを使用して清掃してください。

●カメラ前面のバックドアガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。➔外観リヤ (P.4)

サービスデータ

点検値

項目		点検値
ブレーキペダル※	遊び	2～9mm
	床板とのすき間 エンジン回転中、踏力約490N（50kg）で踏んだとき	110mm以上

※：ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの床板とのすき間の調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。記載の規定量は目安です。実際の量とは異なることがあります。交換時期については別冊のメンテナンスノートをお読みください。

エンジンオイル

項目	適用		規定量（ℓ）	指定銘柄
エンジンオイル	HR12DE	オイルのみ交換	3.2	日産純正SPストロングセーブ・X 0W-20（API: SP、SAE: 0W-20）
		オイルとオイルフィルター交換	3.4	

■ 指定銘柄以外のエンジンオイルについて

指定銘柄以外をお使いになる場合は、下記に適合したエンジンオイルをお使いください。
グレード：API規格SPをお使いください。ILSACマークのついたものをお勧めします。



APIマーク



ILSACマーク

粘度：SAE規格0W-20をご使用ください。

エンジン冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	5.7※1	日産純正スーパーロングライフクーラント※2

※1：リザーバータンクの容量を含みます。

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

インバーター冷却水

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
2WD車	3.92※1	日産純正スーパーロングライフクーラント※2
4WD車	5.58※1	

※1：リザーバータンクの容量を含みます。

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

ギヤボックスオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	1.94	日産純正マチックフルードS※

※：必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとギヤボックスが損傷するおそれがあります。

リヤファイナルドライブオイル

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
4WD車	0.61	日産純正マチックフルードS※

※：必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用するとリヤファイナルドライブが損傷するおそれがあります。

ブレーキフルード

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	–	日産純正ブレーキフルードNo.2500（DOT3）

ウォッシャー液

適用	規定量（ℓ）	指定銘柄
全車	2.0	日産純正ウインドウォッシャー液※

※：外気温に応じて濃度を調節してください。

車両仕様

電球（バルブ）の容量

ハイビームアシスト付車			
電球		容量（V-W）	電球のタイプ
車幅灯		12–5	W5W
番号灯		12–5	W5W※
制動灯／尾灯		12–21/5	W21/5W※
尾灯（バックドア側）		12–5	W5W※
後退灯		12–16	W16W※
方向指示器 兼 非常点滅表示灯	前面	12–21（アンバー）	WY21W
	後面	12–21（アンバー）	WY21W※

アダプティブLEDヘッドライトシステム付車			
電球		容量（V-W）	電球のタイプ
番号灯		12–5	W5W※
制動灯／尾灯		12–21/5	W21/5W※
尾灯（バックドア側）		12–5	W5W※
後退灯		12–16	W16W※
方向指示器 兼 非常点滅表示灯	前面	12–21（アンバー）	WY21W
	後面	12–21（アンバー）	WY21W※

※：電球が点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。

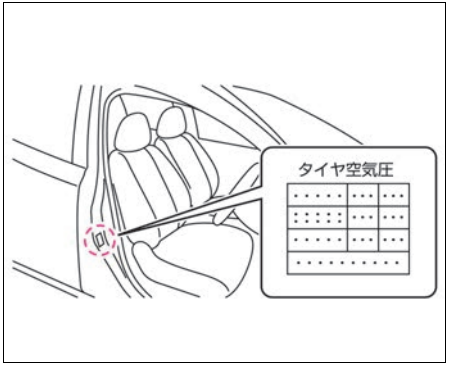
次の外装ランプはLEDです。LEDが一部でも点灯しない場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

- ロービーム
- ハイビーム
- フォグランプ★（LED）
- リヤフォグランプ★（LED）
- 車幅灯（アダプティブLEDヘッドライトシステム付車）
- ハイマウントストップランプ（LED）
- 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面／ミラータイプ）（LED）

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	インセット
185/60R16 86H	16×5.5J	100mm （4穴）	50mm

タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してありますので、確認してください。



イベントデータレコーダ（EDR）

車両データの記録・蓄積について

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。

以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録・蓄積しています。

知識

- イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。
- 氏名、性別、年齢などの個人情報は記録しません。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に下記車両データを記録・蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報
- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 車速、エンジン回転数などの車両情報

■ プロパイロットシステム★

プロパイロットシステムは下記車両データを記録・蓄積します。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 先行車やレーンマーカーなどの検知状況
- 車速などの車両情報
- プロパイロットの作動に関する情報
- プロパイロットの故障診断情報
- マルチセンシングフロントカメラの画像情報（SRSエアバッグ、インテリジェント エマージェンシーブレーキ作動時）

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態記録機能

車両状態の記録・蓄積について

車両状態記録機能は、下記車両データを記録・蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報

車両状態記録機能

車両状態記録機能は品質維持を目的として、車両の運行状態を記録・蓄積します。

車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

知識

- 車両状態記録機能は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

1

12Vバッテリー P.310
12V系充電警告灯 P.51

A

A/C（エアコン）
　エアコンスイッチ P.113
　エアコンを使うときに注意すること P.117
　オートエアコン P.113
　吹き出し口 P.116
ABS
　ABS P.153
　ABS 警告灯 P.51

B

BSW（後側方車両検知警報）
　BSW（後側方車両検知警報） P.197
　BSW（後側方車両検知警報）表示 P.80

E

e-Pedal Step P.148
e-POWERシステム
　e-POWERシステム警告灯 P.51
　e-POWERシステム車が事故にあったときの注意事項 P.17
　e-POWERシステムの取り扱いに関する注意事項 P.17
　e-POWERシステムを始動できないときは P.260
　燃費を良くするためのポイント P.19
ECO モード
　ECO モード P.148
　ECO モードインジケーター P.48
　エコドライブレポート P.82
　ドライブモードセレクター P.148
EDR（イベントデータレコーダ） P.323
ELR（緊急固定）付3点式シートベルト P.26
EPS（電動パワーステアリング）警告灯 P.51

F

FCW（前方衝突予測警報）
　FCW（前方衝突予測警報） P.209
　インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）表示 P.80

I

i-Sizeチャイルドシート対応ISO FIXロアアンカレッジ P.42

L

LDW（車線逸脱警報）
　LDW（車線逸脱警報） P.205
　LDW（車線逸脱警報）表示 P.79

N

NORMALモード
　NORMALモードインジケーター P.48

O

ODO（オドメーター） P.47

R

RCTA（後退時車両検知警報） P.212

S

SOSコール P.241
SPORTモード
　SPORTモード P.148
　SPORTモードインジケーター P.48
　ドライブモードセレクター P.148
SRS エアバッグ P.29
SRS エアバッグ警告灯 P.51

T

TRIP（トリップメーター） P.47

U

USB電源ポート P.246

V

VDC
　VDC P.153
　VDC OFF スイッチ P.154
　VDC OFF表示灯 P.52
　VDC警告灯 P.51

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。

索引

W

W数（電球の容量）.....P.322

ア

アウターミラー（ドアミラー）.....P.106
アシストグリップ.....P.248
アダプティブLEDヘッドライトシステム.....P.139
アダプティブLEDヘッドライト表示灯.....P.52
アドバンスドドライブアシストディスプレイ
　アドバンスドドライブアシストディスプレイ.....P.55
　エネルギーモニター.....P.59
　各種設定画面.....P.65
　車両情報画面.....P.56
　ステアリングスイッチ.....P.55
　パワーメーター.....P.56
アラーム（インテリジェントキー）.....P.288
アルミホイールのお手入れ.....P.313
アンサーバック機能.....P.86

イ

一時停止標識検知.....P.217
移動物 検知機能.....P.226
イベントデータレコーダ（EDR）.....P.323
イモビライザー（盗難防止装置）
　イモビライザー（盗難防止装置）.....P.44
イルミネーションコントロール.....P.84
インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）
　インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）.....P.197
　インテリジェント BSI（後側方衝突防止支援システム）表示.....P.80
インテリジェント DA（ふらつき警報）.....P.215
インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）
　インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）.....P.209
　インテリジェント FCW（前方衝突予測警報）表示.....P.80
インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）
　インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）.....P.205
　インテリジェント LI（車線逸脱防止支援システム）表示.....P.79
インテリジェント アラウンドビューモニター
　移動物 検知機能.....P.226
　インテリジェント アラウンドビューモニター.....P.221
　インテリジェント アラウンドビューモニターに関する注意事項.....P.229
　ソナー機能について.....P.227
インテリジェント エマージェンシーブレーキ
　インテリジェント エマージェンシーブレーキ.....P.182
　インテリジェント エマージェンシーブレーキ警告灯.....P.51
　インテリジェント エマージェンシーブレーキ表示.....P.79
インテリジェント オートライトシステム（フロントワイパー連動、薄暮れ感知「おもいやりライト」機能付）.....P.136
インテリジェント クルーズコントロール
　インテリジェント クルーズコントロール.....P.163
　インテリジェント クルーズコントロールの解除のしかた.....P.169
　ステアリングスイッチ.....P.161
インテリジェント トレースコントロール（コーナリング安定性向上システム）.....P.155
インテリジェント ルームミラー
　インテリジェント ルームミラー.....P.102
　インテリジェント ルームミラーのお手入れ.....P.318
インテリジェントキー
　機能・使いかた.....P.86
　電池が切れたとき.....P.260
　メカニカルキー.....P.259
インナーミラー（ルームミラー）.....P.102
インバーター冷却水（規定量）.....P.320

ウ

ウィンカー（方向指示器）.....P.142
ウインドーガラス（パワーウインドー）.....P.109
ウェルカムライト機能（フェアウェル機能付）.....P.86
ウォーニング（警告灯）.....P.51
ウォッシャー
　ウォッシャー液（規定量）.....P.321
　ウォッシャー液の補給.....P.304
　ウォッシャースイッチ.....P.146
ウォッシャーの噴霧状態点検.....M
動けなくなったときは.....P.250
運転するときに注意すること.....P.22
運転前の準備.....P.22

エ

エアコン
　エアコンスイッチ.....P.113
　エアコンを使うときに注意すること.....P.117
　オートエアコン.....P.113
　吹き出し口.....P.116
エアバッグシステム
　SRS エアバッグ.....P.29

SRS エアバッグ警告灯 P.51
SRS エアバッグシステム（前席） P.30
SRS カーテンエアバッグシステム P.33
SRS サイドエアバッグシステム（前席） P.32
SRS ニーエアバッグシステム（運転席） P.34
エコモード設定 P.149
エネルギーモニター P.59
エマージェンシーストップシグナル P.152
エンジン
エンジンオイル P.310, P.319
エンジンオイル量の点検・補給 M
エンジンルーム P.302
エンジンルームから蒸気が出ているとき P.290
パワースイッチ P.122
フード（ボンネット） P.303
エンジンオイル（規定量） P.319
エンジン型式 S
エンジンのかかり具合、異音点検 M
エンジン冷却水（規定量） P.320

オ

応急修理する前に P.254
オーディオ
オーディオ P.119
ステアリングスイッチ P.119
オートACC機能 P.124
オートエアコン
オートエアコン P.113
オートブレーキホールド
オートブレーキホールド P.129
オートブレーキホールド表示灯 P.52
オートレベライザー P.135
オートロック機能 P.86, P.91, P.92
オーバーヒート P.290
オーバーヒート警告が表示されたとき P.290
お子さまを乗せるときに注意すること P.36
オドメーター（積算距離計） P.47
音声操作表示 P.83

カ

外気温度計 P.49
回生ブレーキ P.15
外装のお手入れ P.312
外装ランプが点灯しないとき P.292
カギ P.86
各種設定画面 P.65
ガソリン P.111
カップホルダー P.239
カメラ
サイドビューカメラ P.315
フロントビューカメラ P.315
マルチセンシングフロントカメラ P.315
リヤビューカメラ P.316
カメラシステム P.221
ガラスアンテナ P.119
寒冷時の取り扱い P.304

キ

キー
インテリジェントキー P.86
インテリジェントキーに関する注意事項 P.88
インテリジェントキーの電池交換 P.309
メカニカルキー P.259
キー連動室内照明 P.236
インテリジェントキー
電池交換のしかた P.309
ギヤボックスオイル（規定量） P.321

ク

空気圧（タイヤ） P.306, P.323
くもり取り
デフロスタースイッチ P.289
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.289
クラクション（ホーン） P.101
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ P.135
電球（バルブ）容量 P.322
点灯しないとき P.292
車のお手入れ P.312
グローブボックスの使いかた P.238

ケ

警告灯 P.51
警告灯がついたときは P.264
警告メッセージが表示されたときは P.270
警報音（ブザー）が鳴ったときは P.288
けん引について P.251

コ

交換油脂類 P.319
工具 P.299
後席シート P.98
後席リマインダー P.95
航続可能距離表示 P.47
後側方車両検知警報（BSW） P.197

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。

索引

後側方衝突防止支援システム（インテリジェント BSI）.....P.197
後退時車両検知警報（RCTA）.....P.212
後退灯
　電球（バルブ）容量.....P.322
　点灯しないとき.....P.292
高電圧部品について.....P.16
故障警告灯（MIL）.....P.51
故障したときは.....P.250
コンソールポケット.....P.239
コンソールボックス.....P.238

サ

サービスデータ（車両仕様）.....P.322
最高速度標識検知.....P.217
最高速度標識表示.....P.49
サイドミラー（ドアミラー）.....P.106
サイドレーダー.....P.314
サンバイザー.....P.247

シ

シート
　お手入れ.....P.317
　後席シート.....P.98
　前席シート.....P.97
　チャイルドシート.....P.37
　ヒーターシート.....P.245
シートベルト
　シートベルト警告灯.....P.51
　シートベルトの着用のしかた.....P.26
　シートベルトの注意事項.....P.27
事故がおきたときは.....P.17
室内灯.....P.236
始動しない.....P.260
始動のしかた.....P.122
車載工具.....P.299
シャシー制御.....P.155
車線逸脱警報（LDW）.....P.205
車線逸脱防止支援システム（インテリジェント LI）.....P.205
ジャッキ
　収納場所.....P.299
車幅灯
　スイッチ.....P.135
　電球（バルブ）容量.....P.322
　点灯しないとき.....P.292
車両型式.....S
車両重量.....S
車両仕様.....P.322
車両状態記録機能.....P.324
車両情報画面.....P.56
車両寸法.....S
車両接近通報システム警告灯.....P.51
車両接近通報装置.....P.156
ジャンプスタートのしかた.....P.261
出力制限表示灯.....P.51
乗車定員.....S
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項.....P.24
進入禁止標識検知.....P.217

ス

スイッチの操作
　EVモードスイッチ.....P.150, P.151
　VDC OFF スイッチ.....P.154
　イルミネーションコントロールスイッチ.....P.84
　エアコンスイッチ.....P.113
　オートブレーキホールドスイッチ.....P.129
　ステアリングスイッチ（アドバンスドドライブアシストディスプレイ）.....P.55
　ステアリングスイッチ（オーディオ）.....P.119
　ステアリングスイッチ（プロパイロット）.....P.161
　ステアリングヒータースイッチ.....P.245
　デフロスタースイッチ.....P.289
　ドアハンドルのスイッチ.....P.91
　ドアミラースイッチ.....P.107
　ドアロックスイッチ.....P.92
　ドライブモードセレクター.....P.148
　トリップ切り替えスイッチ.....P.47
　バックドアオープナースイッチ.....P.94
　パワーウインドースイッチ.....P.109
　パワースイッチ.....P.122
　ヒーターシートスイッチ.....P.245
　非常点滅表示灯スイッチ（ハザードスイッチ）.....P.8
　フォグランプスイッチ.....P.143
　ヘッドランプレベライザースイッチ.....P.143
　方向指示器スイッチ.....P.142
　ライトスイッチ.....P.135
　リヤウインドーデフォッガースイッチ.....P.289
　ワイパー・ウォッシャースイッチ.....P.144
水没したときは.....P.291
ステアリング（ハンドル）.....P.101
ステアリングスイッチ
　アドバンスドドライブアシストディスプレイ.....P.55
　オーディオ.....P.119
　プロパイロット.....P.161
ステアリングヒーター.....P.244
スピードメーター（速度計）.....P.47
スモールランプ（車幅灯）
　スイッチ.....P.135
　電球（バルブ）容量.....P.322
　点灯しないとき.....P.292

索引

セ

制動灯（ブレーキランプ）
　SPORTモード、ECOモード時の制動灯（ブレーキランプ）について P.150
　電球（バルブ）容量 P.322
　点灯しないとき P.292
セーフティ・シールド表示 P.81
設定（メーター） P.65
セレクトレバー P.126
洗車のしかた P.312
前照灯（ヘッドランプ）
　スイッチ P.135
　点灯しないとき P.292
先進事故自動通報システム
　先進事故自動通報システム P.241
前席シート P.97
センターコンソールボックス P.238
前部霧灯（フォグランプ）
　スイッチ P.143
　電球（バルブ）容量 P.322
　点灯しないとき P.292
前方衝突予測警報（インテリジェントFCW） P.209

ソ

走行可能表示灯 P.52
走行支援機能画面 P.78
走行支援グループ P.63
走行時間アラーム P.65
走行のしかた P.132
走行用モーター P.15
速度計（スピードメーター） P.47
速度標識 P.63
ソナー
　ソナー P.81
　ソナー設定 P.65
　ソナーの取り扱い P.316
ソナー検知表示灯 P.52

タ

タイヤ
　アルミホイールのお手入れ P.313
　タイヤ・ホイールを交換するとき P.306
　タイヤ・ロードホイールサイズ P.323
　タイヤ応急修理キット P.254
　タイヤチェーン P.308
　タイヤの位置交換（ローテーション） P.307
　タイヤの空気圧 P.306, P.323
　タイヤの点検項目 P.306
　パンク P.254
　冬用タイヤ P.308
正しい運転姿勢について P.22

チ

チケットホルダー P.248
チャージモード
　EVモードスイッチ P.150
　チャージモード P.150
チャージモードインジケーター P.48
チャイルドシート P.37
チャイルドシート適合表 P.39
チャイルドセーフティドアロック P.93
着信表示 P.83
駐車のしかた P.133
チルト・テレスコピックステアリング P.101

ツ

通話表示 P.83

テ

定期点検 ..... M
停止のしかた P.123
停車のしかた P.133
低水温表示灯 P.52
低速加速抑制機能 P.188
低速衝突軽減ブレーキ機能 P.188
定速制御機能（インテリジェントクルーズコントロール） P.180
テールランプ（尾灯）
　スイッチ P.135
　テールランプ表示灯 P.52
　電球（バルブ）容量 P.322
　点灯しないとき P.292
手放し警告灯 P.51
デフロスタースイッチ P.289
電球（バルブ）容量 P.322
点検整備について P.298
電源ソケット P.245
点検値 P.319
電制シフト警告灯 P.51
電池交換のしかた P.309
電動格納式ドアミラー P.106
電動パーキングブレーキ
　電動パーキングブレーキ P.127
　電動パーキングブレーキ警告灯 P.51
　電動パーキングブレーキ注意事項 P.128
電動パワーステアリング警告灯 P.51

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。

ト

ドア
- ドア P.91
- ドアが開かないときは P.259
- ドアハンドルのスイッチ P.91
- ドアロックスイッチ P.92
- ドアを室内から開けられないとき（チャイルドセーフティドアロック） P.93
- バックドア P.94

ドアミラー P.106
ドアミラーヒーター P.108
ドアロック連動格納機能 P.108
灯火装置（ランプ）の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 ..... M
盗難防止装置（イモビライザー） P.44
時計 P.49
ドライブコンピュータ P.57
ドライブモードセレクター P.148
トラブルがおきたときは
- 12Vバッテリーがあがったときは P.261
- インテリジェントキーで始動できないときは P.260
- オーバーヒートしたときは P.290
- 警告灯がついたときは P.264
- 警告メッセージが表示されたときは P.270
- 警報音（ブザー）が鳴ったときは P.288
- 出力制限表示灯が点灯したときは P.264
- 水没したときは P.291
- 電球（バルブ）が切れたときは P.292
- ドアが開かないときは P.259
- パンクしたときは P.254
- ヒューズが切れたときは P.294
- 表示灯がついたときは P.53
- 窓ガラスがくもったときは P.289
- 雪道やぬかるみにはまったときは P.291

トリップメーター（区間距離計） P.47

ナ

内装のお手入れ P.317
ナンバー灯（番号灯）
- スイッチ P.135
- 電球（バルブ）容量 P.322
- 点灯しないとき P.292

ニ

日常点検 ..... M
日産e-POWERと上手に付き合うために P.19

ネ

燃費情報表示 P.57
燃費を良くするためのポイント P.19
燃料
- 燃料計 P.47
- 燃料タンク容量 P.111
- 燃料補給口 P.111

燃料残量警告灯 P.51

ハ

パーキングブレーキ（電動パーキングブレーキ） P.127
排気量 ..... S
ハイビームアシスト
- ハイビームアシスト P.137

ハイビームアシスト表示灯 P.52
ハイマウントストップランプ
- 電球（バルブ）容量 P.322
- 点灯しないとき P.292

ハザードスイッチ（非常点滅表示灯スイッチ） P.8
挟み込み防止機構
- パワーウインドー P.110

発炎筒 P.250
バックドア
- 開かない P.260
- バックドア P.94
- バックドアオープナースイッチ P.94

バックミラー（ルームミラー） P.102
発進 P.131
バッテリー
- 12Vバッテリーがあがったときは P.261
- バッテリー液量の点検・補給 ..... M
- リチウムイオンバッテリー P.15

バッテリーセーバー
- ヘッドランプ P.135
- マップランプ P.236
- ラゲッジランプ P.236
- ルームランプ P.236

発電用モーター P.15
バニティミラー P.248
はみ出し通行禁止標識検知 P.217
バルブ（電球）交換 P.292
バルブ（電球）容量 P.322
パワーウインドー
- 挟み込み防止機構 P.110
- パワーウインドー P.109
- パワーウインドーが正常に作動しないとき P.110

パワースイッチ P.122
パワーメーター P.56
パンクしたときは P.254
番号灯
- スイッチ P.135
- 電球（バルブ）容量 P.322
- 点灯しないとき P.292

ハンドル P.101

ヒ

ヒーターシート P.245

索引

ヒーター付ドアミラー P.108
非常停止のしかた P.124
非常点滅表示灯
　スイッチ P.8
　電球（バルブ）容量 P.322
　点灯しないとき P.292
尾灯
　スイッチ P.135
　電球（バルブ）容量 P.322
　点灯しないとき P.292
ヒューズが切れたときは P.294
標識検知機能
　一時停止標識検知 P.217
　最高速度標識検知 P.217
　進入禁止標識検知 P.217
　はみ出し通行禁止標識検知 P.217
　標識検知機能 P.216
　標識検知機能に関する注意事項 P.218
表示灯 P.52
表示灯がついたときは P.53
ヒルスタートアシスト P.156

フ

ブースターケーブルのつなぎかた P.261
フード（ボンネット） P.303
フォグランプ
　スイッチ P.143
　電球（バルブ）容量 P.322
　点灯しないとき P.292
　フォグランプ表示灯 P.52
　リヤフォグランプ表示灯 P.52
吹き出し口 P.116
踏み間違い衝突防止アシスト
　低速加速抑制機能 P.188
　低速衝突軽減ブレーキ機能 P.188
　踏み間違い衝突防止アシスト P.188
フューエルフィラーリッド（燃料補給口）
　フューエルフィラーリッド（燃料補給口） P.111
　フューエルフィラーリッドオープナー P.111
フューエルメーター（燃料計） P.47
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.308
ブレーキ（回生ブレーキ） P.15
ブレーキ液量の点検 ..... M
ブレーキ警告灯 P.51
ブレーキシステム警告灯 P.51
ブレーキの効き点検 ..... M
ブレーキフルード（規定量） P.321
ブレーキペダルの踏みしろ ..... P.319, M
ブレーキランプ（制動灯）
　SPORTモード、ECOモード時の制動灯（ブレーキランプ）について P.150
　電球（バルブ）容量 P.322
　点灯しないとき P.292
フロアカーペット P.247
プロパイロット
　車両情報画面 P.63
　ステアリングスイッチ P.161
　プロパイロット P.160
　プロパイロット表示 P.81
フロントガラスのくもりの取りかた P.289

ヘ

ヘッドランプ
　自動点灯ランプの消灯のしかた（車両停車時） P.137
　スイッチ P.135
　点灯しないとき P.292
　ヘッドランプ上向き表示灯 P.52
　ヘッドランプレベライザースイッチ P.143
ヘッドランプの点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 ..... M
ヘッドレスト
　後席シート P.100
　前席シート P.98

ホ

ホイールサイズ P.323
ホイールナットレンチ P.299
方向指示器
　スイッチ P.142
　電球（バルブ）容量 P.322
　点灯しないとき P.292
　方向指示表示灯 P.52
方向指示器の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 ..... M
防犯装置
　イモビライザー（盗難防止装置） P.44
ホーンの鳴らしかた P.101
ポジションインジケーター P.47
ポジションランプ（車幅灯）
　スイッチ P.135
　電球（バルブ）容量 P.322
　点灯しないとき P.292
ボトルホルダー P.239
ボンネット（フード） P.303

マ

マスターウォーニング P.51
マップランプ P.236
窓ガラスがくもったときは P.289
マナーモード
　EVモードスイッチ P.151
　マナーモード P.151

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。

索引

マナーモードインジケーター P.49
マルチセンシングフロントカメラ P.315

ミ

ミラー
インテリジェント ルームミラー P.102
ドアミラー P.107
バニティミラー P.248
ルームミラー P.102

メ

メーター
アドバンスドドライブアシストディスプレイ P.55
オドメーター（積算距離計） P.47
各種設定画面 P.65
警告灯 P.51
車両情報画面 P.56
表示灯 P.52
メーター P.46
メーターの明るさの調節のしかた P.84
メンテナンス設定 P.65
メンテナンスデータ（サービスデータ） P.319

モ

モーター P.15

ユ

油圧警告灯 P.51
雪道の走行のしかた P.305
雪道やぬかるみにはまったときは P.291

ラ

ライトスイッチ P.135
ラゲッジランプ P.236
ランプ（室内照明）
マップランプ P.236
ラゲッジランプ P.236

リ

リチウムイオンバッテリー
リチウムイオンバッテリー P.15
リモコンによる施錠・解錠 P.92
リヤウインドーデフォッガースイッチ P.289
リヤガラスのくもりの取りかた P.289
リヤシート P.98
リヤビューカメラ P.316
リヤファイナルドライブオイル（規定量） P.321
リヤフォグランプ表示灯 P.52
リヤワイパースイッチ P.145

ル

ルームミラー P.102
ルームランプ
マップランプ P.236
ラゲッジランプ P.236

レ

冷却水
寒冷時の取り扱い P.304
規定量 P.320
冷却水量の点検・補給 M
レーダーセンサー P.314
レバー（セレクトレバー） P.126

ロ

ロアコンソールトレイ P.238
ロードホイール
お手入れ P.313
交換 P.306
サイズ P.323
路上で故障したときは P.250
ロックノブ P.93

ワ

ワイパー
ワイパー・ウォッシャースイッチ P.144
ワイパーゴムの交換 P.309
ワイパーブレードの交換 P.308
ワックスをかけるときは P.313

メーター内に警告灯や警告メッセージが表示されたときは、すみやかに適切に対処する必要があります。詳しくは、警告灯がついたときは（P.264）、警告メッセージが表示されたときは（P.270）をお読みください。表示灯については、表示灯がついたときは（P.53）をお読みください。



警告灯 例

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯したときは（P.264）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。



警告メッセージ 例

警告メッセージが表示されたときは、（P.270）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。



表示灯 例

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯している理由は、（P.53）をお読みください。